

2025 年度（令和 7 年度）

シラバス

岐阜保健大学

リハビリテーション学部

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
理学療法学科



岐阜保健大学

リハビリテーション学部理学療法学科

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		1単位当 たりの 時間数	講義担当教員		
			必修	選択				
総合 科学 科目	基礎 分野	基礎ゼミナール	1年 前期 必須	1	30	理学療法士教員全員		
		情報科学	1年 前期 必須	1	30	國澤英雄		
		基礎統計学	1年 前期 必須	1	30	國澤英雄		
		問題解決法	1年 後期 選択		1	30	野田みや子	近藤邦代
		哲学	1年 前期 選択		1	30	鷺見コト江	
		英語Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	酒向俊治	高久道子	
		英語Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	酒向俊治	高久道子	
		英語Ⅲ	3年 前期 選択		1	30	酒向俊治	高久道子
		英語Ⅳ	4年 後期 選択		1	30	酒向俊治	高久道子
		中国語Ⅰ	2年 前期 選択		1	30	干海	
		中国語Ⅱ	2年 後期 選択		1	30	干海	
		教育学概論	1年 前期 必須	2	15	伊藤亜希子		
		現代の倫理	1年 前期 必須	2	15	鷺見コト江	近藤邦代	
		現代の教育	2年 後期 選択		2	15	伊藤亜希子	
		心理と行動	1年 後期 選択		2	15	野田みや子	近藤邦代
		健康と生活	1年 前期 選択		2	15	藤井稚也	鈴木啓介
		岐阜の歴史と文化	2年 前期 選択		2	15	藤井稚也	宇佐美知子 池田雅志
		自己管理と社会規範	1年 前期 選択		2	15	高山務	
		チームワークとリーダーシップ	4年 後期 選択		1	15	澤澤二	藤井稚也
		人間関係論	1年 前期 必須	2	15	市川季夫		
		コミュニケーション論	1年 後期 必須	1	15	國澤英雄		
		健康と運動（体育）	1年 前期 必須	1	30	石塚和重	青井俊久	鶴田猛
専門 科目	専門 基礎 科目	解剖学	1年 前期 必須	2	30	高井良招		
		解剖学演習	1年 後期 必須	1	30	高井良招		
		機能解剖学	1年 後期 必須	1	30	高井良招		
		機能解剖学演習	2年 前期 必須	1	30	高井良招		
		生理学Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	太田美智男		
		生理学Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	太田美智男		
		生理学演習	2年 前期 必須	1	30	太田美智男	近藤邦代	
		運動学Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	酒向俊治	原和子	小澤敏夫
		運動学Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	酒向俊治	原和子	小澤敏夫
		運動学演習	2年 前期 必須	1	30	岩島隆	小久保晃	小池孝康
		生命倫理	1年 前期 必須	1	15	太田美智男	近藤邦代	
		人間発達学	1年 後期 必須	1	30	近藤邦代		
		病理学	1年 後期 必須	1	30	佐藤勝		
		感染防御と安全管理	1年 後期 必須	1	15	太田美智男	近藤邦代	
		保健統計学	3年 前期 必須	1	15	國澤英雄		
		臨床心理学	2年 前期 必須	1	30	野田みや子		
		一般臨床医学	1年 後期 必須	1	30	河田美紀		
		呼吸循環器内科学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		神経内科学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		整形外科学	2年 前期 必須	1	30	河田好泰		
		精神医学	2年 前期 必須	1	30	井上真人	河田美紀	
		小児科学	2年 前期 必須	1	30	近藤直美		
		栄養代謝学	2年 後期 必須	1	15	永井博弐		
		医療薬理学	2年 後期 必須	1	15	永井博弐		
		診療画像診断学	3年 前期 必須	1	15	河田美紀		
		救急医学	3年 前期 必須	1	15	太田美智男		
		リハビリテーション工学	2年 後期 必須	1	15	武田湖太郎		
		スポーツリハビリテーション概論	2年 前期 必須	1	15	石塚和重	青木成広	
		老年学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		リハビリテーション医学	1年 後期 必須	2	15	江崎正浩		
		リハビリテーション概論	1年 前期 必須	2	15	酒向俊治	小澤敏夫	
		地域包括ケアシステム論	1年 後期 必須	1	15	藤井稚也	小島誠	
		社会福祉学	2年 前期 選択		1	15	市川季夫	

専門科目	専門展開科目	理学療法学概論	1年 後期 必須	2		15	小澤敏夫	渡辺伸一	
		表面解剖学	1年 後期 必須	2		15	酒向俊治	渡辺伸一	
		理学療法研究概論	3年 前期 必須	1		15	小澤敏夫	渡辺伸一	
		臨床運動学	2年 前期 必須	2		15	小澤敏夫	鈴木啓介	渡辺伸一
		理学療法教育学	3年 前期 必須	1		15	石塚和重	高橋洋	
		理学療法管理学	3年 前期 必須	1		15	酒向俊治		
		理学療法評価概論	1年 後期 必須	1		30	酒向俊治	鈴木啓介	
		理学療法評価検査・測定論Ⅰ	2年 前期 必須	1		30	青木成広	鈴木啓介	小池孝康
							岩島隆	鶴田猛	
		理学療法評価検査・測定論Ⅱ	2年 後期 必須	1		30	小久保晃	鈴木啓介	小池孝康
							岩島隆		
		理学療法評価検査・測定演習	3年 前期 必須	1		30	小久保晃	鈴木啓介	小池孝康
							岩島隆		
		理学療法評価演習	3年 前期 必須	2		30	酒向俊治	鈴木啓介	青木成広
							小池孝康	岩島隆	小久保晃
							鶴田猛		
		運動療法学	2年 前期 必須	1		30	石塚和重	渡辺伸一	岩島隆
		運動療法学演習	2年 後期 必須	1		30	石塚和重	渡辺伸一	岩島隆
		物理療法学	2年 前期 必須	1		30	青木成広	酒向俊治	鶴田猛
		物理療法学演習	2年 後期 必須	1		30	青木成広	酒向俊治	鶴田猛
		日常生活活動学	2年 前期 必須	1		30	小島誠		
		日常生活活動演習	2年 後期 必須	1		30	小島誠		
		義肢装具学	2年 後期 必須	1		30	酒向俊治	小島誠	
		義肢装具学演習	3年 前期 必須	1		30	酒向俊治	小島誠	
		リハビリテーション関連機器	3年 前期 必須	1		15	酒向俊治	青木成広	
		理学療法基礎治療技術論	2年 後期 必須	2		15	石塚和重	渡辺伸一	
		中枢神経系理学療法学	2年 後期 必須	2		15	石塚和重	高橋洋	渡辺伸一
		中枢神経系理学療法演習	3年 前期 必須	1		30	石塚和重	高橋洋	渡辺伸一
		運動器系理学療法学	2年 後期 必須	2		15	小澤敏夫	鈴木啓介	岩島隆
		運動器系理学療法演習	3年 前期 必須	1		30	小澤敏夫	鈴木啓介	岩島隆
		スポーツ障害理学療法学	2年 後期 必須	1		15	石塚和重	青木成広	
		スポーツ障害理学療法演習	3年 前期 必須	1		30	石塚和重	青木成広	
		発達障害理学療法学	2年 後期 必須	1		15	石塚和重		
		発達障害理学療法演習	3年 前期 必須	1		30	石塚和重		
		内部障害理学療法学	2年 後期 必須	2		15	酒向俊治	鈴木啓介	渡辺伸一
							小池孝康	鶴田猛	
		内部障害理学療法演習	3年 前期 必須	1		30	酒向俊治	鈴木啓介	渡辺伸一
							小池孝康	鶴田猛	
		老年期障害理学療法学	3年 前期 必須	1		30	鈴木啓介	小久保晃	
		介護予防演習	4年 後期 必須	1		30	鈴木啓介	小久保晃	鶴田猛
		地域理学療法学	2年 前期 必須	2		15	小島誠		
		地域理学療法演習	4年 前期 必須	1		30	小島誠	池田雅志	
		生活環境学	3年 後期 必須	1		15	小久保晃	澤 俊二	藤井稚也
		レクリエーション実践	4年 後期 選択	1		15	石塚和重	小島誠	岩島隆
							小久保晃		
		多職種連携論	4年 後期 選択	1		15	石塚和重	鈴木啓介	澤俊二
							藤井稚也	近藤邦代	
		臨床実習Ⅰ（基礎）	1年 後期 必須	1		45	理学療法士教員全員		
		臨床実習Ⅱ（地域）	2年 前期 必須	1		45	理学療法士教員全員		
		臨床実習Ⅲ（評価）	3年 後期 必須	3		45	理学療法士教員全員		
		臨床実習Ⅳ（応用）	3年 後期 必須	8		45	理学療法士教員全員		
		臨床実習Ⅴ（総合）	4年 前期 必須	8		45	理学療法士教員全員		
		実践力演習Ⅰ	1年 後期 必須	1		30	理学療法士教員全員		近藤邦代
		実践力演習Ⅱ	2年 後期 必須	1		30	理学療法士教員全員		近藤邦代
		実践力演習Ⅲ	3年 前期 必須	1		30	理学療法士教員全員		近藤邦代
		総合演習	4年 後期 必須	1		30	理学療法士教員全員		
		卒業研究	4年 通年 必須	2		30	理学療法士教員全員		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
理学療法学科

総合科学科目



学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎ゼミナール	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。		
到達目標	大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法と、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	イントロダクション・大学での学び	大学での学びの特色や目的について、意見交換を交えながら学ぶ。	
第2回	リハビリテーション学部の学び	リハビリテーション学部の4年間の学びについて概観し、これから学ぶカリキュラムを把握する。	
第3回	リハビリテーション職としてのキャリア設計	国家試験の受験と就職、その後のリハビリテーション職としてのキャリアパスについて学び、キャリア意識を高める。	
第4回	医療職とは	医療専門職全般について学ぶ。	
第5回	図書館の利用	図書館の利用方法と、大学における読書方法、読書の重要性について学ぶ。	
第6回	インターネットの利用	インターネット、携帯電話、SNSの利用方法、そのリテラシーについて学ぶ。	
第7回	文献・資料の検索・収集方法①	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、資料を収集する。	
第8回	文献・資料の検索・収集方法②	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、発表を行う。	
第9回	レポートの書き方①	大学におけるレポートの書き方について具体的に学び、特定の課題についてレポートを作成する。	
第10回	レポートの書き方②	作成したレポートを発表し、意見交換を行う。	
第11回	発表（プレゼンテーション）の方法①	パワーポイント等を使用した発表（プレゼンテーション）の方法について学び、その準備を行う。	
第12回	発表（プレゼンテーション）の方法②	個々の課題について発表を行い、意見交換を行う。	
第13回	議論（ディスカッション）の方法	議論（ディスカッション）の方法について学ぶ。	
第14回	学生による個別テーマの発表と議論①	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
第15回	学生による個別テーマの発表と議論②	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
テキスト・参考書	テキスト:特に指定しない。毎回資料を配布する。		
学修方法	10名程度の少人数クラスでの演習形式で授業を行う。		
評価方法	講義中の発表（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	講義終了後 10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	情報科学	担当教員名	國澤英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。 Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を 作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの 技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。		
到達目標	① 電子メールの作成、送信、受信ができる。 ② Wordを用いて文書・表が作成ができる。書式の設定・段組みができる。アートの挿入ができる ③ Excelを用いてグラフ・表の作成の作成や計算ができる。シート設定・作業グループの変更ができる。 ④ PowerPointを用いてプレゼンテーション資料の作成ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	PCの基本、ネットワークの活用	PCの情報処理の原理、ハードウェア、学内ネットワークの活用	
第2回	Word基本操作	Wordの起動・終了、ファイル操作、文字の入力・変換	
第3回	Word文章の作成	文書の確認、ページ設定、コピー・移動、保存	
第4回	Word表の作成	表の作成、表の範囲の選択、表のレイアウトの変更	
第5回	Word文章の編集	様々な書式の設定、段組みの設定	
第6回	Word表現力のアップ	ワードアートの挿入、クリップアートの挿入、図形の作成	
第7回	Excel基本操作	Excelの起動・終了、ブックを開く・セル指定、スクロール	
第8回	Excelデータの入力	データの入力・編集、セルの範囲の選択、ブックの保存	
第9回	Excel表の作成	関数の入力、罫線・塗りつぶしの設定、表示形式の設定	
第10回	Excel数式の入力	関数の入力の確認、様々な関数の利用、相対参照・絶対参照	
第11回	Excel複数シートの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー	
第12回	Power Point画像の加工	図の外観の変更、図の回転・トリミング、図の背景の削除	
第13回	Power Pointグラフィックの活用	ページ設定の変更、背景の設定、図形の作成、配置の調整	
第14回	Power Pointマルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入	
第15回	Power Pointスライドのカスタマイズ	スライドマスターの表示・編集、ヘッダー・フッターの挿入	
テキスト・参考書	教科書：実践ドリルで学ぶ Ofiice活用術 Word・Excel・PowerPoint NOA出版		
学修方法	各テーマについての講義、演習を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散 の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。		
到達目標	① 基本統計量（平均、標準偏差）、標準誤差、変動係数、箱ひげ図などを使ってデータの整理ができる。 ② 正規性の確認、片側検定・両側検定、仮説検定など統計的推論の基礎を理解し、活用できる。 ③ 相関係数の検定と推定、回帰直線の検定と信頼区間など相関係数と回帰直線の推論ができる。 ④ データ分析ををもとに、罹患率と死亡率の推定など頻度に対する推論・生存に関する推論ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	医学データの整理 1	ヒストグラム、平均、分散、標準偏差	
第2回	医学データの整理 2	標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図	
第3回	医学データの整理 3	散布図、相関係数、回帰直線	
第4回	統計学推論推論の基礎 1	正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布	
第5回	統計学的推論の基礎 2	仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準	
第6回	統計学的推論の基礎 3	標準正規分布、カイ二乗分布、 t 分布、F分布	
第7回	平均値に関する推論	正規母集団の母平均 μ に関する推定、二つの母平均の差の検定	
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論 1	相関係数の検定と信頼区間	
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論 2	回帰係数の検定と信頼区間	
第10回	頻度の関する推論 1	Proportionとrate、母 p に関する推定、2×2分割表の χ^2 検定	
第11回	頻度の関する推論 2	Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定	
第12回	頻度の関する推論 3	罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較	
第13回	生存時間に関する推論	生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法	
第14回	実験計画法-分散分析 1	一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定	
第15回	実験計画法-分散分析 2	完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法	
テキスト・参考書	教科書：基礎統計学 國澤英雄		
学修方法	グレクサにて資料に基づいた予習復習を心掛けること。電卓を持ってくること		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	問題解決法	担当教員名	野田みや子 近藤郁代
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。		
到達目標	自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っていく中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。	
第2回	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。	
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アードラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。	
第7回	まとめ レポート	まとめ、レポート	
第8回	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。	
第10回	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第11回	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。	
第12回	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。	
第13回	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。	
第14回	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。	
第15回	まとめ	授業を総括した講義を行う	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト30%、授業への取り組み65%、レポート5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	哲学	担当教員名	鷲見コト江
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
到達目標	フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	哲学誕生	ギリシア哲学とは	
第2回	哲学とは	哲学の課題	
第3回	愛知学としての哲学	哲学の意味	
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは	
第7回	宇宙の歴史	物質誕生	
第8回	ベルクソンの生命論	創造的進化とは	
第9回	現在の生命論・進化論	生命とは・生命の進化とは	
第10回	人類の歴史	ホモサピエンス誕生	
第11回	ベルクソンの人間論	人間とは	
第12回	心的存在者としての人間	人体と自己	
第13回	社会的心的存在者としての人間	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害者の心	
第15回	医学と看護	澤瀉久敬の看護論	
テキスト・参考書	テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 10～15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語 I	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。		
到達目標	① 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 ② 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介, 他己紹介の練習	
第2回	Emergency and vital signes	救急とバイタルサインに関する英語	
第3回	Radiology	レントゲンに関する英語	
第4回	Bones	骨に関する英語	
第5回	Body parts	身体の部位に関する英語	
第6回	Body organs	臓器に関する英語	
第7回	Hospitalization	入院に関する英語	
第8回	Medicine	投薬に関する英語	
第9回	Nutrition and Allergies	栄養とアレルギーに関する英語	
第10回	Mataninity out patient	妊娠出産に関する英語	
第11回	Pediatric Outpatient	小児科外来と幼児英語	
第12回	Out of hospital	退院に関する英語	
第13回	Palliative care	緩和ケア、ホスピスに関する英語	
第14回	Visitor	面会に関する英語と、海外医療	
第15回	Making suggestions	提案に関する英語、まとめのテスト	
テキスト・参考書	清水雅子：リハビレーションの基礎英語 第3版 MEDICAL VIEW□		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてオンライン資料を適宜使用する。		
評価方法	筆記テスト60%、プレゼン10%、宿題30%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習, 復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。		
到達目標	英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	会話、夏休み	スクラップページを作成する。	
第2回	プレゼンテーション	リハビリテーションについて書く。	
第3回	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。	
第4回	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。	
第5回	怖い話	怖かった出来事について作文する。	
第6回	ハロウィン	仮定法の練習をする。	
第7回	発音、許可を求める	空欄を埋める	
第8回	アドバイスする	質問文を作る	
第9回	過去について話す	写真を準備する	
第10回	経験についての文章をつくる。	完了形(現在、過去)の文の練習をする。	
第11回	こうであつたら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。	
第12回	リスニング	歌を覚える	
第13回	歌、ダイアログ	カード、手紙を書く。	
第14回	復習	学修したことを単語中心に復習する。	
第15回	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。	
テキスト・参考書	清水雅子：リハビリテーションの基礎英語 第3版 MEDICAL VIEW□		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト20%、プレゼン20%、授業態度25%、宿題10%、クイズ20%、ロールプレイ5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅲ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	3 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。		
到達目標	到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC450点以上（英検2級）を目指す。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	Cells and DNA, TOEIC preparation	予習：テキストの「細胞とDNA」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	Blood, TOEIC preparation	予習：テキストの「血液」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	The Cardiovascular System, TOEIC preparation	予習：テキストの「心臓血管系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	The Respiratory System, TOEIC preparation	予習：テキストの「呼吸器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	The Digestive System, TOEIC preparation	予習：テキストの「消化器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	The Urinary System, TOEIC preparation	予習：テキストの「泌尿器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	The Immune System, TOEIC preparation	予習：テキストの「免疫系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：121分	
第10回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：122分	
第11回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：123分	
第12回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：124分	
第13回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：125分	
第14回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：126分	

第15回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：127分
テキスト・参考書	テキスト「やさしいメディカル英語」（高木久代 編著）講談社、2090円（税込み） TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。	
学修方法	各テーマについての講義を行う。	
評価方法	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。	
オフィスアワー	高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp	
備考・履修条件	事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で350点以上（または英検で準2級以上）あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。	

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅳ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	4 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。		
到達目標	到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC550点以上（英検準1級）を目指す。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第13回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
第14回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
第15回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
テキスト・参考書	TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。	
学修方法		
評価方法	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。 S（100～90点）：学習目標をほぼ完全に達成している。 A（89～80点）：学習目標を相応に達成している。 B（79～70点）：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 C（69～60点）：学習目標の最低限は満たしている。 D（60点未満）：Cのレベルに達していない。	
オフィスアワー	高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先：m-takaku@gifuuoken.ac.jp	
備考・履修条件	事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で400点以上あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。	

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語 I	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する	
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する	
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する	
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する	
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する	
第6回	中国語の語順	語順の3原則を詳説する	
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する	
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1）を説明する	
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティーについて詳説する	
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する	
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する	
第12回	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する	
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する	
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する	
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語Ⅱ	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①	
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②	
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③	
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文	
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文	
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①	
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②	
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①	
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②	
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③	
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④	
第12回	中国語の表現⑲	基本単語（13）と臨床会話文⑤	
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥	
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦	
第15回	中国語の表現㉒	まとめ	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	教育学概論	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。		
到達目標	人間にとっての教育の意味を説明することができる。 教育学の基礎的な知識を身につけ、理解する。 現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス 教育学とは	授業内容の説明、自分自身の「教育」の体験	
第2回	教育の目的と役割	教育とは何か、なぜ必要か、教育の目的と役割	
第3回	教育の思想① 一学校の歴史 西洋の教育史	西洋における教育哲学と教育観の変遷	
第4回	教育の思想② 一日本の場合	日本における教育哲学と教育観の変遷	
第5回	生涯学習	今問われている生涯教育・生涯学習の必要性	
第6回	教育の方法①	教育課程とカリキュラム、授業の準備	
第7回	教育の方法②	授業の実践と評価、評価の方法	
第8回	教育と心理①	教育における心理とは	
第9回	教育と心理②	学習と思考	
第10回	教育と心理③	記憶と情報処理	
第11回	教育と心理④	伝達とコミュニケーション	
第12回	教育と心理⑤	丁寧さと心的距離、FTA、敬意	
第13回	教育の現代的課題	子どもをめぐる問題、教育現場の現状	
第14回	国際化と日本語教育	グローバル化と日本語教育の現状	
第15回	まとめ	まとめと今後の展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の倫理	担当教員名	鷲見コト江 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
到達目標	倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	倫理と道徳	倫理とは	
第2回	論理的判断	価値判断の方法	
第3回	現代の倫理的課題 I	感染症	
第4回	現代の倫理的課題 II	SDGsとは	
第5回	ホセ・ムヒカの倫理学	発展と幸福	
第6回	アリストテレスの倫理学 I	幸福とは	
第7回	アリストテレスの倫理学 II	善とは	
第8回	デカルトの哲学と道徳	学問と道徳	
第9回	デカルトの道徳	道徳の格率と徳	
第10回	カントの道徳論 I	不可知論と経験	
第11回	カントの道徳論 II	義務と幸福	
第12回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは	
第13回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権	
第14回	育児と人権	虐待とは	
第15回	医療倫理	医療倫理の歴史	
テキスト・参考書	テキスト 指定しない。 参考図書 講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の教育	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。		
到達目標	現代の教育の多様なあり方を社会状況と合わせて理解することができる。 現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができる。 社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べるすることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業内容の説明	
第2回	教育をめぐる時代の変化	教育の多様性と課題、概論	
第3回	教育現場の問題①いじめの問題	いじめ、スクールカースト、現場の教師の現状	
第4回	教育現場の問題②いじめをめぐる言説の変遷	いじめに対する捉え方、いじめの実態と言説	
第5回	教育現場の問題③校則	校則をめぐる諸問題とその背景	
第6回	教育現場で教えられていること①学力低下論争	ゆとり教育とは何だったのか、学力低下論争について	
第7回	教育現場で教えられていること②問われる学力	現代の子どもたちに必要となる学力とは	
第8回	まとめ	日本型の教育とは、問題点、教育文化の捉え直し	
第9回	若者をとりまく空気感	若者をとりまく社会、求められる能力とは	
第10回	若者とコミュニケーション	「コミュニケーション能力」について	
第11回	多文化共生教育、国際化教育	異文化体験を通して自文化を相対化する	
第12回	発達障害について	特別支援教育について考える	
第13回	諸外国との比較①	世界の教育について紹介 その制度と問題点	
第14回	諸外国との比較②	世界の教育について紹介 その制度と問題点	
第15回	まとめと展望	今後の課題、展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	心理と行動	担当教員名	野田みや子 近藤郁代
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
到達目標	社会生活に应用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。	
第2回	学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。	
第3回	記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。	
第4回	個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。	
第5回	動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。	
第6回	学習過程	教授学習モデルについて理解する。	
第7回	発達①	発達段階と発達課題について理解する。	
第8回	発達②	認知発達理論について理解する。	
第9回	発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。	
第10回	適応①	不登校の問題について理解する。	
第11回	適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。	
第12回	発達障害①	発達障害の諸相について理解する。	
第13回	発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。	
第14回	集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。	
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	
テキスト・参考書			
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の参加状況10%、レポート20%、最終試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と生活	担当教員名	藤井稚也 鈴木啓介
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。		
到達目標	① 自らの心身の健康を保持するための基本的な生活を理解し、豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できる。 ② 日常生活において起こるさまざまな問題に対して、対処できるライフスキルについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと	
第2回	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙	
第3回	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠	
第4回	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動	
第5回	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法	
第6回	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法	
第7回	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法	
第8回	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法	
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取	
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防	
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング	
第12回	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング	
第13回	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動(健康習慣)	
第14回	安全に生活をしていくための方法②	仕事	
第15回	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動	
テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。毎回資料を配布する。 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社		
学修方法	スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	岐阜県の歴史と文化	担当教員名	藤井稚也、宇佐美知子、池田雅志、高久道子
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	選択
授業の概要	文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニングの手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
到達目標	2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探究することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。	
第2回	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第3回	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①	
第4回	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②	
第5回	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③	
第6回	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④	
第7回	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第8回	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
第9回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド 調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第10回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	
第11回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	
第12回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	
第13回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	
第14回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第15回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
テキスト・参考書	テキスト：無し（随時、プリント等を配布する） 参考図書：伊藤安男著 地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	発表10％・レポート90％により評価する。 S（100～90点）：フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。 A（89～80点）：しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。 B（79～70点）：両方のフィールド調査レポート提出ができていない。 C（69～60点）：フィールド調査のレポートが一つしか出ていない D（60点未満）：2つのフィールド調査に出席していない		
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくことよい。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	自己管理と社会規範	担当教員名	高山 務
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	自己管理とは、自らををどう律するか、自らの管理・コントロールすることである。リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと 時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ。自己分析と、現時点での自己管理能力について知る。(プロフィールと自己紹介含む)	
第2回	社会規範の種類を知る	社会規範の定義と種類を知る。他者の知識や意見を聞きながら視野を広げる。	
第3回	自己管理能力の向上について	事例をもとに他者と意見交換することで自らの課題等に気づく。	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か。その基礎を学ぶ。経験したことを他者と意見交換する。	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整学習について学ぶ。	
第6回	人間の三大欲求と自己管理能力について	三大欲求について学び、自己管理能力の向上を図るための方策をグループワークを通して学ぶ。	
第7回	インクルーシブ教育システムについて	インクルーシブとは何か、障害児者の理解とPT、OTの使命について理解する。障害者と関わった経験を発表したり意見交換をしたりする。	
第8回	コミュニケーション能力を高める1	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第9回	コミュニケーション能力を高める2	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第10回	価値観について	多様な価値観を知り、尊重することの大切さを学ぶ。	
第11回	成人年齢について	令和4月1日付けで施行された法令を理解、各グループで議論する。	
第12回	アンガーマネージメントについて	アンガーマネージメントを知り、自己管理能力を高める方法について学ぶ。	
第13回	各事例によるGW発表とディベート1	グループごとに成果を発表する。	
第14回	各事例によるGW発表とディベート2	グループごとに成果を発表する。	
第15回	各事例によるGW発表とディベート3	グループごとに成果を発表する。(本講義のまとめ)	
テキスト・参考書	参考資料：自己調整学習の実践、シャク,ディル,秋場大輔 訳、北大路書房 2007年、(3672円)		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	グループワーク課題10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	リハビリテーション学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	チームワークとリーダーシップ	担当教員名	澤 俊二 藤井稚也
学年 開講時期	4 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできない。将来のリハビリテーションの職務においても重要な概念であり、チームの中で各メンバーはどうふるまうべきか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かす方法やアプローチについて、事例を交えて講義する。授業は学生の学生による発表やグループワークを中心に進める。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。ま た、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管 理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ テキスト第1章：p1-18	
第2回	書き行動と自己調整について	書き行動の方法と自己調整について学ぶ テキスト第2章：p21-41	
第3回	理解方略の相互交流について	学習における理解方略について学ぶ テキスト第3章：p43-58	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か？その基礎を学ぶ。テキスト第5章：p89-107	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整について学ぶ。テキスト第7章：p137-160	
第6回	健康管理と岐阜保健大学における節度ある風紀について	本学で期待される学生像をイメージし、社会常識を確認したうえで講義に参加する。	
第7回	自己管理とは、目標の管理と時間管理の自己管理計画、エンパワーメント、セルフケア、行動変容のためには	テキスト1.3（1章）で自己管理、自己効力感、行動変容モデルが本学の学修に有用であると認識する	
第8回	グリーンのプルシードプロシードモデル理論、ヘルスプロモーション、失敗事例から学ぶライフスキルと時間管理	テキスト1(0章).3(1章) 熟読し各自事例を考える	
第9回	大学生活での社会常識、多様な価値観、コミュニケーション	学生相互の価値観をコミュニケーション力で確認	
第10回	事例：グループワーク（GW）導入とグループ化・グループダイナミックスと役割、ディベート、レポート作成と評価	グループワークのガイダンス：役割行動、グループダイナミックス、リーダーシップとメンバーシップ	
第11回	①セルフエフィカシー事例、②モチベーション事例：GW	グループワーク、コミュニケーション能力を培う	
第12回	③エンパワーメント・セルフケア事例、④行動変容事例：GW	グループワークの成果を発表レポート作成	
第13回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第14回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第15回	事例GWの評価、 統括	グループワーク発表レポートに学びを追記し・提出	
テキスト・参考書	必携テキスト1：自己調整学習の実践、シャク、ディル、秋場大輔訳、北大路書房 2007年（3672円） 2：母性看護学概論、森恵美、医学書院2017年（2400円）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の参加状況：グループワークの参加度10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	人間関係論	担当教員名	市川季夫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションや演習などを取り入れながら講義を展開する。課題に対するフィードバック方法/毎回振り返り表を記入しコメントを入れる。必要に応じ講義中にフィードバックを行う。		
到達目標	①人間を自然的、社会的な存在として理解する。②他者と自己の関係を学ぶ。③人間関係を築く技法を学ぶ。④看護場面における人間関係を学ぶ。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	人間関係の中の自己と他者	保健医療の専門職として、人間関係についての概念や理論、スキルを学ぶ意味を考える。	
第2回	対人関係と役割	人間関係の成立について学び、その進展と維持、さらに崩壊について学ぶ。	
第3回	態度と対人行動	人間の行動に影響する要因。人の攻撃性の理由と抑制について学ぶ。	
第4回	集団と個人	集団が個人の意思決定や行動に与える影響について学ぶ。	
第5回	コミュニケーション	人間関係を形成するための基本的手段であるコミュニケーションについて学ぶ。	
第6回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングや心理療法の保健医療への応用について学ぶ。	
第7回	コーチング	コーチングでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第8回	アサーティブなコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第9回	保健医療チームにおける人間関係	保健医療におけるチームの特性を学ぶ・チーム医療、多職種連携の意義を理解する。	
第10回	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係を理解する。両者の相互作用を評価する方法を学ぶ。	
第11回	家族を含めた人間関係	患者を含めた家族も、医療の対象である。近代家族とそのゆらぎを理解する。	
第12回	地域をつくる人間関係	様々な利害関係を持つ人間集団である地域の力を評価し、障碍等の有無にかかわらず、住み慣れた地域で暮らせる条件を考える。	
第13回	「きく」技術 ①	ロールプレイ 「家族が非協力的な事例」事例紹介・事例理解	
第14回	「きく」技術 ②	ロールプレイ 「学生によるプレイ」「講師によるプレイ」	
第15回	まとめ	見通しの持てる折り合いのつけ方	
テキスト・参考書	教科書：系統看護学講座基礎分野 人間関係論 第3版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントも使う。		
評価方法	定期試験 80％、グループワーク・演習 20％		
オフィスアワー			
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーション場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とどのようにコミュニケーションすべきかの理論的に、かつ事例を示しながら解りやすく解説する。そして川越胃腸病院を取り上げ、コミュニケーションと心の交流について解説する。さらに本講座では、講義だけではなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際の医療現場で役立つ人材の育成を図る。		
到達目標	[1]ヘルス・コミュニケーションの全体像と関連要因を理解し、コミュニケーションに反映できる [2]医療者と患者・家族、医療者と医療者、患者と家族のコミュニケーションを理解し適切に対応できる [3]様々な場（面接、小集団、対立）のコミュニケーションの理論と方法を理解し、適切に対応できる [4]コミュニケーションの根底は、患者を思う心、信頼関係にあることを理解し患者満足の本質を知る		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ヘルス・コミュニケーション序論	コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデル、健康関連モデル	
第2回	医療のコミュニケーション関連要因	共感・支配・信頼・自己開示・確認・要約	
第3回	医療の人間関係のコミュニケーション	医療者と患者・家族の関係、医療者と医療者の関係、患者と家族の関係	
第4回	医療の場での非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性・特性・種類	
第5回	医療の場における面接	面接の定義、面接の形式、面接の段階、面接でのコミュニケーション	
第6回	医療における小集団コミュニケーション	小集団コミュニケーションの定義、医療集団の種類、小集団の構成要素、小集団の段階	
第7回	医療の場における対立とコミュニケーション	対立の定義・種類、対立解決へのコミュニケーション	
第8回	医療のコミュニケーション事例	川越胃腸病院を取り上げ、医療者と患者・医療者と医療者の心の交流とコミュニケーションを考察する	
テキスト・参考書	教科書：コミュニケーション論 国沢英雄		
学修方法	各テーマについての宿題を出すので、それを必ず提出すること。		
評価方法	講義に出席率（40％）、レポート提出率・内容評価（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と運動（体育）	担当教員名	石塚和重、青井俊久、鶴田猛 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	様々な運動・スポーツの実践を通して、自ら運動に親しむ態度を養い、生涯に亘って健康の保持増進を図るための基礎知識と技能を身につける。また、仲間との交流を通して、コミュニケーション能力の向上や協働の精神の醸成を図る。		
到達目標	1. スポーツ医・科学と健康について理解する。 2. 様々な運動（トレーニングやレクリエーション）及びスポーツを実践するための基礎知識を習得し健康の保持増進を図る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス 各種運動の実践①	本講義の目的・意義及び授業展開について 集団行動・身体づくり・身体ほぐし運動	
第2回	各種運動の実践②	内 容 ・ に 種 目 の 変 更 あ り	集団行動 身体づくり・身体ほぐし運動
第3回	各種運動の実践③		集団行動 身体づくり・身体ほぐし運動
第4回	スポーツ演習①		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第5回	スポーツ演習②		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第6回	スポーツ演習③		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第7回	スポーツ演習④		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第8回	障害者スポーツ①		障害者スポーツの特性理解と実践
第9回	障害者スポーツ②		障害者スポーツの特性理解と実践
第10回	障害者スポーツ③		障害者スポーツの特性理解と実践
第11回	障害者スポーツ④		障害者スポーツの特性理解と実践
第12回	障害者スポーツ⑤	障害者スポーツの特性理解と実践	
第13回	スポーツ演習⑤	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
第14回	スポーツ演習⑥	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
第15回	スポーツ演習⑦	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	1. 運動の実践では運動のできる服装と体育館シューズ・運動靴を着用し、アクセサリ類の着用は避けること。 2. 怪我や病気などで運動の実践に支障がある場合はその都度申し出ること。 3. 天候やその他の状況により、場所・内容・種目等に変更することがあるので、その都度連絡を確認すること。		
評価方法	出席・授業態度・終末レポートの総合評価による。		
オフィスアワー	授業後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
理学療法学科

専門基礎科目



岐阜保健大学

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体を構成する運動器（骨・筋・靱帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。		
到達目標	1)各器官の形態と機能の概略を説明できる。 2)運動器、神経系、各臓器の構造と機能について理解できる。 3)医療の学習、臨床で必要となる解剖学用語を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	解剖学とは、器官の発生、組織	
第2回	骨学① 形態	頭蓋の骨、顔面の骨	
第3回	骨学② 形態	体幹の骨、脊柱と椎間、胸郭の骨	
第4回	骨学③ 形態	上肢帯の骨、自由上肢骨	
第5回	骨学④ 形態	下肢帯の骨、自由下肢骨	
第6回	関節① 形態と機能	頭蓋と脊柱の関節とそれ等の靱帯	
第7回	関節② 形態と機能	上肢の関節（上肢帯、肩、肘、手）とそれ等の靱帯	
第8回	関節③ 形態と機能	下肢の関節（下肢帯、股、膝、足）とそれ等の靱帯	
第9回	関節④ 形態と機能	骨盤（腸骨、恥骨、坐骨、仙骨）とそれ等の靱帯	
第10回	筋学① 形と分類と人体部位別の筋	筋の形状分類、頭頸部の筋の形態と機能的特徴	
第11回	筋学② 人体部位別の筋	体幹、胸腹部の筋の形態と機能的特徴	
第12回	筋学③ 形態と機能	上肢（上肢帯、肩、肘、手）の筋の形態と機能的特徴	
第13回	筋学④ 形態と機能	下肢（下肢帯、股、膝、足）の筋の形態と機能的特徴	
第14回	中枢神経① 脳の構造	脳の血管、大脳、小脳の構造と機能、皮質の細胞層	
第15回	中枢神経② 脳の構造	間脳、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能	
第16回	中枢神経③ 脳の構造	中脳、橋、延髄の構造と機能	
第17回	中枢神経④ 伝導路と神経核	求心性・遠心性神経路	
第18回	脳神経 運動・知覚・自律神経	神経核・神経路・皮質領域とその機能	
第19回	脊髄神経① 頸神経と頸神経叢	知覚性と運動性、副交感性と交感性の神経とその分布	
第20回	脊髄神経② 頸神経と腕神経叢	鎖骨上・下部の神経で胸・肩部・上肢に分布する神経	
第21回	脊髄神経③ 胸神経と腰神経・腰神経叢	肋間神経、神経叢の構成と腹部・大腿に分布する神経	
第22回	脊髄神経④ 仙骨神経と仙骨神経叢	神経叢の構成と大腿・下腿・足に分布する神経	
第23回	自律神経① 交感神経と幹神経節	脊髄側角の細胞と白・灰白交通枝、その機能	

第24回	自律神経② 副交感神経	頭仙系と脊髄副交感系、その機能
第25回	内臓学① 呼吸器	呼吸機能に係る臓器の形態とその機能
第26回	内臓学② 循環器	心臓と脈管系の形態とその機能
第27回	内臓学③ 消化器	消化機能に係る臓器の形態とその機能
第28回	内臓学④ 泌尿器・性器	尿生成・排泄に係る臓器の形態とその機能、種族の継 続
第29回	感覚器とその神経① 形態と機能	嗅覚・味覚・視覚器の構造とそれ等の神経と機能
第30回	感覚器とその神経② 形態と機能	聴覚・体平衡器の構造とそれ等の神経と機能
テキスト・参考書	教科書①：P T・O Tビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学 第2版 羊土社 教科書②：プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 WEB版 医学書院	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靱帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。		
到達目標	1)筋の付着部となる部分の骨の構造について説明できる。 2)関節の構造と靱帯について説明できる。 3)脳・内臓器を容れる形態構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	組織標本の観察	組織標本を顕微鏡で観察する。	
第2回	骨① 形態と骨交連の観察 頭蓋	頭蓋骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第3回	骨② 形態と骨交連の観察 顔面	顔面骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第4回	骨③ 形態と骨交連の観察 椎骨	頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎について分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第5回	骨④ 形態と骨交連の観察 脊柱と胸郭	脊柱と胸郭を分離・交連の両標本で観察し理解する。	
第6回	骨⑤ 形態と骨交連の観察 上肢	上肢帯、自由上肢骨、上肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第7回	骨⑥ 形態と骨交連の観察 下肢	下肢帯、自由下肢骨、下肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第8回	骨⑦ 骨盤の構造 骨の連結	腸骨・恥骨・坐骨について、交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第9回	関節① 関節の機能と靱帯 上肢帯	交連標本を動かし、上肢帯、自由上肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第10回	関節② 関節の機能と靱帯 下肢帯	交連標本を動かし、下肢帯、自由下肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第11回	骨盤と股関節の機能	体幹の支持と歩行運動として関節複合体の構造を理解する。	
第12回	「入れ物」としての「骨の籠」	交連標本を利用し、脳・内臓器を容れる形態構造を理解する。	
第13回	実習ガイダンス	実習日程、実習着、実習態度、注意事項を確認する。	
第14回	上下肢の解剖見学	上下肢の筋、関節、神経の構造観察。	
第15回	体幹、頭頸部の解剖見学	脳、脊髄の外側面の構造観察。胸腔・腹腔内蔵器の位置関係と外観の構造観察。	
テキスト・参考書	教科書①：PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学 第2版 羊土社 教科書②：プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 WEB版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	四肢、体幹の骨、筋、神経の役割について理解し、理学療法、作業療法の実践で役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動時の主要な力の発現器としての骨関節、筋神経の個々についての理解を深める。関節運動では、筋肉から生み出された力を「ベクトル」と「トルク」の発生として捉え、さらに「力の合成、分解」関係して結び付け、人体の運動と力学的構造を理解する。		
到達目標	①生体運動器官の構造形態とその力学的機能が説明できる。 ②「ベクトル」と「トルク」の発生機構と「力の合成、分解」について説明できる。 ③体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、把握、歩行時の軸変化の構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	機能解剖学とは何か、その意味するもの	
第2回	協議の運動学	並進、回転と骨運動、関節の構造と包内運動	
第3回	運動力学① 筋骨格系と力	「力」の発生と「ベクトル、運動トルク」の解釈	
第4回	運動力学② 筋と関節の相互作用	3種類の「てこ」、回転軸と「トルク」	
第5回	骨と関節① 上肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第6回	骨と関節② 下肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第7回	脊柱と頭蓋の関節複合体	脊柱と頭蓋の相互運動機能	
第8回	筋の形態① 収縮機能と支配神経	収縮機構と支配神経の終末装置と筋の関係	
第9回	筋の形態② 運動と「トルク」	筋の「力」、「等尺性筋力ー内的トルク」、筋の疲労	
第10回	力源としての筋① 張力曲線	自動的・他動的な「求心性」「遠心性」「等尺性」な力	
第11回	力源としての筋② 運動	「力」と「速度」の関係とその解釈	
第12回	生体力学	自由身体ダイアグラム、「力」の合成、分析、作図	
第13回	身体支持① 頭蓋の支持と軸としての脊柱	頭蓋支持の柱と頭部の運動、体幹の軸と運動軸の柱の構造	
第14回	身体支持② 物を掴む上肢	上肢の運動軸と把握の支え機能の軸変化	
第15回	身体支持③ 歩行機能の下肢	体重移動と歩行の軸変化	
テキスト・参考書	教科書：山崎 敦／著 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演出する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。		
到達目標	①分離標本を用いて、全身骨格を組み立てられるようになる。 ②各関節の形態と機能と運動制御について理解できる。 ③脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結の形態と機能について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨格概要	分離骨標本を用いて、全身の骨格を組み立て全体像を理解する	
第2回	上肢の関節複合体①	肩関節の形態と機能、運動制御	
第3回	上肢の関節複合体②	肘関節、前腕の形態と機能、運動制御	
第4回	上肢の関節複合体③	手根と手の関節の形態と機能、運動制御	
第5回	下肢の関節複合体①	股関節の形態と機能、運動制御	
第6回	下肢の関節複合体②	膝関節の形態と機能、運動制御	
第7回	下肢の関節複合体③	足根と足の関節の形態と機能、運動制御	
第8回	体軸骨格の形態	脊柱の関節形態と機能	
第9回	胸郭骨格の形態	胸骨・肋骨・胸椎の関節形態と機能	
第10回	上肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第11回	下肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第12回	全身運動	四肢並びに体幹を軸とした全身運動	
第13回	神経① 上肢帯・自由上肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第14回	神経② 下肢帯・自由下肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第15回	脈管	交連標本を用いて上下肢・脳の脈管の走行を確認する	
テキスト・参考書	教科書①：山崎 敦／著 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅰ	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを1つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についてもこの中で講義する。		
到達目標	① 細胞の機能を説明できる。 ② 刺激の受容、興奮伝導、筋収縮の流れについて説明できる。 ③ 自律神経の構造と機能を説明できる。 ④ 血液、心臓、肺、腎臓の機能、ホルモンの働きを説明できる。 ⑤ 内分泌に関わる部位とホルモンについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生体の構造、細胞	生体の恒常性、刺激と興奮、刺激と適応、細胞の構成元素、細胞の構造と機能およびその調節	
第2回	神経生理①	感覚神経と運動神経の構造と機能、脳および神経系諸器官の基本的構造と要素	
第3回	神経生理②	静止膜電位と活動電位、興奮伝導、シナプスの機能と分類、シナプスにおける伝達メカニズム、ニューロン回路の種類	
第4回	自律神経系	自律神経の構成と作用および受容体、摂食・飲水の調節、概日リズム、自律神経反射	
第5回	運動生理①	運動ニューロン、脊髄の構造、神経筋結合部の構造と機能、骨格筋・平滑筋・心筋の機能、筋の収縮機構	
第6回	運動生理②	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と機能、反射、随意運動と不随意運動、運動の調節と制御	
第7回	感覚生理①	体性感覚・特殊感覚・内臓感覚、刺激から認知に至る神経機構、末梢の感覚受容機構と伝達メカニズム、1次体性感覚野における処理機構、体性感覚の統合機構、痛覚の神経機構	
第8回	感覚生理②（特殊感覚）	視覚器の構造と伝導路、眼の屈折力と調整作用、暗順応、視覚物質と光受容、嗅覚と味覚の受容器、聴覚器の構造、音の伝導と伝導路、平衡感覚器の構造と機能、前庭反射の神経機構	
第9回	脳と認知・行動	大脳皮質の機能局在、連合野の機能、大脳辺縁系と視床下部の機能、運動と感覚の統合機構、情動・学習・記憶をつかさどる脳の部位と記憶のメカニズム	
第10回	脳波と睡眠、体温調節	脳波の分類と意識水準、脳波の睡眠段階区分と睡眠の生理学的変化、覚醒と睡眠の調節、サーカディアンリズム、体温調節	
第11回	血液・体液と機能	血漿成分、血液細胞の働き、血液凝固の仕組みと凝固異常、鉄代謝、浸透圧	
第12回	心臓の働きと血液循環	心臓の構造、興奮伝達と心筋収縮、自律神経系による調節、心電図、血液循環と調節	
第13回	呼吸と肺の働き	肺の構造、肺循環とガス交換、血液ガスの運搬、呼吸の調節	
第14回	腎機能と排尿	腎臓の構造と機能、糸球体濾過と尿細管における再吸収、排尿とその障害	
第15回	消化と吸収	消化管の構造と食物の輸送、嚥下機能、胃、小腸、大腸における各栄養素の消化吸収機能、排便	
テキスト・参考書	教科書：貴邑富久子、根来英雄 シンプル生理学 改訂第8版 南江堂 978-4-524-22655-9 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ 人体の構造と機能第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 12:10～13:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学Ⅰの総論講義から継続して、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について疾患を例にあげてそれぞれの機能を復習しながら具体的にイメージできるように講義する。さらに人体の各機能について総論の講義を発展、具体化して、それぞれの関連する臓器の働きを基に各種疾患の例を挙げて説明する。すなわち、血液の機能とその障害、循環系の機能とその障害による疾患、呼吸器の機能と障害、消化器の生理機能とその障害による疾患、尿路系の機能と障害、代謝系の概要とその障害による疾患、各種ホルモンの働きとその障害による疾患および生殖機能との関連、神経系ならびに複数の臓器の機能が関わる血圧の調節、血液の酸／塩基平衡の調節ならびに電解質バランス、生体防御機構などについて、国家試験問題などもとりあげて理解を深めるように講義する。		
到達目標	①神経系の働きとその障害による症状を説明できる。 ②器器官、臓器の働きとその障害による症状の病態生理を説明できる。 ③複数の臓器の機能およびホルモンが関わる生体の調節、例えば血圧、血液の酸塩基平衡、電解質バランスなどについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中枢神経系の働きとその障害	体性神経の神経路の確認、脊髄の機能と障害、脊髄反射、脳幹の構造・主要機能と障害、大脳皮質の機能局在の確認とその障害	
第2回	末梢神経系の働きとその障害	脳神経のそれぞれの機能：眼球運動、味覚、聴覚・平衡覚、交感神経・副交感神経機能などと機能障害、体性神経系：感覚機能、運動機能と障害	
第3回	自律神経系の主要な機能とその障害	交感神経系の機能、副交感神経系の機能、関与する神経伝達物質、循環系および呼吸に対する自律神経の作用と障害による病態生理、排泄における神経系の機能と障害	
第4回	心機能とその異常	心臓の拍出機能と心不全、心筋の特徴と疾患、心臓の刺激伝導系とその異常・不整脈	
第5回	末梢血管の機能と物質交換、血圧の調節	動脈の粥状硬化による閉塞・梗塞、微小循環、血管透過性、循環の調節物質、心・血管系への自律神経の作用による血圧調節、	
第6回	肺の機能と障害	肺機能の測定、肺の拘束性障害および閉塞性障害、肺機能の低下、異常呼吸	
第7回	栄養とエネルギー代謝	エネルギー代謝・糖新生と調節・糖尿病、アミノ酸代謝と尿素生成・排出、脂質代謝、核酸代謝、運動と体力	
第8回	エネルギー代謝における肝臓、膵臓の機能	肝臓の代謝機能とその異常、胆汁の作用と分泌障害による病態、膵臓の代謝における作用と障害	
第9回	腎臓の機能と障害	糸球体濾過機能と障害、慢性腎不全による機能障害、腎性高血圧、電解質および水の再吸収と排泄、ホルモン・RAA系による血圧の液性調節の仕組み、降圧剤の作用	
第10回	血液の酸塩基平衡の調節と障害	肺のガス交換と呼吸機能異常による血液pHへの影響、腎臓尿細管における炭酸水素イオンの吸収・排出による血液pHの維持と変動、ケトアシドーシス	
第11回	ホメオスタシス、視床下部、下垂体ホルモンの作用と分泌の調節	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働きと調節、ネガティブ・フィードバック、下垂体後葉ホルモンの作用	
第12回	甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎髄質ホルモンの作用	甲状腺ホルモンの機能と分泌異常、副腎皮質ホルモンのそれぞれの機能と分泌異常、副甲状腺ホルモンによるカルシウム代謝の制御、副腎髄質ホルモンの作用	
第13回	プロラクチン、ゴナドトロピンと性ホルモンの機能、生殖	プロラクチン、ゴナドトロピンの作用、性ホルモンの生理作用と性周期、性ホルモン分泌異常症の病態、男性・女性の生殖機能、妊娠と分娩	
第14回	エイコサノイド（プロスタグランジン類）の作用	プロスタグランジン類の生合成とそれぞれの作用、COX阻害剤	
第15回	生体防御機構	侵襲に対する生体反応、炎症、免疫反応の生理的意義と過剰反応による疾患の病態、炎症性サイトカインの作用	

テキスト・参考書	教科書：貴邑富久子、根来英雄 シンプル生理学 改訂第8版 南江堂 978-4-524-22655-9 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版 医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 12:10～12:50 研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学演習	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学Ⅰ・Ⅱで得た知識をより深く理解するため、演習を通し、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。		
到達目標	①各演習が生理機能の何を学習するために行っているか、説明することができる。 ②記録したデータを集計し、自身の考えを述べることができる。 ③演習内容と臨床との関連性を理解することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）①	身体状況に関する知識の確認と体温計測・身体計測を行いホメオスタシスと基礎代謝について理解する	
第2回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）②		
第3回	自律神経①	交感神経と副交感神経機構について理解する 暗所での対光反射、視覚刺激による瞳孔拡大、恐怖刺激による立毛筋の収縮、発汗の観察を行う	
第4回	自律神経②		
第5回	体性感覚①	重量感覚を通じてウェーバーの法則、フェフィナーの法則、ステープンスの法則を理解する 2点識別覚の測定を行い、弁別閾値の分布・違い、弁別能の順位を調べる。	
第6回	体性感覚②		
第7回	聴覚と平衡感覚	音の伝導に関する観察を行う 視覚を制限することによる平衡感覚の変化、半規管への刺激と反応の変化を観察する	
第8回	聴覚と平衡感覚		
第9回	視覚と嗅覚	視野、色覚、マリオットの盲点について演習する 嗅覚刺激下での心理的変化について演習する	
第10回	視覚と嗅覚		
第11回	呼吸①	正常な呼吸機能の確認と肺機能検査を行い、スパイロメトリーについて理解する	
第12回	呼吸②		
第13回	心臓と循環①	安静時と姿勢変換時、運動前後、バルサルバ試験時の血圧、心拍数、動脈血酸素分圧の変動について理解する 心電計を用いて、安静時と姿勢変換時、運動前後の変動について理解する	
第14回	心臓と循環②		
第15回	心臓と循環③		
テキスト・参考書	参考書：杉晴夫 コメディカルのための生理学実習ノート 改訂第2版 南江堂 978-4-524-24746-2 参考書：大橋敦子監修 生理学実習NAVI第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト・提出物の成績（100％）		
オフィスアワー	月曜日 12:10～12:40、金曜日 12:10～12:40 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教員名	小澤 敏夫、原 和子、酒向 俊治 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。		
到達目標	運動学に多く使われる用語を理解し使用できるようになる。運動力学の基礎、身体の運動時、動作時の特徴を理解し、実践の場における病態説明、デモンストレーションが出来るようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、評定方法の他、運動学の重要性について学ぶ	
第2回	運動学総説	解剖学、生理学の基礎医学ならびに理学療法、作業療法との関連について学ぶ	
第3回	身体運動Ⅰ	運動学を理解するための必要な身体における運動面、運動軸について学ぶ	
第4回	身体運動Ⅱ	運動学を理解するための必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ	
第5回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢） ①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第6回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢） ②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第7回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢） ①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第8回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢） ②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第9回	生体力学の基礎Ⅰ（モーメント）	運動学理解を深める為、運動時の筋活動および関節に生じるモーメント（トルク）について学ぶ	
第10回	生体力学の基礎Ⅱ（平衡と安定）	運動学理解を深める為、運動時の平衡条件および安定性について学ぶ	
第11回	生体力学の基礎Ⅲ（ニュートン力学）	ニュートン力学の基礎、仕事とエネルギー消費および身体とてこについて学ぶ	
第12回	姿勢と構え	姿勢とその制御機構について運動学的に理解する	
第13回	歩行	歩行動作時の運動学的、運動力学的分析方法について理解する	
第14回	異常歩行と走行	高齢者、異常病的歩行の特徴、その要因、走行時の運動効率性について理解する	
第15回	総括、質疑	振り返り（グループ学習）	
テキスト・参考書	教科書：基礎運動学 第7版 医歯薬出版 参考書：「臨床運動学」中村隆一 医歯薬出版		
学修方法	テーマごとに座学形式で行う。		
評価方法	定期試験（筆記試験）100%		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	（予習） 運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。 毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。 例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。（復習） 授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教員名	小澤 敏夫、原 和子、酒向 俊治 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的応答を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心にした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。		
到達目標	身体運動の仕組み、日常生活の行為について基礎的な専門用語を用いて説明できる。 実習課題についてレポートにまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、生体力学	てこの原理、モーメント	
第2回	上肢帯と上肢の運動(1)	肩複合体の運動学、肩甲上腕リズム	
第3回	上肢帯と上肢の運動(2)	肘関節、前腕の運動学	
第4回	上肢帯と上肢の運動(3)	手関節、手指の運動学	
第5回	下肢帯と下肢の運動(1)	股関節の運動	
第6回	下肢帯と下肢の運動(2)	膝関節の運動	
第7回	下肢帯と下肢の運動(3)	足関節の運動	
第8回	運動制御	フィードバック、フィードフォワード制御	
第9回	体幹の運動学	脊柱、体幹の運動学	
第10回	姿勢と歩行	姿勢、正常歩行と異常歩行、走行	
第11回	歩行周期と筋活動、重心移動	通常歩行の観察、分析体験する	
第12回	歩行分析：応用歩行	応用歩行の観察、分析体験する	
第13回	運動発達	発達と発達分析	
第14回	運動学習	運動学習の種類と諸理論	
第15回	運動とエネルギー供給	運動時のエネルギー代謝と運動処方	
テキスト・参考書	教科書：基礎運動学 第7版 医歯薬出版 参考書：「臨床運動学」中村隆一 医歯薬出版		
学修方法	事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解し、実習当日の説明の際、不明な点について質問する(30分程度)。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる(1時間程度)。		
評価方法	小テスト(20%)、定期試験(筆記試験)80%		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00		
備考・履修条件	欠席をしないように心がけてください。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	運動学演習	担当教員名	岩島 隆、小池 孝康、小久保 晃 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学演習の基礎として、人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を再学習理解する必要がある。運動学Ⅰ・Ⅱの学習した電気生理学的、力学的、動作分析学的思考は本演習の理解を深める為に必要不可欠である。運動・動作課題に伴う体の動きを可視化し、また手で触れることを通じて運動と骨格筋の働きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈しそれぞれの運動との因果関係を学習するプロセスを経験する。		
到達目標	1. 運動の位置づけができるようになる 2. 筋骨格系の仕組み及び機能を説明できるようになる 3. 演習内容と臨床との関連を理解する		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	上肢帯および上肢の関節運動①	肩、肘、手関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第2回	上肢帯および上肢の関節運動②	手指関節、手指の関節運動と巧緻性について学ぶ	
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第4回	下肢帯および下肢の関節運動	股、膝、足関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第5回	下肢帯および下肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第6回	脊柱・体幹の関節運動	各関節運動について学ぶ	
第7回	脊柱・体幹の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第8回	筋力	モーメント、トルクについて学ぶ	
第9回	筋活動	筋電図とその解析方法について学ぶ	
第10回	姿勢	重心、アライメントについて学ぶ	
第11回	生体力学①	動作における身体の重心移動について学ぶ	
第12回	生体力学②	動作における重心位置と支持基底面の関係性について学ぶ	
第13回	動作分析	基本動作の分析について学ぶ	
第14回	歩行	歩行分析について学ぶ	
第15回	呼吸と循環	運動負荷試験における呼吸・循環応答を学ぶ	
テキスト・参考書	教科書： 石川 朗（編集）運動学実習（15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト） 中山書店 978-4-521-73666-2 参考書：中村隆一他著 基礎運動学第6版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生命倫理	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究応用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な生命倫理問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起るか。ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのか、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもたらす、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。		
到達目標	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ② 医療における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生命倫理の原則	医の倫理から生命の倫理へ、ヒポクラテスの誓い、生命倫理の4原則	
第2回	健康と病気、診断、予防、治療と生命倫理	患者との距離、守秘義務、病気と健康、精神疾患、医療不信、予防、治療と生命倫理	
第3回	生殖医療と人工妊娠中絶	ハイリスク妊娠、周産期死亡、不妊治療、人工妊娠中絶と母性保護、親子関係、生殖医療のガイドライン、クローン技術、優生保護法	
第4回	移植医療と脳死	臓器移植、生体臓器移植、脳死判定、臓器移植法	
第5回	臨床試験（治験）と人体実験	臨床試験と倫理、統計的有意差、二重盲検試験、臨床試験におけるヘルシンキ宣言、EBMによる標準化、動物実験と動物愛護法	
第6回	遺伝子医療	遺伝子組み換え技術の医療への応用、ゲノム編集、遺伝子医療の問題点、	
第7回	安楽死	安楽死の定義、消極的安楽死、積極的安楽死、尊厳死、植物状態、判例、宗教と安楽死、リビングウィル、自己決定	
第8回	終末期医療と緩和ケア、インフォームドコンセント	終末期医療、緩和ケア、ホスピス、在宅で受ける緩和ケア、インフォームドコンセント、癌の告知	
テキスト・参考書	教科書：三崎和志 他 生命の倫理学 大月書店 参考書：玉井 真理子・大谷 いづみ編 はじめて出会う生命倫理 有斐閣		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50 金曜日 12:20～12:50 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	人間発達学	担当教員名	近藤邦代【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程を学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。		
到達目標	①人間発達学の対象領域について説明できる。 ②各期の発達について説明できる。 ③神経系、内部機能、身体機能の発達について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達概念	人間発達期の区分、発達に関する定義、発達の原則	
第2回	発達理論	漸成的発達論と非漸成的発達論	
第3回	発達検査	目的と方法、標準化された発達検査	
第4回	姿勢反射と反応	原始反射の出現と消失(統合)	
第5回	運動発達（0～3か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第6回	運動発達（4～6か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第7回	運動発達（7～9か月）	四つ這い位、立ち上がり、しゃがみ、伝い歩き	
第8回	運動発達（10～12か月）	立位から歩行の発達過程、幼児の粗大運動発達	
第9回	6歳（13～18か月含む）までの発達（姿勢反射・反応）	粗大運動発達、歩行と走行、非対称的両側活動、平衡反応、ADL機能（手指・摂食・言語・社会性）の発達	
第10回	学童期の発達	学童期の特徴と心と身体の発達	
第11回	思春期の発達	思春期の特徴と心と身体の発達（自己概念、第二性徴、自我同一性の獲得）	
第12回	青年期の発達	青年期の特徴と心と身体の発達	
第13回	成人前期の発達	成人前期の特徴と心と身体の発達	
第14回	成人後期・老年期の発達	成人後期・老年期の特徴と心と身体の発達	
第15回	まとめ（グループにて発表）	人間発達のそれぞれの特徴とセラピストとしての関わり方についてまとめ発表を行う	
テキスト・参考書	教科書：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂6版 中外医学社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	病理学	担当教員名	佐藤 勝
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因でおこり（病因）、どのような変化を生じ（病変）、どのように推移し（経過）、最後にどうなるか（転帰）など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。そのために、病理学では疾患を①循環障害、②炎症、③代謝障害、④先天異常、⑤腫瘍に分けて、その発生機序、もたらされる種々の病的変化、転帰について講義する。さらに①～⑤のそれぞれに含まれる代表的な疾患をとりあげ、個々の疾患の病態について理解を拡げる。		
到達目標	①様々な病因を理解する。 ②病因によって起こる病変、経過、転帰について理解する。 ③炎症、免疫など身体におけるぼうびょ反応と、それに起因する疾病について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	病理学とは、原因の種類と疾患の分類	病理学と疾患の概要、内因と外因、疾患の分類	
第2回	組織損傷とそれに対する生体の反応と適応	萎縮、肥大と過形成、化生、細胞死、変性、色素沈着	
第3回	組織・細胞障害に対する生体の炎症反応	炎症反応の定義と兆候、炎症の発生機序、炎症の分類	
第4回	免疫反応、免疫の種類とその作用	免疫の定義、自然免疫と獲得免疫、細胞性免疫と体液性免疫	
第5回	免疫反応に関与する細胞と物質および成立機序	免疫反応に関与する臓器・細胞・物質、免疫反応の成立過程	
第6回	免疫不全とアレルギー反応	免疫不全の種類、アレルギー反応の定義と種類（Ⅰ～Ⅳ型）	
第7回	アレルギー反応と自己免疫疾患	アレルギー反応による疾患、自己免疫疾患の定義とアレルギー反応との相違、自己免疫疾患の種類、自己抗体	
第8回	臓器移植と拒絶反応	拒絶反応の発生機序、MHCクラスⅠ抗原、MHCクラスⅡ抗原	
第9回	感染症と主な病原体	細菌・ウイルス・真菌・原虫、感染経路、日和見感染症、敗血症	
第10回	循環障害	浮腫、充血、うっ血、出血、止血、血栓、梗塞、傍側血行	
第11回	高血圧症、DICおよびショック	高血圧症の種類と原因、DICの定義と原因、ショックの分類と症状	
第12回	代謝障害	脂質代謝異常・タンパク質代謝異常・糖質代謝異常・プリン体代謝異常・ビリルビン代謝異常	
第13回	先天異常と遺伝性疾患	DNAと染色体、先天異常の原因、遺伝子および染色体異常に基づく疾患	
第14回	腫瘍①	良性腫瘍、悪性腫瘍、発生母組織、転移、組織像	
第15回	腫瘍②	発生機序、外因と内因、がん遺伝子、診断・治療	
テキスト・参考書	教科書：カラーで学べる病理学 第5版 ノーヴェルヒロカワ		
学修方法	各テーマについての講義は教科書を基軸とするが、講義前に配布する整理用のプリントを中心に学習する。また各講義ごとに多肢選択方式の問題を解くことにより講義内容の理解と記憶を深める。		
評価方法	定期試験成績（95％）、授業への積極的取組（5％）		
オフィスアワー	授業終了後15分、授業翌日および翌々日12時20分から30分（いずれも講師控室）		
備考・履修条件	出席回数が講義回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	感染防御と安全管理	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	コロナウイルス感染など、さまざまな微生物による感染症は依然として人類の脅威であり、特に高齢者や重症基礎疾患を持つ患者にとっては死亡原因となることもある。また現代の高度先進医療では手術や薬物治療など患者に侵襲性の高い治療を行うこともあり、それらの患者は易感染状態で感染症の危険にさらされる。したがって本講義では医療従事者に必要な微生物学及び感染症について講義するとともに、微生物学の知識を踏まえた適切な感染予防方法とその意義を講義する。また人が本来持つ感染防御機構である自然免疫（非特異的感染防御能）および獲得免疫（特異的感染防御機構）についてその概略を説明する。 さらに本講義では近年医療の現場で重要視されるようになった医療事故防止のための医療安全の取り組みについてその基本的考え方を説明し、リハビリテーションにおける運動負荷を伴う訓練のための安全管理ガイドラインと、実際に問題となる個々の患者の症状・病態について安全管理に基づいて講義する。さらに医療の現場で起こった主な医療事故の事例を提示し説明する。		
到達目標	①囚に感染を起こす主要なウイルス、細菌、真菌などについて、知識を持つ。 ②肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、感染の成立過程とそれに対する人の反応の概略を知る。 ③感染症に対する人の非特異的感染防御機構である自然免疫および特異的感染防御機構である獲得免疫について理解する。 ④感染経路別感染予防策および消毒・滅菌、清潔操作について十分な知識を持つ。 ⑤医療安全の取り組みについて基本的考え方を理解し、起こりやすい医療事故について十分な知識を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	感染を起こす主要微生物	ウイルス、細菌、真菌、原虫、細菌毒素、感染症治療薬	
第2回	感染経路別感染症の病態生理	肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、それぞれの感染症の成立の概略と症状、炎症反応（局所反応及び全身反応）	
第3回	自然免疫と獲得免疫	自然免疫、獲得免疫のメカニズムと感染予防、ワクチンによる免疫の獲得	
第4回	標準予防策と感染経路別予防策	標準予防策の方法、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策	
第5回	消毒・滅菌、清潔操作	物理的消毒・滅菌法、化学的消毒・滅菌法、手洗い、手指・皮膚消毒法、医療機器消毒、環境消毒	
第6回	医療安全管理	医療安全の考え方、ヒューマンエラー、医療安全教育、リスクマネジメント、ヒヤリハット・インシデントと報告。本人確認、チューブ管理、施設安全管理。職業感染予防、感染性廃棄物処理	
第7回	運動負荷を伴う訓練のための安全管理	リハビリテーション医療における安全管理ガイドライン、バイタルサイン、疼痛などに対する対応、心肺機能、運動機能、めまい、精神・神経機能などと訓練	
第8回	医療の現場で見られる医療事故	主な医療事故：院内感染、転倒、誤投薬、手術ミス、患者取り違え、その他。医療訴訟	
テキスト・参考書	教科書： 坂本史衣 基礎から学ぶ医療関連感染対策 改訂第3版 南江堂 978-4-524-23758-6 参考書：医療情報科学研究所編 病気がみえるVol.1.6免疫・膠原病・感染症第2版 メディックメディア		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 16:10～16:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	保健統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	統計学とは、集積されたデータの最適な使い方を学ぶ学問である。大規模な調査の代表とされるひとつとして疾病予防や健康増進を図るための保健統計調査が実施されている。それらに基づいて作成された指標について解説し理解できる基礎知識を身につける。そのために、統計学の考え方と基本的な分析技術を理解し習得する。さらに、1年次に学習する基礎統計学、3年次に学習する研究概論の復習を含めより深い理解とする。		
到達目標	①健康に関連した指標を理解できる。 ②各種調査から国民の生活と健康の特徴を理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	保健統計とは	保健統計の歴史、人口統計学の基本	
第2回	人口静態統計	国勢調査、人口ピラミッド、日本の人口と世界の人口	
第3回	人口動態統計①	出生と人口再生産、死亡、死産、婚姻、離婚	
第4回	人口動態統計②	主要死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）とその動向	
第5回	生命表	平均余命、平均寿命、健康寿命	
第6回	健康状態と受療状況	保健統計調査、基幹統計、国民生活基礎調査、患者調査	
第7回	生活習慣と健康	栄養・食生活・運動・飲酒・喫煙の状況と改善及び疾病予防	
第8回	医療経済統計	国民医療費、介護保険事業	
テキスト・参考書	教科書：保健統計学 國澤英雄 参考書：国民衛生の動向（最新版） 厚生労働統計協会		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	火曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	臨床心理学	担当教員名	野田 みや子【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。		
到達目標	①防衛機制について説明できる。 ②心理検査の役割とその方法について理解する。 ③カウンセリングの理論、カウンセリングの面接技法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心に発展してきた、行動療法、来談者中心療法、という心理療法の理論と実践における方法論についての理解を育む。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、臨床心理学の歴史と様々な方法論に関して理解する（テキスト 10、11、16、17、58、59、202ページ）。	
第2回	心理療法の代表的な3つのアプローチについて理解を深める。 フロイトの精神分析的アプローチについて学修する。	心理療法の3つのアプローチについて理解する。 テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの精神分析的アプローチについて理解する（テキスト64―67ページ）	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論（テキスト、78、79ページ）と、夢分析について理解する（テキスト80―82ページ）。	
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論（テキスト、78、79ページ）を理解する（テキスト80―82ページ）。アードラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法、認知療法の理論について学修する。心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、アイゼンクらの行動療法、エリス、ベックの認知療法について理解する（テキスト74、75ページ）心理アセスメントについて理解する（テキスト38―56ページ）。	
第7回	認知療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、認知行動療法のA B C D E理論を理解する（テキスト74ページ）。自身の不安、敵意に対してこの技法を試してみる。	
第8回	家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。認知行動療法の考える自己と問題解決	テキストと講義ハンドアウトをもとに、家族療法についての理解を深める（テキスト101-113ページ）。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチについての理解を深める。心理療法におけるラポールと転移について理解する。	テキストとプリントをもとに、来談者中心療法について理解する（テキスト70―73ページ）ラポール、転移、逆転移について理解する（62、63ページ）。	
第10回	欲求コントロール	プリントを基に、欲求コントロールを理解する。	
第11回	アサーティブネスと自己実現	プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第12回	笑いとラフターセラピー	プリントを基に、笑い、ラフターセラピーを理解する。	

第13回	対象喪失とグリーフセラピー	プリントを基に、対象喪失とグリーフセラピーを理解する。
第14回	ジェンダーとカウンセリング	プリントを基に、ジェンダー関連のカウンセリングを理解する。
第15回	まとめ、確認テスト 課題提出	テキストとプリントを基に学修したことをまとめ、夢レポートの提出する。
テキスト・参考書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	一般臨床医学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。		
到達目標	①臨床医学一般の診察、検査、診断から治療への流れを理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	救急医学	ショック、心肺蘇生法、呼吸管理、輸血、救急処置の概要を理解する。ICUの役割を理解する。	
第2回	外科総論	機械的損傷と非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍の症状と治療を理解する。	
第3回	脳神経外科総論	症候と病態、主の脳疾患の概要について理解する。	
第4回	循環器疾患、呼吸器疾患	心筋梗塞など循環器疾患、肺炎や慢性肺疾患の病態と治療を理解する。	
第5回	消化器疾患	食道癌・胃潰瘍・胃癌、腸閉塞、大腸癌などの病態と治療を理解する。	
第6回	肝・胆・膵疾患	ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌、胆石、急性膵炎の病態と治療を理解する。	
第7回	血液・造血器疾患	貧血をきたす疾患・白血病・出血性疾患の病態と治療を理解する。	
第8回	代謝性疾患	糖尿病・脂質異常症・痛風などの病態と治療を理解する。	
第9回	内分泌疾患	下垂体・甲状腺・副腎疾患の病態と治療を理解する。	
第10回	泌尿器・生殖器疾患	泌尿器・生殖器疾患の診断と検査法、腎と尿路の代表的疾患の病態と治療について理解する。	
第11回	膠原病・アレルギー・感染症疾患	関節リウマチ・SLE・強皮症など病態と治療を理解する。	
第12回	皮膚疾患	皮疹の特徴と皮膚疾患の原因と症状、皮膚感染症などの病態と治療を理解する。	
第13回	婦人科・産科疾患	性機能の生理、不妊、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分娩、不妊について理解する。	
第14回	眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	眼疾患の病態と検査を理解する。耳・鼻・咽頭・喉頭疾患の症状と病態生理、検査について理解する。	
第15回	老年期医学、小児疾患	高齢者の代表的な疾患、薬物療法の概要を理解する。 小児の感染症と代表的な疾患の病態と治療を理解する。	
テキスト・参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野STANDARD TEXTBOOK 内科学 第5版 医学書院 PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	呼吸循環器内科学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を習得する。		
到達目標	①呼吸循環器内科学に必要な症候学、診断学、及び治療学を理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。 ④疾患の予防、発症、治療に関する知識を習得し理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内科的診断と治療の実際	診察法、臨床検査、内科的治療、リハビリテーションとの関連事項	
第2回	症候学	発熱、倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などについて理解する。	
第3回	循環器	循環器系の解剖と生理	
第4回	循環器疾患総論①	主要な症候、診断法	
第5回	循環器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第6回	循環器疾患各論①	高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）	
第7回	循環器疾患各論②	先天性心疾患、弁膜症、心筋症	
第8回	循環器疾患各論③	心不全、不整脈、大動脈、大動脈瘤、心移植	
第9回	心臓リハビリテーション	クリニカルパス、運動療法、食事療法、活動と参加	
第10回	呼吸器	呼吸器系の解剖と生理	
第11回	呼吸器疾患総論①	主要な症候、検査法と結果の解釈、診断法	
第12回	呼吸器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第13回	呼吸器疾患各論①	肺炎、結核、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全	
第14回	呼吸器疾患各論②	気管支喘息、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸	
第15回	呼吸リハビリテーション	在宅酸素療法、運動療法、食事療法、活動と参加	
テキスト・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 STANDARD TEXTBOOK 内科学 第4版 医学書院 参考書：寺野彰総編集 シンプル内科学改訂第2版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	神経内科学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中枢神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の3大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。		
到達目標	①神経学的診断法、神経症候学を理解する。 ②神経内科で扱う疾患の分類を理解する。 ③各疾患の障害部位と症状の関係、疫学、予後を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	神経学的検査と診断	体幹・四肢の検査と診断、画像診断、電気生理学的検査、自律神経機能検査、腰椎穿刺	
第2回	神経症候学（意識障害）	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	
第3回	神経症候学（運動麻痺・感覚障害）	運動麻痺と錐体路徴候、筋委縮、錐体外路徴候、運動失調、感覚障害	
第4回	神経症候学（高次脳機能障害①）	失語・失行・失認の概念と分類、症状と責任病巣	
第5回	神経症候学（高次脳機能障害②）	記憶障害・注意障害・遂行機能障害の概念と分類、症状と責任病巣	
第6回	神経症候学（構音障害、嚥下障害）	構音のメカニズム、構音障害の診断と治療、嚥下のメカニズム、嚥下障害の診断と治療、球麻痺と仮性球麻痺	
第7回	神経症候学（神経因性排尿障害、末梢神経症候）	排尿機能、神経因性排尿障害、自律神経と自律神経症候	
第8回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状	
第9回	脳血管疾患	脳血管障害の分類、主症状、内科的治療と外科的治療	
第10回	中枢神経変性疾患	変性疾患の概念と分類、大脳皮質・基底核・中脳の変性疾患、脊髄小脳変性症、脊髄変性疾患	
第11回	脱髄疾患	中枢神経の脱髄疾患、末梢神経の脱髄疾患	
第12回	脳腫瘍、外傷性脳損傷	脳腫瘍の分類・症状・診断・治療、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷	
第13回	末梢神経障害	絞扼性ニューロパチー、末梢性ニューロパチー	
第14回	筋原性筋萎縮疾患	ミオパチー、筋ジストロフィー、その他の筋原性筋萎縮疾患	
第15回	感染性疾患、小児神経疾患	神経感染性疾患の定義と原因、分類と病因 脳性麻痺、その他の小児神経疾患	
テキスト・参考書	教科書：神経内科学テキスト 改訂第5版 南江堂 参考書：中島正美・島原智美編 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	整形外科学	担当教員名	河田 好泰【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	整形外科学は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実践についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学習する。		
到達目標	1. 運動器（骨・関節・筋・神経など）の解剖および生理を理解する。 2. 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 3. 各種疾患について専門知識に基づいた判断が出来る。 4. 各種外傷について専門知識に基づいた判断が出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨関節の解剖生理	骨関節の解剖と生理、機能を理解する。	
第2回	診断と治療	整形外科的な診断と治療の基本を理解する。	
第3回	上肢外傷	上肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の上肢の外傷について理解する。	
第4回	脊椎の解剖生理 脊椎外傷	脊椎の解剖・生理の特徴を理解する。 解剖・生理に特徴に基づいて脊椎の外傷の病態を理解する。	
第5回	小児整形外科	小児の先天性疾患を理解する。 小児によくみられる外傷や疾患の診断と治療を学ぶ。	
第6回	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の病態を理解する。 四肢の骨軟部腫瘍の診断と治療を理解する。	
第7回	下肢外傷	下肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の下肢の外傷について理解する。	
第8回	関節リウマチ	関節リウマチの病態を理解する。 四肢の関節におけるリウマチ性関節炎の診断と治療を学ぶ。	
第9回	下肢のスポーツ障害	膝・足関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 下肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。	
第10回	股・膝関節疾患 人工関節	股・膝関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 関節疾患とその代表的治療方法である人工関節手術の特徴を理解する。	
第11回	上肢の疾患	上肢の神経障害の病態、診断と治療を理解する。 手や肩によくみられる疾患の病態、診断と治療を理解する。	
第12回	上肢のスポーツ障害 手外科	上肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。 手外科特有の治療を理解する。	
第13回	骨代謝疾患	骨代謝の基礎と骨代謝疾患の病態を理解する。 骨粗鬆症をはじめとする骨代謝疾患の診断と治療を学ぶ。	
第14回	下肢の疾患	下肢によくみられる神経障害や変性疾患の病態とその診断を理解する。	
第15回	まとめ	整形外科の知識確認	
テキスト・参考書	教科書：中村利孝、松野丈夫監修 標準整形外科第15版 医学書院 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	精神医学	担当教員名	井上 真人【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。		
到達目標	①精神医学の基礎知識を習得する。 ②主な精神疾患の症状、経過、診断、治療を理解する。 ③ライフステージと精神健康問題の関りを理解する。 ④精神障害者福祉の抱えている課題を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	精神医学とは	精神医学の源流、日本の歴史と法制度	
第2回	精神障害の成因と分類	外因性・内因性・心因性、ICDとDSM	
第3回	患者の接し方と精神症状	精神科的面接の方法、知覚・思考・感情の異常	
第4回	精神症状	記憶・意欲・行動・自我意識の異常	
第5回	身体因性の精神障害①	症状性及び器質性精神障害、認知症疾患	
第6回	身体因性の精神障害②	てんかん、アルコール依存症、薬物依存	
第7回	内因性の精神障害①	統合失調症の病型分類・症状・治療	
第8回	内因性の精神障害②	気分（感情）障害の症状・分類・診断・治療	
第9回	心因性の精神障害	神経症、ストレス障害	
第10回	摂食障害・睡眠障害	疾患の概念と症状・診断・治療	
第11回	パーソナリティ	パーソナリティ障害及び行動障害	
第12回	発達障害、児童精神障害	知的障害、学習障害、自閉症、発達障害、チック	
第13回	児童・青年期の行動と情緒障害	情緒障害の分類・特性・症状・診断・治療 その他児童・青年期に発症する各疾患	
第14回	精神科における治療法	薬物療法、精神療法、精神科救急治療法、電気けいれん療法	
第15回	精神医学に関連した知識	リエゾン精神医学、メンタルヘルス、精神鑑定、入院形態	
テキスト・参考書	教科書：上島国利他編集 精神医学テキスト改訂第5版 南江堂 参考書：上野武治編集 標準理学療法学・作業療法学専門分野精神医学第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	小児科学	担当教員名	近藤 直実【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけではなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。		
到達目標	①成長・発育過程における小児の特性について理解する。 ②小児特有の疾患とその病態について理解する。 ③小児科の医療従事者に必要な救急技術や感染症予防について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	小児科学総論	粗大運動と反射の関連を学ぶ	
第2回	診断と治療の概要	小児科における診断や・検査の過程を学ぶ	
第3回	新生児・未熟児疾患	未熟児の神経学的初見、新生児・周産期異常症状、代表的な中枢神経障害	
第4回	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常	
第5回	神経・筋・骨系疾患①	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞、発達障害	
第6回	神経・筋・骨系疾患②	脊髄性疾患、末梢神経性疾患、骨関節疾患、筋疾患	
第7回	循環器疾患	心血管系の胎外環境への適応、循環器疾患の症状・検査・原因、先天性心疾患と後天性心疾患	
第8回	呼吸器疾患	呼吸器疾患の発生と機能・症状と検査・治療と処置	
第9回	感染症	各年代での代表的な感染症とその症状、診断・治療	
第10回	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	消化器の機能的発達と疾患、内分泌疾患、糖尿病とその他糖代謝異常	
第11回	血液疾患、腫瘍性疾患	赤血球・白血球の異常、出血性・血栓性疾患、悪性腫瘍の発生頻度と治療	
第12回	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫不全・免疫調節障害、膠原病	
第13回	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患	腎疾患と腎不全、泌尿器疾患、生殖器疾患	
第14回	習癖・睡眠、心身症・神経症	小児科にみられる心身症などの主要疾患の病態と治療	
第15回	重症心身障害児	定義及び発達、重症心身障害児特有の問題、療育	
テキスト・参考書	教科書：富田豊編集 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学 第6版 医学書院 参考書：久保田健夫 図解小児科 金芳堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	栄養代謝学	担当教員名	永井 博弼【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。		
到達目標	①リハビリテーションと栄養学についてその重要性を説明できる。 ②代謝について説明できる。物質代謝とエネルギー代謝について説明できる ③栄養素の種類、機能、消化と吸収、疾患との関連性について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションと栄養学	リハビリテーションにおける栄養障害の概要、生体内での酸化と還元、同化と異化作用について	
第2回	食品・栄養・代謝について	食品・栄養・代謝の言葉の意味の説明ができる。エネルギーおよび過栄養（メタボリックシンドローム）について説明ができる	
第3回	タンパク質・アミノ酸の種類と構造と消化吸収について	タンパク質とアミノ酸の種類・機能・消化と吸収、疾患との関連について説明ができる	
第4回	脂質の種類と機能と、消化吸収、脂質代謝異常症について	単純脂質、複合脂質、誘導脂質および脂肪酸の種類・機能・消化と吸収、代謝異常症と動脈硬化症について説明ができる	
第5回	糖質の種類と機能、消化と吸収、代謝異常症について	糖質の構造・機能・消化と吸収・代謝異常としての糖尿病について説明ができる	
第6回	ビタミン、微量元素（ミネラル）について	水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンおよび微量元素（ミネラル）にの種類、機能、欠乏症、過剰症について説明ができる	
第7回	エネルギー代謝と運動と栄養および疾患と栄養（1）	エネルギー代謝のうちATP 産生系、消費系、身体レベル及びその異常について説明できる	
第8回	エネルギー代謝と運動と栄養および疾患と栄養（2）	栄養・食品とエネルギー、基礎代謝、運動及び疾患との関連について説明できる	
テキスト・参考書	わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために 第5版 ニューヴェルヒロカワ		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜提出するプリントの成績（20%）、定期試験成績（70%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室（月火水の午後）		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	医療薬理学	担当教員名	永井 博弼【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。		
到達目標	投薬処方時の主作用・副作用等の薬理作用を理解する。また、薬物が体内でどのように作用しているか（薬物動態学）、作用機序（薬力学）について概念を他者に簡潔に説明できるようになる。各講義の到達目標は、各講義の前にプリントにて知らせる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	薬理学総論	医薬品とは何か、医療用医薬品、処方せん医薬品について学ぶ。	
第2回	薬の作用と作用機序	薬物の作用機序、受容体の相互作用および汎用性ある薬物の作用機序について理解を深める。	
第3回	薬物の体内動態（1）	薬物動態の基本となる吸収、分布、代謝、排泄を学ぶ。また、薬物動態と副作用発現との関係を理解する。	
第4回	薬物の体内動態（2）	高齢者、障害者における薬物動態の特性について理解する。	
第5回	医薬品の副作用と毒性	個々の医薬品の主な副作用や毒性を学ぶ。また、過去におきた代表的な薬害事例を知る。	
第6回	薬理学各論（1）	臨床応用に基づいて医薬品を大まかに分類できることを学ぶ。	
第7回	薬理学各論（2）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。	
第8回	薬理学各論（3）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。まとめ（薬理学の重要性について）	
テキスト・参考書	図解薬理学：病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略 第2版 医学書院		
学修方法	授業後は教科書、配布資料、確認プリントを利用し復習をおこなうこと。		
評価方法	方法・基準 レポート30%、定期試験70%		
オフィスアワー	講義後 15分間 教室、および 研究室（月・火・水曜日の午後）		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	診療画像診断学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医用画像は、工学系技術の進歩により精度の高い視覚的診断、治療材料として広く用いられてきた。本講義では各種撮像法の基本原理と画像診断の基礎を理解する。また理学療法、作業療法の代表的対象疾患の画像を供覧しその病態の理解を深める。画像診断に対する基礎知識は、医療従事者にとって患者の病態像の把握、治療プログラム作成、予後予測等において極めて重要となる。また、他の医療従事者との共通認識を持ち、チーム医療の円滑化にとって必要不可欠な知識である。		
到達目標	基礎医学、身体解剖学の知識は画像診断にとって極めて重要である。また解剖学的臓器、各組織等の位置関係の理解と再確認が必要である。画像と関連した疾患についても再学習し、実践前の基本的医療情報の整理および理解する契機とする。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	画像診断の基礎知識	X線・MRI・CTの特徴、表現方法について学ぶ。	
第2回	画像診断（胸部、腹部等）	呼吸器、循環器のX線画像、CT画像と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第3回	脳血管障害（脳梗塞）の画像診断	脳梗塞を主とした神経疾患の画像診断について学ぶ。	
第4回	脳血管障害（脳出血等）の画像診断	脳出血を主とした神経疾患の画像診断について学ぶ。	
第5回	中枢神経系障害の画像診断	脳、脊髄を主とした疾患の画像診断について学ぶ。	
第6回	脊椎・脊髄疾患の画像診断	正常関節（脊柱）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第7回	上肢機能障害の画像診断	正常関節（肩甲帯、肩、肘、手、指関節）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第8回	下肢機能障害の画像診断	正常関節（骨盤、股、膝、足関節）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
テキスト・参考書	参考書：藤健司著，整形外科ナースのための運動器画像診断，メディカ出版，2006年9月発売，ISBN-10：4840418349		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	全ての講義を終了した時点で課題を出し，提出されたレポートを成績評価の対象とする課題レポート（70％），講義への参加態度（30％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	救急医学	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康状態の急激な変化、突然の外傷による身体危機にある人の客観的観察と迅速的確な評価、それに対する初期対応能力を学び実践演習する。本講義では救急医療で診療する頻度の高い疾病の解説とバイタルサイン等の観察手法、また医療、介護、福祉の場だけではなく一般家庭内や職場、学校、災害時等人々が社会生活を営むすべての場で行われるべき医学的初期対応、治療を学習する。また、救急時の本人およびその家族へ寄り添い身体的、心理的援助支援についても学習する。		
到達目標	緊急災害時における対象者の客観的観察と的確な評価方法の視点が理解できる。健康状態、外傷後の悪化を防いで速やかに回復につなげるための対処方法が理解できる。また、対象者の不安に対しての心理、社会的支援について考えることができる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	応急処置の基本	処置方法の基本、災害時のトリアージの概論	
第2回	一次救命措置（BLS）、二次救命措置（ALS）	バイスタンダーCPR、primary ABCD suevey、secondary ABCD suevey	
第3回	症状別応急処置（1）	呼吸器系障害、循環器系障害、急性腹症、その他腹部疾患の対応	
第4回	症状別応急処置（2）	神経系の障害、骨、関節、筋肉損傷の対応	
第5回	症状別応急処置（3）	創傷処置（包帯法・止血法・移送）の実践	
第6回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
第7回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
第8回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
テキスト・参考書	教科書：授業資料を適宜配布 参考書：適宜紹介		
学修方法	救急、災害場面に遭遇した時、僅かなでも援助ができる勇気、技術を学ぶ。		
評価方法	定期試験（80％）、課題提出（20％）		
オフィスアワー	金曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション工学	担当教員名	武田湖太郎
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	著しい発展がみられる工学系領域において開発された技術が、障害をもつ人々に対して理学療法、作業療法分野の実際の介入場面で活用が多く活用されている。利用者本人、家族介護者の健康支援等について活動や参加の視点から生活期、福祉領域、長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方についても理解を深める。また、リハビリテーション工学の歴史とその発展過程を知り、様々な支援機器、福祉機器の種類、その特徴や構造、機能を工学的視点を基盤として学習する。		
到達目標	福祉用具関連する支給方法、福祉用具の種類および適合判断等が理解できる。また、汎用性の高い福祉機器についてはその使い方を利用者に簡潔に説明できる。特に長時間の車椅子利用者では、身体機能に即した車椅子の判別、座位補助機構等のシーティングについて実践における対応力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーション工学の歴史、関連法規	リハビリテーション工学の歴史的背景を学ぶ。	
第2回	福祉用具法、障害者総合支援法、介護保険法の概略	福祉機器等の利用に際して、関連法規および財源等の基本的知識を学ぶ。	
第3回	バリアフリー、ユニバーサルデザインの実際	バリアフリーとユニバーサルデザインの違い	
第4回	車椅子の力学基礎とその性能	多種車椅子の特性を学び、障害者と使われる車椅子との整合性について理解する。	
第5回	座位補助装置の基礎	車いす骨盤支持モデルのメカニズムを学ぶ。	
第6回	コミュニケーション機器の種類と障害者との対応手法	意思伝達装置は、身体に残された機能を使ってスイッチを操作し自分の思いを伝える手段であり、その実践能力を理解し養う。	
第7回	歩行ロボット、A I 人工知能の基礎知識	ロボットスーツの機能、A I の基礎知識を学習しリハビリテーション医療の応用可能性に検討する。	
第8回	総括	リハビリテーション工学のまとめと今後の課題についてまとめる	
テキスト・参考書	講義ごとに資料を配布する。		
学修方法	授業後は配布資料を利用し復習をおこなうこと。		
評価方法	方法・基準 試験100%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論	担当教員名	石塚和重【実務家該当教員】 青木成広【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康は万人の願いであり、また個々の人生のＱＯＬ維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。		
到達目標	幼少期からの運動・スポーツ習慣のある生活は、健康維持・増進にとって極めて重要である事を理解し、自発的、積極的な実践指導ができるようになる。健康についての充分な理解と健康と運動・スポーツ関連性について啓発できる知識、理解力をもつことができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康の定義	健康であるとはどういうことか理解する。	
第2回	健康と生活習慣の関連性	健康と生活習慣の相互関連性	
第3回	健康とストレスの関連性	生活習慣、日常のストレスと精神健康と関連性	
第4回	体力の概念、構成要素	体力とは何か？、大学生の体力、体力の測定と評価方法	
第5回	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果	運動の意味を考える、運動の実際を事前に読む。	
第6回	健康づくりのための政策	身体活動・運動分野における国民の健康づくりのための取組み	
第7回	代表的なスポーツ外傷・障害	スポーツ現場での救急法、RICE処置	
第8回	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ	スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。	
テキスト・参考書	教科書： 大学生の健康・スポーツ科学研究会 大学生の健康・スポーツ科学 第5版 道和書院 978-4-8105-2126-9 参考書：適宜紹介する		
学修方法	必要に応じて、参考資料を配付します。 授業内課題のフィードバック：次週		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	老年学	担当教員名	河田美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学習する。その為には、加齢に伴う身体・心理的变化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何か学習する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患、クレイ社を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。		
到達目標	①加齢に伴う生理・運動機能・精神心理面の変化を説明できる。 ②高齢者へのリハビリテーション医療を説明できる。 ③高齢者を取り巻く社会的背景、物理的環境を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション 高齢化と諸問題・加齢に伴う変化	老化と老年期の考え方、高齢化の進行とそれに伴う諸問題	
第2回	高齢者へのアプローチ	高齢者の定義と人口動態、高齢者の機能評価・薬物療法	
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患①	意識障害、認知症、専門、抑うつなどの概要と対応について理解する	
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患②	めまい、しびれ、言語障害、腰痛などの概要と対応について理解する	
第5回	高齢者に特徴的な症候と疾患③	転倒、尿失禁、廃用症候群などの概要と対応について理解する	
第6回	高齢者に特徴的な症候と疾患④	褥瘡、脱水、浮腫、嚥下障害などの概要と対応について理解する	
第7回	循環器疾患	血圧異常、不整脈、虚血性心疾患などの概要と対応について理解する	
第8回	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患などの概要と対応について理解する	
第9回	消化器疾患	逆流性食道炎などの概要と対応について理解する	
第10回	骨・運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靱帯骨化症などの概要と対応について理解する	
第11回	神経疾患	脳血管障害、Parkinson病などの概要と対応について理解する	
第12回	その他の疾患	糖尿病、耳鼻咽喉疾患、眼疾患などの概要と対応について理解する	
第13回	高齢者を取り巻く環境とリハビリテーション	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者リハビリテーション医療の動向	
第14回	終末期医療	高齢者の終末期医療の考え方と諸動向	
第15回	介護保険	介護保険の現状と地域包括ケアシステムの役割	
テキスト・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 STANDARD TEXTBOOK 老年学 第6版 医学書院 参考書：中村重信著 老年医学への招待 南山堂 近藤克則著 健康格差社会を生き抜く 朝日新書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教員名	江崎 正浩
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーションとは障害者の能力を回復し、人間らしい社会生活に再適合（社会復帰）するための過程であり、機能訓練はその手段の一つに過ぎない。具体的には1. 廃用の予防 2. 失われた機能の回復 3. 代償機能の獲得であり、最終的目標はADLの自立、家庭・社会生活への復帰である。本授業では脳卒中・脊髄損傷・骨折などを例にとりリハビリテーション医学について理解を深めてもらいたい。		
到達目標	毎回、講義前に教科書「リハビリテーションビジュアルブック（学研）」の指定した項目の通読・予習を期待します。授業ではスライドを使って教科書の該当する項目を講義します。試験問題は授業中に示します。提示した問題以外からは出題しません。授業を聞いてなぜこの問題はこの回答になるのかをしっかりと理解してください。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーション総論	リハビリテーションとは？各種障害の概説	
第2回	脳卒中（脳出血）の治療の流れ（症例1）	脳出血を例にとり中枢疾患のリハビリを概観する	
第3回	脳卒中とは？	脳卒中の病型 画像診断 脳卒中の一次障害（意識障害・運動障害・感覚障害）	
第4回	脳卒中（脳梗塞）の治療の流れ（症例2）	脳卒中の一次障害（摂食嚥下障害・高次脳機能障害・言語障害。排尿障害）	
第5回	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中の二次障害（廃用）急性期リハビリ・回復期リハビリ	
第6回	脊髄損傷（完全対麻痺）の治療の流れ（症例1）	脊髄損傷とは？ 脊髄損傷の病型 脊髄損傷による一次障害その1（運動障害・感覚障害・排尿障害）	
第7回	脊髄損傷（不全四肢麻痺）の治療の流れ（症例2）	脊髄損傷による一次障害その2（自律神経障害）脊髄損傷による二次障害（褥瘡）脊髄損傷のリハビリ 固縮と痙縮	
第8回	認知症（痴呆）	認知症の病型・治療・リハビリ	
第9回	ニューロリハビリテーション	21世紀の脳卒中リハビリ 麻痺が回復する？！	
第10回	骨折・外傷	骨折の治療・合併症・リハビリ 高齢者の骨粗鬆症と大腿骨頸部骨折	
第11回	整形外科疾患のリハビリ	肩関節周囲炎、腰痛症などのリハビリ	
第12回	切断と義肢	義手・義足の仕組みとリハビリ	
第13回	神経・筋の変性疾患	パーキンソン病のリハビリ 評価	
第14回	呼吸器リハビリテーション	慢性呼吸疾患の評価とリハビリ	
第15回	心臓大血管リハビリテーション	心筋梗塞・慢性心不全のリハビリ 心肺機能・持久力の評価	
テキスト・参考書	教科書：リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研メディカル秀潤社 教科書：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学 2026 医歯薬出版		
学修方法	＜予習＞テキストにて、次の章にひととおり目を通しておくこと。＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習する。		
評価方法	定期試験（80％）受講態度（20％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 酒向俊治【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学習する。		
到達目標	① リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて説明できる。 ② 関係法規と担当する保健医療福祉行政について説明できる。 ③ 障害の様相とそのリハビリテーションを説明できる。 ④ 地域リハビリテーションについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションの理念と障がい	リハビリテーションの理念とその歴史的変遷、サービス体系、障がいに対する基本的な考え方を理解する。	
第2回	リハビリテーション関連法規	障害者基本法、介護保険制度を中心に理解する。	
第3回	リハビリテーションのサービス体系	リハビリテーションサービスとは何か、福祉サービス、社会資源、社会資源について理解する。	
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、場面ごとのリハビリテーション	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、の違いを理解する。施設ごとのリハビリテーションを理解する。	
第5回	医療とリハビリテーション専門職種と役割	インフォームド・コンセント及び専門職種の役割を理解する。	
第6回	チームアプローチ	チーム医療の連携とチームアプローチの有効性について理解する。	
第7回	ADL、QOLの概念と評価法	ADLとQOLの概念と評価法（SH-36）について理解する。	
第8回	障害の心理的・社会的視点	病（障害）の心理および防御機制を理解する。	
第9回	ヒトの発達と評価（とくに小児）	小児の発達および主な小児疾患リハビリテーションを理解する。	
第10回	医療機関で行うリハビリテーション治療	急性期・がんリハビリテーションについて理解する。	
第11回	高齢化による機能障害のリハビリテーション	高齢化による機能障害のリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第12回	身体障害の様相	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害について理解する。	
第13回	身体障害のリハビリテーション	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第14回	地域におけるリハビリテーションの展開過程	地域リハビリテーションとは何か、活動に関する諸因子、支援体制について理解する。	
第15回	リハビリテーション過程	リハビリテーションにおける評価の流れを理解する。	
テキスト・参考書	教科書：リハビリテーション概論：医学生・コメディカルのための手引書 改訂第4版 永井書店 参考書：砂原茂一著 リハビリテーション 岩波書店 上田敏著 ICFの理解と活用 【KSブックレットNo.5】人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか きょうされん 中村隆一、佐直信彦編 入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員名	小島 誠【実務家該当教員】 藤井 稚也【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。		
到達目標	1 地域特性を把握する視点を述べられる。 2 地域特性（地域のニーズ）に応じた地域包括ケアシステムの在り方について述べられる。 3 地域包括ケアシステムのなかで医療におけるリハビリテーションの在り方および連携について説明できる。 4 生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	社会福祉とは	地域包括ケアシステムとは何か、その歴史。その中でのリハビリテーションの役割を理解する。	
第2回	介護保険制度の仕組みと理念	生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する	
第3回	健康寿命の延伸課題	健康とは何か、平均寿命と健康寿命について理解する	
第4回	地域包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携	地域包括ケアシステムの変遷について理解する	
第5回	地域ケア会議	政策としての地域包括ケアシステムを理解する	
第6回	介護予防・日常生活支援総合事業	地域支援事業について理解する	
第7回	地域での取り組みと効果	ハイリスク戦略とポピュレーション戦略について学ぶ フレイル事業について理解する	
第8回	地域包括ケアシステム構築の取組事例	地域での取り組みを理解する	
テキスト・参考書	教科書：なし 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	社会福祉概論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。		
到達目標	① 社会保障制度の概念、社会保障の歴史について説明できる。 ② 児童福祉、ひとり親家庭、障がい者福祉、高齢者福祉について説明できる。 ③ 生活保護制度、地域福祉、医療保険制度の概要、精神保健福祉法の概要を説明できる。 ④ 社会福祉分野における相談・援助の役割と展開方法について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	制度から見た社会福祉	社会保障制度の中の社会福祉を理解する。	
第2回	社会保険と社会福祉	社会福祉制度をどのように活用するかを学ぶ。	
第3回	子育て支援の社会福祉	少子化、児童虐待と子育て支援を学ぶ。	
第4回	ひとり親家庭の支援	生活支援と就労支援、そして自立へ向けての支援を学ぶ。	
第5回	高齢者福祉と介護保険	福祉・介護の制度についての概念、介護保険法に関する理解を学ぶ。	
第6回	障がい者・低所得者福祉と自立支援	3障がい者・貧困世帯が活用できる社会資源を学ぶ。	
第7回	社会福祉の援助方法	福祉相談者の基本姿勢と社会資源の活用方法を学ぶ。	
第8回	社会福祉と医療・保健の連携	福祉を担う人々との連携・協働の意義と方法を学ぶ。	
テキスト・参考書	教科書：保健医療福祉職に必要な社会福祉学 丸善プラネット 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
理学療法学科

専門展開科目



岐阜保健大学

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法学概論	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 渡辺伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法学概論では、理学療法とは何か、理学療法の役割、理学療法に必要な知識や主たる対象、更には理学療法が病期のどの段階で必要となるか、職業人としての理学療法士の職域などを学習する。本科目は1年時受講のため、今後の学習意欲を上げるため具体的な事例を紹介しながら理学療法の全体像をつかむだけではなく、理学療法の奥深さまたはやりがいを知り各自が理想の理学療法士像をイメージできるようにする。初回からの数回にわたり各自が理想の理学療法士像をイメージし、その理学療法士を目指していく中で、今後の学内での体系づけられた学習計画を理解しさらに自己研鑽し学習への意欲を高める。		
到達目標	①理学療法の定義を理解し説明できる。 ②様々な分野で行われている理学療法をイメージできる。 ③今後の理学療法のあり方や可能性について自分の考えを述べられる。 ④主たる対象の疾患や職域がどのようなものであるかを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法士の役割	理学療法の定義と概要、理学療法とリハビリテーションの関係 理学療法士に求められる人間性について理解する。	
第2回	理学療法の背景（障がいの概念分類保険制度）	障がいのとらえ方、障がいの受容、保険制度について理解する。	
第3回	理学療法の背景（歴史法律職業倫理理学療法士協会）	理学療法の歴史、理学療法士及び作業療法士法、日本理学療法士協会について説明できる。	
第4回	理学療法の構成	運動療法、物理療法、障害分類、理学療法の流れについて理解する。	
第5回	理学療法に必要な知識～教育課程について～	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則、カリキュラム、学習科目について理解する	
第6回	理学療法の主対象（中枢神経系）	主な中枢神経系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第7回	理学療法の主対象（運動器系）	主な運動器系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第8回	理学療法の主対象（内部疾患系）	主な内部疾患系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第9回	理学療法の主対象（がん・介護予防系）	主ながんの病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。介護予防における理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第10回	急性期の理学療法	急性期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第11回	回復期の理学療法	回復期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第12回	生活期（維持期）の理学療法	生活（維持）期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第13回	在宅における理学療法の役割	在宅における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第14回	行政における理学療法の役割	行政における理学療法の特徴と目的を理解する。	
第15回	研究活動における理学療法の役割	大学、研究所、企業における理学療法の特徴と目的を理解する。	
テキスト・参考書	教科書： 石川 朗（総編集） 15レクチャー理学療法テキスト 理学療法概論 中山書店 978-4-521-73233-6		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。遅刻早退については学則に準じる。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	表面解剖学	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、静脈、動脈は、理学療法の検査時における基本的な指標となり、その注意深い観察と触診は病的変化をしないためには重要な手掛かりとなる。本講義では、生体観察としての表面解剖学を系統的に講義し、理学療法技術を高めるための知識と表面解剖を学習する。生体に付したランドマークや筋の触診は治療技術に反映されるため、理学療法治療方法へつながり講義形式でもあるが触診などの実技を交えて講義する。		
到達目標	① 骨・関節・靱帯・筋の名称および構造を説明できる。 ② 筋骨格系の機能を説明できる。 ③ 筋骨格系の各部触察を実施できる。 ④ 筋骨格系と運動力学との関連を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション・総論	オリエンテーションと総論から、講義の流れや筋骨格系の触診の重要性、基本知識を理解する。	
第2回	骨関節の構造と機能・触診①	頭蓋骨・脊柱・寛骨の構造・周辺関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第3回	骨関節の構造と機能・触診②	肩甲骨・上腕骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第4回	骨関節の構造と機能・触診③	前腕骨・手根骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第5回	骨関節の構造と機能・触診④	大腿骨・膝蓋骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第6回	骨関節の構造と機能・触診⑤	下腿骨・足根骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第7回	靱帯の構造と機能・触診①	上肢の靱帯の構造と機能を理解し、体表から主要な靱帯触診を実施する。	
第8回	靱帯の構造と機能・触診②	体幹・下肢の靱帯の構造と機能を理解し、体表から主要な靱帯触診を実施する。	
第9回	筋の構造と機能・触診①	頭部・体幹筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第10回	筋の構造と機能・触診②	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第11回	筋の構造と機能・触診③	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第12回	筋の構造と機能・触診④	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第13回	筋の構造と機能・触診⑤	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第14回	筋の構造と機能・触診⑥	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第15回	筋の構造と機能・触診⑦	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
テキスト・参考書	参考書：林典雄 他：今日から触れる筋肉の教科書：筋収縮&触察Web動画付き ヒューマン・プレス 参考書：中村隆一 他：基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法研究概論	担当教員名	小澤 敏夫【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医学的研究とは何かを知る。さらに、臨床で働く理学療法士にとって研究が重要であり、ケーススタディの作成が理学療法スキルの向上に繋がることを学ぶ。日々の理学療法士として働く中で、研究の元となる疑問を見付け出すことが大切であること共に研究計画書の構成と概要を知る。さらに研究の実際を行うために必要な手順を理解する。また、実際に研究論文の作成から発表に至るまでの過程、研究を行うにあたり倫理的な問題についても学び、特に研究を行うものにとって重要な倫理的責務について理解をする。		
到達目標	1. 研究に関する基礎的な手順を説明できる。 2. 研究論文の構成を説明ができる。 3. ケーススタディの作成や利用方法が説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	研究とは何かを理解する。	
第2回	研究課題の見つけ方	研究の元となる疑問を発見する方法について理解する。	
第3回	研究計画書の作成	研究計画書とは何か、その構成と概要を理解する。研究における倫理的問題を理解する。	
第4回	論文の構成	研究論文の構成を理解し、その概要を理解する。	
第5回	論文の書き方	論文を書くための文章力を身につける。	
第6回	ケーススタディの書き方	ケーススタディを書く意義と準備について理解する。	
第7回	神経障害領域のケーススタディ	脳血管障害（急性期・回復期）のケーススタディを知る。	
第8回	骨・関節障害領域のケーススタディ	高齢者に多い整形外科疾患のケーススタディを知る。	
テキスト・参考書			
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	火曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床運動学	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 鈴木啓介【実務家該当教員】 渡辺伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、主に健常者の運動、動作の運動を対象とするのに対し、臨床運動学は、主に疾病による機能的制限や能力障害の状態にある者を対象とした動作の観察分析方法を理解する。四肢および体幹の各関節における機能的運動学を学習する。また、姿勢動作分析にとって必要とされる運動力学や生体力学を学び、健常者の動作との比較観察を学ぶ。理学療法の対象となる骨・関節疾患、神経系疾患、呼吸循環器疾患を中心に、病的運動、代償運動の出現のメカニズムを理学療法と関連させ講義する。		
到達目標	① 疾患別に姿勢・運動障害の病態について、その特性とメカニズムを説明できる。 ② 正常動作の生態力学的メカニズムを説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	姿勢・動作を理解するための運動力学	動作・運動を分析する目的を理解する	
第2回	運動力学の基礎①－姿勢の生体力学－	力学的視点で姿勢・動作を捉え、生体力学について理解する	
第3回	運動力学の基礎②－動作の生体力学－	力学的視点で姿勢・動作を捉え、生体力学について理解する	
第4回	姿勢と保持	姿勢の名称、重心と支持基底面を学び、異常姿勢を理解する	
第5回	正常動作①－寝返り・起き上がり動作等－	各動作について、重心と支持基底面、重力など理解する	
第6回	正常動作②－椅子からの立ち上がり動作等－	歩行においての床反力、関節角度、関節モーメントを理解する	
第7回	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析	高齢者の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第8回	脳血管疾患後片麻痺の姿勢・動作の特徴	片麻痺の病態と障害像を知り、片麻痺患者の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第9回	半側無視を有する脳血管疾患の姿勢の特徴	半側無視を有する片麻痺患者の姿勢・動作の特徴を知り、動作分析ができる	
第10回	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴	対麻痺患者の損傷レベル別障害像を知り、姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第11回	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴	パーキンソン病の病態と障害像を知り、姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第12回	運動失調の姿勢・動作の特徴	運動失調の病態と障害像を知り、運動失調の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第13回	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴	脳性麻痺の病態と障害像を知り、痙直型、アテトーゼ型脳性麻痺の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第14回	変形性股・膝関節症の姿勢の特徴	変形性膝関節症や変形性股関節症の病態と障害像を知り、その姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第15回	下肢切断の姿勢・動作の特徴	下肢切断・義足使用の病態と障害像を知り、その姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
テキスト・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 中山書店 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法教育学	担当教員名	高橋 洋【実務家該当教員】 石塚和重【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本講義は、教育とは何かと言う疑問について広範的視野から検討し考察するための基礎概念を学ぶ。人間の長い人生の中で教育はどのような意味、役割ををもつか、また現代の教育、教育制度の根底にある思考は何か、現代教育の問題点は何か、などを知る。また、理学療法士として生涯教育、臨床教育、患者教育等で教育という本質的性格およびその役割と問題点などについて理解する。さらに、それらの改善策があれば具体的方策について検討する機会とする。		
到達目標	1. 専門職にとつての生涯にわたる自己教育の意義を説明できる。 2. 医療現場における教育的コミュニケーションについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	講義の目的と概要	理想の療法士の自己教育	
第2回	教育の現状と課題	教育の現状と課題を子どもの学力、生徒指導上諸問題について理解する。	
第3回	人間の発達と教育	人間の発達と環境の関係、学習促進のための問題解決学習と学習意欲について理解する。	
第4回	理学療法現場の生涯教育	理学療法士の生涯教育について理解する。	
第5回	学生指導の目的と機能	医療現場における学生指導について理解する。	
第6回	教育の諸問題について	教育法規の面から教育の諸問題について理解する。	
第7回	正しい教育の創造を実践	正しい教育とは何か、教育には何が必要かを理解する。	
第8回	教育課題の予想	将来での臨床現場での課題について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：特になし 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法管理学	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健医療福祉の場において、理学療法士に求められる倫理観、生涯学習の必要性について日本理学療法士協会が提唱している倫理規定等を基盤として学習する。また、理学療法部門の日常運営、人事、備品物品管理、予算案の策定、予算の執行、職域拡大に向けての新規事業への参入等の管理運営に関する事項について学習する。さらに、疾患別・病期別の理学療法士として対応できる対象者への支援方法をディスカッションを含めながら理解を深める。		
到達目標	1. 病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 2. 教育・研究・地域領域においてリスク管理の理解ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	理学療法管理学とは	理学療法士に必要な規定など管理を必要とする内容を理解する。	
第2回	理学療法士の職場倫理とその管理	理学療法士が臨床現場での職場倫理、その管理運営を理解する。	
第3回	理学療法業務のマネジメント	理学療法診療録の内容や診療録の作成、同意について理解する。	
第4回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	社会保障制度や医療保険制度、診療報酬について理解する。	
第5回	疾患別・病期別の理学療法マネジメント（疾患別禁忌・リスクマネジメント）	理学療法の主な対象疾患に対して医療リスクマネジメントについて理解する。	
第6回	生活期を支援する理学療法マネジメント（中枢神経疾患に対する支援）	中枢神経疾患の生活期に関する理学療法について理解する。	
第7回	生活期を支援する理学療法マネジメント（内部疾患に対する支援）	呼吸器疾患や内部障害の生活期に関する理学療法について理解する。	
第8回	生活期を支援する理学療法マネジメント（小児・高齢期に対する支援）	小児や高齢者の生活期に関する理学療法について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：理学療法管理学 第2版 医歯薬出版 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価概論	担当教員名	酒向俊治【実務家該当教員】 鈴木啓介【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法評価は、患者が抱える障害や問題の把握について問診や理学的所見などを通じて得る手段として極めて重要である。これらの情報は整理され、問題点を分析して理学療法における治療方針や治療内容を決定する。また、臨床では実施する検査を選択するにあたり他医療職や患者本人から得られる情報は重要である。本講義では医学情報の収集や医療面接、理学療法検査における検査について学習し、1つ1つの評価結果といくつかの評価結果を統合し患者像をとらえなくてはならない重要性を理解する。さらに、得られた評価結果が機能障害、能力障害、社会的な障壁等の患者の全体像をみるうえで必要不可欠であることを学ぶ。		
到達目標	理学療法評価の流れを説明できる。 医療面接について説明できる。 理学療法検査について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	総論：理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程	
第2回	バイタルサイン	意識状態、心拍、血圧、呼吸、体温、経皮的酸素飽和度	
第3回	形態測定	四肢長、周径	
第4回	関節可動域測定	関節可動域測定の意義、留意事項、臨床応用	
第5回	筋力検査	筋力検査の意義、留意事項、臨床応用	
第6回	知覚検査	知覚とは、知覚検査	
第7回	反射検査	深部腱反射、病的反射	
第8回	平衡機能検査	バランス検査	
第9回	筋緊張と筋協調性検査	筋トーンの異常、検査方法。失調、共同運動と連合反応、分離運動の各検査	
第10回	姿勢・動作分析	姿勢検査、基本動作の運動学的分析	
第11回	運動発達検査	運動発達検査	
第12回	姿勢反射検査	各統合レベルによる姿勢反射	
第13回	片麻痺運動検査	ブルンストローム検査法	
第14回	脳神経検査	脳神経検査の意義、検査方法	
第15回	高次脳機能検査	失行・失認・失語・認知症	
テキスト・参考書	教科書： 理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版 参考書：必要に応じてプリントを配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価検査・測定論Ⅰ	担当教員名	青木成広、鈴木啓介、小池孝康、岩島 隆、鶴田猛 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法検査は疾患や患者が抱える障がいにより選択される。本講義では形態測定、整形外科テスト、知覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーンス検査、片麻痺運動検査、脳神経検査、高次脳機能検査、日常生活活動動作に関連した検査、呼吸機能検査、循環機能検査、基本動作や歩行に関する動作分析などの方法や検査結果の記録について学ぶ。さらに各疾患や障がいにおいて選択する理学療法検査とその所見の分析について検討し、理学療法のゴール設定、理学療法の治療計画、更には予後予測を決定をするために評価としてそれぞれの所見を統合する過程を学ぶ。		
到達目標	基本的な理学療法検査の手順と所見について説明できる。 疾患や障がいにもとづいた検査の選択について説明できる。 得られた所見からゴール設定や理学療法の選択ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	形態測定	四肢長、周径計測方法とその所見が示唆する病態	
第2回	形態測定 整形外科テスト	四肢長、周径計測方法とその所見が示唆する病態 筋や腱の障害を示唆するテスト 関節の不安定症や関節内の障害を示唆するテスト	
第3回	整形外科テスト	筋や腱の障害を示唆するテスト関節の不安定症や関節内の障害を示唆するテスト	
第4回	知覚検査	疼痛が示唆する病態、表在感覚・深部感覚・複合感覚が示唆する知覚異常について	
第5回	反射検査	深部腱反射・病的反射・姿勢反射の所見と異常所見について	
第6回	協調性検査	協調運動障害、運動失調、測定障害、変換運動障害について	
第7回	筋トーンス検査	正常と異常な筋緊張の違い、被動性検査、懸振性検査、筋強剛の検査	
第8回	片麻痺運動検査	麻痺の回復過程、連合反応、共同運動、分離運動、片麻痺運動検査	
第9回	片麻痺運動検査 脳神経検査	麻痺の回復過程、連合反応、共同運動、分離運動、片麻痺運動検査 脳神経の構成と構成分子、検査	
第10回	脳神経検査 高次脳機能検査	脳神経の構成と構成分子、検査 失認・失行・失語、認知症について	
第11回	高次脳機能検査 日常生活活動検査	失認・失行・失語、認知症について 日常生活活動、日常生活関連動作、手段的日常生活活動、生活の質、各日常生活活動検査	
第12回	呼吸機能検査	呼吸運動、換気、呼吸機能検査、聴診、呼吸障害について	
第13回	循環機能検査	心電図、自覚的運動強度、運動負荷試験とリスク管理	
第14回	動作分析①	基本動作分析	
第15回	動作分析②	歩行・走行分析	
テキスト・参考書	教科書：理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版		
学修方法	各テーマについての講義演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業態度（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価検査・測定論Ⅱ	担当教員名	小久保 晃【実務家該当教員】・鈴木啓介【実務家該当教員】・小池孝康【実務家該当教員】・岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法に必要な関節可動域測定と徒手筋力テストが理解できる．具体的には，関節可動域測定は基本軸・移動軸・参考可動域・測定上の注意事項が説明できる．徒手筋力テストは検査測定の実施，代償運動の見極め，手働作筋・起始・停止・神経支配を理解できる．より実践的に検査・測定ができるように環境の整備の大切さを理解する．また，理学療法において臨床場面でみられる典型的な疾患や外傷のX線画像やCT画像，MRI画像が説明できる．		
到達目標	1．各評価項目の意義・目的を理解できるようになる。 2．各評価結果から問題点と統合が説明できるようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	バイタルサインの観察①	バイタルサイン(脈拍・呼吸)の意義・目的・方法を理解し、実践する。	
第2回	バイタルサインの観察②	バイタルサイン(脈拍・呼吸)の意義・目的・方法を理解し、実践する。	
第3回	関節可動域測定と徒手筋力検査①	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第4回	関節可動域測定と徒手筋力検査②	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第5回	関節可動域測定と徒手筋力検査③	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第6回	関節可動域測定と徒手筋力検査④	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第7回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑤	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第8回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑥	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第9回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑦	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第10回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑧	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第11回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑨	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第12回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑩	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第13回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑪	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第14回	画像の診かた① X線とCTとMRI	X線、CT、MRIの画像上の禁忌事項および特徴が説明できる	
第15回	画像の診かた② X線とCTとMRI	X線、CT、MRIの画像の撮影条件が説明できる	
テキスト・参考書	教科書：理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、実技課題(20％)、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価検査・測定演習	担当教員名	小久保 晃【実務家該当教員】・鈴木啓介【実務家該当教員】・小池孝康【実務家該当教員】・岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法評価概論にて学んだ評価過程における検査を実践し、その結果を検証してまとめるまでの演習を行う。疾患にあった評価項目の抽出や評価から得られた結果をもとに統合と解釈を行い、理学療法の治療・訓練場面へ結びつける考え方を説明できる。また、多くの臨床事例を示し、具体的に理学療法評価としての症例検討を行う。さらに、実際の臨床場面を想定して技能面だけではなく、挨拶や声掛け、コミュニケーション等の態度面についてのスキルの重要性を理解する。		
到達目標	1. 検査測定のアリエンテーション方法、手技、記録方法、結果の持つ意味について理解ができる 2. 健康者における身体形態、機能などを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	医療面接	医療面接における接遇等の注意点が理解できる	
第2回	関節可動域測定と徒手筋力検査①	肩甲帯（骨）の関節可動域測定、徒手筋力検査が理解できる	
第3回	関節可動域測定と徒手筋力検査②	肩甲帯（骨）の関節可動域測定、徒手筋力検査が理解できる	
第4回	関節可動域測定と徒手筋力検査③	上肢の関節可動域測定、徒手筋力検査が理解できる	
第5回	関節可動域測定と徒手筋力検査④	上肢の関節可動域測定、徒手筋力検査を総合して理解できる	
第6回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑤	下肢の関節可動域測定、徒手筋力検査を総合して理解できる	
第7回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑥	下肢の関節可動域測定、徒手筋力検査を総合して理解できる	
第8回	形態測定①	上肢の肢長、周径が理解できる	
第9回	形態測定②	下肢の肢長、周径が理解できる	
第10回	知覚検査①	表在感覚検査が理解できる （毛筆、安全ピンを準備）	
第11回	知覚検査②	深部覚検査が理解できる	
第12回	筋緊張検査	筋緊張検査が理解できる	
第13回	反射検査	反射検査が理解できる （打診器を準備）	
第14回	片麻痺運動機能検査	片麻痺運動機能検査が理解できる	
第15回	脳神経検査①	脳神経検査が理解できる （コーヒー粉末など匂いのある物、毛筆、安全ピンを準備）	
テキスト・参考書	教科書：新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 協同医書出版社 教科書：理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	木曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価演習	担当教員名	酒向 俊治・青木 成広・鈴木 啓介・小池 孝康・岩島 隆・稲葉 政徳・鶴田猛【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	脳神経外科疾患や神経内科疾患，整形外科疾患などの症例を設定し，それに対する理学療法評価を演習形式で学習する．1 疾患につき評価シミュレーションとフィードバックの2回実施する．シミュレーションごとに患者役と評価者役は学生間で交替して行う．疾患ごとに評価項目を的確に選択する．そして，検査結果を記録し，問題点・ゴール・治療プログラムを導き，総合的に考察ができることを授業目標とする．評価シミュレーションは，実習前に行うOSCEの評価課題内容を盛り込んで行う．それにより，学生が円滑な評価方法が理解できる．		
到達目標	1．信頼性のある評価・治療を展開するための接し方と触診の仕方が理解できる 2．各疾患に必要な評価項目を取捨選択でき，的確な評価が遂行方法が理解できる 3．検査結果を正しく記録し，統合と解釈，問題点，ゴールの挙げ方が理解できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	協調性検査	協調性検査が理解ができ、実施できる	
第2回	バランステスト	バランステストが理解ができ、実施できる	
第3回	姿勢・動作観察	姿勢・動作観察が理解ができ、実施できる	
第4回	全身機能テスト	包括的な身体機能テストが理解ができ、実施できる	
第5回	運動耐容能試験①	6分間歩行試験、トレッドミル負荷試験、エルゴメータ負荷試験が理解ができ、実施できる	
第6回	運動耐容能試験②	6分間歩行試験、トレッドミル負荷試験、エルゴメータ負荷試験が理解ができ、実施できる	
第7回	理学療法評価と その他検査との関係	実施した検査測定の結果と、画像、血液データ所見等の臨床検査とを統合した理学療法評価について理解ができる	
第8回	各疾患と理学療法評価について	疾患別の理学療法評価の流れ、方法が理解できる	
第9回	運動器疾患の理学療法評価①	大腿骨近位部骨折の理学療法評価の流れが理解できる	
第10回	運動器疾患の理学療法評価②	腱板損傷の理学療法評価の流れが理解できる	
第11回	運動器疾患の理学療法評価③	変形性膝関節症の理学療法評価の流れが理解できる	
第12回	運動器疾患の理学療法評価④	前腕遠位部骨折の理学療法評価の流れが理解できる	
第13回	末梢神経疾患の理学療法評価	椎間板ヘルニアの理学療法評価の流れが理解できる	
第14回	中枢神経疾患の理学療法評価①	脳卒中片麻痺の理学療法評価の流れが理解できる	
第15回	中枢神経疾患の理学療法評価②	運動失調症の理学療法評価の流れが理解できる	
第16回	中枢神経疾患の理学療法評価③	頸髄症の理学療法評価の流れが理解できる	
第17回	内部疾患の理学療法評価①	心疾患の理学療法評価の流れが理解できる	
第18回	内部疾患の理学療法評価②	慢性閉塞性肺疾患の理学療法評価の流れが理解できる	
第19回	代謝性疾患の理学療法評価	糖尿病の理学療法評価の流れが理解できる	

第20回	臨床推論（整形外科疾患）①	人工関節置換術後の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第21回	臨床推論（整形外科疾患）②	人工関節置換術後の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第22回	臨床推論（中枢神経疾患）①	脳血管疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第23回	臨床推論（中枢神経疾患）②	脳血管疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第24回	臨床推論（循環器疾患）①	虚血性心疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第25回	臨床推論（循環器疾患）②	虚血性心疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第26回	臨床推論（呼吸器疾患）①	慢性閉塞性肺疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第27回	臨床推論（呼吸器疾患）②	慢性閉塞性肺疾患の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第28回	臨床推論（代謝疾患）①	糖尿病の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第29回	臨床推論（職場復帰を目指す患者）	職場復帰を目指す患者の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
第30回	臨床推論（在宅患者）	在宅患者の仮想症例に対し系統的に評価が理解できる
テキスト・参考書	教科書：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）	
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室	
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動療法学	担当教員名	石塚和重【実務家該当教員】 渡辺伸一【実務家該当教員】 岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動療法は、臨床における理学療法の中核を成すものである。科学的根拠に基づいた運動療法の理解は、臨床的なより実践的な障害別理学療法を学ぶ上で重要な要素となる。運動療法は、解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎医学の関連性とその応用が必要であることを知る。本講義は、運動療法を適切に行うための基礎的な知識を習得することを目的とする。運動療法の概念、対象疾患とその障害、運動療法の適応と禁忌、リスク管理、運動の危険因子さらに運動療法の目的と治療計画立案等の基礎理論を学習する。		
到達目標	運動のメカニズムの基礎を学び、関節可動域運動、筋力増強、その他運動療法について説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、運動療法とは	運動療法の定義や分類、適応、リスク管理を知る	
第2回	運動学の基礎知識①	力のベクトルや関節モーメント、てこの原理を理解する。	
第3回	運動学の基礎知識②	足圧中心、凹凸の法則、OKC・CKCなどを理解する。	
第4回	痛みの基礎知識	痛みのメカニズム、評価、運動療法について理解する。	
第5回	骨の構造と機能	骨の構造と分類、機能、骨折の発生機序と修復機序を理解する。	
第6回	関節の構造と機能	関節の構造と機能を理解し、拘縮の分類・原因を理解する	
第7回	筋の構造と機能①	筋収縮の種類、筋長と張力について理解する。	
第8回	筋の構造と機能②	筋力増強のメカニズムを理解する。	
第9回	神経の構造と機能	神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能、運動神経と感覚神経を理解する。	
第10回	運動と呼吸機能	呼吸の仕組み、運動と呼吸器系の関係について理解する。	
第11回	運動と循環機能	循環系のしくみと機能について理解する。	
第12回	運動と代謝機能	運動と代謝機能の関係について理解する。	
第13回	運動学習	運動と学習について理解する。	
第14回	視覚と運動制御	視覚と運動制御について理解する。	
第15回	老化と運動機能	運動と加齢の関係について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：運動療法学：障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科	
授業科目名	運動療法学演習	石塚和重【実務家該当教員】 渡辺伸一【実務家該当教員】 岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	演習
単位数	1単位	必修
授業の概要	本演習では、理学療法対象の代表的疾患に対して学生同士のロールプレイングにて基本的な運動療法技術を模擬的に示せることを修得する。各演習では、筋力の維持・増大、関節可動域の維持・改善、筋持久力の維持・改善全身持久力の維持・改善、協調性の改善、疼痛の軽減、リスク管理、呼吸循環代謝病態の改善等を目的とした運動療法の基本的手技を小グループ毎に実施する。学生は、治療者としての技術面と同時に患者としての心理面への影響についても実践的に学習する。 授業形態：演習	
到達目標	1. 各疾患の特徴を捉え、それに基づいた運動療法を選択することができる。 2. 各運動療法（関節可動域訓練，筋力増強訓練等）が適切に実施することができる。	
授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、関節運動障害に対する運動療法	関節可動域制限の分類・評価・運動療法
第2回	筋力低下に対する運動療法	筋力低下の分類・評価・運動療法
第3回	持久力低下に対する運動療法	持久力低下の分類・評価・運動療法
第4回	中枢性運動麻痺に対する運動療法	中枢性運動麻痺の分類・評価・運動療法
第5回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	末梢神経性運動麻痺の分類・評価・運動療法
第6回	感覚障害	感覚障害の分類・評価・運動療法
第7回	バランス障害に対する運動療法	バランス障害の分類・評価・運動療法
第8回	協調性運動障害に対する運動療法	協調性運動障害の分類・評価・運動療法
第9回	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類・評価・運動療法
第10回	歩行障害に対する運動療法	歩行障害の分類・評価・運動療法
第11回	痛みに対するに対する運動療法	痛みの分類・評価・運動療法
第12回	加齢による機能障害に対する運動療法	加齢による機能障害の分類・評価・運動療法
第13回	ストレッチの方法 1	各種ストレッチの種類と方法
第14回	ストレッチの方法 2	IDストレッチ（上肢帯）
第15回	ストレッチの方法 3	IDストレッチ（下肢帯）
テキスト・参考書	教科書：運動療法学：障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 参考書：適宜紹介する	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	定期試験成績（100％）	
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	物理療法学	担当教員名	青木 成広【実務家該当教員】 酒向俊治【実務家該当教員】 鶴田 猛【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	物理療法学は、運動療法とならび理学療法の重要なアプローチ方法である。物理療法学は、物理的エネルギーによる生体への影響を利用して治療効果を得ようとするもので、張力、圧力、電気、光、温熱、寒冷などの物理的エネルギーの理解が必要である。物理エネルギーの基礎知識を踏まえながら物理療法の基礎や臨床での応用、物理的刺激が生体に与える影響や臨床的に病態生理に対する影響について理解する。物理療法の適用の多い病態を理解し、症状や病態の変化による禁忌についても理解する。		
到達目標	この講義の目標 1. 各療法のエネルギー特性と生理学的作用を理解する。 2. 障害に応じた適切な物理療法を選択することが出来る。 3. 適切に物理療法を行うことが出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション 物理療法とは	物理療法の定義と分類、歴史が理解できる	
第2回	生理学的作用と治療目的 適応と禁忌 物理療法の課題	各療法の生理学的作用と治療目的が理解できる 物理療法の適用・禁忌の意味、禁忌の種類の理解が理解できる 理学療法士に求められる物理療法の課題が理解できる	
第3回	炎症の定義と概念、炎症の徴候 炎症に対する物理療法	炎症の定義・概念、炎症のメカニズムが理解できる 炎症に対応する物理療法についての考え方が理解できる	
第4回	痛みの定義と概念、分類 痛みに対する物理療法	痛みの定義・概念、分類が理解できる 痛みに対応する物理療法についての考え方が理解できる	
第5回	グループワーク 演習	発表スケジュール作成 課題情報調査・収集	
第6回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼンまとめ	
第7回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼンまとめ	
第8回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼン資料作成 発表資料作成	
第9回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼン資料作成 発表資料作成	
第10回	グループワーク 演習	グループディスカッション 発表資料作成	
第11回	グループワーク 演習（予備日）	グループディスカッション 発表資料作成	
第12回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第13回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第14回	プレゼンテーション（寒冷療法） ディスカッション	物理的（寒冷）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第15回	実習（寒冷療法）	実際に各寒冷療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
テキスト・参考書	教科書：石川朗（編集） 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 中山書店 参考書：千住秀明 監修 物理療法第2版 神陵文庫		
学修方法	基礎についての講義を行う。各テーマについてグループプレゼンテーションを行う。		
評価方法	授業態度（30％）、グループワーク（40％）、定期試験成績（30％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	物理療法学演習	担当教員名	青木 成広【実務家該当教員】 酒向俊治【実務家該当教員】 鶴田 猛【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	物理的エネルギーを生体に与えることで、疼痛の緩解や循環の改善など、生体の有する自然治癒能力を賦活させるように働きかける治療法である。物理療法実習では、物理療法学で学習した温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気療法、水治療法、牽引療法等の各種治療法を、実際に物理療法機器を使用し体験することで、その生理学的作用を確認し、手順や使用上の注意点、リスク管理について更に理解を深める。OSCEの物理療法課題内容を盛り込むことにより、臨床実習において円滑な物理療法の実施手順が理解を深める。		
到達目標	1. 温熱療法、電気療法、牽引療法、水治療法等の原理・リスク管理を理解し、健常者を対象に実施する。 2. 実習機器・用具を適切に使用し整理整頓・管理する。 3. 代表的な疾患・障害の物理療法プログラムを立てる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	プレゼンテーション（牽引療法） ディスカッション	各牽引療法の特性と生理学作用が理解できる	
第2回	実習（牽引療法）	各牽引療法の使用方法が理解できる	
第3回	プレゼンテーション（電気刺激療法） ディスカッション	各電気刺激療法の特性と生理学作用が理解できる	
第4回	実習（電気刺激療法）	各電気刺激療法の使用方法が理解できる	
第5回	プレゼンテーション（光線療法） ディスカッション	各光線療法の分類、特性と生理学作用、目的と効果が理解できる	
第6回	実習（光線療法）	各光線療法の使用方法が理解できる	
第7回	プレゼンテーション（光線療法） ディスカッション	各光線療法の分類、特性と生理学作用、目的と効果が理解できる	
第8回	実習（光線療法）	各光線療法の使用方法が理解できる	
第9回	プレゼンテーション（電気療法） ディスカッション	各電気刺激療法の特性と生理学作用が理解できる	
第10回	実習（電気刺激療法）	各電気刺激療法の使用方法が理解できる	
第11回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第12回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第13回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第14回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第15回	実習予備日（各種療法）	実際に各種療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
テキスト・参考書	教科書：石川朗（編集） 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 中山書店 参考書：千住秀明 監修 物理療法第2版 神陵文庫		
学修方法	各テーマについてグループプレゼンテーションを行う。講義には教科書・資料・スライドを使う。		
評価方法	授業態度（30％）、グループワーク・プレゼンテーション（40％）、定期試験成績（30％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	日常生活活動学	担当教員名	小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法対象者の日常生活活動練習や家族への助言、環境調整についての実践、指導が実施できるために必要な基礎知識を身につけることを目的とする。本講義では、国際生活分類(ICF)や日常生活活動(ADL)、生活の質(QOL)などの概念、食事・更衣・トイレ動作・入浴・整容といった身の回り動作、BIやFIMおよび動作分析などの評価方法、指導法について学ぶ。さらに、各疾患のADL練習については評価・観察時の視点、機能レベルとの関連、動作時に起こる問題の原因の確認のうえで適切な目標設定とプログラム立案ができることを学ぶ。 授業形態：講義		
到達目標	①日常生活活動(以下ADL)の定義や概念を理解し、説明できるようになる。②代表的なADL評価方法を理解し、説明できるようになる。③代表的な自助具や福祉機器、車椅子、歩行補助具について理解し、支援の用途なども含め説明できるようになる。④各疾患における日常生活活動の特徴や介助方法、動作練習のについて理解し説明できるようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	日常生活活動学総論	ADLの範囲と項目、QOLとの関係を理解する。	
第2回	ADL評価とその実際① ADL評価の概要と評価法	ADL評価の位置づけを理解する	
第3回	ADL評価とその実際② 動作分析の視点	動作観察、動作分析の目的を知りその方法を理解する	
第4回	ADL評価とその実際③ バーセルインデックス (BI)	バーセルインデックスの概要と評価方法について理解する	
第5回	ADL評価とその実際④ 機能的自立度評価法 (FIM)	FIMの概要と評価方法について理解する	
第6回	補装具 (移動補助具を中心に)	杖、松葉杖、歩行器、車椅子	
第7回	基本動作①総論	基本動作の意義と種類を理解する	
第8回	基本動作②起居動作	起居動作パターンを理解する	
第9回	基本動作③床上移動・車いす移動	床上易動の目的と種類について理解する 車いす移動のポイントについて理解する	
第10回	基本動作④歩行	歩行のパターンおよび応用歩行動作を理解する	
第11回	身の回り動作	身の回り動作の概念を理解する	
第12回	ADLを支援する機器	福祉用具の種類とその役割について理解する	
第13回	住環境整備	住環境整備の意義と目的について理解する	
第14回	疾患別ADL指導	患者の身体機能に応じたADL動作練習およびポイントを理解する	
第15回	疾患別ADLの症例演習	代表的な症例の心身機能と活動を評価結果から読み取ることができる	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 南江堂 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績 (20%)、定期試験成績 (80%)		
オフィスアワー	研究室にて。12時20分から13時まで、16時10分から17時20分まで		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	日常生活活動演習	担当教員名	小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本演習は、理学療法評価学を基盤として各疾患の対象者に見合った日常生活動作練習を実施するために必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、対象者を援助するために各疾患による障害特性を理解しながら、その障害の程度、予後予測からなる練習法、介護指導法、福祉用具の使用等、また生活の質の向上までを網羅した生活現場の日常生活活動等について学習する。また、実践場面を想定しシミュレーション場面を用いて練習、指導について実技を学習する。		
到達目標	①ADL指導に必要な基本的動作について理解できる。 ②動作方法、指導について運動学習視点から適切かつ安全に実践することができる。 ③理学療法の対象となる代表的各疾患患者に対して介助方法を理解し実践することができる。 ④車椅子、歩行補助具、福祉用具等の特性を理解し安全な操作方法、指導ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、姿勢と動作の基礎知識	オリエンテーション、支持基底面と重心、姿勢と動作の復習	
第2回	理学療法士としてのADLへの関り	病院や施設、在宅などあらゆる場面でのADLへの関りについて	
第3回	起居動作の理解と介助法	起居動作に対する復習と介助法の習得	
第4回	起立動作・移乗動作の理解と介助法	起立動作や移乗動作について理解を深め、介助法を習得する	
第5回	車椅子操作法	キャスターあげなど車椅子自操に必要なスキル、車椅子介助	
第6回	歩行・段差・階段昇降動作の理解と介助法	障害がある人たちへの安全な段差・階段昇降を指導できる	
第7回	脳卒中片麻痺患者へのADL指導①	片麻痺患者に対しリスク管理をしながら安心なADL指導を目指す	
第8回	脳卒中片麻痺患者へのADL指導②	片麻痺患者に対しリスク管理をしながら安心なADL指導を目指す	
第9回	パーキンソン患者へのADL指導	パーキンソン病患者へのADL指導	
第10回	神経難病患者のADL指導	筋萎縮性側索硬化症などに対してリスク管理しADL指導ができる	
第11回	関節リウマチ、人工股関節置換術後のADL	関節リウマチや人工関節置換術後のADLと指導法を理解する	
第12回	脊髄損傷患者のADL指導①	脊髄損傷者(対麻痺)のADL指導を理解する	
第13回	脊髄損傷患者のADL指導②	脊髄損傷者(四肢麻痺)のADL指導を理解する	
第14回	呼吸器循環気系患者のADL指導について	COPDや狭心症者のADL指導を理解する。	
第15回	トランスファー等の介助方法の実技確認	1人介助、2人介助のほかあらゆる場面の移乗などを理解する。	
テキスト・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習 中山書店 参考書：PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版、羊土社		
学修方法	各テーマについての演習を行う。演習には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	適宜行うレポートや実技試験の成績（20％）、定期試験（80％）		
オフィスアワー	研究室にて。12時20分から13時まで、16時10分から17時20分まで		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。遅刻早退はしないでください。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	義肢装具学	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】 小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療における義肢装具の役割は大変重要である。義肢装具を用いることにより失われた機能・生活能力を獲得できることは本来のリハビリテーションの基本概念である。患者の社会復帰に直接的に関係する理学療法士が、各装具の特性や処方時期を誤ることなく、義肢装具士をはじめとする他の専門職と円滑な連携をとり、その特性、アライメント調整や使用する素材部品、また対象者の病態把握、社会や地域環境等の関係を調整することができる基本的知識を習得する。また、近年の役割分担が細分化する今、義肢装具士が担う装具のチェックアウトも直接患者と向き合っている理学療法士が正確に評価できる視点を本講義では学んでいく。		
到達目標	①理学療法において義肢装具を用いる目的を述べることができる。 ②各種義肢装具の使用目的を列記できる。 ③義肢装具の使用状況に応じて適切な分類方法を選択できる。 ④義肢装具の特性とその課題を列記し疾患の特性に準じた問題解決方法を考察できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	装具を理解するための運動学	装具の役割と生体に働く力学との関係を理解する。	
第2回	長下肢装具と短下肢装具	長下肢装具、短下肢装具の種類と機能を理解する。	
第3回	靴型装具と下肢装具のチェックアウト	靴型装具の種類を理解する。下肢装具の評価の流れを理解する。	
第4回	上肢装具とそのチェックアウト	上肢装具の目的と種類特徴を理解する。チェックアウトの要点を理解する。	
第5回	頸部体幹装具とそのチェックアウト	頸部体幹装具の種類とその使用目的を説明できる。基本的事項に基づいたチェックアウトを理解する。	
第6回	脳卒中患者・脊髄損傷患者に対する装具	ADLの改善を目的とする上肢装具とその適応について理解する。下肢装具の適応疾患を列挙し説明できる。	
第7回	小児疾患・整形外科疾患患者に対する装具	ADLの改善を目的とする上肢装具とその適応について理解する。下肢装具の適応疾患を列挙し説明できる。	
第8回	スポーツ外傷に対する装具	スポーツ外傷ごとの装具の使用目的とその種類を理解する。（サポーターやテーピング、足底板を含む）	
第9回	切断の原因と切断部位	切断の原因となる疾患についての基本的知識、治療法、理学療法について理解する。	
第10回	切断者の評価と断端管理法	術前、術後の理学療法評価と断端管理、断端評価について理解する。	
第11回	足継手・下腿義足ソケット	義足の足継手について理解する。各種ソケットの特徴について理解する。	
第12回	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足	各義足の適応と特徴を理解する。	
第13回	膝継手と大腿義足ソケット	膝制御機構を学び膝折れとの関係を理解する。大腿義足の概要とソケットの種類特徴を理解する。	
第14回	義足歩行の特徴と異常歩行分析と指導	義足歩行の特徴を理解する。義足異常歩行の概略を理解しその対処法を説明できる。	
第15回	義手	義手の種類と特徴を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第4版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	義肢装具学演習	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】 小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	義肢装具は関節の固定や共制、安静、保護、失われた機能の代償として用いられる。その適応は非常に繊細であり、脳卒中片麻痺患者が使用する短下肢装具では、足関節角度を数度という僅かな変化によって、歩行時における足関節の遠位からの影響が膝関節や股関節体幹の動きを変化させ歩行時安定向上に寄与する。大腿切断では使用する膝継手や足継手の特性を最大限利用することにより脚支持能力を向上させることができる。しかし、その調整の見極めを謝った場合には、身体活動に悪影響を及ぼすことも知る。患者に直接接する理学療法士として、それぞれの義肢装具の特性を自己で体感し義肢装具の重要性を学習する。		
到達目標	①装具の制作過程を理解する。 ②装具を修正することによる身体への影響を理解する。 ③義肢装具の有無による身体への影響を理解し対応策を列記できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	切断者の管理	弾性包帯の巻き方	
第2回	金属支柱付き装具の採寸	ランドマークの確認と計測	
第3回	プラスチック型AF0ギブス採型	AF0の陰性モデルを制作	
第4回	プラスチック型AF0ギブス採型	AF0の陰性モデルを制作	
第5回	陽性モデルの作成	3. 4回の陰性モデルを使い陽性モデルを作成	
第6回	陽性モデルの作成	3. 5回の陰性モデルを使い陽性モデルを作成	
第7回	モデル修正	盛り修正・削り修正を実施しモデルを完成させる	
第8回	モデル修正	盛り修正・削り修正を実施しモデルを完成させる	
第9回	下肢装具制作	陽性モデルからプラスチックAF0を作成	
第10回	下肢装具制作	陽性モデルからプラスチックAF0を作成	
第11回	動作（歩行）観察	装具装着時の歩容を観察し装具の役割を理解する	
第12回	動作（歩行）観察	装具装着時の歩容を観察し装具の役割を理解する	
第13回	補装具仕上げ	歩容観察を踏まえて補装具の最終修正を実施する	
第14回	見学実習	義肢装具士の業務理解	
第15回	見学実習	義肢装具士の業務理解	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第4版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。前の講義の成果物（モデル）を使用し講義が進みますので遅刻早退欠席をしないでください。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	リハビリテーション関連機器	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】 青木 成広【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体の構造と機能を工学的観点から捉える。そこから得られた結果が理学療法における評価、治療に役立てる手法について学ぶとともに一人一人が生活する環境を把握し柔軟に対応できる手法を理解する。近年の需要とその重要性の増加が目立っているリハビリテーション機器とその使用法について紹介し、あわせてリハビリテーション機器の現状と問題点についても解説する。さらに、様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた具体的方策について、その立案および提案方法を実践するためリハビリテーションの現場で用いられている簡単な機器の制作方法について理解を深める。		
到達目標	リハビリテーション関連機器の概念を理解する。 加齢に伴う心身機能の低下、或いは疾病や障がいの状況を踏まえたリハビリテーション機器の提案ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス リハビリテーション関連機器の概念	授業全体の内容や日程の概説 なぜリハビリテーション関連機器を学ぶのか 理学療法士がリハビリテーション関連機器において果たす役割	
第2回	移動機器	車椅子、杖、歩行器、リフト、福祉車両等	
第3回	ベッド等寝室関連機器	ベッド、マットレス、床ずれ防止製品、サイドテーブル、シーツなど	
第4回	入浴関連機器	浴槽、入浴用チェア、滑り止め用品、浴槽台、リフトなど	
第5回	コミュニケーション・見守り関連機器	補聴器、緊急通報・見守り装置、PC・携帯電話関連機器	
第6回	トイレ関連機器	ポータブルトイレ、便座便器、オムツ用品など	
第7回	日常生活支援機器	福祉用具、スポーツレクリエーション機器など	
第8回	福祉用具（自助具）の作成立案	個別障害（RA）を仮定しリーチャーを作成立案する	
テキスト・参考書	教科書：別途指示する 参考書：別途指示する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法基礎治療技術論	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法基礎治療技術論では、理学療法において重要な位置づけとされている運動療法の基礎的理論、技術について学ぶ。運動療法の歴史、および理学療法における位置づけ、個々の関節構造に対応する関節可動域トレーニング方法や筋収縮様式を配慮した筋力トレーニングなどの治療法から運動療法の目的、選択およびその対象と適応、更に実施時のリスク管理などを学修する。また、理学療法を行う上で使用する機器類の操作方法など、注意点など含め、基礎的な治療方法を理解学修する。		
到達目標	1. 基礎的な治療技術について理解する。 2. 疾患に対しての治療方法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、運動療法とは	運動療法の歴史と位置づけ、実際の内容について理解する。	
第2回	運動方向と筋出力	関節運動における筋活動について理解する。	
第3回	過負荷の原則と特異性の原則	筋力トレーニングにおける原則について理解する。	
第4回	開放性運動連鎖と閉鎖性運動連鎖	開放性運動連鎖と閉鎖性運動連鎖についての運動連鎖について理解する。	
第5回	肩関節疾患に対する治療方法	肩関節周囲炎や腱板断裂に対する治療法を理解する。	
第6回	股関節疾患に対する治療方法	変形性股関節症や人工関節置換術（THA）後などに対する治療方法を理解する。	
第7回	膝関節疾患に対する治療方法	変形性膝関節症や人工関節置換術（TKA）後、などに対する治療方法を理解する。	
第8回	膝靱帯・半月板損傷に対する治療方法	膝靱帯・半月板損傷に対する治療方法を理解する。	
第9回	足部・足関節疾患に対する治療方法	足部・足関節疾患に対する治療方法に対する治療方法を理解する。	
第10回	腰部・脊椎疾患に対する治療方法	疾患の概要と特徴、腰部・脊椎疾患に対する治療方法を理解する。	
第11回	中枢性運動障害（脳卒中）に対する治療方法	中枢性運動障害（脳卒中）に対する治療方法を理解する。	
第12回	中枢性運動障害（脊髄損傷）に対する治療方法	中枢性運動障害（脊髄損傷）に対する治療方法を理解する。	
第13回	中枢性運動障害（脳性麻痺）に対する治療方法	中枢性運動障害（脳性麻痺）に対する治療方法を理解する。	
第14回	高齢者に対する治療方法	高齢者の姿勢や特徴、フレイルなどに対する治療方法を理解する。	
第15回	理学療法とリスク管理	各疾患における理学療法におけるリスクとその管理を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：運動療法学：障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 教科書：C r o s s l i n k 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	中枢神経系理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 高橋 洋【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	中枢神経系疾患の病態や、それに伴う障害について理解する。理学療法場面においてもっとも多い対象と思われる中枢神経系疾患の一つである脳血管障害を中心に、また、脊髄損傷、パーキンソン病や失調症など中枢神経障害の評価と理学療法治療技術についても学習する。さらに、中枢神経障害の理解を深めるため、脳や脊髄の中枢神経の機能解剖を理解する機会とする。これらの併存疾病である嚥下障害に関する知識についても解剖学、生理学的な根拠を示しながら講義を展開する。		
到達目標	中枢神経障害や神経難病について説明できる。 各疾患の病態と理学療法について説明できる。 理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、中枢神経の構造と機能について	脳の構造と領域、脳における情報伝達、脊髄神経回路を理解する。	
第2回	脳血管障害における理学療法1	疾患の病態、症候・障害、医学的検査、理学療法評価を理解する。	
第3回	脳血管障害における理学療法2	脳血管障害の総合評価、各病期の理学療法について理解する。	
第4回	頭部外傷の理学療法	発症と病態生理、医学的検査、理学療法評価と理学療法を理解する。	
第5回	脊髄損傷の理学療法1	疾患の病態、症候・障害、障害レベル（Zancolli）を理解する。	
第6回	脊髄損傷の理学療法2	評価（Frankel、Asia）不完全損傷特殊型について理解する。	
第7回	脊髄損傷の理学療法3	脊髄損傷の合併症、呼吸障害、排尿障害、リハビリテーションを理解する。	
第8回	脊髄損傷の理学療法4	生活機能と社会参加、脊髄損傷の合併症、装具・自助具を理解する。	
第9回	パーキンソン病の理学療法1	疾患の病態、症候・障害、医学的検査、理学療法評価を理解する。	
第10回	パーキンソン病の理学療法2	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
第11回	嚥下障害の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第12回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第13回	多発性硬化症の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第14回	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第15回	末梢神経損傷の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
テキスト・参考書	教科書： 鈴木敏明、中山恭秀 神経障害理学療法学Ⅰ MEDICAL VIEW 978-4-7583-2002-3 教科書： 鈴木敏明、中山恭秀 神経障害理学療法学Ⅱ MEDICAL VIEW 978-4-7583-2003-0		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	中枢神経系理学療法演習	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 高橋 洋【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	中枢神経疾患を代表とする脳血管疾患などの症例を選択し、それらに対する理学療法評価及び治療プログラム実施案を演習形式で討議する。グループで構成したメンバーは、各評価シミュレーションごとに患者役と評価者役として学生間で交替して行う。事前に疾患の家族構成も含めた社会的背景を充分理解しグループ内で情報共有して患者役のイメージが変わらないことを前提とする。他のグループが患者役の状態から評価項目を的確に選択する。評価結果を記録し、問題点・ゴール・治療プログラムを導き、総合的に考察が出来ることを授業目的とする。		
到達目標	中枢神経障害や神経難病について説明できる。 各疾患の病態と理学療法について説明できる。 理学療法を実施する上でのリスク管理に注意して実践できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	神経難病のリハビリテーション1	リハビリ実施時の課題、療養環境整備とチームアプローチを知る。	
第2回	神経難病のリハビリテーション2	医療費助成制度と福祉制度、就労支援について知る。	
第3回	神経難病の障害像1	運動機能障害、コミュニケーション障害、摂食嚥下障害を知る。	
第4回	神経難病の障害像2	呼吸障害、心理的課題とQOL、口腔衛生について知る。	
第5回	パーキンソン病のリハビリテーション	標準的な評価指標、評価の実践、リハビリテーションを知る。	
第6回	パーキンソン病の模擬演習	患者イメージの検討。患者情報から評価項目の抽出手段を知る。	
第7回	脊髄小脳変性症のリハビリテーション	標準的な評価指標、評価の実践、リハビリテーションを知る。	
第8回	脊髄小脳変性症の模擬演習	患者イメージの検討。患者情報から評価項目の抽出理由を知る。	
第9回	筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーション	標準的なリハビリテーションを知る。	
第10回	筋萎縮性側索硬化症の模擬演習	患者イメージの検討。患者情報から評価項目の抽出理由を知る。	
第11回	多発性硬化症のリハビリテーション	標準的な評価指標、評価の実践、リハビリテーションを知る。	
第12回	多発性硬化症の模擬演習	患者イメージの検討。患者情報から評価項目の抽出理由を知る。	
第13回	筋疾患に対するリハビリテーション	標準的な評価指標、評価の実践、リハビリテーションを知る。	
第14回	筋疾患に対する模擬演習	患者イメージの検討。患者情報から評価項目の抽出理由を知る。	
第15回	神経難病患者に対する多職種連携	管理栄養士、介護福祉士、作業療法士からみた連携を知る。	
テキスト・参考書	教科書： 鈴木敏明、中山恭秀 神経障害理学療法学Ⅰ MEDICAL VIEW 978-4-7583-2002-3 教科書： 鈴木敏明、中山恭秀 神経障害理学療法学Ⅱ MEDICAL VIEW 978-4-7583-2003-0		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動器系理学療法学	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 鈴木啓介【実務家該当教員】 岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動器疾患には、骨折、筋挫傷や腱、靱帯損傷等の骨関節障害、または胸郭出口症候群、手根管症候群や肘部管症候群等の絞扼性神経障害、脊髄損傷や椎間板ヘルニア、関節リウマチなど様々な組織の障害に起因するさまざまな疾患がある。 運動器疾患の病態や画像評価、それぞれの疾患の理学療法評価や理学療法について解剖学、生理学、運動学、病理学にもとづく医学的根拠とともに学ぶ。理学療法は、保存療法とともに観血的治療において術前・術後理学療法、リスク管理も含めて学ぶ。		
到達目標	運動器疾患について説明できる。 各疾患の病態と理学療法について説明できる。 理学療法を実施する上でのリスク管理を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動器疾患に対する理学療法の目的と効果	関節可動域運動、ストレッチング、筋力増強運動、物理療法	
第2回	肩関節疾患の症状と病態	肩関節周囲炎、腱板損傷、変形性肩関節症、上腕骨近位端骨折	
第3回	肩関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第4回	肘関節・前腕疾患の症状と病態	肘部管症候群、肘頭骨折、モンテジア骨折、ガレアッチ骨折	
第5回	肘関節・前腕の疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第6回	手関節疾患の症状と病態	ドケルバン病、手根管症候群、橈骨遠位端骨折、母指中手手根関節の変形性関節症、尺骨突き上げ症候群	
第7回	手関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第8回	股関節疾患の症状と病態	変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、先天性股関節脱臼	
第9回	股関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第10回	膝関節の症状と病態	膝蓋骨骨折、変形性膝関節症、半月板損傷、膝関節の靱帯損傷	
第11回	膝関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第12回	足関節疾患の症状と病態	アキレス腱断裂、踵骨骨折、三果骨折、前距腓靱帯損傷、外反拇趾	
第13回	足関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第14回	頸椎・腰椎疾患の症状と病態	ヘルニア、椎間関節障害、神経根障害、むち打ち症、脊髄損傷、後縦靱帯骨化症、腰椎すべり症、腰椎分離症	
第15回	頸椎・腰椎疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
テキスト・参考書	教科書：1 5 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学、I 第2版 中山書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動器系理学療法演習	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 鈴木啓介【実務家該当教員】 岩島 隆【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動器疾患の理学療法を実践するためには、骨関節疾患に関する知識とそれに伴う病態を理解し、どの組織に問題があるかを検出して治療を行わなくてはならない。そのためには姿勢や患者自ら動く運動の質、触診から得られる所見、筋・靱帯・関節・神経に対する理学療法検査を行い、明らかとなった症状や病態に対する治療を行う必要がある。本講義では、徒手的な治療方法であるマニュアルセラピーの知識と手技を修得することを通じて運動器疾患の理学療法について学ぶ。		
到達目標	各疾患に対する理学療法を説明できる。 徒手的な治療方法について説明し、実践できる。 運動療法について説明し、実践できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動器疾患における理学療法評価と治療	視診、触診、副運動、神経可動性について	
第2回	肩関節疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、整形外科テスト	
第3回	肩関節疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第4回	肘・前腕・手関節疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、整形外科テスト	
第5回	肘・前腕・手関節疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第6回	股関節疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、整形外科テスト	
第7回	股関節疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第8回	膝関節疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、整形外科テスト	
第9回	膝関節疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第10回	足関節疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、整形外科テスト	
第11回	足関節疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第12回	頸椎・胸椎疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、神経可動性テスト、神経学的検査、整形外科テスト	
第13回	頸椎・胸椎疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、SNAG s、神経モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
第14回	腰椎・骨盤帯疾患の理学療法評価	自動運動、他動運動、副運動、筋の長さテスト、神経可動性テスト、神経学的検査、整形外科テスト	
第15回	腰椎・骨盤帯疾患の理学療法	関節可動域運動、関節モビライゼーション、SNAG s、神経モビライゼーション、ストレッチング、運動療法	
テキスト・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版 中山書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	火曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	スポーツ障害理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 青木 成広【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	スポーツ障害は、他選手との接触や転倒などによる外傷、反復した動作により特定の組織に過負荷により生じる過用、誤ったトレーニング方法や負荷量の選択、また、バイオメカニクスの視点から誤った動作からの過負荷により生じる誤用などにより多発され则认为られている。スポーツ障害に関与することも多い理学療法士にとって、その障害に対する基礎知識を身体の機能解剖・バイオメカニクス、競技特性と好発しやすいスポーツ障害、環境因子、さらに栄養学等の視点から学び、スポーツ現場における理学療法の実践的基礎知識を習得する。		
到達目標	各競技特性にもとづいた障害特性について説明できる。 スポーツの環境や選手の抱える疾患とそのリスク管理について説明できる。 スポーツ復帰と障害予防について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、スポーツ医学と理学療法	スポーツ医学と理学療法、歴史、組織、教育、リスク管理について理解する。	
第2回	スポーツ損傷と予防 1	サッカー等競技特性からみた前十字靱帯損傷の予防について理解する。	
第3回	スポーツ損傷と予防 2	野球等競技特性からみた投球障害の予防について理解する。	
第4回	スポーツ損傷と理学療法の原則	損傷組織の治癒能力、力学的負荷、発生機序と要因、評価と治療、評価の原則、理学療法の原則について理解する。	
第5回	評価と運動療法 1	関節機能、神経筋機能について理解する。	
第6回	評価と運動療法 2	協調性/姿勢制御機能について理解する。	
第7回	物理療法機器と補装具	物理療法機器と補装具・テーピングについて理解する。	
第8回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツと外傷について理解する。	
テキスト・参考書	教科書： 堀部秀二 明解スポーツ理学療法 三輪書店 978-4-89590-710-1		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	スポーツ障害理学療法演習	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 青木 成広【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	スポーツ障害は、運動器障害の一部であるが、高い競技レベルの選手のスポーツへの復帰は運動器障害よりも高いパフォーマンスを必要とされる。各競技者のスポーツ復帰を視野に入れた理学療法では、それぞれの種目に特化した動作に関する機能的な評価と治療を選択しなくてはならない。また、高い身体パフォーマンスを獲得するための理学療法と並行して再発予防を配慮する必要がある。本演習では、各競技において好発しやすい障害とその応急処置、機能評価とともにスポーツ障害における理学療法、テーピング等の実践方法について学ぶ。		
到達目標	競技に適した運動療法を説明できる。 傷害予防および損傷組織の代償機能をもつテーピングを実践できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ストレッチング	筋の長さテスト、ストレッチング、セルフストレッチング	
第2回	ウォーミングアップ	ダイナミックストレッチング	
第3回	スクリーニングテスト①	スポーツ疾患に多い障害に対するスクリーニングテスト	
第4回	スクリーニングテスト②	スポーツ疾患に多い障害に対するスクリーニングテスト	
第5回	肩関節の理学療法	回旋筋腱板のエクササイズ、投球障害	
第6回	肩関節の理学療法	プライオメトリックエクササイズ、肩甲帯のスタビリティエクササイズ	
第7回	肘・前腕の理学療法	肘関節脱臼、肘関節内側/外側側副靱帯損傷、上腕骨外側/内側上顆炎	
第8回	頸椎・腰椎の理学療法	筋膜性腰痛、腰椎すべり症、筋膜リリース、スタビリティエクササイズ	
第9回	膝関節の理学療法	膝蓋大腿症候群、腸脛靱帯症候群、大腿部の筋断裂、前十字靱帯損傷	
第10回	膝関節の理学療法	ランニング、ジャンピングスキル、プライオメトリックエクササイズ	
第11回	足関節の理学療法	ランディングスキル、足関節捻挫予防、ショートフットエクササイズ、アキレス腱炎、足底腱膜炎	
第12回	テーピング：上肢①	肩関節脱臼、亜脱臼、肩鎖関節亜脱臼に対するテーピング	
第13回	テーピング：上肢②	肘関節側副靱帯損傷、スキーヤーサム、突き指に対するテーピング	
第14回	テーピング：下肢①	膝関節側副靱帯損傷、前十字靱帯損傷に対するテーピング	
第15回	テーピング：下肢②	アキレス腱炎、足底腱膜炎、足関節捻挫に対するテーピング	
テキスト・参考書	教科書： 堀部秀二 明解スポーツ理学療法 三輪書店 978-4-89590-710-1		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	発達障害理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	正常発達についての理解を基盤として、障害がある子どもの運動・認知面などの発達の遅れを的確に評価しそれぞれ障害に対応した介入できる知識の習得を目的とする。正常な運動発達について、粗大運動と原始反射や姿勢反射、平衡反応との関連性を踏まえ解説する。また、理学療法の対象となる代表的な中枢神経障害や染色体異常による障害、筋骨格系障害のほか、近年注目されている自閉症スペクトラムや発達性協調運動障害などの発達障害も含めて各疾患の原因や予後、運動機能障害の特徴を中心とした障害像を学習する。さらに、各々の疾患や障害に特有な理学療法の評価における視点や介入の実際について総合的に講義を進める。		
到達目標	①正常発達とその背景にある原始反射や姿勢反射、立ち直り反応、平衡反応との関係を理解する。②発達障害分野の対象となる各疾患や障害の臨床像を理解し説明する。③発達障害理学療法対象者に用いる主な評価法を理解し説明できる。④各疾患の理学療法的介入について理解し説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、発達障害理学療法学総論	講義概要、スケジュール、発達障害理学療法学の全般的内容	
第2回	正常発達(乳児期)	原始反射や立ち直り反応との関連	
第3回	正常発達(幼児期まで)	認知機能や巧緻動作、日常生活活動など	
第4回	脳性麻痺総論	脳性麻痺とは、異常姿勢反射など	
第5回	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺・片麻痺、脳性麻痺アテトーゼ型	痙直型四肢麻痺児両麻痺児片麻痺児、アテトーゼ型に対する評価と理学療法	
第6回	二分脊椎、ペルテス病	二分脊椎やペルテス病に対する評価と理学療法	
第7回	デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)	DMD児に対する評価と理学療法	
第8回	ダウン症候群、知的障害児、自閉スペクトラム症、発達性協調運動障害	ダウン症児や知的障害児、自閉スペクトラム症、発達性協調運動障害に対する評価と理学療法	
テキスト・参考書	教科書：Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	発達障害理学療法学演習	担当教員名	石塚 和重【実務家該当教員】 稲葉 政徳【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	「発達障害理学療法学」で得た知識をベースとして、評価のポイントや介入の方法を実技やグループ学習を通して学び、臨床実習や国家試験にも対応できる知識と技術ならびに評価の目を養うことを目的とする。具体的には、中枢神経疾患や染色体異常、筋骨格系疾患がある子どもに対して理学療法評価をもとに正常な感覚・運動経験を与える目的の促進練習のほか、上田法治療の基礎知識と技術についても触れる。また、自閉症スペクトラムや発達性協調運動障害などの発達障害がある子どもに対しては運動療育をベースとした運動発達の促進のほか、理学療法士の視点から教育や就労に対する支援の在り方についてケースワークを通して学んでいく。		
到達目標	①発達障害理学療法分野の対象となる各疾患の障害増を説明できる。②各疾患対象者に必要な評価を選択できる。③各疾患対象者への評価結果に基づいた介入を計画できる。④理学療法的介入に対してそれを選択した理由とアプローチ内容が説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達障害理学療法学演習総論	講義の流れの説明、発達障害理学療法演習の総論	
第2回	原始反射、立ち直り反応、平衡反応	検査としての誘発と、正常発達との関係の理解	
第3回	正常運動発達(粗大運動)	正常運動発達のうち粗大運動を主に体現しながら考えていく	
第4回	正常運動発達(上肢・テ指)	正常運動発達のうち上肢の巧緻動作の発達を体現し考えていく	
第5回	異常姿勢反射・異常運動発達	異常な姿勢反射やそれに伴う運動発達を体現し学びを進めていく	
第6回	姿勢の評価(臥位)	各疾患に対する背臥位・腹臥位・側臥位の評価	
第7回	姿勢の評価(座位・立位)	各疾患に対する座位・立位姿勢の評価	
第8回	ポジショニング	重度脳性麻痺児・者に対するポジショニングの考え方と介入	
第9回	シーティング	脳性麻痺児・者のシーティングの評価と介入について考える	
第10回	模擬患者の動作観察と動作分析①	脳性麻痺痙直型両麻痺児に対して評価動作観察から介入へ	
第11回	模擬患者の動作観察と動作分析②	脳性麻痺アテトーゼ児に対して評価・動作観察から介入へ	
第12回	模擬患者の動作観察と動作分析③	デュシェンヌ型筋ジストロフィー児の動作観察からの介入	
第13回	自閉スペクトラム症児への評価と介入の実際	自閉スペクトラム症児・発達性協調運動症児への評価と介入	
第14回	ペーパーペイシェントワーク①	紙面情報から症例に必要な評価や介入、問題点、目標を考える	
第15回	ペーパーペイシェントワーク②	紙面情報から症例に必要な評価や介入、問題点、目標を考える	
テキスト・参考書	教科書：イラストでわかる小児理学療法学演習：99のWeb動画付 医歯薬出版		
学修方法	講義のほか学生相互の実技実習やディスカッションにより評価介入の実際体験して習得を促進する。		
評価方法	定期試験成績（100%）		
オフィスアワー	火曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	内部障害理学療法学	担当教員名	酒向 俊治【実務家該当教員】 鈴木 啓介【実務家該当教員】 渡辺 伸一【実務家該当教員】 小池 孝康【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	本講義では、内部障害の誘因となる生活習慣病や近年注目されるサルコペニア、フレイルとの関連を学習から始まり、内部障害と密接に関わる運動耐容能、ADL制限およびその評価方法を学ぶ。各論では、内部障害をもたらす主要疾患の病態、一般的医学検査、標準的治療などを解剖学、生理学、運動学等の基礎医学の知見を踏まえながら学習する。また、これら疾患に対する適切な理学療法評価と結果の解釈、科学的根拠に基づいた理学療法介入までの一連の過程を学習する。		
到達目標	①内部障害の定義、疫学、内部障害と生活習慣病、サルコペニア・フレイルとの関連を説明できる。 ②呼吸器疾患、心血管疾患、糖尿病、腎疾患、がんの病態、医学検査、標準治療を説明できる。また、それらの疾患に対して理学療法評価および標準的理学療法について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内部障害理学療法学総論	内部障害の定義、疫学、生活習慣病やサルコペニア・フレイルとの関わりについて学習する。	
第2回	運動耐容能と運動負荷試験	運動時のエネルギー代謝、運動耐容能とその評価法である運動負荷試験について学習する。	
第3回	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺炎の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第4回	呼吸理学療法（評価）	呼吸器疾患患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第5回	呼吸理学療法（理学療法）	呼吸理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第6回	呼吸理学療法（リスク管理）	呼吸器疾患患者に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第7回	心血管疾患	心筋梗塞、心不全、弁膜疾患、末梢血管疾患の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第8回	心血管疾患理学療法（評価）	心血管疾患患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第9回	心血管疾患理学療法（理学療法）	心血管理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第10回	心血管疾患理学療法（リスク管理）	心血管疾患患者に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第11回	糖尿病	糖尿病、糖尿病合併症の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第12回	糖尿病理学療法（評価）	糖尿病患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第13回	糖尿病理学療法（理学療法）	糖尿病理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第14回	糖尿病理学療法（リスク管理）	糖尿病に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第15回	腎臓リハビリテーションとがんリハビリテーション	腎疾患とがんの疾患知識、理学療法評価と、介入手法や運動処方、ADL指導、リスク管理について学習する。	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版 南江堂 教科書：C r o s s l i n k 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 MEDICAL VIEW		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを適宜用いる。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	内部障害理学療法演習	担当教員名	酒向俊治【実務家該当教員】・鈴木 啓介【実務家該当教員】・渡辺 伸一【実務家該当教員】・小池 孝康【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	内部障害理学療法学の講義内容をもとに、医学的検査の一部、理学療法検査・測定、理学療法介入手法について演習形式にて学習する。具体的に、内部障害と深く関わる運動耐容能やサルコペニア・フレイルに対する評価や、理学療法士が接する機会が多い呼吸器疾患、心大血管疾患、糖尿病を中心に各疾患に対するフィジカルアセスメントや標準的理学療法評価、介入手法を学習する。講義の後半では、各疾患の仮想症例を提示し、臨床推論し理学療法プログラム立案までの一連の過程をシミュレーションによって学習する。		
到達目標	①肺機能検査、心電図、血圧脈波検査の結果と解釈が理解できる。 ②運動耐容能低下、フレイル、サルコペニアに対する評価法を実践でき、結果の解釈を理解できる。 ③主要な内部障害に対するフィジカルアセスメントや、理学療法検査・測定について理解し、実践できる。 ④主要な内部障害に対する理学療法プログラムを立案でき、適した標準的理学療法を選択できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動負荷試験	内部障害に深く関わる運動耐容能評価である運動負荷試験の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第2回	サルコペニア・フレイルの評価	内部障害に深く関わるサルコペニア、フレイルの評価の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第3回	肺機能検査	肺機能検査の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第4回	呼吸器疾患の評価：フィジカルアセスメント	呼吸器疾患で重要視されるフィジカルアセスメントの意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第5回	呼吸器疾患の評価：理学療法検査・測定	呼吸器疾患の理学療法評価で行うべき標準的検査・測定の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第6回	呼吸理学療法	呼吸器疾患に対する標準的理学療法の方法、期待される効果について、演習から学習する。	
第7回	心電図検査・血圧脈波検査	心電図検査、血圧脈波検査および足関節上腕血圧比（ABPI）の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第8回	心血管疾患の評価：フィジカルアセスメント	心血管疾患で重要視されるフィジカルアセスメントの意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第9回	心血管疾患の評価：理学療法検査・測定	心血管疾患の理学療法評価で行うべき標準的検査・測定の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第10回	心血管疾患理学療法	心血管疾患に対する標準的理学療法の方法、期待される効果について、演習から学習する。	
第11回	糖尿病の評価：フィジカルアセスメント	糖尿病の理学療法評価で行うべき標準的検査・測定の意義、方法、結果の解釈について、演習から学習する。	
第12回	糖尿病の評価：理学療法検査・測定	糖尿病に対する標準的理学療法の方法、期待される効果について、演習から学習する。	
第13回	糖尿病の理学療法	糖尿病に対する標準的理学療法の方法、期待される効果について、演習から学習する。	
第14回	呼吸器疾患のシミュレーション	呼吸器疾患患者の仮想症例に対し、提示情報、理学療法評価の結果から臨床推論を行い、理学療法プログラムを立案するまでの過程をシミュレーションによって学習する。	
第15回	心血管疾患のシミュレーション	心血管疾患患者の仮想症例に対し、提示情報、理学療法評価の結果から臨床推論を行い、理学療法プログラムを立案するまでの過程をシミュレーションによって学習する。	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版 南江堂 教科書：リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術 MEDICAL VIEW		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを適宜用いる。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	老年期障害理学療法学	担当教員名	鈴木 啓介【実務家該当教員】 小久保 晃【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリ専門職に求められる役割は多岐にわたり、高齢者に理学療法を実施する上で高齢者の身体的特徴を理解する必要がある。運動機能、感覚機能、生理機能のみならず認知・精神的特徴を捉えた上でフレイル、低栄養、摂食・嚥下障害、その他の併存疾患についても学び理解する。また高齢者の理学療法を実施する上で、血圧や不整脈、エネルギーバランスに留意することも重要である。また、リスク管理、安全管理のため運動と負荷量設定における基礎知識につながることを学ぶ。		
到達目標	老年期障害理学療法について説明できる。 加齢に伴う心身機能の変化と障害について説明できる。 理学療法を実施する上での留意点と理学療法士の役割について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ライフステージと高齢者像について	老化と高齢者のイメージについて知る。	
第2回	加齢に伴う心身機能の変化について	高齢者の身体的特徴と認知・精神的特徴について知る。	
第3回	老年症候群について	老年症候群の分類、フレイル、低栄養、摂食嚥下障害を知る。	
第4回	高齢者の生活機能評価について	認知・精神機能、日常生活動作、生活環境の評価を知る。	
第5回	高齢者の健康寿命の延伸	介護予防事業および認知症予防における対応を知る。	
第6回	老年期障害理学療法の留意事項	理学療法に伴うリスク管理、栄養管理、運動負荷量を知る。	
第7回	老年期障害理学療法①(大腿骨頸部骨折)	高齢者の骨・関節障害と理学療法を知る。	
第8回	老年期障害理学療法②(変形性膝関節症)	高齢者の骨・関節障害と理学療法を知る。	
第9回	老年期障害理学療法③(脳血管障害)	高齢者の中枢神経障害と理学療法を知る。	
第10回	老年期障害理学療法④(パーキンソン病)	高齢者の中枢神経障害と理学療法を知る。	
第11回	老年期障害理学療法⑤(糖尿病)	高齢者の代謝障害と理学療法を知る。	
第12回	老年期障害理学療法⑥(心疾患)	高齢者の循環障害と理学療法を知る。	
第13回	老年期障害理学療法⑦(呼吸器疾患)	高齢者の呼吸器障害と理学療法を知る。	
第14回	高齢者の社会的資源と理学療法	理学療法士が関わる入所、通所、訪問リハビリを知る。	
第15回	高齢社会と課題について	高齢者を取り巻く社会の現状と理学療法士の役割を知る。	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 改訂第2版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	介護予防演習	担当教員名	鈴木 啓介【実務家該当教員】 小久保晃【実務家該当教員】 鶴田 猛【実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	介護予防は、人生100年時代における高齢者の介護状態に陥ることを予防する国家的プロジェクトとして全国の各市町村で高齢者対策事業として取り組まれている。この事業は、対象者本人に対する介入にとどまらず(1)介護予防における市町村のリーダーシップ構築(2)市町村が主体的に介護予防に取り組むための組織づくりと運営(3)効率的・効果的な短期集中予防サービスの実施として社会全体で介護予防を推進している。その中で理学療法士の担う役割を理解するとともに、介護予防分野の中で何ができるかを考え、さらに実践する基本的知識と行動力を学ぶ。		
到達目標	①介護保険における介護予防事業について理解する。 ②介護予防における理学療法士の役割を理解する。 ③全国で展開される介護予防事業例を参考に理学療法プログラム立案ができ、さらに実践出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	介護予防の定義と概念	介護予防の定義と概念を理解する。	
第2回	介護保険法における介護予防事業	介護保険法の全体像を理解しその中における介護予防事業をとらえる	
第3回	介護予防の目標	介護予防の意義とその目標を理解する。	
第4回	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームとは何か理解する。	
第5回	サルコペニア	サルコペニアとは何か理解する。	
第6回	フレイル	フレイルとは何か理解する。	
第7回	理学療法を実施するうえでのリスク管理	理学療法を実施するうえでのリスク管理ができる	
第8回	介護予防の評価方法	居宅対象者に対する様々な評価法を理解する。	
第9回	介護予防を通じ社会参加を図る取り組みの紹介	取り組みの紹介	
第10回	全国の介護予防への取り組みの調査①	取り組みの調査	
第11回	全国の介護予防への取り組みの調査①	取り組みの調査	
第12回	介護予防プログラムの立案①	プログラムについて考え立案する。	
第13回	介護予防プログラムの立案②	プログラムについて考え立案する。	
第14回	介護予防プログラムの実施（発表）①	発表	
第15回	介護予防プログラムの実施（発表）②	発表	
テキスト・参考書	シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 改訂第2版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	地域理学療法学	担当教員名	小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	1965年理学療法士が我が国に誕生以来、その初期は、ほとんどの理学療法が医療機関で行われていたが、現在では地域社会で生活する人たちの保健領域にも介入するようになった。医療機関から地域連携クリニカルパス導入で発症から維持期、生活期まで切れ目のないサービスが提供され誰もが住み慣れた地域で障害をもちながら安心して過ごすことが実現可能となつた。このような社会情勢変化の中、本講義が極めて重要である科目となっている。本分野は歴史が浅く関連法改正等の変動性のある中、理学療法士が地域理学療法分やどのような役割を持ち、何をすべきかという本質を学び将来の担い手として活躍できる基本理念、介入方法技術を学習する。		
到達目標	①地域リハビリテーションとはどのようなものを理解する。 ②地域理学療法と地域リハビリテーションの関係や成り立ちその実際について理解する。 ③介護保険制度について理解を深めるためにサービスを受けるための導入部分について理解する。 ④在宅理学療法に必要な医学的知識・健康評価・住環境・福祉用具を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域リハビリテーションの概念	リハビリテーションの定義、自立について理解する。地域リハビリテーションの定義CBRの定義を理解する。	
第2回	地域理学療法の概念	地域理学療法の定義、地域理学療法の歴史を理解する。	
第3回	多職種連携	協働とはなにか、地域理学療法における協働者を列挙できるよう理解し、連携の方法を学ぶ。	
第4回	地域理学療法の対象者	高齢者、障害のある人、障害のある児童の特徴を理解する。	
第5回	介護保険制度・障害者総合支援法	介護保険制度創設の背景、被保険者とサービスとの関係を理解する。支援費制度から自立支援、総合支援への背景を理解する。	
第6回	地域における社会資源	フォーマルサービスとインフォーマルサービスを列挙し理解する。	
第7回	要介護認定とケアマネジメント	要介護認定とケアマネジメントについて理解する。	
第8回	介護保険における理学療法	施設サービス、通所サービス、訪問サービスの中の理学療法の役割を理解する。	
第9回	特定疾患の特徴と介入への視点	疾患を列挙しその特徴を理解する。	
第10回	在宅医療にかかわる知識	呼吸、栄養、褥瘡について理解する。	
第11回	健康状態の評価とリスク管理	生活リズム、バイタル徴候、の評価を理解し注意すべきリスクを理解する。	
第12回	住環境の整備	住宅と住まいの違いを近いし、住まいに必要とされる条件を列挙できるように成す。	
第13回	福祉用具の導入	福祉用具の歴史と定義を学び、具体的福祉用具を理解する。	
第14回	動作指導と介助法法のポイント	ベッド上の起居についての指導のポイントを理解する。	
第15回	健康増進への取り組み	健康増進のための活動量の視標を理解する。介護予防事業について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第4版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	地域理学療法学演習	担当教員名	小島 誠【実務家該当教員】 池田雅志【実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法は、高齢者や障がい者およびその家族が住み慣れた地域において継続して生活できるよう、保健・医療・福祉の各分野から生活支援の視点で大きな役割を担う。本講義では、1) 老年学を基盤とする領域として加齢、高齢者に対する機能評価と理学療法、介護予防、転倒予防等 2) 保健活動を基盤とする領域として健康増進、生活習慣病予防、高齢者および女性の健康管理、集団評価と健康づくりのためのシステム構築等 3) 在宅支援領域訪問として訪問リハ、介護者支援および介護負担軽減の3つの領域における理学療法士の役割を演習を通して理解する。		
到達目標	1) 老年学を基盤とする領域における理学療法の役割を理解する。 2) 保健活動を基盤とする領域における理学療法の役割を理解する。 3) 在宅支援領域訪問での理学療法の役割を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	通所	通所型リハ	
第2回	通所	通所型リハ	
第3回	通所	通所型リハ	
第4回	施設	施設を生活の場とする慢性期・維持期リハ	
第5回	施設	施設を生活の場とする慢性期・維持期リハ	
第6回	施設	施設を生活の場とする慢性期・維持期リハ	
第7回	就労・就学・社会参加	就学・就労支援、スポーツ活動、権利擁護、アドボカシー	
第8回	就労・就学・社会参加	就学・就労支援、スポーツ活動、権利擁護、アドボカシー	
第9回	就労・就学・社会参加	就学・就労支援、スポーツ活動、権利擁護、アドボカシー	
第10回	制度	医療・介護・福祉制度、地域ケアシステムでの活動	
第11回	制度	医療・介護・福祉制度、地域ケアシステムでの活動	
第12回	制度	医療・介護・福祉制度、地域ケアシステムでの活動	
第13回	生活環境整備	住環境の評価・整備、福祉用具、まちづくり政策形成	
第14回	生活環境整備	住環境の評価・整備、福祉用具、まちづくり政策形成	
第15回	生活環境整備	住環境の評価・整備、福祉用具、まちづくり政策形成	
テキスト・参考書	教員より別途指示を行う。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	生活環境学	担当教員名	小久保 晃【実務家該当教員】 澤 俊二【実務家該当教員】 藤井 稚也【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	我が国は、高齢者人口が飛躍的に増加し平均寿命健康寿命共に世界に誇れる長寿国となった。しかし高齢者や障がい者を取り巻く生活環境は多くの課題を残している。理学療法士は、生活活動の機能に着目し高齢者や障がい者ができる限り自立した生活を営めるよう支援することを社会から求められている。本講義では、高齢者や障がい者が、在宅で生活するための住環境整備を中心に現在の住宅事情から住宅改修の方法および福祉政策などを学ぶ。さらに医学的視点で対象者の生活機能障害を分析し、その結果をもとに建築士などの多職種と連携し、生活環境の整備を行うことができるよう関係職種、専門家との共通言語を学び実現可能な知識を身につける。		
到達目標	①日本における生活環境の特徴と課題を理解する。 ②生活環境に関する法的制度を理解する。 ③場面ごとの環境整備手順を理解する。 ④基本的な建築図面の読み方を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生活環境学のとらえ方	理学療法に必要な住宅改修の視点を理解する。	
第2回	日本における生活環境の特徴と課題	日本式住宅の特徴と問題点を理解する。	
第3回	生活環境整備に関する法的制度	介護保険を中心に理解を深める。	
第4回	生活環境整備の進め方	評価の視点、実践における留意点を理解する。	
第5回	環境整備の基本	段差スペース床材手すり	
第6回	場面ごとの環境整備	玄関・アプローチ・廊下・階段・トイレ・浴室・居間・食堂・寝室	
第7回	障害別環境整備	中枢神経障害・運動器障害	
第8回	基本的な建築図面の読み方書き方	建築図面のルール	
テキスト・参考書	教科書：Crosslinkリハビリテーションテキスト 生活環境学 MEDICAL VIEW		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	レクリエーション実践	担当教員名	石塚 和重・小島 誠・岩島 隆・小久保 晃【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	理学療法士がレクリエーションを提供し、運営することを期待されている。理学療法士とレクリエーションの関係が理解できる。レクリエーション活動を通して治療的な意義や生活の質を向上させるためのツールとして、地域の人々に提供ができる。しかし、他職種とは異なる理学療法士独自の視点でレクリエーションを位置づけ、展開できるかが、福祉領域の理学療法の臨床実践では理学療法士としてのアイデンティティを保つことは出来ない。理学療法士の特性をアピールして、地域に認知してもらうためには、理学療法士が行うレクリエーションの意義や背景も含めて知識・技術が理解できる。精神的安定、心の健康には、時にレクリエーションを楽しむ時間が必要不可欠である。レクリエーション概念は、あそび要素が重要であり、その基本的な知識や実践方法を通して、科学的根拠を基にその有効性を学ぶ。虚弱高齢者、障害者にとってレクリエーションが身体の治療的意義やQOL向上させるための手段として重要であることを理解する。また、基本的なレクリエーション概論と、その体験から、保健、医療、福祉の場におけるレクリエーション計画方法、作成方法および治療的レクリエーション活動の実践技術を習得する。		
到達目標	①レクリエーションの枠組み、分類を説明できる。 ②集団と場、集団の利用方法を理解する。 ③レクリエーション計画を立てることができる。 ④レクリエーション実施についての注意点を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	レクリエーションとは	レクリエーションの枠組み、範囲と種類について理解ができる	
第2回	レクリエーション実施における分類	対象者の状況に合わせたレクリエーションの分類について理解ができる	
第3回	集団とは	集団と場、集団の利用方法、自己実現理論について理解ができる	
第4回	レクリエーションの活用方法	レクリエーションの計画・実施・報告について理解ができる	
第5回	レクリエーション計画 1	対象者を提示し、グループでレクリエーションの計画を立てる	
第6回	レクリエーション計画 2	対象者を提示し、グループでレクリエーションの計画を立てる	
第7回	レクリエーション実施	計画を立てたレクリエーションの実施	
第8回	レクリエーション実施とまとめ	計画を立てたレクリエーションの実施と報告書の作成	
テキスト・参考書	教科書：寺山久美子 レクリエーション-活動と参加を促すレクリエーション- 第3版 三輪書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてスライドを使う。レクリエーションの計画及び実施のグループワークを行う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、レポート（90%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	多職種連携論	担当教員名	澤 俊二・石塚 和重・鈴木 啓介 藤井 稚也・近藤 邦代 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	チームアプローチにおける関わりが必須とされ、今後はリハビリテーション業務への関わりの少ない職種に対して、情報およびリスク管理に着目した目的共有に対する教育や啓発への役割が必要であるといわれている。今後、多職種連携型チームアプローチの中で我々リハビリテーションスタッフの専門分野における情報共有の必要性を学び、リハビリテーション関連職種としてコーチング等、自発的に情報伝達できるリハビリテーションスタッフに必要な知識を深める。また保健・医療・福祉との関連・連携について理解を深める講義を展開する。 リハビリテーション医療が必要とされている対象者は、医学的側面のみならず、社会的、経済的、心理的側面にも配慮した医療が求められる。そのためには、チーム医療の展開が必須手段であり、対象者により良いサービスを実践するためには多職種との有機的連携と協業は欠かすことはできない。本講義では、専門職種間の連携と協業についての基礎知識や理論を学び、さらに連携に欠かすことの出来ないマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察する。多職種連携による役割、機能について学部学科をこえたグループワーク演習を通じて実践力を身につける。		
到達目標	多職種連携について説明できる。 地域リハビリテーションにおける連携について説明できる。 保健医療福祉連携教育について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域リハビリテーションにおける連携と実践1	乳幼児期・学童期に応じたリハビリテーション連携を知る。	
第2回	地域リハビリテーションにおける連携と実践2	成人期・就労期に応じたリハビリテーション連携を知る。	
第3回	地域リハビリテーションにおける連携と実践3	高齢期・終末期に応じたリハビリテーション連携を知る。	
第4回	他職種の視点1	看護師の専門性を学習する。	
第5回	他職種の視点2	看護師と作業療法士の連携の実際と可能性を学習する。	
第6回	他職種の視点3	理学療法士と作業療法士の連携の実際と可能性を学習する。	
第7回	当事者からみたリハビリテーション連携	各疾患に対する支援と連携について知る。	
第8回	リハビリテーションにおける連携の実現	保健医療福祉連携教育の現状と将来展望について知る。	
テキスト・参考書			
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅰ（基礎）	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床実習施設での見学を通して、医療や社会の中での理学療法士の役割と責任を学ぶ。見学による対象者とのコミュニケーションや臨床実習教育者（臨床教育者）の指導から、これまで学んだ基本的知識と疾患、障害像との繋がりを深め、障害の多様性を理解するきっかけとする。臨床教育者、対象者、多職種とのコミュニケーションを通じて、専門職としてふさわしい学びの姿勢、接遇態度を学ぶ。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察すること、これ以降の専門科目を通じての知識習得を、より効果的かつ有意義に行えるよう学習する。		
到達目標	実習施設内での理学療法科の位置づけ、多職種との連携業務の流れ、理学療法士の業務内容を理解できる。疾病・障がいを持つ対象者とのコミュニケーションを通して、基本的知識・技術・態度を学び、理学療法士として必要な資質について理解できる。対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取ることができる。		
実習方法	1）実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2）学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3）学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6）実習内容は、次のとおりとする。 （1）社会人としての適切な態度の理解と実施。 （2）医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解。 （3）医療従事者の役割や業務の流れの理解。 （4）医療従事者の患者との関わり方の理解。 （5）守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、標準予防策等のリスク管理指導、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	実習前評価（30％）、臨床実習経験報告書（50％）、実習経験報告会（20％）		
留意事項 （履修条件他）	1年次配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1）実習期間は全出席に努めること。 2）実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3）実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅱ(地域)	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設の見学等を通して、利用者が地域の中で充実した生活を送るために、理学療法士が介入する重要性やその手段を学ぶ。地域理学療法学をはじめ、地域包括ケアシステム論、社会福祉概論、生活支援概論などで学んだ知識を実際の臨床場面での経験から統合し、理解を深める。さらに地域ケア会議等に参加することで、多職種連携の重要性、その中での専門職としての役割と責任を理解する。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察することで、これ以降に学ぶ地域理学療法学演習、生活環境学、多職種連携論に活用できるよう学習する。		
到達目標	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と、地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性を理解できる。対象者との良好なコミュニケーションを取ることができ、地域における関わり方を主眼に置いた聴取ができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション施設を使用する。 2) 学生は原則ひと施設当たり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 3) 学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの施設形態の理解。 (2)当該施設における理学療法士の役割の理解。 (3)地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性の理解。 (4)対象者との関わり方の理解。(コミュニケーション・ニード聴取) (5)守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、地域ケア会議等への参加、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	実習前評価（30％）、臨床実習経験報告書（50％）、実習経験報告会（20％）		
留意事項 (履修条件他)	1年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅲ(評価)	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	実習
単位数	3単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法の評価過程について、これまで学内で学んだ基本的な検査・測定方法を中心に、臨床教育者の指導・監督のもと実際に対象者へ実践する。これにより理学療法評価に必要な検査・測定技術を習熟させ、対象者へ臨床応用する過程を学ぶ。また、対象者の全体像から、介入に向けた課題を把握し、目標達成のための問題点を整理し、原因を推測して解決に導くまでの臨床推論過程を学ぶ。臨床実習前には臨床実習遂行にあたっての検査・測定の知識・技能を事前に確認する。臨床実習後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、臨床実習Ⅳ、Ⅴに必要な評価技能と思考力を醸成する。		
到達目標	評価に必要な情報収集、評価方法の選択と実施方法、評価結果の記録方法について理解し、実施できる。情報収集・評価所見をもとに患者の持つ問題点を全体的・構造的に理解し、その問題点から、その原因を的確に捉え説明することができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則ひと施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3) 学生1人当たりの実習期間は、15日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解 (2)医療従事者の役割や業務の流れの理解 (3)医療従事者の患者との関わり方の理解 (4)理学療法評価の理解・実施 (5)評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 (6)評価結果の統合的解釈についての理解・実施 (7)守秘義務、個人情報保護の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床教育者担当症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	臨床教育者担当症例の見学、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	臨床教育者担当症例の見学、一部症例への評価計画立案、検査・測定の模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	臨床教育者担当症例の見学、一部症例への検査・測定の模倣、臨床推論の実践、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第3週	11～14日目	臨床教育者担当症例の見学、一部症例への検査・測定の模倣・一部実施、臨床推論の実践、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
	15日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・一部実施、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題、臨床教育者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	出席20%、提出物20%、実習報告会50%、評価表20%		
留意事項 (履修条件他)	2年次配当の必須科目をすべて修得していることに加え、3年次前期配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅳ(応用)	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	実習
単位数	8単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床実習Ⅲ（評価）で培った、対象者への評価結果から導かれる臨床推論に基づき、解決に向けた基本的な理学療法プログラムを立案・実践する一連の過程を学ぶ。これらは臨床教育者の指導・監督のもと対象者へ段階的に実施し、その効果判定を行う。また疾患固有の検査・測定方法や治療技術を見学し、専門領域における応用的理学療法を学ぶ。臨床実習前には、臨床実習遂行にあたっての態度、基本的理学療法の知識・技能を事前に確認する。臨床実習後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、臨床実習Ⅴで学ぶ応用的理学療法の学習基盤となるよう学習する。		
到達目標	対象者の持つ障がいを含めを全体的・構造的に理解でき、検査・測定の実施と臨床推論から、対象者のニーズ・問題点とその原因を的確に把握できる。適宜、必要事項の記録・報告ができ、臨床教育者の指導のもと、検査・測定、基本的理学療法を実施できる。		
実習方法	1）実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2）学生は原則ひと施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3）学生1人当たりの実習期間は、40日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6）実習内容は、次のとおりとする。 （1）医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解 （2）医療従事者の役割や業務の流れの理解 （3）医療従事者の患者との関わり方の理解 （4）理学療法評価の理解・実施 （5）評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 （6）評価結果の統合的解釈についての理解・実施 （7）治療計画立案の理解・実施 （8）理学療法介入の理解・実施 （9）守秘義務、個人情報保護の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床教育者担当症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	臨床教育者担当症例の見学、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣、一部症例の評価計画立案、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第3週	11～15日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・一部実施、一部症例の臨床推論の実践、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第4週	16～20日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の治療計画立案、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第5週	21～25日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の治療計画修正および理学療法介入、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第6週	26～30日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、介入症例の効果判定と臨床推論、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第7週	31～35日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、応用的検査・測定や理学療法の見学、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第8週	36～39日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、応用的検査・測定や理学療法の見学・一部模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
	40日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題、臨床教育者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	出席20%、提出物20%、実習報告会50%、評価表20%		
留意事項 (履修条件他)	2年次配当の必須科目をすべて修得していることに加え、3年次前期配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1）実習期間は全出席に努めること。 2）実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3）実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅴ(総合)	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 前期	授業の方法	実習
単位数	8単位	必修/選択	必修
授業の概要	これまで履修した科目や臨床実習Ⅰ～Ⅳで学んだ知識・技術を総合し、対象者への評価から基本的理学療法実施までの一連過程の習熟を図る。また、臨床教育者の指導、監督のもと病態、重症度に応じた安全かつ効果的な応用的理学療法を見学あるいは模倣し学ぶほか、カルテ記載や実施計画書等の書類作成の見学や模倣についても行い、リハビリテーション部門の管理・運営に関する基本的事項について理解する。臨床実習前には客観的臨床能力試験（OSCE）を実践し、疾患固有の評価、理学療法の知識・技能を事前に確認する。臨床実習終了後には実習で学んだ内容をまとめ考察することで、卒直後の理学療法業務の基盤とする。		
到達目標	検査・測定の選択と問題点の抽出、治療計画の立案ができ、対象者の変化を的確に捉え、治療計画の変更ができる。理学療法実施の際のリスク管理、事故・急変時の的確な対応ができる。理学療法士として必要な記録・報告書等の管理・運営について理解できる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則ひと施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3) 学生1人当たりの実習期間は、40日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解 (2)医療従事者の役割や業務の流れの理解 (3)医療従事者の患者との関わり方の理解 (4)理学療法評価の理解・実施 (5)評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 (6)評価結果の統合的解釈についての理解・実施 (7)治療計画立案の理解・実施 (8)理学療法介入の理解・実施 (9)書類作成等の部門運営、管理の理解・実施 (10)守秘義務、個人情報保護の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床教育者担当症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣、多職種見学等、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣、一部症例の評価計画立案、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の臨床推論の実践、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第3週	11～15日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の治療計画立案、臨床教育者からの適時フィードバック、関連職種見学、報告書作成等の課題。	
第4週	16～20日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の治療計画修正、理学療法介入、カルテ・計画書作成の見学、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題。	
第5週	21～25日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、一部症例の理学療法介入、カルテ・計画書作成の見学、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題。	
第6週	26～30日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、介入症例の効果判定と臨床推論、カルテ・計画書作成の模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題。	
第7週	31～35日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、応用的検査・測定や理学療法の見学・一部模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題。	
第8週	36～39日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、応用的検査・測定や理学療法の見学・一部模倣、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題。	
	40日目	臨床教育者担当症例の見学・模倣・実施、臨床教育者からの適時フィードバック、報告書作成等の課題、臨床教育者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	課題提出（50％）、実習報告会（50％）		
留意事項 (履修条件他)	3年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	実践力演習 I	担当教員名	理学療法士教員全員【全員実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療職は患者、患者の家族、他医療職との関係を築くために礼節、医療職としての知識が不可欠となる。独自の領域においてそれぞれ専門職としての知識と判断力・実践力を必要とする。 本講義ではアクティブラーニングを主体とし、グループディスカッションすることにより、礼節、医療面接技術、基礎的な医学用語、医療チームとしての理学療法士について学ぶ。これらの知識を習得するために医学を学ぶ学生として必要な知識を書籍から読み取る力を学ぶ。また集団の中で様々な役割を持ち、集団活動が円滑に進み集団としての意見をまとめレポートの作成、プレゼンテーションに結びつける手法について学ぶ。		
到達目標	医学を学ぶ学生として必要な読解力、引用力、プレゼンテーション作成方法を実践できる。 リハビリテーション、特に理学療法に関する基礎的な医学用語を使用し説明できる。 医療職としての理学療法士について説明できる。 命と向き合う職種としての危機管理の意味を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	本講義で行う情報収集方法、ディスカッション、プレゼンテーションの方法について学ぶ。	
第2回	理学療法士に求められる接遇1	理学療法士として必要な接遇について情報を収集しディスカッションを行う。（グループワーク）	
第3回	理学療法士に求められる接遇2	情報をまとめプレゼンテーション資料を作成する。（グループワーク）	
第4回	理学療法士に求められる接遇3	全体へのプレゼンテーションを行い他のグループとの意見交換からブラッシュアップを行う。	
第5回	理学療法の対象の理解1	ヒトの基本動作（座位・立位・歩行）について情報収集を行い、ディスカッションを行う。（グループワーク）	
第6回	理学療法の対象の理解2	情報をまとめプレゼンテーション資料を作成する。（グループワーク）	
第7回	理学療法の対象の理解3	全体へのプレゼンテーションを行い他のグループとの意見交換からブラッシュアップを行う。	
第8回	シミュレーション教育①	スタンダードプリコーションについて実践技能を学習する。	
第9回	シミュレーション教育②	コミュニケーションについて実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育③	ホットバックの実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育④	上肢管理（三角巾）の実践技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育⑤	下肢装具の装着介助の実践技能を学習する。	
第13回	シミュレーション教育⑥	車椅子の駆動介助の実践技能を学習する。	
第14回	シミュレーション教育⑦	移乗介助の臨床技能を学習する。	
第15回	総括	シュミレーション教育で行った実践技能のまとめを行う。	
テキスト・参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABIRITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについてのグループディスカッションを行う。ディスカッション後集約し全体へのプレゼンテーション。さらに他者からの意見を、自身のグループの意見に取り入れよいものにブラッシュアップする。		
評価方法	レポート（50％）、実技試験（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅱ	担当教員名	理学療法士教員全員【全員実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	実践力演習Ⅰにおいて習得した理学療法を学ぶ学生として必要な医療チームの一員としてのスキルを基に、地域社会での健康支援、介護予防、障がい者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、スポーツリハビリテーション等と多岐にわたる理学療法領域で、実践例を情報収集しながら理学療法士の可能性を導く。また後半部分では理学療法の中核を担う評価を題材として、小グループ単位で協同学習し、知識や意見を表現したり集約したりするなかで、他者との協働や相互作用のあるアクティブラーニングの手法を取りながら理学療法能力を身につけていく。		
到達目標	理学療法士と他の医療福祉専門職の働く領域と役割について説明することができる。 理学療法士業務の中核を担う各種評価技術を実践できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域社会での健康支援と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第2回	介護予防事業と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第3回	介護保険事業と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第4回	身体障がい者の社会参加支援	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第5回	子どもの発達支援と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第6回	スポーツ領域での理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第7回	シミュレーション教育①	形態測定の実践技能を学習する。	
第8回	シミュレーション教育②	関節可動域測定について実践技能を学習する。	
第9回	シミュレーション教育③	筋力測定について実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育④	感覚検査の実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育⑤	反射検査の臨床技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育⑥	補助具の調整におけるの臨床技能を学習する。	
第13回	解剖学実習①	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
第14回	解剖学実習②	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
第15回	総括	シュミレーション教育で行った実践技能のまとめを行う。	
テキスト・参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについてのグループワークを行う。シュミレーション教育については小グループによる協同学習を行う。		
評価方法	レポート（50％）、実技試験（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅲ	担当教員名	理学療法士教員全員【全員実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	実践力演習Ⅱにおいて修得した理学療法士としての中核である理学療法評価技術を基に、患者の姿勢や運動パターンから得ることができる所見、さらに筋や関節の障害、疼痛、麻痺など様々な症状や病態が複合した障害像を、総合的に情報集約する技術を習得する。シミュレーション教育では患者の状況を再現し理学療法検査所見が示唆する機能障害や能力障害が姿勢や動作にどのように反映されているか分析していく過程を学び知識やスキルを将来現場で活用し省察する学修や創造的な学修を、学生が主体的に進めていく。		
到達目標	各疾患による機能傷害や能力障害を説明できる。 症状や病態の結果として出現する姿勢障害、運動障害を再現できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	片麻痺の姿勢・運動障害①	弛緩性麻痺、痙性麻痺の基本動作と歩行	
第2回	パーキンソン病の姿勢・運動障害①	パーキンソン病における姿勢・動作について	
第3回	脊髄損傷の姿勢・運動障害①	頸髄損傷の姿勢・動作について	
第4回	運動失調の姿勢・運動障害	運動失調における姿勢・動作について	
第5回	関節リウマチの姿勢・運動障害①	関節リウマチにおける姿勢・動作について	
第6回	生活環境に対する理学療法介入の体験学習1	住環境整備・福祉用具の体験・情報収集をする。	
第7回	生活環境に対する理学療法介入の体験学習2	住環境整備・福祉用具の体験・情報収集をする。	
第8回	生活環境に対する理学療法介入の体験学習3	住環境整備・福祉用具の体験・情報収集をする。	
第9回	生活環境に対する理学療法介入の体験学習4	住環境整備・福祉用具の体験・情報収集をする。	
第10回	生活環境に対する理学療法介入の体験学習5	住環境整備・福祉用具の体験・情報収集をする。	
第11回	シミュレーション教育①	動作分析について実践技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育②	脳卒中の麻痺側運動機能の評価の実践技能を学習する。	
第13回	シミュレーション教育③	機能訓練中のコミュニケーションと対応の臨床技能を学習する。	
第14回	シミュレーション教育④	動作指導における臨床技能を学習する。	
第15回	シミュレーション教育⑤	下肢機能訓練における実践技能を学習する。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについてのグループワークを行う。施設体験、福祉機器展の参加を通し、先進技術の習得と実践的な理学療法技術を学ぶ。シミュレーション教育については小グループによる協同学習を行う。		
評価方法	ポートフォリオ（100％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	施設体験福祉機器展の参加は欠席しないこと。なお、出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	総合演習	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本演習は、4年間における各講義や臨床実習などで学んだ知識を改めて整理し、専門職者として必要な総合的能力を統合させていくことを目的にしている。ゼミナール形式により、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し直していく。指導教員から提供された臨床情報の解釈を加えて、卒業後1人の理学療法の専門職として自立できるよう準備を段階として、本学で学んだすべての講義や演習、実習の成果を総括していく。		
到達目標	①基礎医学を基盤とした臨床医学知識の理解を深める。 ②臨床技能と検査所見についての理解を深める。 ③理学療法の適用と禁忌の理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	セミナー1	神経系、大脳と小脳の構造と機能	
第2回	セミナー2	脊髄損傷、脳血管障害	
第3回	セミナー3	神経筋難病	
第4回	セミナー4	正常発達と姿勢反射	
第5回	セミナー5	小児疾患	
第6回	セミナー6	心臓の機能と構造、心疾患	
第7回	セミナー7	呼吸器の機能と構造、呼吸器疾患	
第8回	セミナー8	血管の機能と構造、血液疾患	
第9回	セミナー9	消化器の機能と構造 代謝疾患	
第10回	セミナー10	内部疾患、悪性腫瘍	
第11回	セミナー11	臨床心理、精神疾患	
第12回	セミナー12	骨折・脱臼・末梢神経麻痺	
第13回	セミナー13	装具・スプリント(上肢・下肢・体幹)	
第14回	セミナー14	切断、義肢(上肢・下肢・体幹)	
第15回	セミナー15	地域リハビリテーション、老年期障害	
テキスト・参考書	クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	理学療法士として必要な医学知識と臨床知識の理解を目指し、ゼミ指導者による指導のもと学習を進めていく。		
評価方法	セミナー課題(30%)、小テスト(20%)、定期試験(50%)		
オフィスアワー	5号館 1階 共同研究室 16時10分～17時50分		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	卒業研究	担当教員名	理学療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 通年	授業の方法	演習
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	卒業研究は、理学療法士として臨床に携わりながら最新の知識と技術を求めて学習していく自発性とリハビリテーション医療や理学療法に関する課題を見出して探究心をもち、その解決策を研究していく心構えを身につけることを目的とする。過去3年間の基礎科目、理学療法専門科目の修得と実践を通して、自らの興味や疑問を研究テーマとし各指導教員指導もとで文献検索、研究計画の策定から実験や調査の実施、データ処理、論文作成、結果の報告および発表までの一連のプロセスを学習していく。 授業形態：研究指導		
到達目標	研究法で学んだ内容を基盤とする。主に理学療法領域の中から研究テーマを決め、実験調査を行う。またデータ・統計処理や論文執筆をゼミ指導教員による指導のもとで卒業論文の作成を進めていく。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	研究についてのオリエンテーション	卒業研究の進め方について学習する	
第2回	実践力演習を振り返る (1)	実践力演習で扱った多岐に渡るテーマから学生個々の固有の「問い」(ここが知りたい)を発見すること	
第3回	実践力演習を振り返る (2)	実践力演習で扱った多岐に渡るテーマから学生個々の固有の「問い」(ここが知りたい)を発見すること	
第4回	問いの設定を報告する (1)	問いについて調べ考え議論するうちに自分にとって最も重要な問いはなにかを導く	
第5回	問いの設定を報告する (2)	問いについて調べ考え議論するうちに自分にとって最も重要な問いはなにかを導く	
第6回	問いの設定を報告する (3)	問いについて調べ考え議論するうちに自分にとって最も重要な問いはなにかを導く	
第7回	問いの設定を報告する (4)	問いについて調べ考え議論するうちに自分にとって最も重要な問いはなにかを導く	
第8回	先行研究について	文献検索の方法を習得する	
第9回	先行研究を報告する (1)	すでになにがわかっているか、まだなにがわかっていないかを明らかにする	
第10回	先行研究を報告する (2)	すでになにがわかっているか、まだなにがわかっていないかを明らかにする	
第11回	先行研究を報告する (3)	すでになにがわかっているか、まだなにがわかっていないかを明らかにする	
第12回	先行研究を報告する (4)	すでになにがわかっているか、まだなにがわかっていないかを明らかにする	
第13回	研究計画の立案 (1)	基本的な研究デザイン、論文の基本構造について	
第14回	研究計画の立案 (2)	自身の問を解く方法について検討する	
第15回	研究計画の立案 (3)	自身の問を解く方法について検討する	
第16回	研究計画の立案 (4)	自身の問を解く方法について検討する	
第17回	研究の実施 (1)	研究倫理：捏造、改ざん、盗用、ギフト・オーサーシップ、二重投稿、利益相反について	
第18回	研究の実施 (2)	研究計画に沿って研究を実践する	
第19回	研究の実施 (3)	研究計画に沿って研究を実践する	

第20回	研究の実施（4）	研究計画に沿って研究を実践する
第21回	研究データの解析（1）	研究で得られた結果を解析する
第22回	研究データの解析（2）	研究で得られた結果を解析する
第23回	研究論文の執筆（1）	規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
第24回	研究論文の執筆（2）	規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
第25回	研究論文の執筆（3）	規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
第26回	研究論文の執筆（4）	規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
第27回	研究論文の執筆（5）	規定の書式に従い論文を作成し、担当教員の指導を受ける
第28回	研究報告会のプレゼンテーション作成	研究報告会用のプレゼンテーション資料、配付資料を作成
第29回	卒業研究報告会	研究成果を他者へプレゼンテーションする
第30回	これまでの学習の総括	発表後の振り返り
テキスト・参考書	教員より別途指示を行う。	
学修方法	ゼミ指導者のもと、研究計画書作成、文献検索・抄読、調査・実験準備、データ処理、論文執筆を進める。	
評価方法	研究発表（30％）、卒業研究論文（70％）	
オフィスアワー	ゼミ指導者の研究室にて 12時20分～13時、16時10分～17時10分	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
作業療法学科



岐阜保健大学

リハビリテーション学部作業療法学科

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		1単位当 たりの 時間数	講義担当教員		
			必修	選択				
総合 科学 科目	基礎分野	基礎ゼミナル	1年 前期 必須	1	30	作業療法士教員全員		
		情報科学	1年 前期 必須	1	30	國澤英雄		
		基礎統計学	1年 前期 必須	1	30	國澤英雄		
		問題解決法	1年 後期 選択		1	野田みや子	近藤邦代	
		哲学	1年 前期 選択		1	鷺見コト江		
		英語Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	酒向俊治	高久道子	
		英語Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	酒向俊治	高久道子	
		英語Ⅲ	3年 前期 選択		1	酒向俊治	高久道子	
		英語Ⅳ	4年 後期 選択		1	酒向俊治	高久道子	
		中国語Ⅰ	2年 前期 選択		1	干海		
		中国語Ⅱ	2年 後期 選択		1	干海		
		教育学概論	1年 前期 必須	2	15	伊藤亜希子		
		現代の倫理	1年 前期 必須	2	15	鷺見コト江	近藤邦代	
		現代の教育	2年 後期 選択		2	伊藤亜希子		
		心理と行動	1年 後期 選択		2	野田みや子	近藤邦代	
		健康と生活	1年 前期 選択		2	藤井稚也	鈴木啓介	
		岐阜の歴史と文化	2年 前期 選択		2	藤井稚也 高久道子	宇佐美知子	池田雅志
		自己管理と社会規範	1年 前期 選択		2	高山務		
		チームワークとリーダーシップ	4年 後期 選択		1	澤俊二	藤井稚也	
		人間関係論	1年 前期 必須	2	15	市川季夫		
		コミュニケーション論	1年 後期 必須	1	15	國澤英雄		
		健康と運動（体育）	1年 前期 必須	1	30	石塚和重	青井俊久	鶴田猛
専門 科目	専門基礎科目	解剖学	1年 前期 必須	2	30	高井良招		
		解剖学演習	1年 後期 必須	1	30	高井良招		
		機能解剖学	1年 後期 必須	1	30	高井良招		
		機能解剖学演習	2年 前期 必須	1	30	高井良招		
		生理学Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	太田美智男		
		生理学Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	太田美智男		
		生理学演習	2年 前期 必須	1	30	太田美智男	近藤邦代	
		運動学Ⅰ	1年 前期 必須	1	30	酒向俊治	原和子	小澤敏夫
		運動学Ⅱ	1年 後期 必須	1	30	酒向俊治	原和子	小澤敏夫
		運動学演習	2年 前期 必須	1	30	森本真太郎		
		生命倫理	1年 前期 必須	1	15	太田美智男	近藤邦代	
		人間発達学	1年 後期 必須	1	30	近藤邦代		
		病理学	1年 後期 必須	1	30	佐藤勝		
		感染防御と安全管理	1年 後期 必須	1	15	太田美智男	近藤邦代	
		保健統計学	3年 前期 必須	1	15	國澤英雄		
		臨床心理学	2年 前期 必須	1	30	野田みや子		
		一般臨床医学	1年 後期 必須	1	30	河田美紀		
		呼吸循環器内科学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		神経内科学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		整形外科学	2年 前期 必須	1	30	河田好泰		
		精神医学	2年 前期 必須	1	30	井上眞人	河田美紀	
		小児科学	2年 前期 必須	1	30	近藤直美		
		栄養代謝学	2年 後期 必須	1	15	永井博弐		
		医療薬理学	2年 後期 必須	1	15	永井博弐		
		診療画像診断学	3年 前期 必須	1	15	河田美紀		
		救急医学	3年 前期 必須	1	15	太田美智男		
		リハビリテーション工学	2年 後期 必須	1	15	武田湖太郎		
		スポーツリハビリテーション概論	2年 前期 必須	1	15	石塚和重	青木成広	
		老年学	2年 前期 必須	1	30	河田美紀		
		リハビリテーション医学	1年 後期 必須	2	15	江崎正浩		
		リハビリテーション概論	1年 前期 必須	2	15	酒向俊治	小澤敏夫	
		地域包括ケアシステム論	1年 後期 必須	1	15	藤井稚也	小島誠	
		社会福祉学	2年 前期 選択		1	市川季夫		

専門 科目	専門 展開 科目	作業療法学概論	1年 後期 必須	2		15	原 和子 宇佐美知子	港 美雪	森本真太郎
		表面解剖学	1年 後期 必須	1		30	原 和子	森本真太郎	
		基礎作業学	1年 後期 必須	1		30	原 和子 宇佐美知子	港 美雪	森本真太郎
		作業療法理論	2年 前期 必須	1		15	原 和子	港 美雪	森本真太郎
		基礎作業学演習	2年 後期 必須	1		30	原 和子 森本真太郎	港 美雪 田原涼馬	宇佐美知子
		作業療法研究概論	3年 前期 必須	1		15	原 和子		
		作業療法教育学	3年 前期 必須	1		15	原 和子	森本真太郎	
		作業療法管理学	3年 前期 必須	1		15	澤 俊二		
		作業療法評価概論	1年 後期 必須	1		30	澤 俊二 藤井稚也	宇佐美知子	森本真太郎
		作業療法評価検査・測定論Ⅰ	2年 前期 必須	1		30	澤 俊二 藤井稚也	宇佐美知子 田原涼馬	森本真太郎
		作業療法評価検査・測定論Ⅱ	2年 後期 必須	1		30	澤 俊二 藤井稚也	宇佐美知子 田原涼馬	森本真太郎
		作業療法評価検査・測定演習	3年 前期 必須	1		30	澤 俊二 藤井稚也	宇佐美知子 田原涼馬	森本真太郎
		作業療法評価演習	3年 前期 必須	2		30	澤 俊二 藤井稚也	宇佐美知子 田原涼馬	森本真太郎
		日常生活活動学	2年 前期 必須	1		30	澤 俊二	宇佐美知子	藤井稚也
		日常生活活動演習	2年 後期 必須	1		30	澤 俊二 森本真太郎	宇佐美知子 田原涼馬	藤井稚也
		義肢装具学	2年 後期 必須	1		30	原 和子	森本真太郎	
		装具製作演習	3年 前期 必須	1		30	原 和子	森本真太郎	
		リハビリテーション関連機器	3年 前期 必須	1		15	澤俊二		
		作業と心身機能	2年 前期 選択		1	30	澤俊二	宇佐美知子	田原涼馬
		作業と神経整理	2年 前期 選択		1	30	澤俊二	田原涼馬	
		中枢神経系作業療法学Ⅰ	2年 後期 必須	2		15	澤俊二		
		中枢神経系作業療法学Ⅱ	2年 後期 必須	2		15	澤俊二		
		中枢神経系作業療法演習	3年 前期 必須	1		30	澤俊二	田原涼馬	
		運動器系作業療法学	2年 後期 必須	1		15	原和子	森本真太郎	
		運動器系作業療法演習	3年 前期 必須	1		30	原和子	森本真太郎	
		内部障害作業療法学	2年 後期 必須	1		15	萩野勝也		
		内部障害作業療法演習	3年 前期 必須	1		30	萩野勝也		
		精神障害作業療法学	2年 後期 必須	1		15	港美雪		
		精神障害作業療法演習	3年 前期 必須	1		30	港美雪		
		発達障害作業療法学	2年 後期 必須	1		15	相羽秀子		
		発達障害作業療法演習	3年 前期 必須	1		30	原 和子	相羽秀子	
		老年期障害作業療法学	2年 後期 必須	1		30	藤井稚也		
		ハンドセラピー学	2年 後期 必須	1		30	原 和子		
		生活行為向上マネジメント論	3年 後期 必須	1		15	藤井稚也	森本真太郎	田原涼馬
		地域作業療法学	2年 前期 必須	2		15	澤俊二	藤井稚也	
		地域作業療法学演習	4年 前期 必須	1		30	澤俊二	藤井稚也	田原涼馬
		生活環境学	3年 後期 必須	1		15	澤俊二	藤井稚也	
		レクリエーション実践	4年 後期 選択		1	15	宇佐美知子		
		多職種連携論	4年 後期 選択		1	15	澤 俊二 鈴木啓介	藤井稚也 近藤邦代	石塚和重
		臨床実習Ⅰ（基礎）	1年 後期 必須	1		45	作業療法士教員全員		
		臨床実習Ⅱ（地域）	2年 前期 必須	1		45	作業療法士教員全員		
		臨床実習Ⅲ（評価）	3年 後期 必須	6		45	作業療法士教員全員		
		臨床実習Ⅳ（応用）	3年 後期 必須	8		45	作業療法士教員全員		
		臨床実習Ⅴ（総合）	4年 前期 必須	9		45	作業療法士教員全員		
		実践力演習Ⅰ	1年 後期 必須	1		30	原和子 港美雪 藤井稚也 森本真太郎 田原涼馬	宇佐美知子	
		実践力演習Ⅱ	2年 後期 必須	1		30	原和子 港美雪 藤井稚也 森本真太郎 田原涼馬	宇佐美知子	
		実践力演習Ⅲ	3年 前期 必須	1		30	原和子 港美雪 藤井稚也 森本真太郎 田原涼馬	宇佐美知子	
		総合演習	4年 後期 必須	1		30	作業療法士教員全員		
		卒業研究	4年 通年 必須	2		30	作業療法士教員全員		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
作業療法学科

総合科学科目



学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎ゼミナール	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。		
到達目標	大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法と、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	イントロダクション・大学での学び	大学での学びの特色や目的について、意見交換を交えながら学ぶ。	
第2回	リハビリテーション学部の学び	リハビリテーション学部の4年間の学びについて概観し、これから学ぶカリキュラムを把握する。	
第3回	リハビリテーション職としてのキャリア設計	国家試験の受験と就職、その後のリハビリテーション職としてのキャリアパスについて学び、キャリア意識を高める。	
第4回	医療職とは	医療専門職全般について学ぶ。	
第5回	図書館の利用	図書館の利用方法と、大学における読書方法、読書の重要性について学ぶ。	
第6回	インターネットの利用	インターネット、携帯電話、SNSの利用方法、そのリテラシーについて学ぶ。	
第7回	文献・資料の検索・収集方法①	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、資料を収集する。	
第8回	文献・資料の検索・収集方法②	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、発表を行う。	
第9回	レポートの書き方①	大学におけるレポートの書き方について具体的に学び、特定の課題についてレポートを作成する。	
第10回	レポートの書き方②	作成したレポートを発表し、意見交換を行う。	
第11回	発表（プレゼンテーション）の方法①	パワーポイント等を使用した発表（プレゼンテーション）の方法について学び、その準備を行う。	
第12回	講義時に指定する	個々の課題について発表を行い、意見交換を行う。	
第13回	議論（ディスカッション）の方法	議論（ディスカッション）の方法について学ぶ。	
第14回	学生による個別テーマの発表と議論①	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
第15回	学生による個別テーマの発表と議論②	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
テキスト・参考書	大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる！ 6訂版 世界思想社		
学修方法	10名程度の少人数クラスでの演習形式で授業を行う。		
評価方法	講義中の発表（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	1) 10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。 2) 担当教員の指導のもと、文章読解・作成トレーニングを実施することがある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	情報科学	担当教員名	國澤英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。 Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を 作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの 技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。		
到達目標	① 電子メールの作成、送信、受信ができる。 ② Wordを用いて文書・表が作成ができる。書式の設定・段組みができる。アートの挿入ができる ③ Excelを用いてグラフ・表の作成の作成や計算ができる。シート設定・作業グループの変更ができる。 ④ PowerPointを用いてプレゼンテーション資料の作成ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	PCの基本、ネットワークの活用	PCの情報処理の原理、ハードウェア、学内ネットワークの活用	
第2回	Word基本操作	Wordの起動・終了、ファイル操作、文字の入力・変換	
第3回	Word文章の作成	文書の確認、ページ設定、コピー・移動、保存	
第4回	Word表の作成	表の作成、表の範囲の選択、表のレイアウトの変更	
第5回	Word文章の編集	様々な書式の設定、段組みの設定	
第6回	Word表現力のアップ	ワードアートの挿入、クリップアートの挿入、図形の作成	
第7回	Excel基本操作	Excelの起動・終了、ブックを開く・セル指定、スクロール	
第8回	Excelデータの入力	データの入力・編集、セルの範囲の選択、ブックの保存	
第9回	Excel表の作成	関数の入力、罫線・塗りつぶしの設定、表示形式の設定	
第10回	Excel数式の入力	関数の入力の確認、様々な関数の利用、相対参照・絶対参照	
第11回	Excel複数シートの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー	
第12回	Power Point画像の加工	図の外観の変更、図の回転・トリミング、図の背景の削除	
第13回	Power Pointグラフィックの活用	ページ設定の変更、背景の設定、図形の作成、配置の調整	
第14回	Power Pointマルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入	
第15回	Power Pointスライドのカスタマイズ	スライドマスターの表示・編集、ヘッダー・フッターの挿入	
テキスト・参考書	教科書：実践ドリルで学ぶ Ofiice活用術 Word・Excel・PowerPoint NOA出版		
学修方法	各テーマについての講義、演習を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散 の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。		
到達目標	① 基本統計量（平均、標準偏差）、標準誤差、変動係数、箱ひげ図などを使ってデータの整理ができる。 ② 正規性の確認、片側検定・両側検定、仮説検定など統計的推論の基礎を理解し、活用できる。 ③ 相関係数の検定と推定、回帰直線の検定と信頼区間など相関係数と回帰直線の推論ができる。 ④ データ分析ををもとに、罹患率と死亡率の推定など頻度に対する推論・生存に関する推論ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	医学データの整理 1	ヒストグラム、平均、分散、標準偏差	
第2回	医学データの整理 2	標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図	
第3回	医学データの整理 3	散布図、相関係数、回帰直線	
第4回	統計学推論推論の基礎 1	正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布	
第5回	統計学的推論の基礎 2	仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準	
第6回	統計学的推論の基礎 3	標準正規分布、カイ二乗分布、 t 分布、F分布	
第7回	平均値に関する推論	正規母集団の母平均 μ に関する推定、二つの母平均の差の検定	
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論 1	相関係数の検定と信頼区間	
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論 2	回帰係数の検定と信頼区間	
第10回	頻度の関する推論 1	Proportionとrate、母 p に関する推定、2×2分割表の χ^2 検定	
第11回	頻度の関する推論 2	Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定	
第12回	頻度の関する推論 3	罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較	
第13回	生存時間に関する推論	生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法	
第14回	実験計画法-分散分析 1	一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定	
第15回	実験計画法-分散分析 2	完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法	
テキスト・参考書	教科書：基礎統計学 國澤英雄		
学修方法	グレクサにて資料に基づいた予習復習を心掛けること。電卓を持ってくること		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	問題解決法	担当教員名	野田みや子 近藤郁代
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。		
到達目標	自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っていく中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。	
第2回	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。	
第4回	アドラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アドラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。	
第7回	まとめ レポート	まとめ、レポート	
第8回	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。	
第10回	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第11回	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。	
第12回	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。	
第13回	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。	
第14回	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。	
第15回	まとめ	授業を総括した講義を行う	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト30%、授業への取り組み65%、レポート5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	哲学	担当教員名	鷲見コト江
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
到達目標	フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	哲学誕生	ギリシア哲学とは	
第2回	哲学とは	哲学の課題	
第3回	愛知学としての哲学	哲学の意味	
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは	
第7回	宇宙の歴史	物質誕生	
第8回	ベルクソンの生命論	創造的進化とは	
第9回	現在の生命論・進化論	生命とは・生命の進化とは	
第10回	人類の歴史	ホモサピエンス誕生	
第11回	ベルクソンの人間論	人間とは	
第12回	心的存在者としての人間	人体と自己	
第13回	社会的心的存在者としての人間	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害者の心	
第15回	医学と看護	澤瀉久敬の看護論	
テキスト・参考書	テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 10～15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語 I	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。		
到達目標	① 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 ② 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介, 他己紹介の練習	
第2回	Emergency and vital signes	救急とバイタルサインに関する英語	
第3回	Radiology	レントゲンに関する英語	
第4回	Bones	骨に関する英語	
第5回	Body parts	身体の部位に関する英語	
第6回	Body organs	臓器に関する英語	
第7回	Hospitalization	入院に関する英語	
第8回	Medicine	投薬に関する英語	
第9回	Nutrition and Allergies	栄養とアレルギーに関する英語	
第10回	Mataninity out patient	妊娠出産に関する英語	
第11回	Pediatric Outpatient	小児科外来と幼児英語	
第12回	Out of hospital	退院に関する英語	
第13回	Palliative care	緩和ケア、ホスピスに関する英語	
第14回	Visitor	面会に関する英語と、海外医療	
第15回	Making suggestions	提案に関する英語、まとめのテスト	
テキスト・参考書	清水雅子：リハビリテーションの基礎英語 第3版 MEDICAL VIEW□		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてオンライン資料を適宜使用する。		
評価方法	筆記テスト60%、プレゼン10%、宿題30%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。		
到達目標	英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	会話、夏休み	スクラップページを作成する。	
第2回	プレゼンテーション	リハビリテーションについて書く。	
第3回	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。	
第4回	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。	
第5回	怖い話	怖かった出来事について作文する。	
第6回	ハロウィン	仮定法の練習をする。	
第7回	発音、許可を求める	空欄を埋める	
第8回	アドバイスする	質問文を作る	
第9回	過去について話す	写真を準備する	
第10回	経験についての文章をつくる。	完了形(現在、過去)の文の練習をする。	
第11回	こうであつたら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。	
第12回	リスニング	歌を覚える	
第13回	歌、ダイアログ	カード、手紙を書く。	
第14回	復習	学修したことを単語中心に復習する。	
第15回	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。	
テキスト・参考書	清水雅子：リハビリテーションの基礎英語 第3版 MEDICAL VIEW□		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト20%、プレゼン20%、授業態度25%、宿題10%、クイズ20%、ロールプレイ5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅲ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	3 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。		
到達目標	到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC450点以上（英検2級）を目指す。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	Cells and DNA, TOEIC preparation	予習：テキストの「細胞とDNA」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	Blood, TOEIC preparation	予習：テキストの「血液」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	The Cardiovascular System, TOEIC preparation	予習：テキストの「心臓血管系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	The Respiratory System, TOEIC preparation	予習：テキストの「呼吸器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	The Digestive System, TOEIC preparation	予習：テキストの「消化器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	The Urinary System, TOEIC preparation	予習：テキストの「泌尿器系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	The Immune System, TOEIC preparation	予習：テキストの「免疫系」について熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：121分	
第10回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：122分	
第11回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：123分	
第12回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：124分	
第13回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：125分	
第14回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：126分	

第15回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：127分
テキスト・参考書	テキスト「やさしいメディカル英語」（高木久代 編著）講談社、2090円（税込み） TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。	
学修方法	各テーマについての講義を行う。	
評価方法	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。	
オフィスアワー	高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先：m-takaku@gifuhoken.ac.jp	
備考・履修条件	事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で350点以上（または英検で準2級以上）あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。	

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅳ	担当教員名	酒向俊治 高久道子
学年 開講時期	4 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。		
到達目標	到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC550点以上（英検準1級）を目指す。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第13回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
第14回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
第15回	TOEIC preparation	予習：配布資料を行う 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分
テキスト・参考書	TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。	
学修方法		
評価方法	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。 S（100～90点）：学習目標をほぼ完全に達成している。 A（89～80点）：学習目標を相応に達成している。 B（79～70点）：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 C（69～60点）：学習目標の最低限は満たしている。 D（60点未満）：Cのレベルに達していない。	
オフィスアワー	高久道子：木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先：m-takaku@gifuuoken.ac.jp	
備考・履修条件	事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で400点以上あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。	

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語 I	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する	
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する	
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する	
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する	
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する	
第6回	中国語の語順	語順の3原則を詳説する	
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する	
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1）を説明する	
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティーについて詳説する	
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する	
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する	
第12回	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する	
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する	
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する	
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語Ⅱ	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①	
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②	
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③	
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文	
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文	
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①	
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②	
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①	
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②	
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③	
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④	
第12回	中国語の表現⑲	基本単語（13）と臨床会話文⑤	
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥	
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦	
第15回	中国語の表現㉒	まとめ	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	教育学概論	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。		
到達目標	人間にとっての教育の意味を説明することができる。 教育学の基礎的な知識を身につけ、理解する。 現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス 教育学とは	授業内容の説明、自分自身の「教育」の体験	
第2回	教育の目的と役割	教育とは何か、なぜ必要か、教育の目的と役割	
第3回	教育の思想① 一学校の歴史 西洋の教育史	西洋における教育哲学と教育観の変遷	
第4回	教育の思想② 一日本の場合	日本における教育哲学と教育観の変遷	
第5回	生涯学習	今問われている生涯教育・生涯学習の必要性	
第6回	教育の方法①	教育課程とカリキュラム、授業の準備	
第7回	教育の方法②	授業の実践と評価、評価の方法	
第8回	教育と心理①	教育における心理とは	
第9回	教育と心理②	学習と思考	
第10回	教育と心理③	記憶と情報処理	
第11回	教育と心理④	伝達とコミュニケーション	
第12回	教育と心理⑤	丁寧さと心的距離、FTA、敬意	
第13回	教育の現代的課題	子どもをめぐる問題、教育現場の現状	
第14回	国際化と日本語教育	グローバル化と日本語教育の現状	
第15回	まとめ	まとめと今後の展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の倫理	担当教員名	鷲見コト江 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
到達目標	倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	倫理と道徳	倫理とは	
第2回	論理的判断	価値判断の方法	
第3回	現代の倫理的課題 I	感染症	
第4回	現代の倫理的課題 II	SDGsとは	
第5回	ホセ・ムヒカの倫理学	発展と幸福	
第6回	アリストテレスの倫理学 I	幸福とは	
第7回	アリストテレスの倫理学 II	善とは	
第8回	デカルトの哲学と道徳	学問と道徳	
第9回	デカルトの道徳	道徳の格率と徳	
第10回	カントの道徳論 I	不可知論と経験	
第11回	カントの道徳論 II	義務と幸福	
第12回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは	
第13回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権	
第14回	育児と人権	虐待とは	
第15回	医療倫理	医療倫理の歴史	
テキスト・参考書	テキスト 指定しない。 参考図書 講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の教育	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。		
到達目標	現代の教育の多様なあり方を社会状況と合わせて理解することができる。 現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができる。 社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べるすることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業内容の説明	
第2回	教育をめぐる時代の変化	教育の多様性と課題、概論	
第3回	教育現場の問題①いじめの問題	いじめ、スクールカースト、現場の教師の現状	
第4回	教育現場の問題②いじめをめぐる言説の変遷	いじめに対する捉え方、いじめの実態と言説	
第5回	教育現場の問題③校則	校則をめぐる諸問題とその背景	
第6回	教育現場で教えられていること①学力低下論争	ゆとり教育とは何だったのか、学力低下論争について	
第7回	教育現場で教えられていること②問われる学力	現代の子どもたちに必要となる学力とは	
第8回	まとめ	日本型の教育とは、問題点、教育文化の捉え直し	
第9回	若者をとりまく空気感	若者をとりまく社会、求められる能力とは	
第10回	若者とコミュニケーション	「コミュニケーション能力」について	
第11回	多文化共生教育、国際化教育	異文化体験を通して自文化を相対化する	
第12回	発達障害について	特別支援教育について考える	
第13回	諸外国との比較①	世界の教育について紹介 その制度と問題点	
第14回	諸外国との比較②	世界の教育について紹介 その制度と問題点	
第15回	まとめと展望	今後の課題、展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	心理と行動	担当教員名	野田みや子 近藤郁代
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
到達目標	社会生活に应用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。	
第2回	学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。	
第3回	記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。	
第4回	個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。	
第5回	動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。	
第6回	学習過程	教授学習モデルについて理解する。	
第7回	発達①	発達段階と発達課題について理解する。	
第8回	発達②	認知発達理論について理解する。	
第9回	発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。	
第10回	適応①	不登校の問題について理解する。	
第11回	適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。	
第12回	発達障害①	発達障害の諸相について理解する。	
第13回	発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。	
第14回	集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。	
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	
テキスト・参考書			
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の参加状況10%、レポート20%、最終試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と生活	担当教員名	藤井稚也 鈴木啓介
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。		
到達目標	① 自らの心身の健康を保持するための基本的な生活を理解し、豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できる。 ② 日常生活において起こるさまざまな問題に対して、対処できるライフスキルについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと	
第2回	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙	
第3回	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠	
第4回	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動	
第5回	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法	
第6回	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法	
第7回	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法	
第8回	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法	
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取	
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防	
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング	
第12回	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング	
第13回	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動(健康習慣)	
第14回	安全に生活をしていくための方法②	仕事	
第15回	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動	
テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。毎回資料を配布する。 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社		
学修方法	スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	岐阜県の歴史と文化	担当教員名	藤井稚也、宇佐美知子、池田雅志、高久道子
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	選択
授業の概要	文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニングの手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
到達目標	2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探究することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。	
第2回	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第3回	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①	
第4回	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②	
第5回	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③	
第6回	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④	
第7回	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第8回	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
第9回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド 調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第10回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	
第11回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	
第12回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	
第13回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	
第14回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第15回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
テキスト・参考書	テキスト：無し（随時、プリント等を配布する） 参考図書：伊藤安男著 地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	発表10％・レポート90％により評価する。 S（100～90点）：フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。 A（89～80点）：しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。 B（79～70点）：両方のフィールド調査レポート提出ができていない。 C（69～60点）：フィールド調査のレポートが一つしか出ていない D（60点未満）：2つのフィールド調査に出席していない		
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくことよい。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	自己管理と社会規範	担当教員名	高山 務
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	自己管理とは、自らををどう律するか、自らの管理・コントロールすることである。リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと 時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ。自己分析と、現時点での自己管理能力について知る。(プロフィールと自己紹介含む)	
第2回	社会規範の種類を知る	社会規範の定義と種類を知る。他者の知識や意見を聞きながら視野を広げる。	
第3回	自己管理能力の向上について	事例をもとに他者と意見交換することで自らの課題等に気づく。	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か。その基礎を学ぶ。経験したことを他者と意見交換する。	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整学習について学ぶ。	
第6回	人間の三大欲求と自己管理能力について	三大欲求について学び、自己管理能力の向上を図るための方策をグループワークを通して学ぶ。	
第7回	インクルーシブ教育システムについて	インクルーシブとは何か、障害児者の理解とPT、OTの使命について理解する。障害者と関わった経験を発表したり意見交換をしたりする。	
第8回	コミュニケーション能力を高める1	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第9回	コミュニケーション能力を高める2	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第10回	価値観について	多様な価値観を知り、尊重することの大切さを学ぶ。	
第11回	成人年齢について	令和4月1日付けで施行された法令を理解、各グループで議論する。	
第12回	アンガーマネージメントについて	アンガーマネージメントを知り、自己管理能力を高める方法について学ぶ。	
第13回	各事例によるGW発表とディベート1	グループごとに成果を発表する。	
第14回	各事例によるGW発表とディベート2	グループごとに成果を発表する。	
第15回	各事例によるGW発表とディベート3	グループごとに成果を発表する。(本講義のまとめ)	
テキスト・参考書	参考資料：自己調整学習の実践、シャク,ディル,秋場大輔 訳、北大路書房 2007年、(3672円)		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	グループワーク課題10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	リハビリテーション学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	チームワークとリーダーシップ	担当教員名	澤 俊二 藤井稚也
学年 開講時期	4 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできない。将来のリハビリテーションの職務においても重要な概念であり、チームの中で各メンバーはどうふるまうべきか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かす方法やアプローチについて、事例を交えて講義する。授業は学生の学生による発表やグループワークを中心に進める。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。ま た、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管 理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ テキスト第1章：p1-18	
第2回	書き行動と自己調整について	書き行動の方法と自己調整について学ぶ テキスト第2章：p21-41	
第3回	理解方略の相互交流について	学習における理解方略について学ぶ テキスト第3章：p43-58	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か？その基礎を学ぶ。テキスト第5章：p89-107	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整について学ぶ。テキスト第7章：p137-160	
第6回	健康管理と岐阜保健大学における節度ある風紀について	本学で期待される学生像をイメージし、社会常識を確認したうえで講義に参加する。	
第7回	自己管理とは、目標の管理と時間管理の自己管理計画、エンパワーメント、セルフケア、行動変容のためには	テキスト1.3（1章）で自己管理、自己効力感、行動変容モデルが本学の学修に有用であると認識する	
第8回	グリーンのプルシードプロシードモデル理論、ヘルスプロモーション、失敗事例から学ぶライフスキルと時間管理	テキスト1(0章).3(1章) 熟読し各自事例を考える	
第9回	大学生活での社会常識、多様な価値観、コミュニケーション	学生相互の価値観をコミュニケーション力で確認	
第10回	事例：グループワーク（GW）導入とグループ化・グループダイナミックスと役割、ディベート、レポート作成と評価	グループワークのガイダンス：役割行動、グループダイナミックス、リーダーシップとメンバーシップ	
第11回	①セルフエフィカシー事例、②モチベーション事例：GW	グループワーク、コミュニケーション能力を培う	
第12回	③エンパワーメント・セルフケア事例、④行動変容事例：GW	グループワークの成果を発表レポート作成	
第13回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第14回	各事例でGW発表とディベート	グループワークの成果発表	
第15回	事例GWの評価、 統括	グループワーク発表レポートに学びを追記し・提出	
テキスト・参考書	必携テキスト1：自己調整学習の実践、シャク、ディル、秋場大輔訳、北大路書房 2007年（3672円） 2：母性看護学概論、森恵美、医学書院2017年（2400円）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の参加状況：グループワークの参加度10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	人間関係論	担当教員名	市川季夫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションや演習などを取り入れながら講義を展開する。課題に対するフィードバック方法/毎回振り返り表を記入しコメントを入れる。必要に応じ講義中にフィードバックを行う。		
到達目標	①人間を自然的、社会的な存在として理解する。②他者と自己の関係を学ぶ。③人間関係を築く技法を学ぶ。④看護場面における人間関係を学ぶ。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	人間関係の中の自己と他者	保健医療の専門職として、人間関係についての概念や理論、スキルを学ぶ意味を考える。	
第2回	対人関係と役割	人間関係の成立について学び、その進展と維持、さらに崩壊について学ぶ。	
第3回	態度と対人行動	人間の行動に影響する要因。人の攻撃性の理由と抑制について学ぶ。	
第4回	集団と個人	集団が個人の意思決定や行動に与える影響について学ぶ。	
第5回	コミュニケーション	人間関係を形成するための基本的手段であるコミュニケーションについて学ぶ。	
第6回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングや心理療法の保健医療への応用について学ぶ。	
第7回	コーチング	コーチングでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第8回	アサーティブなコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第9回	保健医療チームにおける人間関係	保健医療におけるチームの特性を学ぶ・チーム医療、多職種連携の意義を理解する。	
第10回	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係を理解する。両者の相互作用を評価する方法を学ぶ。	
第11回	家族を含めた人間関係	患者を含めた家族も、医療の対象である。近代家族とそのゆらぎを理解する。	
第12回	地域をつくる人間関係	様々な利害関係を持つ人間集団である地域の力を評価し、障碍等の有無にかかわらず、住み慣れた地域で暮らせる条件を考える。	
第13回	「きく」技術 ①	ロールプレイ 「家族が非協力的な事例」事例紹介・事例理解	
第14回	「きく」技術 ②	ロールプレイ 「学生によるプレイ」「講師によるプレイ」	
第15回	まとめ	見通しの持てる折り合いのつけ方	
テキスト・参考書	教科書：系統看護学講座基礎分野 人間関係論 第3版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントも使う。		
評価方法	定期試験 80％、グループワーク・演習 20％		
オフィスアワー			
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーション場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とどのようにコミュニケーションすべきかの理論的に、かつ事例を示しながら解りやすく解説する。そして川越胃腸病院を取り上げ、コミュニケーションと心の交流について解説する。さらに本講座では、講義だけではなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際の医療現場で役立つ人材の育成を図る。		
到達目標	[1]ヘルス・コミュニケーションの全体像と関連要因を理解し、コミュニケーションに反映できる [2]医療者と患者・家族、医療者と医療者、患者と家族のコミュニケーションを理解し適切に対応できる [3]様々な場（面接、小集団、対立）のコミュニケーションの理論と方法を理解し、適切に対応できる [4]コミュニケーションの根底は、患者を思う心、信頼関係にあることを理解し患者満足の本質を知る		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ヘルス・コミュニケーション序論	コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデル、健康関連モデル	
第2回	医療のコミュニケーション関連要因	共感・支配・信頼・自己開示・確認・要約	
第3回	医療の人間関係のコミュニケーション	医療者と患者・家族の関係、医療者と医療者の関係、患者と家族の関係	
第4回	医療の場での非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性・特性・種類	
第5回	医療の場における面接	面接の定義、面接の形式、面接の段階、面接でのコミュニケーション	
第6回	医療における小集団コミュニケーション	小集団コミュニケーションの定義、医療集団の種類、小集団の構成要素、小集団の段階	
第7回	医療の場における対立とコミュニケーション	対立の定義・種類、対立解決へのコミュニケーション	
第8回	医療のコミュニケーション事例	川越胃腸病院を取り上げ、医療者と患者・医療者と医療者の心の交流とコミュニケーションを考察する	
テキスト・参考書	教科書：コミュニケーション論 国沢英雄		
学修方法	各テーマについての宿題を出すので、それを必ず提出すること。		
評価方法	講義に出席率（40％）、レポート提出率・内容評価（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と運動（体育）	担当教員名	石塚和重、青井俊久、鶴田猛 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	様々な運動・スポーツの実践を通して、自ら運動に親しむ態度を養い、生涯に亘って健康の保持増進を図るための基礎知識と技能を身につける。また、仲間との交流を通して、コミュニケーション能力の向上や協働の精神の醸成を図る。		
到達目標	1. スポーツ医・科学と健康について理解する。 2. 様々な運動（トレーニングやレクリエーション）及びスポーツを実践するための基礎知識を習得し健康の保持増進を図る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス 各種運動の実践①	本講義の目的・意義及び授業展開について 集団行動・身体づくり・身体ほぐし運動	
第2回	各種運動の実践②	内 容 ・ に 種 目 の 変 更 あ り	集団行動 身体づくり・身体ほぐし運動
第3回	各種運動の実践③		集団行動 身体づくり・身体ほぐし運動
第4回	スポーツ演習①		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第5回	スポーツ演習②		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第6回	スポーツ演習③		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第7回	スポーツ演習④		ゴール型のスポーツ 基礎知識と実践
第8回	障害者スポーツ①		障害者スポーツの特性理解と実践
第9回	障害者スポーツ②		障害者スポーツの特性理解と実践
第10回	障害者スポーツ③		障害者スポーツの特性理解と実践
第11回	障害者スポーツ④		障害者スポーツの特性理解と実践
第12回	障害者スポーツ⑤	障害者スポーツの特性理解と実践	
第13回	スポーツ演習⑤	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
第14回	スポーツ演習⑥	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
第15回	スポーツ演習⑦	ネット型のスポーツ 基礎知識と実践	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	1. 運動の実践では運動のできる服装と体育館シューズ・運動靴を着用し、アクセサリ類の着用は避けること。 2. 怪我や病気などで運動の実践に支障がある場合はその都度申し出ること。 3. 天候やその他の状況により、場所・内容・種目等に変更することがあるので、その都度連絡を確認すること。		
評価方法	出席・授業態度・終末レポートの総合評価による。		
オフィスアワー	授業後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
作業療法学科

専門基礎科目



岐阜保健大学

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体を構成する運動器（骨・筋・靱帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。		
到達目標	1)各器官の形態と機能の概略を説明できる。 2)運動器、神経系、各臓器の構造と機能について理解できる。 3)医療の学習、臨床で必要となる解剖学用語を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	解剖学とは、器官の発生、組織	
第2回	骨学① 形態	頭蓋の骨、顔面の骨	
第3回	骨学② 形態	体幹の骨、脊柱と椎間、胸郭の骨	
第4回	骨学③ 形態	上肢帯の骨、自由上肢骨	
第5回	骨学④ 形態	下肢帯の骨、自由下肢骨	
第6回	関節① 形態と機能	頭蓋と脊柱の関節とそれ等の靱帯	
第7回	関節② 形態と機能	上肢の関節（上肢帯、肩、肘、手）とそれ等の靱帯	
第8回	関節③ 形態と機能	下肢の関節（下肢帯、股、膝、足）とそれ等の靱帯	
第9回	関節④ 形態と機能	骨盤（腸骨、恥骨、坐骨、仙骨）とそれ等の靱帯	
第10回	筋学① 形と分類と人体部位別の筋	筋の形状分類、頭頸部の筋の形態と機能的特徴	
第11回	筋学② 人体部位別の筋	体幹、胸腹部の筋の形態と機能的特徴	
第12回	筋学③ 形態と機能	上肢（上肢帯、肩、肘、手）の筋の形態と機能的特徴	
第13回	筋学④ 形態と機能	下肢（下肢帯、股、膝、足）の筋の形態と機能的特徴	
第14回	中枢神経① 脳の構造	脳の血管、大脳、小脳の構造と機能、皮質の細胞層	
第15回	中枢神経② 脳の構造	間脳、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能	
第16回	中枢神経③ 脳の構造	中脳、橋、延髄の構造と機能	
第17回	中枢神経④ 伝導路と神経核	求心性・遠心性神経路	
第18回	脳神経 運動・知覚・自律神経	神経核・神経路・皮質領域とその機能	
第19回	脊髄神経① 頸神経と頸神経叢	知覚性と運動性、副交感性と交感性の神経とその分布	
第20回	脊髄神経② 頸神経と腕神経叢	鎖骨上・下部の神経で胸・肩部・上肢に分布する神経	
第21回	脊髄神経③ 胸神経と腰神経・腰神経叢	肋間神経、神経叢の構成と腹部・大腿に分布する神経	
第22回	脊髄神経④ 仙骨神経と仙骨神経叢	神経叢の構成と大腿・下腿・足に分布する神経	
第23回	自律神経① 交感神経と幹神経節	脊髄側角の細胞と白・灰白交通枝、その機能	

第24回	自律神経② 副交感神経	頭仙系と脊髄副交感系、その機能
第25回	内臓学① 呼吸器	呼吸機能に係る臓器の形態とその機能
第26回	内臓学② 循環器	心臓と脈管系の形態とその機能
第27回	内臓学③ 消化器	消化機能に係る臓器の形態とその機能
第28回	内臓学④ 泌尿器・性器	尿生成・排泄に係る臓器の形態とその機能、種族の継 続
第29回	感覚器とその神経① 形態と機能	嗅覚・味覚・視覚器の構造とそれ等の神経と機能
第30回	感覚器とその神経② 形態と機能	聴覚・体平衡器の構造とそれ等の神経と機能
テキスト・参考書	教科書①：P T・O Tビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学 第2版 羊土社 教科書②：プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 WEB版 医学書院	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靱帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。		
到達目標	1)筋の付着部となる部分の骨の構造について説明できる。 2)関節の構造と靱帯について説明できる。 3)脳・内臓器を容れる形態構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	組織標本の観察	組織標本を顕微鏡で観察する。	
第2回	骨① 形態と骨交連の観察 頭蓋	頭蓋骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第3回	骨② 形態と骨交連の観察 顔面	顔面骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第4回	骨③ 形態と骨交連の観察 椎骨	頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎について分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第5回	骨④ 形態と骨交連の観察 脊柱と胸郭	脊柱と胸郭を分離・交連の両標本で観察し理解する。	
第6回	骨⑤ 形態と骨交連の観察 上肢	上肢帯、自由上肢骨、上肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第7回	骨⑥ 形態と骨交連の観察 下肢	下肢帯、自由下肢骨、下肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第8回	骨⑦ 骨盤の構造 骨の連結	腸骨・恥骨・坐骨について、交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第9回	関節① 関節の機能と靱帯 上肢帯	交連標本を動かし、上肢帯、自由上肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第10回	関節② 関節の機能と靱帯 下肢帯	交連標本を動かし、下肢帯、自由下肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第11回	骨盤と股関節の機能	体幹の支持と歩行運動として関節複合体の構造を理解する。	
第12回	「入れ物」としての「骨の籠」	交連標本を利用し、脳・内臓器を容れる形態構造を理解する。	
第13回	実習ガイダンス	実習日程、実習着、実習態度、注意事項を確認する。	
第14回	上下肢の解剖見学	上下肢の筋、関節、神経の構造観察。	
第15回	体幹、頭頸部の解剖見学	脳、脊髄の外側面の構造観察。胸腔・腹腔内臓器の位置関係と外観の構造観察。	
テキスト・参考書	教科書①：PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学 第2版 羊土社 教科書②：プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 WEB版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	四肢、体幹の骨、筋、神経の役割について理解し、理学療法、作業療法の実践で役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動時の主要な力の発現器としての骨関節、筋神経の個々についての理解を深める。関節運動では、筋肉から生み出された力を「ベクトル」と「トルク」の発生として捉え、さらに「力の合成、分解」関係して結び付け、人体の運動と力学的構造を理解する。		
到達目標	①生体運動器官の構造形態とその力学的機能が説明できる。 ②「ベクトル」と「トルク」の発生機構と「力の合成、分解」について説明できる。 ③体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、把握、歩行時の軸変化の構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	機能解剖学とは何か、その意味するもの	
第2回	協議の運動学	並進、回転と骨運動、関節の構造と包内運動	
第3回	運動力学① 筋骨格系と力	「力」の発生と「ベクトル、運動トルク」の解釈	
第4回	運動力学② 筋と関節の相互作用	3種類の「てこ」、回転軸と「トルク」	
第5回	骨と関節① 上肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第6回	骨と関節② 下肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第7回	脊柱と頭蓋の関節複合体	脊柱と頭蓋の相互運動機能	
第8回	筋の形態① 収縮機能と支配神経	収縮機構と支配神経の終末装置と筋の関係	
第9回	筋の形態② 運動と「トルク」	筋の「力」、「等尺性筋力ー内的トルク」、筋の疲労	
第10回	力源としての筋① 張力曲線	自動的・他動的な「求心性」「遠心性」「等尺性」な力	
第11回	力源としての筋② 運動	「力」と「速度」の関係とその解釈	
第12回	生体力学	自由身体ダイアグラム、「力」の合成、分析、作図	
第13回	身体支持① 頭蓋の支持と軸としての脊柱	頭蓋支持の柱と頭部の運動、体幹の軸と運動軸の柱の構造	
第14回	身体支持② 物を掴む上肢	上肢の運動軸と把握の支え機能の軸変化	
第15回	身体支持③ 歩行機能の下肢	体重移動と歩行の軸変化	
テキスト・参考書	教科書：山崎 敦／著 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演出する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。		
到達目標	①分離標本を用いて、全身骨格を組み立てられるようになる。 ②各関節の形態と機能と運動制御について理解できる。 ③脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結の形態と機能について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨格概要	分離骨標本を用いて、全身の骨格を組み立て全体像を理解する	
第2回	上肢の関節複合体①	肩関節の形態と機能、運動制御	
第3回	上肢の関節複合体②	肘関節、前腕の形態と機能、運動制御	
第4回	上肢の関節複合体③	手根と手の関節の形態と機能、運動制御	
第5回	下肢の関節複合体①	股関節の形態と機能、運動制御	
第6回	下肢の関節複合体②	膝関節の形態と機能、運動制御	
第7回	下肢の関節複合体③	足根と足の関節の形態と機能、運動制御	
第8回	体軸骨格の形態	脊柱の関節形態と機能	
第9回	胸郭骨格の形態	胸骨・肋骨・胸椎の関節形態と機能	
第10回	上肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第11回	下肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第12回	全身運動	四肢並びに体幹を軸とした全身運動	
第13回	神経① 上肢帯・自由上肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第14回	神経② 下肢帯・自由下肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第15回	脈管	交連標本を用いて上下肢・脳の脈管の走行を確認する	
テキスト・参考書	教科書①：山崎 敦／著 PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療学科		
授業科目名	生理学Ⅰ	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを1つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についてもこの中で講義する。		
到達目標	① 細胞の機能を説明できる。 ② 刺激の受容、興奮伝導、筋収縮の流れについて説明できる。 ③ 自律神経の構造と機能を説明できる。 ④ 血液、心臓、肺、腎臓の機能、ホルモンの働きを説明できる。 ⑤ 内分泌に関わる部位とホルモンについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生体の構造、細胞	生体の恒常性、刺激と興奮、刺激と適応、細胞の構成元素、細胞の構造と機能およびその調節	
第2回	神経生理①	感覚神経と運動神経の構造と機能、脳および神経系諸器官の基本的構造と要素	
第3回	神経生理②	静止膜電位と活動電位、興奮伝導、シナプスの機能と分類、シナプスにおける伝達メカニズム、ニューロン回路の種類	
第4回	自律神経系	自律神経の構成と作用および受容体、摂食・飲水の調節、概日リズム、自律神経反射	
第5回	運動生理①	運動ニューロン、脊髄の構造、神経筋結合部の構造と機能、骨格筋・平滑筋・心筋の機能、筋の収縮機構	
第6回	運動生理②	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と機能、反射、随意運動と不随意運動、運動の調節と制御	
第7回	感覚生理①	体性感覚・特殊感覚・内臓感覚、刺激から認知に至る神経機構、末梢の感覚受容機構と伝達メカニズム、1次体性感覚野における処理機構、体性感覚の統合機構、痛覚の神経機構	
第8回	感覚生理②（特殊感覚）	視覚器の構造と伝導路、眼の屈折力と調整作用、暗順応、視覚物質と光受容、嗅覚と味覚の受容器、聴覚器の構造、音の伝導と伝導路、平衡感覚器の構造と機能、前庭反射の神経機構	
第9回	脳と認知・行動	大脳皮質の機能局在、連合野の機能、大脳辺縁系と視床下部の機能、運動と感覚の統合機構、情動・学習・記憶をつかさどる脳の部位と記憶のメカニズム	
第10回	脳波と睡眠、体温調節	脳波の分類と意識水準、脳波の睡眠段階区分と睡眠の生理学的変化、覚醒と睡眠の調節、サーカディアンリズム、体温調節	
第11回	血液・体液と機能	血漿成分、血液細胞の働き、血液凝固の仕組みと凝固異常、鉄代謝、浸透圧	
第12回	心臓の働きと血液循環	心臓の構造、興奮伝達と心筋収縮、自律神経系による調節、心電図、血液循環と調節	
第13回	呼吸と肺の働き	肺の構造、肺循環とガス交換、血液ガスの運搬、呼吸の調節	
第14回	腎機能と排尿	腎臓の構造と機能、糸球体濾過と尿細管における再吸収、排尿とその障害	
第15回	消化と吸収	消化管の構造と食物の輸送、嚥下機能、胃、小腸、大腸における各栄養素の消化吸収機能、排便	
テキスト・参考書	教科書：貴邑富久子、根来英雄 シンプル生理学 改訂第8版 南江堂 978-4-524-22655-9 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ 人体の構造と機能第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 12:10～13:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学Ⅰの総論講義から継続して、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について疾患を例にあげてそれぞれの機能を復習しながら具体的にイメージできるように講義する。さらに人体の各機能について総論の講義を発展、具体化して、それぞれの関連する臓器の働きを基に各種疾患の例を挙げて説明する。すなわち、血液の機能とその障害、循環系の機能とその障害による疾患、呼吸器の機能と障害、消化器の生理機能とその障害による疾患、尿路系の機能と障害、代謝系の概要とその障害による疾患、各種ホルモンの働きとその障害による疾患および生殖機能との関連、神経系ならびに複数の臓器の機能が関わる血圧の調節、血液の酸／塩基平衡の調節ならびに電解質バランス、生体防御機構などについて、国家試験問題などもとりあげて理解を深めるように講義する。		
到達目標	①神経系の働きとその障害による症状を説明できる。 ②器器官、臓器の働きとその障害による症状の病態生理を説明できる。 ③複数の臓器の機能およびホルモンが関わる生体の調節、例えば血圧、血液の酸塩基平衡、電解質バランスなどについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中枢神経系の働きとその障害	体性神経の神経路の確認、脊髄の機能と障害、脊髄反射、脳幹の構造・主要機能と障害、大脳皮質の機能局在の確認とその障害	
第2回	末梢神経系の働きとその障害	脳神経のそれぞれの機能：眼球運動、味覚、聴覚・平衡覚、交感神経・副交感神経機能などと機能障害、体性神経系：感覚機能、運動機能と障害	
第3回	自律神経系の主要な機能とその障害	交感神経系の機能、副交感神経系の機能、関与する神経伝達物質、循環系および呼吸に対する自律神経の作用と障害による病態生理、排泄における神経系の機能と障害	
第4回	心機能とその異常	心臓の拍出機能と心不全、心筋の特徴と疾患、心臓の刺激伝導系とその異常・不整脈	
第5回	末梢血管の機能と物質交換、血圧の調節	動脈の粥状硬化による閉塞・梗塞、微小循環、血管透過性、循環の調節物質、心・血管系への自律神経の作用による血圧調節、	
第6回	肺の機能と障害	肺機能の測定、肺の拘束性障害および閉塞性障害、肺機能の低下、異常呼吸	
第7回	栄養とエネルギー代謝	エネルギー代謝・糖新生と調節・糖尿病、アミノ酸代謝と尿素生成・排出、脂質代謝、核酸代謝、運動と体力	
第8回	エネルギー代謝における肝臓、膵臓の機能	肝臓の代謝機能とその異常、胆汁の作用と分泌障害による病態、膵臓の代謝における作用と障害	
第9回	腎臓の機能と障害	糸球体濾過機能と障害、慢性腎不全による機能障害、腎性高血圧、電解質および水の再吸収と排泄、ホルモン・RAA系による血圧の液性調節の仕組み、降圧剤の作用	
第10回	血液の酸塩基平衡の調節と障害	肺のガス交換と呼吸機能異常による血液pHへの影響、腎臓尿細管における炭酸水素イオンの吸収・排出による血液pHの維持と変動、ケトアシドーシス	
第11回	ホメオスターシス、視床下部、下垂体ホルモンの作用と分泌の調節	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働きと調節、ネガティブ・フィードバック、下垂体後葉ホルモンの作用	
第12回	甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎髄質ホルモンの作用	甲状腺ホルモンの機能と分泌異常、副腎皮質ホルモンのそれぞれの機能と分泌異常、副甲状腺ホルモンによるカルシウム代謝の制御、副腎髄質ホルモンの作用	
第13回	プロラクチン、ゴナドトロピンと性ホルモンの機能、生殖	プロラクチン、ゴナドトロピンの作用、性ホルモンの生理作用と性周期、性ホルモン分泌異常症の病態、男性・女性の生殖機能、妊娠と分娩	
第14回	エイコサノイド（プロスタグランジン類）の作用	プロスタグランジン類の生合成とそれぞれの作用、COX阻害剤	
第15回	生体防御機構	侵襲に対する生体反応、炎症、免疫反応の生理的意義と過剰反応による疾患の病態、炎症性サイトカインの作用	

テキスト・参考書	教科書：貴邑富久子、根来英雄 シンプル生理学 改訂第8版 南江堂 978-4-524-22655-9 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ 人体の構造と機能第2版 医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 12:10～12:50 研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学演習	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学Ⅰ・Ⅱで得た知識をより深く理解するため、演習を通し、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。		
到達目標	①各演習が生理機能の何を学習するために行っているか、説明することができる。 ②記録したデータを集計し、自身の考えを述べることができる。 ③演習内容と臨床との関連性を理解することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）①	身体状況に関する知識の確認と体温計測・身体計測を行い ホメオスタシスと基礎代謝について理解する	
第2回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）②		
第3回	自律神経①	交感神経と副交感神経機構について理解する 暗所での対光反射、視覚刺激による瞳孔拡大、恐怖刺激による立毛筋の収縮、発汗の観察を行う	
第4回	自律神経②		
第5回	体性感覚①	重量感覚を通じてウェーバーの法則、フェフィナーの法則、ステープンスの法則を理解する 2点識別覚の測定を行い、弁別閾値の分布・違い、弁別能の順位を調べる。	
第6回	体性感覚②		
第7回	聴覚と平衡感覚	音の伝導に関する観察を行う 視覚を制限することによる平衡感覚の変化、半規管への刺激と反応の変化を観察する	
第8回	聴覚と平衡感覚		
第9回	視覚と嗅覚	視野、色覚、マリオットの盲点について演習する 嗅覚刺激下での心理的変化について演習する	
第10回	視覚と嗅覚		
第11回	呼吸①	正常な呼吸機能の確認と肺機能検査を行い、スパイロメトリーについて理解する	
第12回	呼吸②		
第13回	心臓と循環①	安静時と姿勢変換時、運動前後、バルサルバ試験時の血圧、心拍数、動脈血酸素分圧の変動について理解する 心電計を用いて、安静時と姿勢変換時、運動前後の変動について理解する	
第14回	心臓と循環②		
第15回	心臓と循環③		
テキスト・参考書	参考書：杉晴夫 コメディカルのための生理学実習ノート 改訂第2版 南江堂 978-4-524-24746-2 参考書：大橋敦子監修 生理学実習NAVI第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト・提出物の成績（100％）		
オフィスアワー	月曜日 12:10～12:40、金曜日 12:10～12:40 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教員名	小澤 敏夫、原 和子、酒向 俊治 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。		
到達目標	運動学に多く使われる用語を理解し使用できるようになる。運動力学の基礎、身体の運動時、動作時の特徴を理解し、実践の場における病態説明、デモンストレーションが出来るようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、評定方法の他、運動学の重要性について学ぶ	
第2回	運動学総説	解剖学、生理学の基礎医学ならびに理学療法、作業療法との関連について学ぶ	
第3回	身体運動Ⅰ	運動学を理解するための必要な身体における運動面、運動軸について学ぶ	
第4回	身体運動Ⅱ	運動学を理解するための必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ	
第5回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢） ①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第6回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢） ②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第7回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢） ①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第8回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢） ②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第9回	生体力学の基礎Ⅰ（モーメント）	運動学理解を深める為、運動時の筋活動および関節に生じるモーメント（トルク）について学ぶ	
第10回	生体力学の基礎Ⅱ（平衡と安定）	運動学理解を深める為、運動時の平衡条件および安定性について学ぶ	
第11回	生体力学の基礎Ⅲ（ニュートン力学）	ニュートン力学の基礎、仕事とエネルギー消費および身体とてこについて学ぶ	
第12回	姿勢と構え	姿勢とその制御機構について運動学的に理解する	
第13回	歩行	歩行動作時の運動学的、運動力学的分析方法について理解する	
第14回	異常歩行と走行	高齢者、異常病的歩行の特徴、その要因、走行時の運動効率性について理解する	
第15回	総括、質疑	振り返り（グループ学習）	
テキスト・参考書	教科書：基礎運動学 第7版 医歯薬出版 参考書：「臨床運動学」中村隆一 医歯薬出版		
学修方法	テーマごとに座学形式で行う。		
評価方法	定期試験（筆記試験）100%		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	（予習） 運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。 毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。 例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。（復習） 授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教員名	小澤 敏夫、原 和子、酒向 俊治 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的応答を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心にした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。		
到達目標	身体運動の仕組み、日常生活の行為について基礎的な専門用語を用いて説明できる。 実習課題についてレポートにまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、生体力学	てこの原理、モーメント	
第2回	上肢帯と上肢の運動(1)	肩複合体の運動学、肩甲上腕リズム	
第3回	上肢帯と上肢の運動(2)	肘関節、前腕の運動学	
第4回	上肢帯と上肢の運動(3)	手関節、手指の運動学	
第5回	下肢帯と下肢の運動(1)	股関節の運動	
第6回	下肢帯と下肢の運動(2)	膝関節の運動	
第7回	下肢帯と下肢の運動(3)	足関節の運動	
第8回	運動制御	フィードバック、フィードフォワード制御	
第9回	体幹の運動学	脊柱、体幹の運動学	
第10回	姿勢と歩行	姿勢、正常歩行と異常歩行、走行	
第11回	歩行周期と筋活動、重心移動	通常歩行の観察、分析体験する	
第12回	歩行分析：応用歩行	応用歩行の観察、分析体験する	
第13回	運動発達	発達と発達分析	
第14回	運動学習	運動学習の種類と諸理論	
第15回	運動とエネルギー供給	運動時のエネルギー代謝と運動処方	
テキスト・参考書	教科書：基礎運動学 第7版 医歯薬出版 参考書：「臨床運動学」中村隆一 医歯薬出版		
学修方法	事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解し、実習当日の説明の際、不明な点について質問する(30分程度)。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる(1時間程度)。		
評価方法	小テスト（20％）、定期試験（筆記試験）80％		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00		
備考・履修条件	欠席をしないように心がけてください。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	運動学演習	担当教員名	森本真太郎【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学演習の基礎として、人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を再学習理解する必要がある。運動学Ⅰ・Ⅱの学習した電気生理学的、力学的、動作分析学的思考は本演習の理解を深める為に必要不可欠である。運動・動作課題に伴う体の動きを可視化し、また手で触れることを通じて運動と骨格筋の働きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈しそれぞれの運動との因果関係を学習するプロセスを経験する。		
到達目標	1. 運動の位置づけができるようになる 2. 筋骨格系の仕組み及び機能を説明できるようになる 3. 演習内容と臨床との関連を理解する		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	上肢帯および上肢の関節運動①	肩、肘、手関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第2回	上肢帯および上肢の関節運動②	手指関節、手指の関節運動と巧緻性について学ぶ	
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第4回	下肢帯および下肢の関節運動	股、膝、足関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第5回	下肢帯および下肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第6回	脊柱・体幹の関節運動	各関節運動について学ぶ	
第7回	脊柱・体幹の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第8回	筋力	モーメント、トルクについて学ぶ	
第9回	筋活動	筋電図とその解析方法について学ぶ	
第10回	姿勢	重心、アライメントについて学ぶ	
第11回	生体力学①	動作における身体の重心移動について学ぶ	
第12回	生体力学②	動作における重心位置と支持基底面の関係性について学ぶ	
第13回	動作分析	基本動作の分析について学ぶ	
第14回	歩行	歩行分析について学ぶ	
第15回	呼吸と循環	運動負荷試験における呼吸・循環応答を学ぶ	
テキスト・参考書	動作分析臨床活用講座：バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生命倫理	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究応用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な生命倫理問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起るか。ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのか、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもちたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。		
到達目標	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ② 医療における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生命倫理の原則	医の倫理から生命の倫理へ、ヒポクラテスの誓い、生命倫理の4原則	
第2回	健康と病気、診断、予防、治療と生命倫理	患者との距離、守秘義務、病気と健康、精神疾患、医療不信、予防、治療と生命倫理	
第3回	生殖医療と人工妊娠中絶	ハイリスク妊娠、周産期死亡、不妊治療、人工妊娠中絶と母性保護、親子関係、生殖医療のガイドライン、クローン技術、優生保護法	
第4回	移植医療と脳死	臓器移植、生体臓器移植、脳死判定、臓器移植法	
第5回	臨床試験（治験）と人体実験	臨床試験と倫理、統計的有意差、二重盲検試験、臨床試験におけるヘルシンキ宣言、EBMによる標準化、動物実験と動物愛護法	
第6回	遺伝子医療	遺伝子組み換え技術の医療への応用、ゲノム編集、遺伝子医療の問題点、	
第7回	安楽死	安楽死の定義、消極的安楽死、積極的安楽死、尊厳死、植物状態、判例、宗教と安楽死、リビングウィル、自己決定	
第8回	終末期医療と緩和ケア、インフォームドコンセント	終末期医療、緩和ケア、ホスピス、在宅で受ける緩和ケア、インフォームドコンセント、癌の告知	
テキスト・参考書	教科書：三崎和志 他 生命の倫理学 大月書店 参考書：玉井 真理子・大谷 いづみ編 はじめて出会う生命倫理 有斐閣		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50 金曜日 12:20～12:50 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	人間発達学	担当教員名	近藤邦代【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程を学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。		
到達目標	①人間発達学の対象領域について説明できる。 ②各期の発達について説明できる。 ③神経系、内部機能、身体機能の発達について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達概念	人間発達期の区分、発達に関する定義、発達の原則	
第2回	発達理論	漸成的発達論と非漸成的発達論	
第3回	発達検査	目的と方法、標準化された発達検査	
第4回	姿勢反射と反応	原始反射の出現と消失(統合)	
第5回	運動発達（0～3か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第6回	運動発達（4～6か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第7回	運動発達（7～9か月）	四つ這い位、立ち上がり、しゃがみ、伝い歩き	
第8回	運動発達（10～12か月）	立位から歩行の発達過程、幼児の粗大運動発達	
第9回	6歳（13～18か月含む）までの発達（姿勢反射・反応）	粗大運動発達、歩行と走行、非対称的両側活動、平衡反応、ADL機能（手指・摂食・言語・社会性）の発達	
第10回	学童期の発達	学童期の特徴と心と身体の発達	
第11回	思春期の発達	思春期の特徴と心と身体の発達（自己概念、第二性徴、自我同一性の獲得）	
第12回	青年期の発達	青年期の特徴と心と身体の発達	
第13回	成人前期の発達	成人前期の特徴と心と身体の発達	
第14回	成人後期・老年期の発達	成人後期・老年期の特徴と心と身体の発達	
第15回	まとめ（グループにて発表）	人間発達のそれぞれの特徴とセラピストとしての関わり方についてまとめ発表を行う	
テキスト・参考書	教科書：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂6版 中外医学社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	病理学	担当教員名	佐藤 勝
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因でおこり（病因）、どのような変化を生じ（病変）、どのように推移し（経過）、最後にどうなるか（転帰）など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。そのために、病理学では疾患を①循環障害、②炎症、③代謝障害、④先天異常、⑤腫瘍に分けて、その発生機序、もたらされる種々の病的変化、転帰について講義する。さらに①～⑤のそれぞれに含まれる代表的な疾患をとりあげ、個々の疾患の病態について理解を拡げる。		
到達目標	①様々な病因を理解する。 ②病因によって起こる病変、経過、転帰について理解する。 ③炎症、免疫など身体におけるぼうびょ反応と、それに起因する疾病について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	病理学とは、原因の種類と疾患の分類	病理学と疾患の概要、内因と外因、疾患の分類	
第2回	組織損傷とそれに対する生体の反応と適応	萎縮、肥大と過形成、化生、細胞死、変性、色素沈着	
第3回	組織・細胞障害に対する生体の炎症反応	炎症反応の定義と兆候、炎症の発生機序、炎症の分類	
第4回	免疫反応、免疫の種類とその作用	免疫の定義、自然免疫と獲得免疫、細胞性免疫と体液性免疫	
第5回	免疫反応に関与する細胞と物質および成立機序	免疫反応に関与する臓器・細胞・物質、免疫反応の成立過程	
第6回	免疫不全とアレルギー反応	免疫不全の種類、アレルギー反応の定義と種類（Ⅰ～Ⅳ型）	
第7回	アレルギー反応と自己免疫疾患	アレルギー反応による疾患、自己免疫疾患の定義とアレルギー反応との相違、自己免疫疾患の種類、自己抗体	
第8回	臓器移植と拒絶反応	拒絶反応の発生機序、MHCクラスⅠ抗原、MHCクラスⅡ抗原	
第9回	感染症と主な病原体	細菌・ウイルス・真菌・原虫、感染経路、日和見感染症、敗血症	
第10回	循環障害	浮腫、充血、うっ血、出血、止血、血栓、梗塞、傍側血行	
第11回	高血圧症、DICおよびショック	高血圧症の種類と原因、DICの定義と原因、ショックの分類と症状	
第12回	代謝障害	脂質代謝異常・タンパク質代謝異常・糖質代謝異常・プリン体代謝異常・ビリルビン代謝異常	
第13回	先天異常と遺伝性疾患	DNAと染色体、先天異常の原因、遺伝子および染色体異常に基づく疾患	
第14回	腫瘍①	良性腫瘍、悪性腫瘍、発生母組織、転移、組織像	
第15回	腫瘍②	発生機序、外因と内因、がん遺伝子、診断・治療	
テキスト・参考書	教科書：カラーで学べる病理学 第5版 ノーヴェルヒロカワ		
学修方法	各テーマについての講義は教科書を基軸とするが、講義前に配布する整理用のプリントを中心に学習する。また各講義ごとに多肢選択方式の問題を解くことにより講義内容の理解と記憶を深める。		
評価方法	定期試験成績（95％）、授業への積極的取組（5％）		
オフィスアワー	授業終了後15分、授業翌日および翌々日12時20分から30分（いずれも講師控室）		
備考・履修条件	出席回数が講義回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	感染防御と安全管理	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】 近藤郁代
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	コロナウイルス感染など、さまざまな微生物による感染症は依然として人類の脅威であり、特に高齢者や重症基礎疾患を持つ患者にとっては死亡原因となることもある。また現代の高度先進医療では手術や薬物治療など患者に侵襲性の高い治療を行うこともあり、それらの患者は易感染状態で感染症の危険にさらされる。したがって本講義では医療従事者に必要な微生物学及び感染症について講義するとともに、微生物学の知識を踏まえた適切な感染予防方法とその意義を講義する。また人が本来持つ感染防御機構である自然免疫（非特異的感染防御能）および獲得免疫（特異的感染防御機構）についてその概略を説明する。 さらに本講義では近年医療の現場で重要視されるようになった医療事故防止のための医療安全の取り組みについてその基本的考え方を説明し、リハビリテーションにおける運動負荷を伴う訓練のための安全管理ガイドラインと、実際に問題となる個々の患者の症状・病態について安全管理に基づいて講義する。さらに医療の現場で起こった主な医療事故の事例を提示し説明する。		
到達目標	①囚に感染を起こす主要なウイルス、細菌、真菌などについて、知識を持つ。 ②肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、感染の成立過程とそれに対する人の反応の概略を知る。 ③感染症に対する人の非特異的感染防御機構である自然免疫および特異的感染防御機構である獲得免疫について理解する。 ④感染経路別感染予防策および消毒・滅菌、清潔操作について十分な知識を持つ。 ⑤医療安全の取り組みについて基本的考え方を理解し、起こりやすい医療事故について十分な知識を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	感染を起こす主要微生物	ウイルス、細菌、真菌、原虫、細菌毒素、感染症治療薬	
第2回	感染経路別感染症の病態生理	肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、それぞれの感染症の成立の概略と症状、炎症反応（局所反応及び全身反応）	
第3回	自然免疫と獲得免疫	自然免疫、獲得免疫のメカニズムと感染予防、ワクチンによる免疫の獲得	
第4回	標準予防策と感染経路別予防策	標準予防策の方法、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策	
第5回	消毒・滅菌、清潔操作	物理的消毒・滅菌法、化学的消毒・滅菌法、手洗い、手指・皮膚消毒法、医療機器消毒、環境消毒	
第6回	医療安全管理	医療安全の考え方、ヒューマンエラー、医療安全教育、リスクマネジメント、ヒヤリハット・インシデントと報告。本人確認、チューブ管理、施設安全管理。職業感染予防、感染性廃棄物処理	
第7回	運動負荷を伴う訓練のための安全管理	リハビリテーション医療における安全管理ガイドライン、バイタルサイン、疼痛などに対する対応、心肺機能、運動機能、めまい、精神・神経機能などと訓練	
第8回	医療の現場で見られる医療事故	主な医療事故：院内感染、転倒、誤投薬、手術ミス、患者取り違え、その他。医療訴訟	
テキスト・参考書	教科書： 坂本史衣 基礎から学ぶ医療関連感染対策 改訂第3版 南江堂 978-4-524-23758-6 参考書：医療情報科学研究所編 病気がみえるVol.1.6免疫・膠原病・感染症第2版 メディックメディア		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 16:10～16:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	保健統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	統計学とは、集積されたデータの最適な使い方を学ぶ学問である。大規模な調査の代表とされるひとつとして疾病予防や健康増進を図るための保健統計調査が実施されている。それらに基づいて作成された指標について解説し理解できる基礎知識を身につける。そのために、統計学の考え方と基本的な分析技術を理解し習得する。さらに、1年次に学習する基礎統計学、3年次に学習する研究概論の復習を含めより深い理解とする。		
到達目標	①健康に関連した指標を理解できる。 ②各種調査から国民の生活と健康の特徴を理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	保健統計とは	保健統計の歴史、人口統計学の基本	
第2回	人口静態統計	国勢調査、人口ピラミッド、日本の人口と世界の人口	
第3回	人口動態統計①	出生と人口再生産、死亡、死産、婚姻、離婚	
第4回	人口動態統計②	主要死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）とその動向	
第5回	生命表	平均余命、平均寿命、健康寿命	
第6回	健康状態と受療状況	保健統計調査、基幹統計、国民生活基礎調査、患者調査	
第7回	生活習慣と健康	栄養・食生活・運動・飲酒・喫煙の状況と改善及び疾病予防	
第8回	医療経済統計	国民医療費、介護保険事業	
テキスト・参考書	教科書：保健統計学 國澤英雄 参考書：国民衛生の動向（最新版） 厚生労働統計協会		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	火曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	臨床心理学	担当教員名	野田 みや子【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。		
到達目標	①防衛機制について説明できる。 ②心理検査の役割とその方法について理解する。 ③カウンセリングの理論、カウンセリングの面接技法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心に発展してきた、行動療法、来談者中心療法、という心理療法の理論と実践における方法論についての理解を育む。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、臨床心理学の歴史と様々な方法論に関して理解する（テキスト 10、11、16、17、58、59、202ページ）。	
第2回	心理療法の代表的な3つのアプローチについて理解を深める。 フロイトの精神分析的アプローチについて学修する。	心理療法の3つのアプローチについて理解する。 テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの精神分析的アプローチについて理解する（テキスト64―67ページ）	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論（テキスト、78、79ページ）と、夢分析について理解する（テキスト80―82ページ）。	
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論（テキスト、78、79ページ）を理解する（テキスト80―82ページ）。アードラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法、認知療法の理論について学修する。心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、アイゼンクらの行動療法、エリス、ベックの認知療法について理解する（テキスト74、75ページ）心理アセスメントについて理解する（テキスト38―56ページ）。	
第7回	認知療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、認知行動療法のA B C D E理論を理解する（テキスト74ページ）。自身の不安、敵意に対してこの技法を試してみる。	
第8回	家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。認知行動療法の考える自己と問題解決	テキストと講義ハンドアウトをもとに、家族療法についての理解を深める（テキスト101-113ページ）。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチについての理解を深める。心理療法におけるラポールと転移について理解する。	テキストとプリントをもとに、来談者中心療法について理解する（テキスト70―73ページ）ラポール、転移、逆転移について理解する（62、63ページ）。	
第10回	欲求コントロール	プリントを基に、欲求コントロールを理解する。	
第11回	アサーティブネスと自己実現	プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第12回	笑いとラフターセラピー	プリントを基に、笑い、ラフターセラピーを理解する。	

第13回	対象喪失とグリーフセラピー	プリントを基に、対象喪失とグリーフセラピーを理解する。
第14回	ジェンダーとカウンセリング	プリントを基に、ジェンダー関連のカウンセリングを理解する。
第15回	まとめ、確認テスト 課題提出	テキストとプリントを基に学修したことをまとめ、夢レポートの提出する。
テキスト・参考書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	一般臨床医学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。		
到達目標	①臨床医学一般の診察、検査、診断から治療への流れを理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	救急医学	ショック、心肺蘇生法、呼吸管理、輸血、救急処置の概要を理解する。ICUの役割を理解する。	
第2回	外科総論	機械的損傷と非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍の症状と治療を理解する。	
第3回	脳神経外科総論	症候と病態、主の脳疾患の概要について理解する。	
第4回	循環器疾患、呼吸器疾患	心筋梗塞など循環器疾患、肺炎や慢性肺疾患の病態と治療を理解する。	
第5回	消化器疾患	食道癌・胃潰瘍・胃癌、腸閉塞、大腸癌などの病態と治療を理解する。	
第6回	肝・胆・膵疾患	ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌、胆石、急性膵炎の病態と治療を理解する。	
第7回	血液・造血器疾患	貧血をきたす疾患・白血病・出血性疾患の病態と治療を理解する。	
第8回	代謝性疾患	糖尿病・脂質異常症・痛風などの病態と治療を理解する。	
第9回	内分泌疾患	下垂体・甲状腺・副腎疾患の病態と治療を理解する。	
第10回	泌尿器・生殖器疾患	泌尿器・生殖器疾患の診断と検査法、腎と尿路の代表的疾患の病態と治療について理解する。	
第11回	膠原病・アレルギー・感染症疾患	関節リウマチ・SLE・強皮症など病態と治療を理解する。	
第12回	皮膚疾患	皮疹の特徴と皮膚疾患の原因と症状、皮膚感染症などの病態と治療を理解する。	
第13回	婦人科・産科疾患	性機能の生理、不妊、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分娩、不妊について理解する。	
第14回	眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	眼疾患の病態と検査を理解する。耳・鼻・咽頭・喉頭疾患の症状と病態生理、検査について理解する。	
第15回	老年期医学、小児疾患	高齢者の代表的な疾患、薬物療法の概要を理解する。 小児の感染症と代表的な疾患の病態と治療を理解する。	
テキスト・参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野STANDARD TEXTBOOK 内科学 第5版 医学書院 PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	呼吸循環器内科学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を習得する。		
到達目標	①呼吸循環器内科学に必要な症候学、診断学、及び治療学を理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。 ④疾患の予防、発症、治療に関する知識を習得し理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内科的診断と治療の実際	診察法、臨床検査、内科的治療、リハビリテーションとの関連事項	
第2回	症候学	発熱、倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などについて理解する。	
第3回	循環器	循環器系の解剖と生理	
第4回	循環器疾患総論①	主要な症候、診断法	
第5回	循環器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第6回	循環器疾患各論①	高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）	
第7回	循環器疾患各論②	先天性心疾患、弁膜症、心筋症	
第8回	循環器疾患各論③	心不全、不整脈、大動脈、大動脈瘤、心移植	
第9回	心臓リハビリテーション	クリニカルパス、運動療法、食事療法、活動と参加	
第10回	呼吸器	呼吸器系の解剖と生理	
第11回	呼吸器疾患総論①	主要な症候、検査法と結果の解釈、診断法	
第12回	呼吸器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第13回	呼吸器疾患各論①	肺炎、結核、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全	
第14回	呼吸器疾患各論②	気管支喘息、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸	
第15回	呼吸リハビリテーション	在宅酸素療法、運動療法、食事療法、活動と参加	
テキスト・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 STANDARD TEXTBOOK 内科学 第4版 医学書院 参考書：寺野彰総編集 シンプル内科学改訂第2版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	神経内科学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中樞神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の3大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。		
到達目標	①神経学的診断法、神経症候学を理解する。 ②神経内科で扱う疾患の分類を理解する。 ③各疾患の障害部位と症状の関係、疫学、予後を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	神経学的検査と診断	体幹・四肢の検査と診断、画像診断、電気生理学的検査、自律神経機能検査、腰椎穿刺	
第2回	神経症候学（意識障害）	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	
第3回	神経症候学（運動麻痺・感覚障害）	運動麻痺と錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、運動失調、感覚障害	
第4回	神経症候学（高次脳機能障害①）	失語・失行・失認の概念と分類、症状と責任病巣	
第5回	神経症候学（高次脳機能障害②）	記憶障害・注意障害・遂行機能障害の概念と分類、症状と責任病巣	
第6回	神経症候学（構音障害、嚥下障害）	構音のメカニズム、構音障害の診断と治療、嚥下のメカニズム、嚥下障害の診断と治療、球麻痺と仮性球麻痺	
第7回	神経症候学（神経因性排尿障害、末梢神経症候）	排尿機能、神経因性排尿障害、自律神経と自律神経症候	
第8回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状	
第9回	脳血管疾患	脳血管障害の分類、主症状、内科的治療と外科的治療	
第10回	中枢神経変性疾患	変性疾患の概念と分類、大脳皮質・基底核・中脳の変性疾患、脊髄小脳変性症、脊髄変性疾患	
第11回	脱髄疾患	中枢神経の脱髄疾患、末梢神経の脱髄疾患	
第12回	脳腫瘍、外傷性脳損傷	脳腫瘍の分類・症状・診断・治療、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷	
第13回	末梢神経障害	絞扼性ニューロパチー、末梢性ニューロパチー	
第14回	筋原性筋萎縮疾患	ミオパチー、筋ジストロフィー、その他の筋原性筋萎縮疾患	
第15回	感染性疾患、小児神経疾患	神経感染性疾患の定義と原因、分類と病因 脳性麻痺、その他の小児神経疾患	
テキスト・参考書	教科書：神経内科学テキスト 改訂第5版 南江堂 参考書：中島正美・島原智美編 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	整形外科科学	担当教員名	河田 好泰【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	整形外科科学は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実践についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学習する。		
到達目標	1. 運動器（骨・関節・筋・神経など）の解剖および生理を理解する。 2. 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 3. 各種疾患について専門知識に基づいた判断が出来る。 4. 各種外傷について専門知識に基づいた判断が出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨関節の解剖生理	骨関節の解剖と生理、機能を理解する。	
第2回	診断と治療	整形外科的な診断と治療の基本を理解する。	
第3回	上肢外傷	上肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の上肢の外傷について理解する。	
第4回	脊椎の解剖生理 脊椎外傷	脊椎の解剖・生理の特徴を理解する。 解剖・生理に特徴に基づいて脊椎の外傷の病態を理解する。	
第5回	小児整形外科	小児の先天性疾患を理解する。 小児によくみられる外傷や疾患の診断と治療を学ぶ。	
第6回	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の病態を理解する。 四肢の骨軟部腫瘍の診断と治療を理解する。	
第7回	下肢外傷	下肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の下肢の外傷について理解する。	
第8回	関節リウマチ	関節リウマチの病態を理解する。 四肢の関節におけるリウマチ性関節炎の診断と治療を学ぶ。	
第9回	下肢のスポーツ障害	膝・足関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 下肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。	
第10回	股・膝関節疾患 人工関節	股・膝関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 関節疾患とその代表的治療方法である人工関節手術の特徴を理解する。	
第11回	上肢の疾患	上肢の神経障害の病態、診断と治療を理解する。 手や肩によくみられる疾患の病態、診断と治療を理解する。	
第12回	上肢のスポーツ障害 手外科	上肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。 手外科特有の治療を理解する。	
第13回	骨代謝疾患	骨代謝の基礎と骨代謝疾患の病態を理解する。 骨粗鬆症をはじめとする骨代謝疾患の診断と治療を学ぶ。	
第14回	下肢の疾患	下肢によくみられる神経障害や変性疾患の病態とその診断を理解する。	
第15回	まとめ	整形外科の知識確認	
テキスト・参考書	教科書：中村利孝、松野丈夫監修 標準整形外科第15版 医学書院 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	精神医学	担当教員名	井上 真人【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。		
到達目標	①精神医学の基礎知識を習得する。 ②主な精神疾患の症状、経過、診断、治療を理解する。 ③ライフステージと精神健康問題の関りを理解する。 ④精神障害者福祉の抱えている課題を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	精神医学とは	精神医学の源流、日本の歴史と法制度	
第2回	精神障害の成因と分類	外因性・内因性・心因性、ICDとDSM	
第3回	患者の接し方と精神症状	精神科的面接の方法、知覚・思考・感情の異常	
第4回	精神症状	記憶・意欲・行動・自我意識の異常	
第5回	身体因性の精神障害①	症状性及び器質性精神障害、認知症疾患	
第6回	身体因性の精神障害②	てんかん、アルコール依存症、薬物依存	
第7回	内因性の精神障害①	統合失調症の病型分類・症状・治療	
第8回	内因性の精神障害②	気分（感情）障害の症状・分類・診断・治療	
第9回	心因性の精神障害	神経症、ストレス障害	
第10回	摂食障害・睡眠障害	疾患の概念と症状・診断・治療	
第11回	パーソナリティ	パーソナリティ障害及び行動障害	
第12回	発達障害、児童精神障害	知的障害、学習障害、自閉症、発達障害、チック	
第13回	児童・青年期の行動と情緒障害	情緒障害の分類・特性・症状・診断・治療 その他児童・青年期に発症する各疾患	
第14回	精神科における治療法	薬物療法、精神療法、精神科救急治療法、電気けいれん療法	
第15回	精神医学に関連した知識	リエゾン精神医学、メンタルヘルス、精神鑑定、入院形態	
テキスト・参考書	教科書：上島国利他編集 精神医学テキスト改訂第5版 南江堂 参考書：上野武治編集 標準理学療法学・作業療法学専門分野精神医学第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	小児科学	担当教員名	近藤 直実【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけではなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。		
到達目標	①成長・発育過程における小児の特性について理解する。 ②小児特有の疾患とその病態について理解する。 ③小児科の医療従事者に必要な救急技術や感染症予防について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	小児科学総論	粗大運動と反射の関連を学ぶ	
第2回	診断と治療の概要	小児科における診断や・検査の過程を学ぶ	
第3回	新生児・未熟児疾患	未熟児の神経学的初見、新生児・周産期異常症状、代表的な中枢神経障害	
第4回	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常	
第5回	神経・筋・骨系疾患①	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞、発達障害	
第6回	神経・筋・骨系疾患②	脊髄性疾患、末梢神経性疾患、骨関節疾患、筋疾患	
第7回	循環器疾患	心血管系の胎外環境への適応、循環器疾患の症状・検査・原因、先天性心疾患と後天性心疾患	
第8回	呼吸器疾患	呼吸器疾患の発生と機能・症状と検査・治療と処置	
第9回	感染症	各年代での代表的な感染症とその症状、診断・治療	
第10回	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	消化器の機能的発達と疾患、内分泌疾患、糖尿病とその他糖代謝異常	
第11回	血液疾患、腫瘍性疾患	赤血球・白血球の異常、出血性・血栓性疾患、悪性腫瘍の発生頻度と治療	
第12回	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫不全・免疫調節障害、膠原病	
第13回	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患	腎疾患と腎不全、泌尿器疾患、生殖器疾患	
第14回	習癖・睡眠、心身症・神経症	小児科にみられる心身症などの主要疾患の病態と治療	
第15回	重症心身障害児	定義及び発達、重症心身障害児特有の問題、療育	
テキスト・参考書	教科書：富田豊編集 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学 第6版 医学書院 参考書：久保田健夫 図解小児科 金芳堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	栄養代謝学	担当教員名	永井 博弼【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。		
到達目標	①リハビリテーションと栄養学についてその重要性を説明できる。 ②代謝について説明できる。物質代謝とエネルギー代謝について説明できる ③栄養素の種類、機能、消化と吸収、疾患との関連性について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションと栄養学	リハビリテーションにおける栄養障害の概要、生体内での酸化と還元、同化と異化作用について	
第2回	食品・栄養・代謝について	食品・栄養・代謝の言葉の意味の説明ができる。エネルギーおよび過栄養（メタボリックシンドローム）について説明ができる	
第3回	タンパク質・アミノ酸の種類と構造と消化吸収について	タンパク質とアミノ酸の種類・機能・消化と吸収、疾患との関連について説明ができる	
第4回	脂質の種類と機能と、消化吸収、脂質代謝異常症について	単純脂質、複合脂質、誘導脂質および脂肪酸の種類・機能・消化と吸収、代謝異常症と動脈硬化症について説明ができる	
第5回	糖質の種類と機能、消化と吸収、代謝異常症について	糖質の構造・機能・消化と吸収・代謝異常としての糖尿病について説明ができる	
第6回	ビタミン、微量元素（ミネラル）について	水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンおよび微量元素（ミネラル）にの種類、機能、欠乏症、過剰症について説明ができる	
第7回	エネルギー代謝と運動と栄養および疾患と栄養（1）	エネルギー代謝のうちATP 産生系、消費系、身体レベル及びその異常について説明できる	
第8回	エネルギー代謝と運動と栄養および疾患と栄養（2）	栄養・食品とエネルギー、基礎代謝、運動及び疾患との関連について説明できる	
テキスト・参考書	わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために 第5版 ニューヴェルヒロカワ		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜提出するプリントの成績（20%）、定期試験成績（70%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室（月火水の午後）		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	医療薬理学	担当教員名	永井 博弼【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。		
到達目標	投薬処方時の主作用・副作用等の薬理作用を理解する。また、薬物が体内でどのように作用しているか（薬物動態学）、作用機序（薬力学）について概念を他者に簡潔に説明できるようになる。各講義の到達目標は、各講義の前にプリントにて知らせる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	薬理学総論	医薬品とは何か、医療用医薬品、処方せん医薬品について学ぶ。	
第2回	薬の作用と作用機序	薬物の作用機序、受容体の相互作用および汎用性ある薬物の作用機序について理解を深める。	
第3回	薬物の体内動態（1）	薬物動態の基本となる吸収、分布、代謝、排泄を学ぶ。また、薬物動態と副作用発現との関係を理解する。	
第4回	薬物の体内動態（2）	高齢者、障害者における薬物動態の特性について理解する。	
第5回	医薬品の副作用と毒性	個々の医薬品の主な副作用や毒性を学ぶ。また、過去におきた代表的な薬害事例を知る。	
第6回	薬理学各論（1）	臨床応用に基づいて医薬品を大まかに分類できることを学ぶ。	
第7回	薬理学各論（2）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。	
第8回	薬理学各論（3）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。まとめ（薬理学の重要性について）	
テキスト・参考書	図解薬理学：病態生理から考える薬の効くメカニズムと治療戦略 第2版 医学書院		
学修方法	授業後は教科書、配布資料、確認プリントを利用し復習をおこなうこと。		
評価方法	方法・基準 レポート30%、定期試験70%		
オフィスアワー	講義後 15分間 教室、および 研究室（月・火・水曜日の午後）		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	診療画像診断学	担当教員名	河田 美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医用画像は、工学系技術の進歩により精度の高い視覚的診断、治療材料として広く用いられてきた。本講義では各種撮像法の基本原理と画像診断の基礎を理解する。また理学療法、作業療法の代表的対象疾患の画像を供覧しその病態の理解を深める。画像診断に対する基礎知識は、医療従事者にとって患者の病態像の把握、治療プログラム作成、予後予測等において極めて重要となる。また、他の医療従事者との共通認識を持ち、チーム医療の円滑化にとって必要不可欠な知識である。		
到達目標	基礎医学、身体解剖学の知識は画像診断にとって極めて重要である。また解剖学的臓器、各組織等の位置関係の理解と再確認が必要である。画像と関連した疾患についても再学習し、実践前の基本的医療情報の整理および理解する契機とする。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	画像診断の基礎知識	X線・MRI・CTの特徴、表現方法について学ぶ。	
第2回	画像診断（胸部、腹部等）	呼吸器、循環器のX線画像、CT画像と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第3回	脳血管障害（脳梗塞）の画像診断	脳梗塞を主とした神経疾患の画像診断について学ぶ。	
第4回	脳血管障害（脳出血等）の画像診断	脳出血を主とした神経疾患の画像診断について学ぶ。	
第5回	中枢神経系障害の画像診断	脳、脊髄を主とした疾患の画像診断について学ぶ。	
第6回	脊椎・脊髄疾患の画像診断	正常関節（脊柱）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第7回	上肢機能障害の画像診断	正常関節（肩甲帯、肩、肘、手、指関節）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
第8回	下肢機能障害の画像診断	正常関節（骨盤、股、膝、足関節）単純X線と解剖学的位置関係について学ぶ。	
テキスト・参考書	参考書：藤健司著，整形外科ナースのための運動器画像診断，メディカ出版，2006年9月発売，ISBN-10：4840418349		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	全ての講義を終了した時点で課題を出し，提出されたレポートを成績評価の対象とする課題レポート（70％），講義への参加態度（30％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	救急医学	担当教員名	太田 美智男【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康状態の急激な変化、突然の外傷による身体危機にある人の客観的観察と迅速的確な評価、それに対する初期対応能力を学び実践演習する。本講義では救急医療で診療する頻度の高い疾病の解説とバイタルサイン等の観察手法、また医療、介護、福祉の場だけではなく一般家庭内や職場、学校、災害時等人々が社会生活を営むすべての場で行われるべき医学的初期対応、治療を学習する。また、救急時の本人およびその家族へ寄り添い身体的、心理的援助支援についても学習する。		
到達目標	緊急災害時における対象者の客観的観察と的確な評価方法の視点が理解できる。健康状態、外傷後の悪化を防いで速やかに回復につなげるための対処方法が理解できる。また、対象者の不安に対しての心理、社会的支援について考えることができる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	応急処置の基本	処置方法の基本、災害時のトリアージの概論	
第2回	一次救命措置（BLS）、二次救命措置（ALS）	バイスタンダーCPR、primary ABCD suevey、secondary ABCD suevey	
第3回	症状別応急処置（1）	呼吸器系障害、循環器系障害、急性腹症、その他腹部疾患の対応	
第4回	症状別応急処置（2）	神経系の障害、骨、関節、筋肉損傷の対応	
第5回	症状別応急処置（3）	創傷処置（包帯法・止血法・移送）の実践	
第6回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
第7回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
第8回	BLS実習	救急蘇生法、AEDの使用	
テキスト・参考書	教科書：授業資料を適宜配布 参考書：適宜紹介		
学修方法	救急、災害場面に遭遇した時、僅かなでも援助ができる勇気、技術を学ぶ。		
評価方法	定期試験（80％）、課題提出（20％）		
オフィスアワー	金曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション工学	担当教員名	武田湖太郎
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	著しい発展がみられる工学系領域において開発された技術が、障害をもつ人々に対して理学療法、作業療法分野の実際の介入場面で活用が多く活用されている。利用者本人、家族介護者の健康支援等について活動や参加の視点から生活期、福祉領域、長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方についても理解を深める。また、リハビリテーション工学の歴史とその発展過程を知り、様々な支援機器、福祉機器の種類、その特徴や構造、機能を工学的視点を基盤として学習する。		
到達目標	福祉用具関連する支給方法、福祉用具の種類および適合判断等が理解できる。また、汎用性の高い福祉機器についてはその使い方を利用者に簡潔に説明できる。特に長時間の車椅子利用者では、身体機能に即した車椅子の判別、座位補助機構等のシーティングについて実践における対応力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーション工学の歴史、関連法規	リハビリテーション工学の歴史的背景を学ぶ。	
第2回	福祉用具法、障害者総合支援法、介護保険法の概略	福祉機器等の利用に際して、関連法規および財源等の基本的知識を学ぶ。	
第3回	バリアフリー、ユニバーサルデザインの実践	バリアフリーとユニバーサルデザインの違い	
第4回	車椅子の力学基礎とその性能	多種車椅子の特性を学び、障害者と使われる車椅子との整合性について理解する。	
第5回	座位補助装置の基礎	車いす骨盤支持モデルのメカニズムを学ぶ。	
第6回	コミュニケーション機器の種類と障害者との対応手法	意思伝達装置は、身体に残された機能を使ってスイッチを操作し自分の思いを伝える手段であり、その実践能力を理解し養う。	
第7回	歩行ロボット、A I 人工知能の基礎知識	ロボットスーツの機能、A I の基礎知識を学習しリハビリテーション医療の応用可能性に検討する。	
第8回	総括	リハビリテーション工学のまとめと今後の課題についてまとめる	
テキスト・参考書	講義ごとに資料を配布する。		
学修方法	授業後は配布資料を利用し復習をおこなうこと。		
評価方法	方法・基準 試験100%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論	担当教員名	石塚和重【実務家該当教員】 青木成広【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康は万人の願いであり、また個々の人生のＱＯＬ維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。		
到達目標	幼少期からの運動・スポーツ習慣のある生活は、健康維持・増進にとって極めて重要である事を理解し、自発的、積極的な実践指導ができるようになる。健康についての充分な理解と健康と運動・スポーツ関連性について啓発できる知識、理解力をもつことができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康の定義	健康であるとはどういうことか理解する。	
第2回	健康と生活習慣の関連性	健康と生活習慣の相互関連性	
第3回	健康とストレスの関連性	生活習慣、日常のストレスと精神健康と関連性	
第4回	体力の概念、構成要素	体力とは何か？、大学生の体力、体力の測定と評価方法	
第5回	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果	運動の意味を考える、運動の実際を事前に読む。	
第6回	健康づくりのための政策	身体活動・運動分野における国民の健康づくりのための取組み	
第7回	代表的なスポーツ外傷・障害	スポーツ現場での救急法、RICE処置	
第8回	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ	スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。	
テキスト・参考書	教科書： 大学生の健康・スポーツ科学研究会 大学生の健康・スポーツ科学 第5版 道和書院 978-4-8105-2126-9 参考書：適宜紹介する		
学修方法	必要に応じて、参考資料を配付します。 授業内課題のフィードバック：次週		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	老年学	担当教員名	河田美紀【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学習する。その為には、加齢に伴う身体・心理的变化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何か学習する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患、クレイ社を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。		
到達目標	①加齢に伴う生理・運動機能・精神心理面の変化を説明できる。 ②高齢者へのリハビリテーション医療を説明できる。 ③高齢者を取り巻く社会的背景、物理的環境を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション 高齢化と諸問題・加齢に伴う変化	老化と老年期の考え方、高齢化の進行とそれに伴う諸問題	
第2回	高齢者へのアプローチ	高齢者の定義と人口動態、高齢者の機能評価・薬物療法	
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患①	意識障害、認知症、専門、抑うつなどの概要と対応について理解する	
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患②	めまい、しびれ、言語障害、腰痛などの概要と対応について理解する	
第5回	高齢者に特徴的な症候と疾患③	転倒、尿失禁、廃用症候群などの概要と対応について理解する	
第6回	高齢者に特徴的な症候と疾患④	褥瘡、脱水、浮腫、嚥下障害などの概要と対応について理解する	
第7回	循環器疾患	血圧異常、不整脈、虚血性心疾患などの概要と対応について理解する	
第8回	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患などの概要と対応について理解する	
第9回	消化器疾患	逆流性食道炎などの概要と対応について理解する	
第10回	骨・運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靱帯骨化症などの概要と対応について理解する	
第11回	神経疾患	脳血管障害、Parkinson病などの概要と対応について理解する	
第12回	その他の疾患	糖尿病、耳鼻咽喉疾患、眼疾患などの概要と対応について理解する	
第13回	高齢者を取り巻く環境とリハビリテーション	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者リハビリテーション医療の動向	
第14回	終末期医療	高齢者の終末期医療の考え方と諸動向	
第15回	介護保険	介護保険の現状と地域包括ケアシステムの役割	
テキスト・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 STANDARD TEXTBOOK 老年学 第6版 医学書院 参考書：中村重信著 老年医学への招待 南山堂 近藤克則著 健康格差社会を生き抜く 朝日新書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教員名	江崎 正浩
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーションとは障害者の能力を回復し、人間らしい社会生活に再適合（社会復帰）するための過程であり、機能訓練はその手段の一つに過ぎない。具体的には1. 廃用の予防 2. 失われた機能の回復 3. 代償機能の獲得であり、最終的目標はADLの自立、家庭・社会生活への復帰である。本授業では脳卒中・脊髄損傷・骨折などを例にとりリハビリテーション医学について理解を深めてもらいたい。		
到達目標	毎回、講義前に教科書「リハビリテーションビジュアルブック（学研）」の指定した項目の通読・予習を期待します。授業ではスライドを使って教科書の該当する項目を講義します。試験問題は授業中に示します。提示した問題以外からは出題しません。授業を聞いてなぜこの問題はこの回答になるのかをしっかりと理解してください。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーション総論	リハビリテーションとは？各種障害の概説	
第2回	脳卒中（脳出血）の治療の流れ（症例1）	脳出血を例にとり中枢疾患のリハビリを概観する	
第3回	脳卒中とは？	脳卒中の病型 画像診断 脳卒中の一次障害（意識障害・運動障害・感覚障害）	
第4回	脳卒中（脳梗塞）の治療の流れ（症例2）	脳卒中の一次障害（摂食嚥下障害・高次脳機能障害・言語障害。排尿障害）	
第5回	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中の二次障害（廃用）急性期リハビリ・回復期リハビリ	
第6回	脊髄損傷（完全対麻痺）の治療の流れ（症例1）	脊髄損傷とは？ 脊髄損傷の病型 脊髄損傷による一次障害その1（運動障害・感覚障害・排尿障害）	
第7回	脊髄損傷（不全四肢麻痺）の治療の流れ（症例2）	脊髄損傷による一次障害その2（自律神経障害）脊髄損傷による二次障害（褥瘡）脊髄損傷のリハビリ 固縮と痙縮	
第8回	認知症（痴呆）	認知症の病型・治療・リハビリ	
第9回	ニューロリハビリテーション	21世紀の脳卒中リハビリ 麻痺が回復する？！	
第10回	骨折・外傷	骨折の治療・合併症・リハビリ 高齢者の骨粗鬆症と大腿骨頸部骨折	
第11回	整形外科疾患のリハビリ	肩関節周囲炎、腰痛症などのリハビリ	
第12回	切断と義肢	義手・義足の仕組みとリハビリ	
第13回	神経・筋の変性疾患	パーキンソン病のリハビリ 評価	
第14回	呼吸器リハビリテーション	慢性呼吸疾患の評価とリハビリ	
第15回	心臓大血管リハビリテーション	心筋梗塞・慢性心不全のリハビリ 心肺機能・持久力の評価	
テキスト・参考書	教科書：リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研メディカル秀潤社 教科書：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学 2026 医歯薬出版		
学修方法	＜予習＞テキストにて、次回の章にひととおり目を通しておくこと。＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習する。		
評価方法	定期試験（80％）受講態度（20％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員名	小澤敏夫【実務家該当教員】 酒向俊治【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学習する。		
到達目標	① リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて説明できる。 ② 関係法規と担当する保健医療福祉行政について説明できる。 ③ 障害の様相とそのリハビリテーションを説明できる。 ④ 地域リハビリテーションについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションの理念と障がい	リハビリテーションの理念とその歴史的変遷、サービス体系、障がいに対する基本的な考え方を理解する。	
第2回	リハビリテーション関連法規	障害者基本法、介護保険制度を中心に理解する。	
第3回	リハビリテーションのサービス体系	リハビリテーションサービスとは何か、福祉サービス、社会資源、社会資源について理解する。	
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、場面ごとのリハビリテーション	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、の違いを理解する。施設ごとのリハビリテーションを理解する。	
第5回	医療とリハビリテーション専門職種と役割	インフォームド・コンセント及び専門職種の役割を理解する。	
第6回	チームアプローチ	チーム医療の連携とチームアプローチの有効性について理解する。	
第7回	ADL、QOLの概念と評価法	ADLとQOLの概念と評価法（SH-36）について理解する。	
第8回	障害の心理的・社会的視点	病（障害）の心理および防御機制を理解する。	
第9回	ヒトの発達と評価（とくに小児）	小児の発達および主な小児疾患リハビリテーションを理解する。	
第10回	医療機関で行うリハビリテーション治療	急性期・がんリハビリテーションについて理解する。	
第11回	高齢化による機能障害のリハビリテーション	高齢化による機能障害のリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第12回	身体障害の様相	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害について理解する。	
第13回	身体障害のリハビリテーション	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第14回	地域におけるリハビリテーションの展開過程	地域リハビリテーションとは何か、活動に関する諸因子、支援体制について理解する。	
第15回	リハビリテーション過程	リハビリテーションにおける評価の流れを理解する。	
テキスト・参考書	教科書：リハビリテーション概論：医学生・コメディカルのための手引書 改訂第4版 永井書店 参考書：砂原茂一著 リハビリテーション 岩波書店 上田敏著 ICFの理解と活用 【KSブックレットNo.5】人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか きょうされん 中村隆一、佐直信彦編 入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療学科		
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員名	藤井 稚也【実務家該当教員】 小島 誠【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。		
到達目標	1 地域特性を把握する視点を述べられる。 2 地域特性（地域のニーズ）に応じた地域包括ケアシステムの在り方について述べられる。 3 地域包括ケアシステムのなかで医療におけるリハビリテーションの在り方および連携について説明できる。 4 生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域包括ケアシステムの概念	地域包括ケアシステムとは何か、その歴史。その中でのリハビリテーションの役割を理解する。	
第2回	健康維持と障がい予防、介護保険サービス	生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する	
第3回	退院前の多職種連携	保健医療福祉政策の過程について理解する。	
第4回	地域包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携	在宅における多職種連携について理解する。	
第5回	ケアマネジメントの概念と役割	ケアマネジメントにおける多職種の役割，連携について理解する。	
第6回	ケアマネジメントの過程を個別支援計画	ケアマネジメントの過程について理解する。	
第7回	ケアマネジメントの実際1	地域における自助と互助の強化に向けたマネジメント（個別支援計画）を理解する。	
第8回	ケアマネジメントの実際2	障がい者の地域生活に必要な生活支援を自ら考える。	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	社会福祉概論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。		
到達目標	① 社会保障制度の概念、社会保障の歴史について説明できる。 ② 児童福祉、ひとり親家庭、障がい者福祉、高齢者福祉について説明できる。 ③ 生活保護制度、地域福祉、医療保険制度の概要、精神保健福祉法の概要を説明できる。 ④ 社会福祉分野における相談・援助の役割と展開方法について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	制度から見た社会福祉	社会保障制度の中の社会福祉を理解する。	
第2回	社会保険と社会福祉	社会福祉制度をどのように活用するかを学ぶ。	
第3回	子育て支援の社会福祉	少子化、児童虐待と子育て支援を学ぶ。	
第4回	ひとり親家庭の支援	生活支援と就労支援、そして自立へ向けての支援を学ぶ。	
第5回	高齢者福祉と介護保険	福祉・介護の制度についての概念、介護保険法に関する理解を学ぶ。	
第6回	障がい者・低所得者福祉と自立支援	3障がい者・貧困世帯が活用できる社会資源を学ぶ。	
第7回	社会福祉の援助方法	福祉相談者の基本姿勢と社会資源の活用方法を学ぶ。	
第8回	社会福祉と医療・保健の連携	福祉を担う人々との連携・協働の意義と方法を学ぶ。	
テキスト・参考書	教科書：保健医療福祉職に必要な社会福祉学 丸善プラネット 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

2025年度シラバス

リハビリテーション学部
作業療法学科

専門展開科目



岐阜保健大学

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法学概論	担当教員名	原 和子・港 美雪・宇佐美知子・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業が人間の健康に寄与することを理解し、作業療法士はどのようにこれらのテーマを医療、福祉、教育などの分野で展開してきたかについて学ぶ。作業療法の対象となる「障害」についてはWHOによる障害の分類であるICFを理解し、この障害を理解、体験し、考えることによって、作業療法士としてのキャリア形成を明確化する。また、作業療法の歴史的、法的位置付け、実際の方法論などの概要について理解し、各技術論や実習を学ぶ態度を身につける。		
到達目標	1. 作業療法の歴史、作業と健康、作業療法の概要を説明できる。 2. 作業療法士に求められる専門性とは何かを考え、作業療法の理論と概要をまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回 原	オリエンテーション、作業療法の歴史	授業概要と作業療法の歴史。PBL1（作業療法の歴史を調べる）	
第2回 原	作業療法の歴史	PBL1（作業療法の歴史を発表する）	
第3回 港、大星	作業科学：作業科学とは、作業とは	誕生の背景、作業療法にとっての作業科学、作業の視点と分析、作業とは何か（自らの作業の分析を経験する）	
第4回 港、大星	作業科学：作業と健康、作業の影響力	作業と健康、主観的な経験、意味、形態（他者の作業分析を経験する）	
第5回 港、大星	作業科学：論文を解釈する	作業の問い、文献検索（作業の問いを検討する）	
第6回 港、大星	作業科学：作業療法への応用を考える	作業療法実践の説明と提案につなぐ（文献から実践の説明を経験する）	
第7回 港、大星	作業科学：作業療法との相互関連性	学問の構築、国内外の動き、作業的公正、今後の展望（可能性を検討するために意見交換する、自分の意見を発表する）	
第8回 港、大星	カナダ作業遂行プロセスモデル (Canadian Model of Occupational Performance)	作業ができるということ (Enabling Occupation)	
第9回 原	人間作業モデル (Model of Human Occupation)	作業への意志、習慣化、遂行能力作業と環境との関係	
第10回 原	人間作業モデルまとめ	PBL2 (作業遂行障害症例)	
第11回 原	感覚統合理論	発達との関係	
第12回 原	講義時に指定する	PBL3（発達障害、認知症など）演習	
第13回 原	感覚統合理論に基づいた作業療法	PBL3（発達障害、認知症など）発表	
第14回 原	作業療法の神経発達理論（片麻痺）	片麻痺の作業療法、理論と実際	
第15回 原	作業療法概論まとめ	ポートフォリオ作成、質疑応答	
テキスト・参考書	教科書： 標準作業療法学専門分野 STANDARD TEXTBOOK 作業療法学概論 第4版 医学書院 教科書： 作業療法実践の理論 原書第4版 医学書院 参考書：杉原素子 編集 作業療法概論 協同医書出版		
学修方法	各テーマについて講義及PBL（問題解決型学習）びを行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	ポートフォリオ、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（50%）、定期試験成績（50%）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	専門基礎科目で学んだ解剖学、生理学、各疾患について予習、復習を行い受講すること		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	表面解剖学	担当教員名	原 和子【実務家該当教員】 森本真太郎【実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、神経、血管は、リハビリテーション医療をすすめる上で、基本的な指標となる。リハビリテーション医学評価に関わる検査時、運動療法や作業療法時における活動の注意深い観察と触診は病的変化があるかどうか、治療の効果判断の重要な決め手となることを学ぶ。		
到達目標	①体表で触察できる運動器系筋、骨、神経の解剖学的特徴を口頭で説明できる ②摂食嚥下療法に必要な筋、器官を触察できる ③手外科、ハンドセラピーに必要な筋、骨、静脈、動脈を触察できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	触察の基本。関節、筋、腱、神経、血管	骨、関節、筋などの触れ方	
第2回	肩甲骨と周囲の骨、筋、腱、神経、血管	上肢帯における肩甲骨の役割、周囲筋	
第3回	肩甲骨と周囲の骨、筋、腱、神経、血管	肩甲骨周囲筋、特に前鋸筋	
第4回	上肢：肩関節周囲の骨、筋、腱、神経、血管	回旋筋腱版（rotatoe cuff）、上腕二頭筋を主に	
第5回	上肢：肘周囲の骨、筋、腱、神経、血管	特に前腕回内運動に関わる骨、筋	
第6回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	前腕筋群（外来筋）を主に	
第7回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	手筋（内在筋）を主に	
第8回	下肢：股関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨盤、大転子、特に中殿筋を主に	
第9回	下肢：膝関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	特に膝伸展に関連する大腿四頭筋	
第10回	下肢：足関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靱帯を主に	
第11回	下肢：足部の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靱帯を主に	
第12回	講義時に指定する	姿勢、運動との関連における視診と触察	
第13回	体幹-胸郭・脊柱関連	姿勢、運動との関連における視診と触察	
第14回	体幹-胸郭・脊柱関連	摂食嚥下、呼吸での視診と触診	
第15回	まとめ	質疑応答とポートフォリオ作成	
テキスト・参考書	教科書：新・徒手筋力検査法 原著第10版〔Web動画付〕 協同医書出版社 参考書：上羽康夫「手 その機能と解剖」金芳堂		
学修方法	各テーマについての講義と演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	小テスト、ポートフォリオ（50％）、定期試験成績（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16：00～17：00 研究室		
備考・履修条件	予習、復習をし、ポートフォリオにまとめておくこと。積極的な発言、質問を期待します。		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	基礎作業学	担当教員名	原 和子・港 美雪・宇佐美知子・森本真太郎【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法学を支えている基礎的な知識として、人間にとって「作業」とは何か、その本質と役割を理解する。作業と健康の関連性を医学、福祉学、社会学視点から確認し、さらに作業を治療として用いるための仕組みを学ぶ。作業が人間にとって環境適応として、どのような意味を持つのか、健康に寄与するためにかかせない要素はなにか、生活と個人の生涯設計を形成する作業と、作業療法という形で医療分野に位置付けられてきた過程を考える。		
到達目標	1．作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を説明できる 2．作業分類の特徴と、作業と運動生理機能・心理機能・ライフステージとの関係について説明できる 3．MTDLPについて説明できる 4．作業分析の方法について説明できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス、作業と健康概念の歴史	作業の語りと創作、自己実現とwellbeing	
第2回	音楽療法 演習	集団力学、レクリエーションの要素	
第3回	音楽療法 身体活動（ダンス、体操など）	集団力学、レクリエーションの応用	
第4回	絵画療法、グループ作業演習	集団力学、文化的背景、社会学視点の応用	
第5回	絵画療法、グループ作業演習 発表	絵画応用、演習、発表	
第6回	絵画療法、個人的な作業の意味	パステル画の体験と分析 演習	
第7回	園芸療法の目的、評価	園芸療法の領域とその内容	
第8回	園芸療法の作業療法プログラム	園芸療法の領域とその内容	
第9回	園芸療法発表	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）	
第10回	作業分析（織物）演習	織物作業の遂行評価からの分析他	
第11回	作業分析（織物）	織物作業の分析と応用	
第12回	講義時に指定する	教育的、生体力学的、精神心理学的分析とその指導	
第13回	構成的作業分析	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）	
第14回	構成的作業分析	作業における心身機能の分析	
第15回	まとめ。発表と質疑応答	問題解決課題についての発表、討議	
テキスト・参考書	教科書：標準作業療法学専門分野 STANDARD TEXTBOOK 基礎作業学 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	ポートフォリオ（50％）、発表（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	予習復習に加えて、質疑応答、活発な意見交換を期待します		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	作業療法理論	担当教員名	原 和子・港 美雪・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法を解説する理論はリハビリテーション医学の中でも臨床での実践の中にあるという立場から、健康パラダイムにおける作業療法実践の目的と意味、根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて学ぶ。人・環境・作業の関係性を交流理論形成の発展としてとらえる中で、概念的実践モデルの特性と役割について、特に現在普遍化されている作業科学、人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル、認知行動療法、感覚統合などの理論を理解する。		
到達目標	作業科学、人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル、認知行動療法、感覚統合理論などの理論を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス。人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展	健康パラダイムに至る哲学及び医学の歴史。西洋の文化と環境	
第2回	人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展	健康パラダイムの背景。東洋の文化と作業療法	
第3回	作業科学	健康を支える作業正当性、作業バランスと支援	
第4回	人間作業モデル	作業への意志、習慣、作業遂行能力の枠組みと環境の関係	
第5回	カナダ作業遂行モデル	クライアント中心の作業療法評価と計画	
第6回	認知行動療法理論	自己認知と社会適応への支援	
第7回	感覚統合療法と理論	発達支援としての感覚統合理論と評価、実践	
第8回	まとめ	質疑応答、ポートフォリオ作り	
テキスト・参考書	教科書： 作業療法実践の理論 原書第4版 医学書院 教科書： 「作業」って何だろう：作業科学入門 第2版 医歯薬出版株式会社 教科書： 作業療法がわかるCOPM・AMP S実践ガイド 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	ポートフォリオの成績（50％）、定期試験成績（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16：20～17：50 研究室		
備考・履修条件	授業中のノート、予習復習時の資料はポートフォリオとしてまとめておくこと。		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	基礎作業学演習	担当教員名	原 和子・港 美雪・宇佐美 知子・森本真太郎 田原涼馬【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法の治療手段の1つである手工芸として、革・籐細工について基本的な知識と技術を学ぶ。作業体験を通して、作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を説明できる。作業分類の特徴と運動生理学・心理機能・ライフステージとの関係から活動分析を行い、革・籐細工に必要な身体的・精神的能力を知り、作業療法としての効果について考察する。また障害別に、治療的応用、制作時の工夫（自助具など）、注意事項、禁忌事項を学習する。		
到達目標	1. 革細工、籐細工の作業分析により、作業工程に必要な身体・精神能力を説明できる 2. 革細工、籐細工の工程を体験し、疾患・障害に合わせた段階付ができる 3. 作品を作ることができ、作業療法に必要な制作時の環境設定（自助具を含む）について説明できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス。革細工・籐細工の治療概念	生体力学的、認知行動療法的、発達障害、ライフスタイル枠組み	
第2回	革細工：段階づけ、評価、適応	マズローの欲求段階と革細工例、認知評価、作業評価	
第3回	革細工：道具と材料、実施過程の体験	道具と革材料の選択、スタンピング	
第4回	革細工：基本技法	染色、レーシング、金具の取り付け	
第5回	革細工：基本技法	カービング、レーシング、金具の取り付け	
第6回	革細工の作業分析	制作過程における精神状態、運動、コミュニケーション	
第7回	革細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL1、身体障害、精神疾患、発達障害例。グループ活動	
第8回	革細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL1、身体障害、精神疾患、発達障害例。発表	
第9回	籐細工：段階づけ、評価、適応、道具と材料	材料の特質と選択、認知評価、作業評価	
第10回	籐細工：基本技法	小物入れかごの制作、底を組む	
第11回	籐細工：基本技法	小物入れかごの制作、ザル編みと縁どめ	
第12回	講義時に指定する	PBL2、身体障害、精神疾患、発達障害例。グループ活動	
第13回	籐細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL2、身体障害、精神疾患、発達障害例。発表	
第14回	革細工、籐細工の作業療法マニュアル作り	グループ活動	
第15回	革細工、籐細工の作業療法マニュアル作り	発表	
テキスト・参考書	Heart Warming Life Series 革の技法：思い通りに作れるアイデア満載レザークラフトのロング増補改訂版 日本ヴォーグ社 籐かご教室「紡ぎ」の 籐編みのかご 朝日新聞出版 標準作業療法学専門分野：作業療法概論 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについて演習及PBL（問題解決型学習）を行う。演習には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	作品発表とレポート（50％）、ポートフォリオ（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	活発な討論、質疑応答、作品制作を期待しています		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法研究概論	担当教員名	原 和子
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法のリハビリテーション医療としての根拠を支えている研究法の種類、研究テーマの決定、方法論の作成、データの処理方法などを学ぶことを通して、科学的研究法とは何かを学ぶ。作業療法は臨床の科学であるゆえに実際に臨床研究を行うにあたり、その手法や論文の書き方、プレゼンテーションの技法についての事前学習の位置付けとする。作業療法士として必要な生涯学習や後進の育成について、養成教育、国家試験の出題基準、参加型臨床実習、臨床教育の方法を学ぶ。		
到達目標	1. 作業療法で用いられる研究の類型を口頭で述べるができる 2. 研究倫理を説明できる 3. 作業療法研究の計画書モデルを作ることができる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、研究の類型	基礎研究、応用研究、開発研究、定性的研究、定量的研究	
第2回	研究の倫理	生命倫理、医療倫理、研究公正、科学における不正行為、	
第3回	研究疑問の見つけ方、仮説の構築	予備調査、予備実験、先行研究のレビュー、調査	
第4回	論文の構成	研究の背景、目的、方法、結果、考察、課題、結論、文献	
第5回	文献検索と文献レビュー	講義、演習	
第6回	文献の選択	講義、演習。文献を紹介する。	
第7回	研究計画書の作成	講義、演習	
第8回	研究計画書の作成	発表	
テキスト・参考書	教科書：標準作業療法学専門分野 STANDARD TEXTBOOK 作業療法研究法 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義と演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	発表（20％）作業療法研究計画書モデルの提出（80％）		
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	講義の復習を必ず行い、演習は積極的に行動すること		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法教育学	担当教員名	原 和子・森本真太郎
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法の実施にあたって、教育学の知識と技術は欠かせない。臨床での応用に加えて、作業療法士として必要な生涯学習や後進の育成について、養成教育、国家試験の出題基準、参加型臨床実習、臨床教育の方法を学ぶ。教育の歴史、教育に関わる様々な思想、それらの実践例をとおして、教育の哲学、制度、教育の目的と使命についてその概要を理解する。特に19世紀以降の公教育制度の構築と展開に焦点をあてて、現代社会における作業療法「教育」の意味を考える。		
到達目標	1. 教育分野での作業療法の課題について説明できる 2. 教育分野での作業療法の実例をあげることができる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	教育学の歴史：西洋	対話法（ソクラテス）、倫理学（プラトン）、弁証論（アリストテレス）	
第2回	教育学の歴史：西洋（中世～近世）	宗教教育、実学主義（ベーコン、ラトケ、コメニウス）、	
第3回	教育学の歴史：西洋（市民革命～）	人間悟性論、主観的自然主義（ルソー）、フレーベル、ペスタロッチ、	
第4回	教育学の歴史：西洋（新教育運動）	作業の意味と活動の利用（ケルシエンシュタイナー、デューイ、モンテッソーリ）	
第5回	教育学の歴史：東洋（古代）	道教（老子）	
第6回	教育学の歴史：東洋（紀元前）	儒教（孔子、孟子）	
第7回	現在の教育に関する課題	特別支援教育、いじめ等の問題行動、フリーター・ニート	
第8回	作業療法と教育	職業教育、キャリア教育、教育機関・地域との連携	
テキスト・参考書	プリントを配布する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	発表、レポート（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	プリントによる予習と、講義の復習を必ず行うこと		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法管理学	担当教員名	澤 俊二
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法の理念、倫理、歴史、医療人としての人間像を追求する視点から作業療法管理学を考える。社会が療法士に何を期待しているのか、また、医学的リハビリテーションの中で果たすべき役割を自覚し、リハビリテーションに関与する他の職種、職域を理解しリハビリテーションチームの円滑な運営方法について学ぶ。さらに、臨床におけるリスク管理について理解するとともに、病院、施設の組織及び作業療法施設基準、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬等を含む、作業療法部門の運営について学ぶ。		
到達目標	1. 作業療法の実施と対価を説明できる 2. 診療記録と書類管理について説明できる 3. 他職種との業務調整について説明できる 4. 作業療法機器の保安点検・安全管理、作業療法室の環境管理について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	管理運営に関わる法律、倫理	個人情報の保護、インフォームドコンセント、リスクマネジメント	
第2回	作業療法の実施と対価	診療報酬・介護報酬など	
第3回	診療記録と書類管理	電子カルテなどを含む	
第4回	他職種との業務調整	処方内容の確認、申し送り	
第5回	作業療法の実施に関わる会議	会議の目的、役割、内容	
第6回	作業療法機器の管理	保安点検・安全管理、感染症対策	
第7回	作業療法機器の配置計画	職場環境デザイン	
第8回	人事考課、労務管理	職員採用・昇格審査、勤務時間・休暇管理	
テキスト・参考書	教科書：作業療法管理学入門 第3版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	テキストによる予習と、講義の復習を必ず行うこと		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価概論	担当教員名	澤 俊二・藤井 稚也・宇佐美美知子 森本真太郎【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法における評価の位置付けとその具体的な内容について講義する。作業療法評価の位置付けとしては、評価は障害の原因を探るためのデータ収集であり、個々の評価結果のみで判断し得るものではないことを強調し、問題点や目標設定との関連性も含めた統合と解釈の重要性を学ぶ。具体的な内容としては、作業療法評価の概要・目的・測定機器の使用方法・流れについて論じ、問診、観察、バイタルサイン、形態測定、神経学系測定、運動機能評価、呼吸・循環・代謝機能評価、高次脳機能評価等を学び、その内容を理解する。		
到達目標	①評価の流れ、手段について理解する。 ②面接・観察法について理解する。 ③各評価・検査項目について、概要、目的、測定機器、記録方法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	評価とは	守秘義務、評価の位置づけ・流れ・注意点を理解する	
第2回	他部門との関わりと情報収集	評価するための情報収集について理解する	
第3回	面接	面接の基本的な進め方、形式の分類、留意点等を学ぶ	
第4回	観察①	定義と意義、観察の種類、全身状態の観察等を学ぶ	
第5回	観察②	行動観察法、集団評価、日常生活技能評価等を学ぶ	
第6回	バイタルサイン	意識・脈拍・血圧・呼吸・spO2の評価方法を理解する	
第7回	形態測定	四肢長・周径の検査方法を理解する	
第8回	反射検査・筋緊張検査	反射・筋緊張の仕組みと検査の概要を理解する	
第9回	関節可動域検査・筋力検査	関節の仕組みを学び可動の阻害因子を抽出する筋力の概念と検査の概要を理解する	
第10回	知覚検査・疼痛検査	知覚の仕組みと検査、痛みの検査の概要を理解する	
第11回	姿勢反射検査	姿勢反射の仕組みと検査の概要を理解する	
第12回	講義時に指定する	協調運動の概念、脳神経の働きと検査の概要を理解する	
第13回	呼吸・循環・代謝機能評価	運動耐用能力と検査の概要を理解する	
第14回	高次脳機能評価	高次脳機能検査の概要を理解する	
第15回	評価の解釈、再評価と効果判定、記録・報告	問題点の抽出、目標設定、治療効果と質的保証について学ぶ	
テキスト・参考書	教科書：標準作業療法学専門分野 STANDARD TEXTBOOK 作業療法評価学 第4版 医学書院 教科書：作業で語る事例報告-作業療法レジメの書きかた・考えかた- 第2版 医学書院 参考書：石川齊編 図解 作業療法技術ガイド 第3版 文光堂 山根寛 精神障害と作業療法 新版 三輪書店 鈴木則宏 編 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する解剖・生理・運動学の講義の復習を行こと。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価検査・測定論Ⅰ	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子・藤井 稚也 森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士が病院・施設等で支援を展開するためには、対象者を専門的に評価し、問題点を明らかにする必要がある。その上で、人体の各機能における標準値との比較、左右の比較等、正常値と異常値の判別、更には問題点の焦点化に向けた科学的根拠に基づく論理的考察が重要となる。本講義では、医療系専門職の共通評価であるバイタル測定をはじめ、作業療法士に必要な関節可動域測定、徒手筋力テスト、機器を使用した筋力測定、反射、筋緊張検査の知識と技能を学修する。		
到達目標	①各種評価の目的と手順について説明できる。 ②各種評価を実施するための技術を習得する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	バイタル測定	脈拍・血圧・呼吸・SpO2の測定方法を学ぶ。	
第2回	形態測定	長さ、太さの計測方法、体格指数の測定方法を学ぶ。	
第3回	腱反射・病的反射・表在反射②	各種反射の検査方法を学ぶ。	
第4回	筋緊張検査	被動性、懸振性による検査方法を学ぶ。	
第5回	関節可動域①	頸部、体幹、肩甲帯の測定方法を学ぶ。	
第6回	関節可動域②	肩関節の測定方法を学ぶ。	
第7回	関節可動域③	肘関節、前腕、手関節、手指の測定方法を学ぶ。	
第8回	関節可動域④	股関節の測定方法を学ぶ	
第9回	関節可動域⑤	膝関節、足関節、足部の測定方法を学ぶ。	
第10回	機器を使用した筋力測定 徒手筋力テスト①	握力・ピンチ力・足趾力・ハンドヘルド等の測定方法を学ぶ。 頭頸部・体幹筋の測定方法を学ぶ。	
第11回	徒手筋力テスト②	肩甲帯周囲の筋の測定方法を学ぶ。	
第12回	講義時に指定する	肩関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。	
第13回	徒手筋力テスト④	肘・手関節の周囲の筋の測定方法を学ぶ。	
第14回	徒手筋力テスト⑤	股関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。	
第15回	徒手筋力テスト⑥	膝・足関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。	
テキスト・参考書	教科書：新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 協同医書出版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版 南山堂 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院 参考書：石川齊編 図解 作業療法技術ガイド 第3版 文光堂 鈴木則宏 編 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習として、次講義の内容についてテキストまたは資料を読み込むこと。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価検査・測定論Ⅱ	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子・藤井 稚也 森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	心身機能に関する作業療法評価において各種検査項目の検査内容や評価結果の分析、記録・報告の方法を理解する。基本的な実施方法や手順の倫理的根拠を学び、実技に関連した知識・技術を習得する。また、評価方法だけでなく作業療法士として必要な態度や姿勢についても必要性和意味を考え、実践に結びつけるように理解を深める。具体的には、脳卒中機能評価、知覚検査、脳神経検査、協調性検査、姿勢バランス検査、上肢機能検査、作業遂行機能検査、精神機能検査、QOL評価、職業前評価各検査について必要な知識・技術を習得する。		
到達目標	①各種評価の目的と手順について説明できる。 ②各種評価を実施するための技術を理解し、習得できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	知覚検査①	「表在感覚」の検査方法を理解する。	
第2回	知覚検査②	「深部感覚」の検査方法を理解する。	
第3回	姿勢バランス検査	姿勢バランス検査の検査方法を理解する。	
第4回	脳神経検査①	脳神経検査の検査方法を理解する。	
第5回	脳神経検査②	脳神経検査の検査方法を理解する。	
第6回	協調性検査	協調性検査の検査方法を理解する。	
第7回	脳卒中機能評価	BRS、SIAS、JSS等について学ぶ。	
第8回	上肢機能検査①	STEF、MFTについて学ぶ。	
第9回	上肢機能検査②	整形外科系疾患検査の検査方法を理解する。	
第10回	上肢機能検査③	整形外科系疾患検査の検査方法を理解する。	
第11回	画像のみかた	画像所見と症状を関連付ける。	
第12回	講義時に指定する	箱作り法、包括的作業分析について学ぶ。	
第13回	精神機能評価	質問紙法、投影法について学ぶ。	
第14回	QOL評価	QOLの評価項目について概要を学ぶ。	
第15回	職業前評価	職業前評価の検査方法を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 協同医書出版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版 南山堂 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院 参考書：石川齊編 図解 作業療法技術ガイド 第3版 文光堂 鈴木則宏 編 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習として、各講義で該当する箇所をしっかりと理解し、講義に参加すること。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価検査・測定演習	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子・藤井 稚也 森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	各種疾患特有の評価に必要な知識・技術の修得をはかるために、作業療法評価検査・測定論にて学んだ評価過程について検査を実践し、その結果をまとめるまでの演習を行う。疾患を想定した評価シミュレーションとフィードバックを行い各検査、測定を的確に行えるよう技術を身につける。検査、測定を実践する際は、患者役と評価者役は学生間で交替して行う。また、各疾患における評価の視点を学び、適切な評価項目を選択実施できるよう技術を身につける。		
到達目標	①疾患に対する評価項目を挙げ、的確に評価が施行できる。 ②検査結果を記録することができる。 ③疾患の特徴を捉え、模擬患者として実演できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	感覚①	中枢神経疾患に対する感覚評価の実技を学ぶ。	
第2回	感覚②	整形疾患に対する感覚評価の実技を学ぶ。	
第3回	関節可動域測定	中枢神経疾患に対する関節可動域の実技を学ぶ。	
第4回	関節可動域測定	整形疾患に対する関節可動域の実技を学ぶ。	
第5回	筋力検査法	各種筋力検査法の実技を学ぶ。	
第6回	反射・筋緊張・脳神経	中枢神経系疾患に対する反射・筋緊張検査・脳神経の実技を学ぶ。	
第7回	姿勢・バランス・協調性	中枢神経系疾患に対する姿勢・バランス検査、小脳性の失調に対する協調性検査の実技を学ぶ。	
第8回	画像のみかた①	脳血管系疾患別の画像検査の特徴を学ぶ。	
第9回	画像のみかた②	整形外科系疾患別の画像検査の特徴を知る。	
第10回	高次脳機能検査	失行に対する検査の実技を学ぶ。	
第11回	高次脳機能検査	失語・失認の検査の実技を学ぶ。	
第12回	高次脳機能検査	注意・遂行機能障害に対する検査の実技を学ぶ。	
第13回	高次脳機能検査	半側空間無視に対する検査の実技を学ぶ。	
第14回	高次脳機能検査	記憶検査の実技を学ぶ。	
第15回	高次脳機能検査	認知症検査の実技を学ぶ。	
テキスト・参考書	教科書：作業療法評価学 第4版 医学書院 新・徒手筋力検査法 [Web動画付] 原著第10版 協同医書出版社 ベッドサイドの神経の診かた 改定第18版 南山堂 参考書：田中眞由美 他：知覚をみる いかす 手の知覚再教育 協同医書出版 鈴木則宏 編 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版 メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについての演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う課題提出（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	作業療法評価検査測定論の内容についてテキストまたは資料を読み込むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価演習	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子・藤井 稚也 森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	脳神経外科疾患や神経内科疾患、整形外科疾患、精神疾患などの症例を設定し、それに対する作業療法評価を演習形式で学習する。疾患にあった評価項目の抽出や評価から得られた結果をもとに統合と解釈を行い問題点、ゴールを挙げ、作業療法の治療・訓練場面へ結び付ける考え方を習得する。また、臨床事例を示し、具体的に作業療法評価としての症例検討を行う。さらに精神科病院で1日評価体験を行い、精神科患者との面接・行動観察を経験し、会話録を作成する。		
到達目標	①疾患に合わせた評価項目を列挙することができる。 ②検査結果より、問題点ゴール、治療プログラムを答える事ができる。 ③患者との会話を会話録として作成し、考察することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	脳血管障害①	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する	
第2回	脳血管障害②	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する	
第3回	脳血管障害③	評価計画に従った評価の実施と結果のまとめ	
第4回	脳血管障害④	評価計画に従った評価の実施と結果のまとめ	
第5回	脳血管障害⑤	評価計画に従った評価の実施と結果のまとめ	
第6回	脳血管障害⑥	評価計画に従った評価の実施と結果のまとめ	
第7回	脳血管障害⑦	評価計画に従った評価の実施と結果のまとめ	
第8回	脳血管障害⑧	症例の評価結果より問題点をグループ討議する	
第9回	脳血管障害⑨	症例の評価結果より問題点をグループ討議する	
第10回	脳血管障害⑩	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する	
第11回	脳血管障害⑪	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する	
第12回	骨・関節障害①	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する	
第13回	骨・関節障害②	症例の評価結果より問題点をグループ討議する	
第14回	骨・関節障害③	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する	
第15回	脊髄損傷①	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する	
第16回	脊髄損傷②	症例の評価結果より問題点をグループ討議する	
第17回	脊髄損傷③	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する	
第18回	難病①	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する	
第19回	難病②	症例の評価結果より問題点をグループ討議する	

第20回	難病③	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する
第21回	認知症①	症例より評価項目の取捨とその理由をグループ討議する
第22回	認知症②	症例の評価結果より問題点をグループ討議する
第23回	認知症③	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する
第24回	面接・行動観察①	精神疾患の評価（観察と会話）
第25回	面接・行動観察②	作業面接（箱作り）を行う
第26回	面接・行動観察③	箱作りの評価結果から問題点を討議する
第27回	統合失調症①	症例の評価結果より問題点をグループ討議する
第28回	統合失調症②	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する
第29回	気分障害①	症例の評価結果より問題点をグループ討議する
第30回	気分障害②	症例の問題点よりゴール・プログラムをグループ討議する
テキスト・参考書	齋藤佑樹 作業で語る事例報告-作業療法レジメの書きかた・考えかた- 第2版 医学書院 能登真一 作業療法評価学 第4版 医学書院 田崎義昭ら ベッドサイドの神経の診かた 改定第18版 南山堂 参考書：標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院	
学修方法	各テーマについての講義グループワークを行う。 講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	レポート（100%）	
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室	
備考・履修条件	専門基礎科目で学んだ各疾患について復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	日常生活活動学	担当教員名	澤 俊二・宇佐美知子・藤井稚也 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	日常生活活動の意義やその評価方法について学び、評価の目的、判定、記録方法についての知識を得る。また、日常生活活動の分析を行い、心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め、活動に与える影響を学ぶ。さらに、対象者の動作や活動の特性を理解するために、健常人の日常生活動作を理解する。また、自助具、福祉用具の種類や適応となる疾患、導入時の注意点、生活環境整備などについて理解を深めることができる。		
到達目標	①日常生活動作の概念や説明できる。 ②評価の種類や方法について説明できる。 ③日常生活動作への作業療法の介入方法について概略を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	日常生活活動の概念	定義、日常生活活動の範囲と項目を学ぶ	
第2回	日常生活活動別の問題点と援助の視点①	身辺処理（食事、排泄、起居・移動）について学ぶ	
第3回	日常生活活動別の問題点と援助の視点②	身辺処理（更衣、整容、入浴、コミュニケーション、健康管理）について学ぶ	
第4回	日常生活活動別の問題点と援助の視点③	家庭生活・日常生活関連活動、社会活動について学ぶ	
第5回	日常生活活動の評価①	日常生活活動の障害・自立、評価の過程・解釈・目標設定を理解する	
第6回	日常生活活動評価の実際①	基本的ADL評価を学ぶ	
第7回	日常生活活動評価の実際②-1	Functional independence measureの採点方法を理解する	
第8回	日常生活活動評価の実際②-2	Functional independence measureの採点方法を理解する	
第9回	日常生活活動評価の実際②-3	Functional independence measureの採点方法を理解する	
第10回	日常生活活動評価の実際③	Barthel indexの採点方法を理解する	
第11回	日常生活活動評価の実際④	広域ADLの評価を学ぶ	
第12回	講義時に指定する	健康関連QOLの評価を学ぶ	
第13回	日常生活活動制限に対する作業療法援助	援助、効果判定、フォローアップについて理解する。	
第14回	移動と補装具①	歩行補装具について、体験を通して理解する	
第15回	移動と補装具②	車いすについて、体験を通して理解する	
テキスト・参考書	教科書： 濱口 豊太 日常生活活動・社会生活行為学 第2版 医学書院 参考書：酒井ひとみ編 作業療法学全書 改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 協同医書出版 伊藤利之 他監修 ADLとその周辺―評価・指導・介護の実際 第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	自分たちの日常生活動作を意識して生活する。 障害を抱える人の生活がイメージできるようになるため各疾患の特徴を復習する。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	日常生活活動演習	担当教員名	澤 俊二・港 美雪・宇佐美知子・藤井稚也 森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	日常生活活動学の講義内容を踏まえた上で、日常生活動作におけるバイオメカニズムを理解する。そのため、運動学で学修した重心と支持基底面、てこの知識を動作分析に応用し、理解することから始める。また、それらの基本的な各動作を演習形式で体感し、動作分析の理解を深める。動作は健康人の基本を学び、障害者の福祉用具や日常生活活動(ADL)の具体的な指導法、介助法について学修し、介助者・対象者にとって理想的な介助法を実技を通して学修する。また、在宅における生活やケアの実際についても学修する。		
到達目標	日常生活活動学で学修した事柄を、実技等で動作に活かすことができる。また、代表的な疾患の特異的な動作を動作分析という視点に立って説明と指導ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ADLにおけるバイオメカニズム	重心の変位、速度、加速度を抽出する	
第2回	寝返り、起き上がり①	パターンの抽出とバイオメカニズム	
第3回	寝返り、起き上がり②	動作分析と作図	
第4回	立ち上がり・着座①	足の位置の違いによるパターンの抽出とバイオメカニズム	
第5回	立ち上がり・着座②	動作分析と作図	
第6回	移乗①	移乗の知識（具体的な介助方法の抽出）を深める	
第7回	移乗②	移乗を実際に行い、移乗に必要な自らの動作を抽出する	
第8回	日常生活活動別の動作観察と支援案①	身辺処理（食事）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第9回	日常生活活動別の動作観察と支援案②	身辺処理（整容）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第10回	日常生活活動別の動作観察と支援案③	身辺処理（更衣）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第11回	日常生活活動別の動作観察と支援案④	身辺処理（排泄）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第12回	講義時に指定する	身辺処理（入浴）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第13回	家庭生活・日常生活関連活動の動作観察と支援案①	炊事・調理の動作観察、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第14回	家庭生活・日常生活関連活動の動作観察と支援案②	洗濯・掃除の動作観察と、障害にあわせた福祉用具や自助具と環境整備の理解。	
第15回	その他日常生活	外出、生活管理、趣味、就労	
テキスト・参考書	教科書：日常生活活動・社会生活行為学 第2版 医学書院 教科書：PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編【Web動画付き】 第2版 金原出版 教科書：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド 医学書院 参考書：濱口豊太編 標準作業療法学日常生活活動・社会生活行為学 医学書院 酒井ひとみ編 作業療法学全書 改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動 協同医書出版 伊藤利之 他監修 ADLとその周辺―評価・指導・介護の実際 第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使い、講義と実技を行う。		
評価方法	レポート（100%）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	運動学の当箇所の予習と、授業後はその日のポイントを復習すること		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	義肢装具学	担当教員名	原 和子・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	本講義では義肢・装具・スプリント、それぞれの定義、歴史、基本的な構造、種類と使用目的、適用と断端管理等の知識の習得をする。特に、作業療法士として取り扱う上肢の義手においては、多様なパーツの名称、役割、調整を知り、それらのチェックアウトについて学修する。さらに、義肢装着者の日常生活における補助としての義肢の機能を理解し、義肢の機能としての限界を学び、作業療法士として支援できる範囲を学ぶ。また、義肢装具士の提供する装具と作業療法士の提供する装具の意義について学ぶ。		
到達目標	①義肢装具の目的・構造の概略を説明できる。②義肢装具の適合判定項目を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス 装具概論	上肢装具を中心に目的、分類	
第2回	上肢装具、疾患と適応	腕神経叢損傷、PBL1	
第3回	肩装具、肘装具 構造と機能	腕神経叢損傷、 PBL1 発表	
第4回	上肢装具、疾患と適応	末梢神経損傷、PBL2	
第5回	上肢装具、疾患と適応	末梢神経損傷、PBL2 発表 手部義手・前腕義手・筋電義手	
第6回	上肢装具、疾患と適応	頸髄損傷、関節リウマチ、熱傷、片麻痺	
第7回	体幹装具、疾患と適応	目的、分類 PBL3	
第8回	体幹装具、疾患と適応	PBL3 発表	
第9回	下肢装具、疾患と適応	目的、分類、評価と訓練、足底装具、靴型装具を含む	
第10回	上肢義手総論	上肢義手の種類、チェックポイント	
第11回	前腕切断の作業療法	評価と訓練。筋電義手を含む	
第12回	講義時に指定する	評価と訓練	
第13回	下肢切断と義足	目的、分類、PBL4	
第14回	下肢切断と義足	作業療法、PBL4 発表	
第15回	まとめ、ポートフォリオ提出	ポートフォリオ	
テキスト・参考書	教科書： 日本整形外科学会、日本リハビリテーション学会監修 義肢装具のチェックポイント 第9版 医学書院 教科書： 山口昇・他編 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 参考書：「装具作業療法学入門」 原 和子 パシフィックサプライ、1987		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを配布する。		
評価方法	定期試験（50％）・発表及びポートフォリオ（50％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	テキスト該当箇所の予習と授業後にその日のポイントの復習		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	装具製作演習	担当教員名	原 和子・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	1。疾患ごとのスプリント・自助具の目的と適応について説明ができる。 2。熱可塑性プラスチックを主とするスプリント素材、ストラップ用素材、製作道具の扱い方を実習にて学ぶ。 3。作業療法場面で良く用いるスプリントの製作のための評価、採型、採寸からフィッティング、修正までの製作手順および仮合わせ、仕上げ、再評価までの流れを実習にて学ぶ。 4。実際の義肢装具士からも装具の作製の機会を設け、義肢装具士の作製する装具の理解を深める。		
到達目標	代表的なスプリントの作成方法の説明ができ、作成ができる。得られた失敗を記録し、それを作成にいかせていけるよう経験を整理できる。他者の手を借りてスプリントを製作し、自他ともに作成を確認し合えることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	手の疾患①	装具が必要な手の疾患について学ぶ（骨折・拘縮）。スプリント製作に必要な材料、器具、禁忌事項を抽出する	
第2回	掌側カックアップ①	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第3回	掌側カックアップ②	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第4回	背側カックアップ①	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第5回	背側カックアップ②	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第6回	短対立スプリント①	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第7回	短対立スプリント②	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第8回	アウトリガースプリント①	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第9回	アウトリガースプリント②	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第10回	サムスパイカスプリント①	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第11回	サムスパイカスプリント②	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第12回	ジョイントジャック、スタックSP、八の字SP	説明（作り方や注意点を知る） 作成する	
第13回	ジョイントジャック、スタックSP、八の字SP	作成の続きをし、フィッティング、チェックアウトをする	
第14回	体験実習①	義肢装具士による装具体験実習をする（座学）	
第15回	体験実習②	義肢装具士による装具体験実習をする（短下肢装具作成）	
テキスト・参考書	教科書： 山口昇・他編 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 能登真一・他編 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義と実技（作成）を行う。		
評価方法	レポート（100%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	予習：リハビリテーション義肢装具学テキストの該当箇所、復習：作成における失敗・方法・手順をその日のうちにまとめておくこと		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション関連機器	担当教員名	澤 俊二【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体の構造と機能を工学的観点から捉えることにより得られた結果は、作業療法における評価、治療に役立てる手法であることを学ぶ。また、個々が生活する環境を把握しそれぞれの社会における生活支援を柔軟に対応できる手法を理解する。近年重要性を増しているさまざまなリハビリテーション機器とその使用方法について紹介し、あわせてリハビリテーション機器の現状と問題点についても解説する。さらに様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた具体的方策について、その立案および提案方法を実践するためリハビリテーションの現場で用いられている簡単なリハビリテーション機器の制作方法について理解を深める。		
到達目標	リハビリテーション関連機器の概念を理解する。 加齢に伴う心身機能の低下、或いは疾病や障がいの状況を踏まえたリハビリテーション機器の提案ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス リハビリテーション関連機器の概念	授業全体の内容や日程の概説 なぜリハビリテーション関連機器を学ぶのか 理学療法士がリハビリテーション関連機器において果たす役割	
第2回	移動機器	車椅子、杖、歩行器、リフト、福祉車両等	
第3回	ベッド等寝室関連機器	ベッド、マットレス、床ずれ防止製品、サイドテーブル、シーツなど	
第4回	入浴関連機器	浴槽、入浴用チェア、滑り止め用品、浴槽台、リフトなど	
第5回	コミュニケーション・見守り関連機器	補聴器、緊急通報・見守り装置、PC・携帯電話関連機器	
第6回	トイレ関連機器	ポータブルトイレ、便座便器、オムツ用品など	
第7回	日常生活支援機器	福祉用具、スポーツレクリエーション機器など	
第8回	福祉用具（自助具）の作成立案	個別障害（RA）を仮定しリーチャーを作成立案する	
テキスト・参考書	教科書：玉垣努他 福祉用具・住環境整備の作業療法。 中央法規出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	作業と心身機能	担当教員名	澤 俊二・宇佐美知子・田原涼馬 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	作業遂行は、人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々に変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、生活行為の動作を例示し分析を行う。作業療法治療の基礎となるテコ、関節モーメント、重心と支持基底面などの生体力学と作業の関係を示しながら講義を展開する。さらに人の行動は環境の刺激を手がかりにしており、その結果環境からさまざまな応答を受け取りながら生活している。そのため人が行動（作業）をどのように学習するのか講義する。		
到達目標	①作業時に働く力と作用について説明できる。 ②作業時の筋活動と関節運動について説明できる。 ③運動の作業療法への応用について説明できる。 ④作業の学習や自発的・継続的な作業、行動の学習について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	作業時に働く力と作用①	力とは、動作と相互に作用する力	
第2回	作業時に働く力と作用②	日常生活活動で使う用具と力	
第3回	作業時に働く力と作用③	支持基底面と重心	
第4回	作業時の筋活動と関節運動①	骨格筋の構造と筋出力のメカニズム、日常生活に必要な筋収縮様式と筋力	
第5回	作業時の筋活動と関節運動②	日常生活で生じる関節運動パターン	
第6回	運動の作業療法への応用①	姿勢保持の方法	
第7回	運動の作業療法への応用②	重心と体幹の運動の観察	
第8回	運動の作業療法への応用③	立ち上がり動作	
第9回	運動の作業療法への応用④	立ち上がり動作の観察	
第10回	運動の作業療法への応用⑤	リーチ動作と把握	
第11回	運動の作業療法への応用⑥	リーチ動作の観察	
第12回	講義時に指定する	オペラントの条件づけ、レスポナント条件づけ	
第13回	作業を学習するための理論② 作業を自発的に行い、継続するための理論①	行動学習、行動とは	
第14回	作業を自発的に行い、継続するための理論②	先行刺激、後続刺激	
第15回	行動学習の方法	分化強化、人間の行動ルール、望ましい行動のスケジュール	
テキスト・参考書	教科書：濱口豊太編 標準作業療法学専門分野：基礎作業学 第3版 医学書院 参考書：中村隆一他著 基礎運動学 第6版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、レポート（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する解剖・生理・運動学等の講義の復習を行こと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療学科		
授業科目名	作業と神経生理	担当教員名	澤俊二・田原涼馬 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	作業遂行は人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々に変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、随意運動の制御、運動における呼吸・循環系の役割について学習する。作業に不可欠な到達動作や把握運動を通して、運動プログラム、フィードバックと運動制御、姿勢調節などの神経生理と作業の関係を示しながら講義を展開する。最終講義では、事例を示しながら作業療法治療の実際も学んでいく。		
到達目標	①運動における呼吸・循環系の役割について説明できる。 ②随意運動の制御について説明できる。 ③作業とニューロリハビリテーションについて理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動における循環器・呼吸器系の役割①	運動時の循環器系変化のメカニズム	
第2回	運動における循環器・呼吸器系の役割②	運動時の呼吸器系変化のメカニズム	
第3回	作業と生体機能変化①	作業による神経生理学的変化	
第4回	作業と生体機能変化②	作業による自律神経機能変化	
第5回	随意運動制御①	随意動作発現のメカニズム	
第6回	随意運動制御②	運動学習の神経メカニズム	
第7回	随意運動制御③	神経可塑性変化のメカニズム	
第8回	随意運動制御④	作業における運動制御 到達動作・把握運動	
第9回	作業とニューロリハビリテーション①	作業と神経生理学的アプローチとの関連性	
第10回	作業とニューロリハビリテーション②	非侵襲的中枢神経機能検査法PET・MRI等	
第11回	作業とニューロリハビリテーション③	非侵襲的中枢神経機能検査法EEG・NIRS等	
第12回	講義時に指定する	運動イメージとブレイン・マシン・インターフェース	
第13回	作業とニューロリハビリテーション⑤	学習と学習された不使用	
第14回	作業とニューロリハビリテーション⑥	非侵襲的脳刺激を併用したニューロリハビリテーション	
第15回	作業と神経生理 応用事例	神経生理を作業療法に応用した事例紹介	
テキスト・参考書	教科書：濱口豊太編 標準作業療法学専門分野：基礎作業学 第3版 医学書院 参考書：生理学で使用する教科書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、レポート（80％）		
オフィスアワー	火曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する解剖・生理・運動学等の講義の復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	中枢神経系作業療法学Ⅰ	担当教員名	澤 俊二【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士が病院等で担当する対象者の多くは脳卒中や脳外傷をはじめとする中枢神経系障害を患った方である。対象者のリハビリテーションを展開する上では、これらの疾患の病態と障害像を理解にはじまり、心身機能・身体構造的側面、活動的側面、参加的側面、環境因子といった人と環境の包括的評価が重要である。そして、その後の具体的支援方法に関しては日々進歩する医療の現状と科学的根拠を知り、それを適宜引き出す力が必要となる。本講義では、中枢神経系作業療法演習の前段階として位置づけ、中枢神経系の基本的な解剖生理の理解から始まり、作業療法が実施する評価、治療アプローチまでの知識を学修する。		
到達目標	①中枢神経系の疾患について理解する。 ②適切な評価項目を選定できる。 ③予後予測から作業療法プログラムへの応用力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	脳卒中の病態整理①	基本的な脳の機能と脳卒中の病態を学習する。	
第2回	脳卒中の病態整理②	ICFに基づく脳卒中の障害像と作業療法士の役割を学習する。	
第3回	脳卒中における作業療法①	急性期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。	
第4回	脳卒中における作業療法②	回復期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。	
第5回	脳卒中における作業療法③	維持期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。	
第6回	脳卒中における作業療法④	支援に関わる根拠と予後予測の考え方を学習する。	
第7回	回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の実践①	上肢麻痺、高次脳機能障害に対する支援と体験学習	
第8回	回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の実践②	日常生活、自動車運転再開に対する支援と体験学習	
第9回	高次脳機能障害と作業療法①	失認の病態とリハビリテーション理論を学習する。	
第10回	高次脳機能障害と作業療法②	失行の病態とリハビリテーション理論を学習する。	
第11回	高次脳機能障害と作業療法③	失語の病態とリハビリテーション理論を学習する。	
第12回	講義時に指定する	その他の高次脳機能障害の病態とリハビリテーション理論を学習する。	
第13回	脳外傷の病態生理	脳外傷について種類と原因から障害像を理解する。	
第14回	脳外傷の作業療法①	急性期の役割を学び、その評価とアプローチを学習する。	
第15回	脳外傷の作業療法②	回復期の役割を学び、その評価とアプローチを学習する。	
テキスト・参考書	教科書： 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院 教科書： 高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版 参考書： 正門由久・高木誠 編著：脳卒中基礎知識から最新リハビリテーションまで、医歯薬出版、2019		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	予習：次講義の内容についてテキストを読み込むこと。復習：講義の内容を各自でノートにまとめながら復習すること。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	中枢神経系作業療法学Ⅱ	担当教員名	澤 俊二【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	身体障害領域の対象疾患である神経難病疾患や神経筋疾患に対する作業療法について学修する。神経難病系障害や運動神経疾患の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義をすすめていく。 対象となる傷病は神経難病系疾患においては、パーキンソン病および脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症を選出し、神経筋疾患においては多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症を中心に講義をすすめる。		
到達目標	①神経難病系疾患を理解・把握する。 ②神経難病系疾患の評価を理解する。 ③神経難病系疾患の治療を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	神経難病と作業療法	神経難病疾患の作業療法について知る。	
第2回	神経変性疾患①	神経変性疾患の概要を知る。	
第3回	神経変性疾患②	パーキンソン病の作業療法評価について理解する。	
第4回	神経変性疾患③	パーキンソン病の作業療法治療について理解する。	
第5回	神経変性疾患④	脊髄小脳変性症の作業療法評価について理解する。	
第6回	神経変性疾患⑤	脊髄小脳変性症の作業療法治療について理解する。	
第7回	神経変性疾患⑥	筋萎縮性側索硬化症の作業療法評価について理解する。	
第8回	神経変性疾患⑦	筋萎縮性側索硬化症の作業療法治療について理解する。	
第9回	神経筋疾患①	神経筋疾患の概要を知る。	
第10回	神経筋疾患②	多発性硬化症の作業療法評価について理解する。	
第11回	神経筋疾患③	多発性硬化症の作業療法治療について理解する。	
第12回	講義時に指定する	ギラン・バレー症候群の作業療法評価について理解する。	
第13回	神経筋疾患⑤	ギラン・バレー症候群の作業療法治療について理解する。	
第14回	神経筋疾患⑥	重症筋無力症の作業療法評価について理解する。	
第15回	神経筋疾患⑦	重症筋無力症の作業療法治療について理解する。	
テキスト・参考書	教科書： 山口昇・他編 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 能登真一・他編 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。 講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	該当講義に関する予習及び講義で学んだ内容を復習すること。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	中枢神経系作業療法演習	担当教員名	澤 俊二・田原涼馬 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	中枢神経系障害に対する作業療法では、心身機能・身体構造的側面、活動的側面、参加的側面および環境等の背景因子に基づく評価結果を理解し、論理的な思考を踏まえた支援を展開することが必要となる。本講義では、その実践的な介入方法について、シミュレーション、模擬患者等に対する支援経験、他者からのフィードバックの流れを通じて学修する。また、介入に必要な機器や補助装具等の適用と方法、環境整備に必要な知識と技能を学修する。		
到達目標	①対象者の心身の状態や段階に応じた支援を選択し、その根拠が説明できる。 ②上肢・下肢・手指の装具・自助具等を適切に選択できる。 ③作業の観点から対象者を支援することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	早期離床に向けた支援方法①	小グループを形成し、模擬症例の早期離床に向けた根拠に基づく支援方法を検討する（PBL型演習）。	
第2回	早期離床に向けた支援方法②	模擬症例の早期離床に向けた根拠に基づく支援方法を模擬的に実践する（PBL型演習）。	
第3回	早期離床に向けた支援方法③	模擬症例の早期離床に向けた根拠に基づく支援方法を発表する（PBL型演習）。	
第4回	日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた支援方法①	小グループを形成し、模擬症例の日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた根拠に基づく支援方法を検討する（PBL型演習）。	
第5回	日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた支援方法②	模擬症例の日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた根拠に基づく支援方法を模擬的に実践する（PBL型演習）。	
第6回	日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた支援方法③	模擬症例の日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた根拠に基づく支援方法を模擬的に実践する（PBL型演習）。	
第7回	日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた支援方法④	模擬症例の日常生活動作と上肢麻痺の改善に向けた根拠に基づく支援方法を発表する（PBL型演習）。	
第8回	退院に向けた支援方法①	小グループを形成し、模擬症例の退院に向けた支援方法を提案・実践する（PBL型演習）。	
第9回	退院に向けた支援方法②	模擬症例の退院に向けた支援方法を発表する（PBL型演習）。	
第10回	高次脳機能障害（失認）の評価と改善に向けた支援方法①	小グループを形成し、模擬症例等に対する高次脳機能障害（失認）の評価を実践する。	
第11回	高次脳機能障害（失認）の評価と改善に向けた支援方法②	小グループを形成し、模擬症例等に対する高次脳機能障害（失認）の支援を実践する。	
第12回	高次脳機能障害（失行）の評価と改善に向けた支援方法①	小グループを形成し、模擬症例等に対する高次脳機能障害（失認）の評価を実践する。	
第13回	高次脳機能障害（失行）の評価と改善に向けた支援方法②	小グループを形成し、模擬症例等に対する高次脳機能障害（失認）の支援を実践する。	
第14回	症例の全体像、問題点のまとめ方①	模擬症例の状態をICFに基づいて分類する。	
第15回	症例の全体像、問題点のまとめ方②	模擬症例の状態をもとにケースシートを完成させる。	
テキスト・参考書	教科書： 高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版 教科書： 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 作業で語る事例報告 第2版 医学書院 参考書： 日本作業療法士協会（監）作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業療法学1 身体障害 協同医書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	レポート課題（100%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	予習：次講義の内容についてテキストを読み込むこと。復習：講義の内容を各自でノートにまとめながら復習すること。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	運動器系作業療法学	担当教員名	原 和子・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法治療における対象疾患である整形外科・外科系疾患の病態やそれに伴う障害について、各疾患の評価項目・評価手技の選択、目標設定、治療計画および治療実施の方法について学習する。対象となる疾患については、末梢神経損傷および脊髄損傷、関節リウマチを対象に講義をすすめていく。 整形外科・外科系障害の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義をおこなっていく。		
到達目標	①作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患を理解・把握する。 ②作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患の評価を学習する。 ③作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患の治療を学習する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	整形外科・外科系疾患の作業療法①	末梢神経損傷の疾病について知る。	
第2回	整形外科・外科系疾患の作業療法②	末梢神経損傷の疾病に対する作業療法評価を理解する。	
第3回	整形外科・外科系疾患の作業療法③	末梢神経損傷の疾病に対する作業療法治療を理解する。	
第4回	整形外科・外科系疾患の作業療法④	脊髄損傷の疾病について知る。	
第5回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑤	脊髄損傷の疾病に対する作業療法評価を理解する。	
第6回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑥	脊髄損傷の疾病に対する作業療法治療を理解する。	
第7回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑦	リウマチの疾病について知る。	
第8回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑧	リウマチの疾病に対する作業療法評価・治療を理解する。	
テキスト・参考書	教科書： 山口昇・他編 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 能登真一・他編 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。 講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	該当講義に関する予習及び講義で学んだ内容を復習すること。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	運動器系作業療法演習	担当教員名	原 和子・森本真太郎 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動器系の疾患を学んだことを踏まえ、健全な鑷子の運行動態を演習形式で行う。演習は、各文献等の収集と模型等の作成によって、運動動態のイメージを図り理解を深める。それによって、各組織の役割とそれが欠如した場合の問題解決型学習と解決プロセス、解決技能を養成する。それを踏まえた上で、運動器系の障害の種類と鑑別技法を理解することができる。作業療法の適応、装具等の福祉用具の選択を学修し、作業療法で取り扱う主な疾患についてのICFに基づく障害像を理解し、作業療法支援を学ぶ。		
到達目標	授業で扱う疾患の作業療法の種類を理解し、その作業療法の模倣と説明ができる。また、生活・社会復帰について説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	上肢の運動器の運動動態①	上肢各部位の運動に関わる関節、筋、腱、靱帯等の運動動態を演習形式で理解する。	
第2回	上肢の運動器の運動動態②	各部位の運動に関わる文献を収集し、健全な動態を抽出する。	
第3回	上肢の運動器の運動動態③	各部位の運動動態に関わる模型等を作成してイメージ化を図る。	
第4回	上肢の運動器の運動動態④	各部位の病態に合わせた運動動態を抽出し理解する。	
第5回	上肢の運動器の運動動態⑤	グループワーク形式で、問題解決型学習（PBL）とその解決プロセス、解決技能を養成する。	
第6回	運動器系の障害①	拘縮癒着の拘縮・癒着の種類を抽出する。	
第7回	運動器系の障害②	拘縮・癒着の鑑別、癒着の鑑別を理解する。	
第8回	運動器系の障害③	拘縮・癒着の作業療法、装具、スプリントの適応を知る。	
第9回	運動器系の障害④	拘縮・癒着の作業療法、装具、スプリントの適応を知る。	
第10回	運動器系の障害⑤	運動器系障害の障害像に対する支援を学修する。	
第11回	腱・筋に関わる手外科疾患	①ICFに基づく障害像を抽出し理解する ②作業療法支援を学ぶ	
第12回	末梢神経疾患	①ICFに基づく障害像を抽出し理解する ②作業療法支援を学ぶ	
第13回	脊髄損傷疾患	①ICFに基づく障害像を抽出し理解する ②作業療法支援を学ぶ	
第14回	リウマチ	①ICFに基づく障害像を抽出し理解する ②作業療法支援を学ぶ	
第15回	その他上肢に関わる運動器系疾患	①ICFに基づく障害像を抽出し理解する ②作業療法支援を学ぶ	
テキスト・参考書	教科書： 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： エガース・片麻痺の作業療法 原著第2版 協同医書出版社		
学修方法	各テーマについての演習を行う。演習は主にグループワーク形式で行う。		
評価方法	小テスト（50％）・レポート（50％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	既に学修した授業の該当箇所の予習を行う。グループワーク内で皆が協力すること。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	内部障害作業療法学	担当教員名	萩野 勝也
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝系疾患、サルコペニア、がんの病態やそれに伴う障害の基礎、生活習慣病との関連について理解する。内部疾患系障害の理解のために、各疾患、障害について解剖学、生理学、運動学的な根拠を示しながら講義を展開する。疾患に起因する活動制限や参加制約を学ぶとともに、目に見えづらい障害であるが故に理解が得られにくい状態と抑うつとの関連性について学ぶ。バイタルサインとリスク管理や家族支援の重要性についても学習していく。		
到達目標	①内部障害の原因疾患について説明することができる。 ②リハビリテーション临床上に必要な知識を説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内部障害とは	定義、生活習慣病との関連、機能障害・能力障害・QOLを理解する	
第2回	エネルギー代謝と運動耐容能、糖尿病	栄養管理と血糖コントロール、糖尿病の基礎を理解する	
第3回	消化器機能障害、免疫機能障害	消化器関連臓器の機能解剖、免疫機能について理解をする	
第4回	腎機能障害、肝機能障害	腎臓・肝臓の基礎、慢性腎臓病の病態と透析、肝硬変について理解する	
第5回	循環器障害	循環器の解剖・生理、心不全について理解する	
第6回	呼吸器障害	呼吸器の解剖・生理、閉塞性換気障害と拘束性換気障害について理解する	
第7回	膀胱・直腸機能障害	排泄機能の機能解剖、生理について理解をする	
第8回	がん	がんの病態理解及び乳がんを中心とした疾患概要を理解する	
テキスト・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝 中山書店 参考書：曷川元 編著 寝たきりゼロへ進化する 実践！離床完全マニュアル2 慧文社 小林隆司 編 PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版 羊土社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する専門基礎科目の講義の復習を行こと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	内部障害作業療法演習	担当教員名	萩野 勝也
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法場面で多く経験することになるCOPD、心筋梗塞、心肺機能、糖尿病などの疾患について症例を提示しながら、作業療法評価と作業療法治療技術を学習する。内部疾患は生活習慣病に起因することが多いため、運動耐用力と活動・参加との関係を理解し、疾患の発生を防ぐための1次予防から再発防止や社会復帰のための3次予防に重要となる治療プログラムの立案を体験する。また、生活行為における疾患別の工夫の方法や喀痰吸引についての実技を学ぶ。		
到達目標	①疾患に対応した評価方法が説明できる。 ②運動療法、疾患に対応した生活行為の工夫を説明できる。 ③多様な身体障害に対応できる思考過程を理解することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動療法	評価と実際を理解する	
第2回	栄養管理と家族指導	評価と指導方法を理解する	
第3回	糖尿病①	作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する	
第4回	糖尿病②	ペーパー・ペイシェントを用いたPBL	
第5回	循環器疾患①	心電図を理解する	
第6回	循環器疾患②	心疾患の検査所見と身体所見について理解する	
第7回	循環器疾患③	作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する	
第8回	循環器疾患④	ペーパー・ペイシェントを用いたPBL	
第9回	呼吸器疾患①	呼吸音を理解する	
第10回	呼吸器疾患②	喀痰吸引の概要と実技	
第11回	呼吸器疾患③	作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する	
第12回	呼吸器疾患④	ペーパー・ペイシェントを用いたPBL	
第13回	サルコペニア	サルコペニアの評価と治療プログラムについて理解する	
第14回	がん	ペーパー・ペイシェントを用いて乳がん患者の作業療法評価・支援を検討する	
第15回	緩和ケアのリハビリテーション	進行がん・末期がん患者におけるリハビリテーションの概要と作業療法士の役割	
テキスト・参考書	教科書：15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝 中山書店 参考書：上月正博編著 心臓リハビリテーション 医歯薬出版株式会社 辻哲也編 がんのリハビリテーションマニュアル 医学書院 木村雅彦 15レクチャー理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版 中山書店		
学修方法	各テーマについての講義及び演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う課題提出（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	授業開始前・終了後20分間 研究室		
備考・履修条件	予習として、講義テーマに該当する専門基礎科目の講義の復習を行こと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	精神障害作業療法学	担当教員名	港 美雪【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神科作業療法において対象となる統合失調症・気分障害・神経症圏の障害・摂食障害・物質関連障害・パーソナリティ障害・てんかん・老年期障害の特性と症状を把握し、理解する。また、対象となる疾患の生活障害の評価の視点を学び、各疾患の回復過程に応じた治療や援助方法について説明・把握することができるように講義を実施する。多くの機関や職種との連携が必要な状況の中で、作業療法士は 何をすべきか（または役割）を学ぶ。		
到達目標	①精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎を理解する。 ②疾患特性に合致した作業療法評価計画を立案、実施できる。 ③精神障害を取り巻く環境について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	作業療法の現状と課題	クライアント中心、作業中心、取り巻く環境、インクルージョン、社会的入院、対象となる精神疾患、法制度	
第2回	精神障害への考慮と作業療法①	精神障害を有する人の作業ニーズ、作業の問題と影響する要因	
第3回	精神障害への考慮と作業療法②	コミュニケーション、協業における考慮	
第4回	作業療法のプロセス	評価-介入-成果のプロセス、目標指向的实践	
第5回	評価のプロセス	作業の問題の評価、遂行要因の評価、評価項目の選択、評価の方法、作業遂行分析、目標の創造	
第6回	介入のプロセスと成果	介入タイプ（作業・活動の使用、教育、作業をサポート、グループ介入など）と介入目的（調整、確立・回復、予防、創造など）	
第7回	プログラムの作成と実践方法	プログラム立案に「精神障害を有する人を対象とした作業と健康に関する知見（作業科学）」を活かす方法	
第8回	地域における作業療法士の実践	地域活動支援センター、デイケア、就労移行など	
テキスト・参考書	教科書：クリニカル作業療法シリーズ 精神領域の作業療法 第2版 中央法規出版 作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド 医学書院		
学修方法	講義形式で行いながら、問題解決学習、グループワークを取り入れる		
評価方法	定期試験成績（80％）、授業態度とコメントシート（20％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件			

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	精神障害作業療法演習	担当教員名	港 美雪【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神障害をもつ人の特徴を事例を通して理解し、評価治療技法や精神障害をもつ人の生活支援の実践について体験的に学習する。また評価及び治療過程で必要とされる情報収集、評価、解釈、活動計画立案を体験する。これらの演習・体験を踏まえ、精神障害をもつ人の生活構築のための実践的な介入に関する演習を行い、精神障害をもつ人に接するときの態度を身につける。また、治療中のリスク管理ができ、自己・急変時の対応を的確にできるようにする。		
到達目標	1 精神障害作業療法で用いる評価と介入法を適切に実施できる。 2 評価結果を整理統合し、課題を焦点化できる。 3 事例を通して作業療法評価及び介入計画立案ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	精神科作業療法の治療・援助構造①	作業療法の治療的利用と形態を知る	
第2回	精神科作業療法の治療・援助構造②	作業療法の治療的利用と形態を知る	
第3回	統合失調症①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第4回	統合失調症②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第5回	気分障害①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第6回	気分障害②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第7回	神経症圏の障害①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第8回	神経症圏の障害②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第9回	摂食障害①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第10回	摂食障害②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第11回	物質関連障害①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第12回	物質関連障害②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第13回	パーソナリティ障害	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第14回	てんかん	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第15回	老年期障害	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
テキスト・参考書	教科書：作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド 医学書院 参考書：精神障害と作業量 治る・治すから生きるへ 三輪書店		
学修方法	各テーマについてグループ討議し、発表する。		
評価方法	レポート（100％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	臨床心理学、精神医学など、関連科目の復習をして臨むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	発達障害作業療法学	担当教員名	相羽 秀子
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児疾患系疾患の病態や、それに伴う障害について理解し、作業療法場面において多く経験する小児疾患系疾患である脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、自閉症スペクトラム障害などを中心に小児疾患系障害の評価と作業療法治療技術について学修する。小児疾患系障害の理解のためには、人間の成長に伴う正常発達を十分に理解する必要がある。また、子どもの身体的・知的特徴や教育などの社会的背景を理解しなくてはならない。様々な要素を伴う小児疾患系障害の作業療法の実際を学ぶ。		
到達目標			
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達障害について	広義の発達障害、狭義の発達障害の意味、自閉症スペクトラムの特徴について講義	
第2回	発達障害について	AD/HD、学習障害等について講義	
第3回	正常発達・評価について	各発達段階とその評価について講義	
第4回	脳性麻痺について	脳性麻痺の定義、各タイプについて特徴、アプローチについて講義	
第5回	筋ジストロフィーについて	筋ジストロフィーの特徴やアプローチについて講義	
第6回	二分脊椎について	二分脊椎の特徴やアプローチについて講義	
第7回	分娩麻痺・その他の疾患について	分娩麻痺・その他の疾患の特徴とアプローチについて講義	
第8回	支援制度等について	障がい児の支援に関して、現在の国や地方での支援制度について	
テキスト・参考書	教科書： 神作 一実 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 [Web動画付] 第3版 メジカルビュー社 参考書： 発達障害の作業療法【基礎編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6708 発達障害の作業療法【実践編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6715 イラストで分かる発達障害の作業療法		
学修方法	講義、グループワーク		
評価方法	試験		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件			

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	発達障害作業療法演習	担当教員名	相羽 秀子・ 原 和子【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児疾患系障害を持つ人の特徴を事例を通して理解し、評価治療技法や小児疾患系障害をもつ人の生活支援の実践について体験的に学習する。また評価及び治療過程で必要とされる情報収集、評価、解釈、活動計画立案を体験する。これらの演習・体験を踏まえ、小児疾患系障害をもつ人の生活構築のための実践的な介入に関する演習を行い、小児疾患系障害をもつ人に接するときの態度を身につける。また、治療中のリスク管理ができ、自己・急変時の対応を的確にできるようにする。		
到達目標	①小児疾患系障害の特徴から根拠に基づく支援方法を提案できる。 ②全体像をケースシートにまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	姿勢と運動へのアプローチ（脳性麻痺を中心に）①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第2回	姿勢と運動へのアプローチ（脳性麻痺を中心に）②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第3回	姿勢と運動へのアプローチ（脳性麻痺を中心に）③	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第4回	筋ジストロフィーへのアプローチ①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第5回	筋ジストロフィーへのアプローチ②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第6回	知的障害に対するアプローチ①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第7回	知的障害に対するアプローチ②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第8回	二分脊椎のアプローチ①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第9回	二分脊椎のアプローチ②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第10回	分娩まひ①	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第11回	分娩まひ②	症例の評価より問題点からアプローチの立案をグループで討議する。	
第12回	自閉症スペクトラム障害に対する評価	小グループを形成し、模擬症例等に対するの評価を実践する。	
第13回	自閉症スペクトラム障害に対する改善に向けた支援方法	模擬症例等に対するの支援を実践する。	
第14回	症例の全体像と問題点のまとめ方①	模擬症例の状態をICFに基づいて分類する。	
第15回	症例の全体像と問題点のまとめ方②	模擬症例の状態をもとにケースシートを完成させる。	
テキスト・参考書	教科書：ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学〔Web動画付〕 第3版 メジカルビュー社 参考書：岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編・応用編） 三輪書店 宮崎雅仁：脳科学から学ぶ発達障害 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	レポート課題（100%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 、授業開始前・終了後20分間 研究室		
備考・履修条件	人間発達学、小児科学等、関連科目の復習をして参加すること。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	老年期障害作業療法学	担当教員名	藤井稚也【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会の我が国では平均寿命と健康寿命の差で示される不健康な期間の縮小が課題とされている。特に健康寿命の延伸による当期間の縮小が重要となる。本講義では、これらの背景をもとに老年期における作業療法支援の実際と方法を学修し、さらに現在よりもより未来展望的に求められる役割にまで波及した内容を展開する。主には、フレイル、サルコペニア、転倒、認知症等の予防とケア、そして老年期障害に対する支援等であり、これらの支援における基本的知識と評価、実践技術を学び理解する。		
到達目標	①加齢と老化による心身機能の変化を理解し、老年期疾患の特徴が説明できる。 ②フレイル、サルコペニア、認知症等の発症要因と保護的要因を理解し、その予防とケアの方法を提案できる。 ③転倒の発生機序を理解し、予防策を提案できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	老化による心身の変化	加齢、老化、老年症候群について学習する。	
第2回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概要と評価①	概要と評価方法を学習する。	
第3回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概要と評価②	概要と評価方法を学習する。	
第4回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防と支援①	地域の介護予防・地域支援事業、病院・施設での作業療法の実際を学習する。	
第5回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防と支援②	地域の介護予防・地域支援事業、病院・施設での作業療法の実際を学習する。	
第6回	転倒と外傷①	転倒の疫学、発生要因、代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。	
第7回	転倒と外傷②	代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。	
第8回	転倒と外傷③	代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。	
第9回	認知症施策の変遷	認知症施策の歴史的変遷を学習する。	
第10回	認知症の基本的理解①	AD、若年性AD、MCIの障害像を学習する。	
第11回	認知症の基本的理解②	FTD、DLB、VDの障害像を学習する。	
第12回	講義時に指定する	中核症状と周辺症状、介護負担の実際を学習する。	
第13回	認知症者等に対する作業療法の実際①	代表的な支援・アプローチとその考え方を学習する。	
第14回	認知症等に対する作業療法の実際②	評価方法を学習する。	
第15回	認知症者等に対する作業療法の実際③	認知症初期集中支援、認知症サポーター、互助の役割について学習する。	
テキスト・参考書	教科書：地域作業療法学 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	木曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	ハンドセラピー学	担当教員名	原 和子【実務家該当教員】
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	手外科に必要な上肢に関する関節運動や軟部組織の名称について理解を深める。手外科の代表的な疾患・障害について学修し、その手術の概要について理解する。また、それらの術前、術後の評価と訓練について学修する。疾患は骨折、屈筋腱損傷、伸筋腱損傷とし、これらの評価・訓練の方法を学ぶ。副次的な疾患の対処法として、癒着、拘縮の症状を学修し、これらの予防及び癒着・拘縮除去の方法、装具の適応について学修する。運動学、解剖学、生理学、義肢装具学の根拠を示しながら、講義を展開する。		
到達目標	手外科の各疾患における病態を理解し、説明できる。また、それらの疾患の作業療法（評価・治療・訓練）を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	手の意義と手の進化	手の進化と他の種の手の効果器としての意義とその進化	
第2回	手の機能と解剖	手指に局限した解剖とその運動	
第3回	手の各筋腱の走行と運動	手のシェーマを理解し、腱の動態を理解する	
第4回	屈筋腱損傷 1	腱の組織，栄養，特徴	
第5回	屈筋腱損傷 2	屈筋腱修復術における特徴と禁忌事項	
第6回	屈筋腱損傷 3	屈筋腱損傷の作業療法（3 週間固定，早期運動含む）	
第7回	伸筋腱損傷 1	伸筋腱の特徴と機能特性	
第8回	伸筋腱損傷 2	伸筋腱修復術における特徴と禁忌事項	
第9回	伸筋腱損傷 3	伸筋腱損傷の作業療法	
第10回	拘縮・癒着	拘縮の種類，癒着の鑑別と剥離術	
第11回	骨折 1	橈骨遠位端骨折	
第12回	講義時に指定する	橈骨遠位端骨折と手指骨折	
第13回	骨折 3	手指骨折	
第14回	熱傷	熱傷の病態と作業療法	
第15回	CRPS	CRPSの概念と作業療法	
テキスト・参考書	教科書： 山口昇・他編 標準作業療法学専門分野：身体機能作業療法学 第4版 医学書院 教科書： 能登真一・他編 標準作業療法学専門分野：作業療法学評価学 第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	運動学の手に該当する部分の復習を事前しておくこと。授業後はその日に復習すること。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	生活行為向上マネジメント論	担当教員名	藤井 稚也・森本真太郎・田原涼馬 【全て実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生活行為向上マネジメント（MTDLP）とは、対象者の価値のある生活行為を達成するために行われる一連のマネジメントであり、現在、通所リハビリテーションにおける生活行為向上リハビリテーション実施加算にも反映されている。その中で、対象者の望む価値ある生活行為の向上に対して、作業療法士の包括的な思考能力が期待されている。本講義では、MTDLP誕生の背景と構造を理解するとともに、事例を通じたマネジメントの経験により実践的な知識と技能を学修する。		
到達目標	①生活行為向上マネジメントの誕生背景からその役割について説明できる。 ②生活行為向上マネジメントの各シートを作成することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生活行為向上マネジメントとは	誕生した背景からその役割について学習する。	
第2回	生活行為向上マネジメントの実践①	小グループを形成し、事例を通じて生活行為聞き取りシートと興味関心チェックリスト等の活用方法を学習する。	
第3回	生活行為向上マネジメントの実践②	事例を通じて生活行為アセスメント演習シートを作成する。	
第4回	生活行為向上マネジメントの実践③	事例を通じてアセスメント演習シートを作成する。	
第5回	生活行為向上マネジメントの実践④	事例を通じて生活行為向上プラン演習シートを作成する。	
第6回	生活行為向上マネジメントの実践⑤	生活行為マネジメントシート、生活行為課題分析シートの活用法を学習する。	
第7回	生活行為向上マネジメントの継続	生活行為申し送りシートの活用方法を学習する。	
第8回	生活行為向上マネジメントの発表	各グループのマネジメント内容を発表する。	
テキスト・参考書	教科書： （一社）日本作業療法士協会 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	レポート課題（100%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	地域作業療法学	担当教員名	澤 俊二【実務家該当教員】・ 藤井 稚也【実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	地域包括ケア時代の到来にともない、作業療法士がそれぞれの地域において活躍することが求められている。作業療法士は人々の大切な生活行為に焦点を当て、医学的視点をもとに支援する専門家であり、今後もますますの活躍が期待されている。本講義では、特に地域リハビリテーションに関する諸法規の変遷から地域包括ケアシステムの誕生までの背景から作業療法士の役割を理解することにはじまり、介護保険下、総合事業、就労支援、認知症初期集中支援ならびに予防とケア、生涯スポーツ支援、住環境整備と自助具の提供等の実際を学習する。		
到達目標	①地域作業療法に求められる役割について説明できる。 ②地域包括ケアシステム、就労支援、認知症初期集中支援等の基礎知識を理解できる。 ③諸法規を理解し、住環境整備の方法を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	総論	地域リハビリテーションと地域作業療法の概念を学習する。	
第2回	関連制度と諸法規	当領域に関する関連制度と諸法規を学習する。	
第3回	住環境と福祉用具	住環境評価と整備の手法を学習する。	
第4回	リスクマネジメント	地域におけるリスクマネジメントを学習する。	
第5回	地域リハビリテーションプロセス	プロセスの概要、評価、目標設定、計画立案を学習する。	
第6回	地域作業療法学の実際①	訪問系作業療法の実際を学習する。	
第7回	地域作業療法学の実際②	就労支援に関する作業療法の実際を学習する。	
第8回	地域作業療法学の実際③	学校等作業療法の実際を学習する。	
第9回	地域作業療法学の実際④	終末期における作業療法の実際を学習する。	
第10回	予防と作業療法①	サルコペニアとフレイル予防の実際を学習する。	
第11回	予防と作業療法②	認知症予防・支援の実際を学習する。	
第12回	講義時に指定する	転倒予防の実際を学習する。	
第13回	行政療法士の役割	行政で働く作業療法士の役割を学習する。	
第14回	地域の防災・災害支援	災害時のチーム医療と役割を学習する。	
第15回	地域ケア会議	地域包括sケアシステムにおける地域ケア会議の役割を学習する。	
テキスト・参考書	教科書：小林法一：地域作業療法学 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	地域作業療法学演習	担当教員名	澤 俊二・藤井 稚也・田原涼馬 【全員：実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会の我が国において地域包括ケアシステムの構築が急がれている。その基盤とされる地域ケア会議では、住民や専門職による多職種連携、専門的視点からの助言、地域課題の発見と解決に導くマネジメントが求められている。また、総合事業や認知症初期集中支援事業等において作業療法士による介入が望まれている。本講義では、これらの実践力を身につけるため、地域ケア会議、総合事業、認知症カフェ等の模擬体験や実践を通じてその理論と技能を学修する。		
到達目標	①地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を説明することができる。 ②地域包括ケアシステムに貢献できる作業療法支援を提案することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	地域包括ケアシステムに貢献する作業療法支援を学習する。	
第2回	地域フィールド調査①	岐阜市の高齢化率の変位、将来予測、地域差等から地域の特徴を調査する。	
第3回	地域フィールド調査②	岐阜市の高齢化率の変位、将来予測、地域差等から地域の特徴をまとめる。	
第4回	地域ケア会議の実践①	地域ケア会議の実際を学ぶ。び、その後、小グループを形成し、模擬地域ケア会議を開催する。	
第5回	地域ケア会議の実践②	小グループを形成し、模擬地域ケア会議を開催する。	
第6回	地域課題の抽出と提案①	フィールド調査の結果と地域ケア会議で抽出された地域課題を把握しまとめる。	
第7回	地域課題の抽出と提案②	地域課題の改善案を検討する。	
第8回	地域課題の抽出と提案③	地域課題を提案する。	
第9回	高齢者サロンとレクリエーション	高齢者サロンで実践するレクリエーションと安全対策を企画・準備する。	
第10回	高齢者サロンと作業療法実践①	通いの場で実践できるレクリエーションを考案する。	
第11回	高齢者サロンと作業療法実践②	通いの場で実践できるレクリエーションを実践する。	
第12回	認知症カフェと作業療法①	認知症カフェにおける作業療法士の役割を学習する。	
第13回	認知症カフェと作業療法②	認知症カフェにおける多職種連携の実際を学習する。	
第14回	一般介護予防事業の企画・実践①	一般介護予防事業の企画・立案する。	
第15回	一般介護予防事業の企画・実践②	一般介護予防事業の模擬的に実践する。	
テキスト・参考書	教科書：小林法一：地域作業療法学 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	レポート課題（100％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	生活環境学	担当教員名	澤 俊二【実務家該当教員】 藤井 稚也【実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	障害を持つ人の活動範囲を広め、積極的な社会参加を促すためには、人々を取り巻く生活環境を理解し改善していくことが重要である。ここでは、人々を取り巻く生活環境の変遷やクオリティ・オブ・ライフ、経済環境や行政・制度的環境、及び物理的環境について理解を深める。更に、生活する人に適したバリアフリー環境を実現するための住宅の構造や、住宅改修に関する基礎的な知識を身に付け、各種障害に合った、住みやすく、また、豊かな生活を送るための方法や工夫について学修する。		
到達目標	障害者における生活環境と居住環境を理解することができる 各疾患に応じた環境適応の方法を説明できる		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	日本の社会保障制度	日本の社会保障制度の概要を理解し、リハ職に関する部分を抽出する	
第2回	医療保険制度と介護保険制度 1	医療保険制度と介護保険制度の概要を抽出し理解する	
第3回	医療保険制度と介護保険制度 2	リハ職に関する医療保険制度と介護保険制度を抽出し理解する	
第4回	居住環境 1	居住環境とは何かの問いに、それぞれの価値観をまとめる	
第5回	居住環境 2	障害に適した居住環境を抽出し解決策を検討する	
第6回	居住環境 3	障害者における環境への適応を抽出し理解する	
第7回	ECS 1	ECSとは何かを知り、その特性を抽出する	
第8回	ECS 2	最新のECSの使用・活用を知る	
テキスト・参考書	教科書： 玉垣努他 福祉用具・住環境整備の作業療法、 中央法規出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	レポート（100%）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	授業後はその日に学修したことを復習すること		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	レクリエーション実践	担当教員名	宇佐美 知子【実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	レクリエーションの枠組み、範囲と種類、計画に必要な分類を学習する。レクリエーション実施者の困っていることを提示し、活かしているレクリエーションとマンネリ化しているレクリエーションの違いを理解することで、解決策を学ぶ。集団と場、集団の利用方法、自己実現理論を理解した上で、グループ単位でレクリエーション計画を立案し体験する。体験後は実施の振り返りを行い、報告書を作成するとともにグループ内フィードバックを実施する。		
到達目標	①レクリエーションの枠組み、分類を説明できる。 ②集団と場、集団の利用方法を理解する。 ③レクリエーション計画を立てることができる。 ④レクリエーション実施についての注意点を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	レクリエーションとは	レクリエーションの枠組み、範囲と種類について知る	
第2回	レクリエーション実施における分類	対象者の状況に合わせたレクリエーションの分類について知る	
第3回	集団とは	集団と場、集団の利用方法、自己実現理論について知る	
第4回	レクリエーションの活用方法	レクリエーションの計画・実施・報告について理解する	
第5回	レクリエーション計画	対象者を提示し、グループでレクリエーションの計画を立てる	
第6回	レクリエーション計画	対象者を提示し、グループでレクリエーションの計画を立てる	
第7回	レクリエーション実施	計画を立てたレクリエーションの実施	
第8回	レクリエーション実施とまとめ	計画を立てたレクリエーションの実施と報告書の作成	
テキスト・参考書	教科書：寺山久美子 レクリエーション-活動と参加を促すレクリエーション- 第3版 三輪書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてスライドを使う。 レクリエーションの計画及び実施のグループワークを行う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、レポート（90％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	多職種連携論	担当教員名	澤 俊二・石塚 和重・鈴木 啓介・ 藤井 稚也・近藤郁代 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	現在の医療・福祉では、個々の対象者に対する専門職業人の協働と連携が求められている。個々の対象者の健康科学の理念を学び、多職種の連携の理念と実践について理解を深め、高度に複雑化した保健・医療・福祉のシステムを学修する。また、医療から在宅、地域医療における専門職の活用を学ぶ。更に、多職種の本質を知り、チームにおけるそれぞれの役割と連携について学修する。多職種と実際に触れ合う機会を設け、その理解を深める。		
到達目標	多職種連携とは何かを理解することができる。また、作業療法士の立場で関わる項目を説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	他職種と多職種	保健・医療・福祉の他職種を抽出し、その定義を学修する	
第2回	多職種の専門性と連携	医療から在宅、地域医療における各職種の専門性の活かし方を抽出し、その連携のあり方を学修する	
第3回	他職種の視点①	看護師の専門性を学習する。	
第4回	他職種の視点②	看護師と作業療法士の連携の実際と可能性を学習する。	
第5回	他職種の視点③	理学療法士の専門性を学習する。	
第6回	他職種の視点④	理学療法士と作業療法士の連携の実際と可能性を学習する。	
第7回	多職種連携における課題と工夫①	多職種連携における課題と工夫についてグループワーク討議する。	
第8回	多職種連携における課題と工夫②	グループワーク討議の結果を発表する。	
テキスト・参考書	プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライド等を使う。		
評価方法	レポート（100％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 、授業開始前・終了後20分間 研究室		
備考・履修条件	授業後には必ず復習を行うこと。		

学部	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅰ（基礎）	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療施設、福祉施設の見学を通して社会や医療の中における作業療法士の役割と責任を全体的に理解する。そのために、実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得する。また、本実習以降の専門的な学修を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。		
到達目標	実習施設内での作業療法科の位置づけ、他職種との連携業務の流れ、作業療法の業務内容を理解することができる。対象者の疾患・障がいより、必要な基本的知識・技術・態度を理解できる。作業療法士としての支質について理解できる。対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取ることができる。		
実習方法	1）実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2）学生は原則1施設あたり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 3）学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6）実習内容は、次のとおりとする。 （1）社会人としての適切な態度の理解と実施。 （2）医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解。 （3）医療従事者の役割や業務の流れの理解。 （4）医療従事者の患者との関わり方の理解。 （5）守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、標準予防策等のリスク管理指導、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	出席20%、提出物20%、実習報告会50%、評価表20%		
留意事項 (履修条件他)	1年次配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1）実習期間は全出席に努めること。 2）実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅱ(地域)	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの見学等を通じて、地域作業療法における役割と業務の実際を学び、学内での講義で学んだ知識と結びつける。本実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得して実習に取り組む。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。		
到達目標	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割と、地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性を理解できる。対象者との良好なコミュニケーションを取ることができ、ニード等の聴取ができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションを使用する。 2) 学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 3) 学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの施設形態を知る。 (2)当該施設における作業療法士の役割の理解。 (3)地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性の理解。 (4)対象者との関わり方の理解。(コミュニケーション・ニード聴取) (5)守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	臨床実習評価報告書（30％）、提出物（50％）、実習経験報告会（20％）		
留意事項 (履修条件他)	1年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅲ(評価)	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	実習
単位数	6単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法評価過程を実習指導者の下でこれを実施し、そのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動が取れるようになることを学修する。本実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得して実習に取り組む。施設実習の後、体験した作業療法評価過程を再検討し、臨床実習Ⅳ、Ⅴに結び付ける基礎的な作業療法評価能力を身につける。		
到達目標	評価に必要な情報収集、評価方法の選択と実施方法、評価結果の記録方法について理解・実施できる。情報収集・評価所見をもとに患者のもつ問題点を全体的・構造的に理解し、その問題点から、その原因を的確に捉え説明することができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3) 学生1人当たりの実習期間は、30日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解 (2)医療従事者の役割や業務の流れの理解 (3)医療従事者の患者との関わり方の理解 (4)作業療法評価の理解・実施 (5)評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 (6)評価結果の統合的解釈についての理解・実施 (7)守秘義務、個人情報保護の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、指導者症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	指導者症例の見学、多職種見学等、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	指導者症例の見学・模倣、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	指導者症例の見学・模倣、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第3週	11～15日目	指導者症例の見学・模倣、指導者の一部症例の評価計画立案、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第4週	16～20日目	指導者症例の見学・模倣・一部実施、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第5週	21～25日目	指導者症例の見学・模倣・一部実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論過程の実践・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第6週	26～29日目	指導者症例の見学・模倣・一部実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論過程の実践・指導、報告書作成等の課題。	
	30日目	指導者症例の見学・模倣・一部実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論過程の実践・指導、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	課題提出(50%)、実習報告会(50%)		
留意事項 (履修条件他)	2年次配当の必須科目をすべて修得していることに加え、3年次前期配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅳ(応用)	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 後期	授業の方法	実習
単位数	8単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法についての知識・技能の学修の総決算として、学修指導者の下でこれを応用し、評価・治療計画・治療という一連の作業療法の過程を実施する。そのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職としての責任ある態度・行動が取れるようになることを学修する。本実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得して実習に取り組む。施設実習後のセミナーにおいて、実習で体験した内容をまとめ、考察し、プレゼンテーションを行い、実習で得た知識や技能を確実に修得する。		
到達目標	対象者の持つ障がいを含め、全体的・構造的に理解でき、対象者のニーズ・問題点とその原因を的確に捉え、検査・測定を実施できる。適宜、必要事項を記録・報告ができ、実習指導者の指導の下、基本的作業療法の実施できる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3) 学生1人当たりの実習期間は、40日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり)。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解 (2)医療従事者の役割や業務の流れの理解 (3)医療従事者の患者との関わり方の理解 (4)作業療法評価の理解・実施 (5)評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 (6)評価結果の統合的解釈についての理解・実施 (7)治療計画立案の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、指導者症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	指導者症例の見学・模倣、多職種見学等、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	指導者症例の見学・模倣、指導者の一部症例の評価計画立案、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論過程の実践・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第3週	11～15日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論に基づいたプログラム立案・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第4週	16～20日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第5週	21～25日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第6週	26～30日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第7週	31～35日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第8週	36～39日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、報告書作成等の課題。	
	40日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
評価方法	課題提出 (50%)、実習報告会 (50%)		
留意事項 (履修条件他)	2年次配当の必須科目をすべて修得していることに加え、3年次前期配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅴ（総合）	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 前期	授業の方法	実習
単位数	9単位	必修/選択	必修
授業の概要	評価・治療のまとめとして症例に応じた適切な検査・測定の選択と問題点の抽出をもとに治療立案し、それに基づいた治療の実施が出来るようにする。また、治療中のリスク管理ができ事故・急変時の対応を的確に出来るようにする。本実習に臨むに必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得して実習に取り組む。施設実習後のセミナーにおいて、実習で体験した内容をまとめ、考察し、プレゼンテーションを行い、実習で得た知識や技能を確実に修得する。		
到達目標	検査・測定の選択と問題点の抽出、治療計画の立案ができ、対象者の変化を的確に捉え、治療計画の変更ができる。治療・訓練の実施の際、リスク管理、事故・急変時の的確な対応ができる。作業療法士として必要な記録・報告をすることができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2) 学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3) 学生1人当たりの実習期間は、45日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)医療従事者の患者との関わり方の理解 (2)医療従事者の役割や業務の流れの理解 (3)作業療法評価の理解・実施 (4)評価結果の記録方法および報告方法の理解・実施 (5)評価結果の統合的解釈についての理解・実施 (6)治療計画立案の理解・実施 (7)患者治療の理解・実施		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、指導者症例の見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	指導者症例の見学・模倣、多職種見学等、報告書作成等の課題。	
	3～5日目	指導者症例の見学・模倣、指導者の一部症例の評価計画立案、指導者からの適時フィードバック、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第2週	6～10日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論過程の実践・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第3週	11～15日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、臨床推論に基づいたプログラム立案・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第4週	16～20日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、カルテ・計画書作成の見学、報告書作成等の課題。	
第5週	21～25日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、カルテ・計画書作成の模倣、報告書作成等の課題。	
第6週	26～30日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、管理・運営業務の見学、報告書作成等の課題。	
第7週	31～35日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、一部症例の治療介入・指導、管理・運営業務の模倣、報告書作成等の課題。	
第8週	36～40日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、他職種見学等、報告書作成等の課題。	
第9週	41～44日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、報告書作成等の課題。	
	45日目	指導者症例の見学・模倣・実施、指導者からの適時フィードバック、介入症例の効果判定・臨床推論・指導、報告書作成等の課題、指導者の総括	
テキスト・参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編：Web動画付き 第2版 金原出版		
評価方法	課題提出（50％）、実習報告会（50％）		
留意事項 （履修条件他）	3年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスやOSCE、実習後の実習報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	実践力演習 I	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリ専門職は対象者とその家族、他の医療福祉職との良好関係を築くことが重要である。そのためには、礼節や共通知識・技能・態度はもとより、自身の目指す療法士や各医療専門職の役割を学ぶ必要がある。また、リハビリ専門職としての自主性、判断力は必要不可欠である。 本講義では、アクティブラーニングを主体とし、礼節とコミュニケーション技能、医療福祉職の共通知識と技能、医療福祉職の役割を学修することで基礎的な実践力の養生をはかる。		
到達目標	①作業療法士と他の医療福祉専門職の働く領域と役割について説明することができる。 ②他の医療福祉専門職と良好関係を築くことの必要性を説明することができる。 ③自主的に目標や課題を見つけることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	学習意欲と目的	作業療法場面を見聞し、自身の目指す療法士像や目標・課題について考察する。	
第2回	目標設定の考え方	目標設定シートを使用して、学習目標のつながりを明確にする。	
第3回	作業療法プロセスの実践	作業療法プロセスを学習し、シートから目標を5つ選択し、遂行度と満足度を記入する。	
第4回	計画の立案	PDCA理論に基づき、設定した目標の達成に向けてプランニングする。	
第5回	発表	目標設定からプランニングまでの内容をPowerpointにて発表する。	
第6回	臨床技能の概要と心構え	臨床で求められる知識や技能に関する概要と心構えについて学習する。	
第7回	標準予防策とリスク管理	臨床場面で必要とされる標準予防策とリスク管理の知識・技術を学習する。	
第8回	コミュニケーション技法	患者等とのラポール形成や情報収集に必要なコミュニケーション技法に関する知識・技能を学習する。	
第9回	ホットパック実施の補助	臨床で最も用いられる温熱療法のひとつであるホットパックの作用、適応と禁忌、補助方等の知識・技能を学習する。	
第10回	上肢管理（三角巾等の装着）	麻痺や外傷後の二次的合併症の予防等に必要となる上肢管理に関する知識・技能を学習する。	
第11回	下肢装具の装着介助	装具の定義と下肢装具の目的、および代表的な下肢装具の種類とその装着介助に関する知識・技能を学習する。	
第12回	車椅子の駆動介助	作業療法士が日常的に実施する車椅子の駆動補助の方法とリスクに関する知識・技能を学習する。	
第13回	移乗介助	ベッドから車椅子、車椅子からトイレ等といった、目的や場面別の移乗動作の介助方法に関する知識・技能を学習する。	
第14回	知識と技能の確認	第7-13回までに学習した知識・技能の習得状況を確認し、自他によるフィードバックを得る機会とする。	
第15回			
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	各回に定めた知識・技能を習得するために演習形式にて実施する。		
評価方法	OSCE（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	水曜日 12:10～13:00 研究室		
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅱ	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士の領域は医療にとどまらず、地域での健康支援、障害者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、防災・災害リハビリテーション等と多岐にわたる。したがって、作業療法士としてこれらの領域で活躍するための知識・技能・態度の修得は必要不可欠である。本講義では、アクティブラーニングを通じて、複数の領域における作業療法士の役割、支援に向けた課題と整理、支援計画と技能を学修することで実践力を養生する。		
到達目標	①作業療法士の活躍する領域の種類とその役割を説明することができる。 ②支援に向けた課題を整理することができる。 ③支援を計画し、実践策をプレゼンテーションすることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	地域で活躍する作業療法士の活動を調べ学習する。シミュレーション教育の概要と課題の進め方を学習する。	
第2回	就労支援と作業療法①	就労支援の現状と課題をピックアップする。	
第3回	就労支援と作業療法②	岐阜県かにおける就労支援事業の取り組みをまとめる。	
第4回	就労支援と作業療法③	岐阜県かにおける就労支援事業の取り組みを発表する。	
第5回	健康支援と作業療法①	病院、施設以外で活躍する作業療法士の実際について調べる。	
第6回	防災・災害とリハビリテーション①	岐阜県の防災・災害リハビリテーションについて調べる。	
第7回	防災・災害とリハビリテーション②	岐阜県の防災・災害リハビリテーションの課題についてディベートする。	
第8回	シミュレーション教育①	形態測定の実践技能を学習する。	
第9回	シミュレーション教育②	関節可動域測定について実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育③	筋力測定について実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育④	感覚検査の実践技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育⑤	反射検査、筋緊張検査の臨床技能を学習する。	
第13回	シミュレーション教育⑥	脳神経検査、運動失調検査の臨床技能を学習する。	
第14回	解剖学実習①	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
第15回	解剖学実習②	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 忽那俊樹・他編集 REHABIRITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	活動を通して支援の実際を感じ、グループで支援計画を立てプレゼンテーションする。後半は各臨床技能を修得する。		
評価方法	OSCE（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		

備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。
---------	---

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅲ	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	3年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士が対象者の自己実現や社会参加を実現させるためには、福祉機器や自助具等の種類と機能について知識、そして対象者の心身機能・身体構造面、活動面、参加面、背景因子やニーズとマッチングする技能が必要である。 本講義では、アクティブラーニングおよびPBLを通じて、対象者のニーズの把握やICFに基づいて問題点と利点を整理し、自己実現や社会参加を実現させるために適合する福祉機器や自助具の選択および提供に向けた基礎的な知識・技能を学修する。これらを通じて、環境要因を駆使した支援に結び付く実践力を養生する。		
到達目標	①ICFにもとづいて対象者の問題点と利点を整理することができる。 ②福祉機器や自助具の種類と機能を説明することができる。 ③対象者に適合した福祉機器や自助具を提供する計画を説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	施設体験学習と福祉機器体験学習の説明と事前学習。 シミュレーション教育の概要と課題の進め方を学習する。	
第2回	施設体験学習①	障害者（対象者）と触れ合いながら対象者を選択する。	
第3回	施設体験学習②	対象者との会話や観察から対象者の情報収集を行う。	
第4回	施設体験学習③	対象者の問題点と利点を見つける。	
第5回	福祉機器体験学習①	福祉機器の種類と特徴について情報収集する。	
第6回	福祉機器体験学習②	対象者の問題点を解決するための福祉機器の導入を検討する。	
第7回	福祉機器体験学習③	対象者の問題点を解決するための福祉機器の導入を検討する。	
第8回	中間サマリー	対象者の問題点と利点、福祉機器や自助具の情報を統合しまとめる。	
第9回	シミュレーション教育①	動作分析について実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育②	脳卒中の麻痺側運動機能の評価の実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育③	作業活動中のコミュニケーションと対応の臨床技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育④	動作指導における臨床技能を学習する。	
第13回	シミュレーション教育⑤	上肢機能訓練における実践技能を学習する。	
第14回	シミュレーション教育⑥	スプリント製作における臨床技能を学習する。	
第15回	最終サマリー	「技能の修得のポイント」について学習内容をまとめる。 「体験学習」「技能習得のポイント」のグループ内発表を行う。	
テキスト・参考書	才藤栄一 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	施設体験、国際福祉健康産業展の参加を通し、対象者の自己実現や社会参加を実現するための支援計画を立てまとめる。後半は各臨床技能を修得する。		
評価方法	ポートフォリオ（100％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	総合演習	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本演習は各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。具体的には複数の教員によるゼミナール形式で文献研究や実験などの調査を通し、これまでに学修した内容を担当教員から提供された情報の解釈を加えて、一人の作業療法の専門家として活躍できるように準備を行う。		
到達目標	作業療法士として最低限必要な医学知識と臨床知識を理解する。そのためには以下の①から⑤を理解し説明することができる。 ①論文からの情報抽出能力 ②作業療法士としての倫理 ③基礎医学知識 ④臨床技能と検査所見 ⑤作業療法の適用と禁忌		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	セミナー序論	研究概論と診療ガイドライン、倫理規定を抽出する	
第2回	セミナー 1	神経系の構造、大脳と小脳の構造と機能を抽出する	
第3回	セミナー 2	脊髄損傷、脳血管障害、難病、神経筋疾患の作業療法項目を抽出する	
第4回	セミナー 3	正常発達と反射、小児疾患の作業療法項目を抽出する	
第5回	セミナー 4	心臓の機能と構造、心疾患の作業療法項目を抽出する	
第6回	セミナー 5	血管の機能と構造、血液疾患の作業療法項目を抽出する	
第7回	セミナー 6	セミナー前半の小括と理解の確認	
第8回	セミナー 7	呼吸器の機能と構造、呼吸器疾患の作業療法項目を抽出する	
第9回	セミナー 8	消化器の機能と構造、内部疾患、悪性腫瘍の作業療法項目を抽出する	
第10回	セミナー 9	心理と精神疾患の作業療法項目を抽出する	
第11回	セミナー 10	骨折、脱臼、末梢神経損傷の作業療法項目を抽出する	
第12回	セミナー 11	切断、義肢の作業療法項目を抽出する	
第13回	セミナー 12	装具・スプリントの作業療法項目を抽出する	
第14回	セミナー 13	地域リハビリテーション、老年期障害の作業療法項目を抽出する	
第15回	セミナー 14	セミナー後半の小括と理解の確認	
テキスト・参考書	アプリケーションソフト「リハナビ」株式会社アイベック クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題 クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 専門問題 忽那俊樹・他編集 REHABILITATION VIEW メジカルビュー社		
学修方法	各テーマについてセミナー形式、グループワークを行う。		
評価方法	試験（100％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	予習：講義範囲となる領域の学習をしておくこと 復習：講義に出てきた用語を自身の言葉で説明できるように復習すること		

学部 研究科	リハビリテーション学部 作業療法学科		
授業科目名	卒業研究	担当教員名	作業療法士教員全員 【全員実務家該当教員】
学年 開講時期	4年次 通年	授業の方法	演習
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法研究の必要性について知り、研究の意義と目的、研究倫理を学ぶ。そして、実際に研究を実施するにあたり、研究対象を見つけることから開始し、その対象における研究疑問の洗練、研究対象の背景の探求、文献整理、研究手法の選択について理解を深める。更に、研究デザインと研究計画を立て、その研究テーマに沿って研究を進めることで臨床に直結する学生の創造性を鍛錬していく。		
到達目標	1) 自らの研究疑問の説明・研究テーマの設定ができる。2) 研究テーマに応じた先行研究などの文献検索ができる。3) 研究テーマに応じた研究方法が選択できる。4) 研究が実施できる（実験、調査などによるデータ収集）5) 収集したデータの解析ができる。6) 得られた結果から研究の意義が考察できる。7) まとめた研究を論理的な論文にできる。8) 自ら実施した研究をプレゼンテーションできる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	研究の意義と研究倫理	研究の意義と研究倫理を抽出し理解する	
第2回	研究課題の見つけ方	自らの力で課題を探せるようになる	
第3回	文献検索の方法	各種文献検索の方法を知り、自分で検索できるようになる	
第4回	論文抄読 1	論文抄読し、論文の形式を理解する。	
第5回	論文抄読 2	論文の内容を、理解することができる。	
第6回	研究計画書の作成 1	研究計画書の様式、書き方を学ぶ	
第7回	研究計画書の作成 2	自分の研究テーマを抽出し研究計画書に記載する	
第8回	研究計画書の作成 3	自分の研究テーマを抽出し研究計画書に記載する	
第9回	データ管理と分析 1	データ管理や個人情報の遵守を知る、分析を始める	
第10回	データ管理と分析 2	データ管理や個人情報の遵守を知る、分析を始める	
第11回	個別指導（データ収集含む） 1	研究データを抽出し、その整理をする	
第12回	個別指導（データ収集含む） 2	研究データを抽出し、その整理をする	
第13回	個別指導（データ収集含む） 3	研究データを抽出し、その整理をする	
第14回	個別指導（データ収集含む） 4	研究データを抽出し、その整理をする	
第15回	個別指導（データ収集含む） 5	研究データを抽出し、その整理をする	
第16回	個別指導（データ収集含む） 6	研究データを抽出し、その整理をする	
第17回	研究中間発表（ゼミ単位） 1	ゼミ内で発表をし、発表の形式を学ぶ	
第18回	研究中間発表（ゼミ単位） 2	ゼミ内で発表をし、発表の形式を学ぶ	
第19回	研究中間発表（ゼミ単位） 3	ゼミ内で発表をし、発表の形式を学ぶ	

第20回	個別指導（データ収集含む） 7	研究データを抽出し、その整理をする
第21回	個別指導（データ収集含む） 8	研究データを抽出し、その整理をする
第22回	個別指導（データ収集含む） 9	研究データを抽出し、その整理をする
第23回	個別指導（データ収集含む） 1 0	研究データを抽出し、その整理をする
第24回	個別指導（データ収集含む） 1 1	研究データを抽出し、その整理をする
第25回	個別指導（データ収集含む） 1 2	研究データを抽出し、その整理をする
第26回	論文の作成 1	自分のテーマに沿って論文を書き始める
第27回	論文の作成 2	自分のテーマに沿って論文を書き始める
第28回	論文の作成 3	自分のテーマに沿って論文を書き始める
第29回	研究発表（作業療法学科内）	自分の研究テーマの発表をする
第30回	研究のまとめと総括	質疑等で得られた部分を抽出し、修正して論文を完成させる
テキスト・参考書	テーマに応じて適宜、文献や資料の紹介や配布を行う。	
学修方法	所属ゼミでの演習、討議および個別指導を通し学ぶ。最終的に研究発表会を開催し、発表、討議を行う	
評価方法	論文内容（50%）、表現（50%）	
オフィスアワー	ゼミ指導者の研究室 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室	
備考・履修条件	指導日の前後には、前回指導を受けた内容の復習と予習、準備をすること	